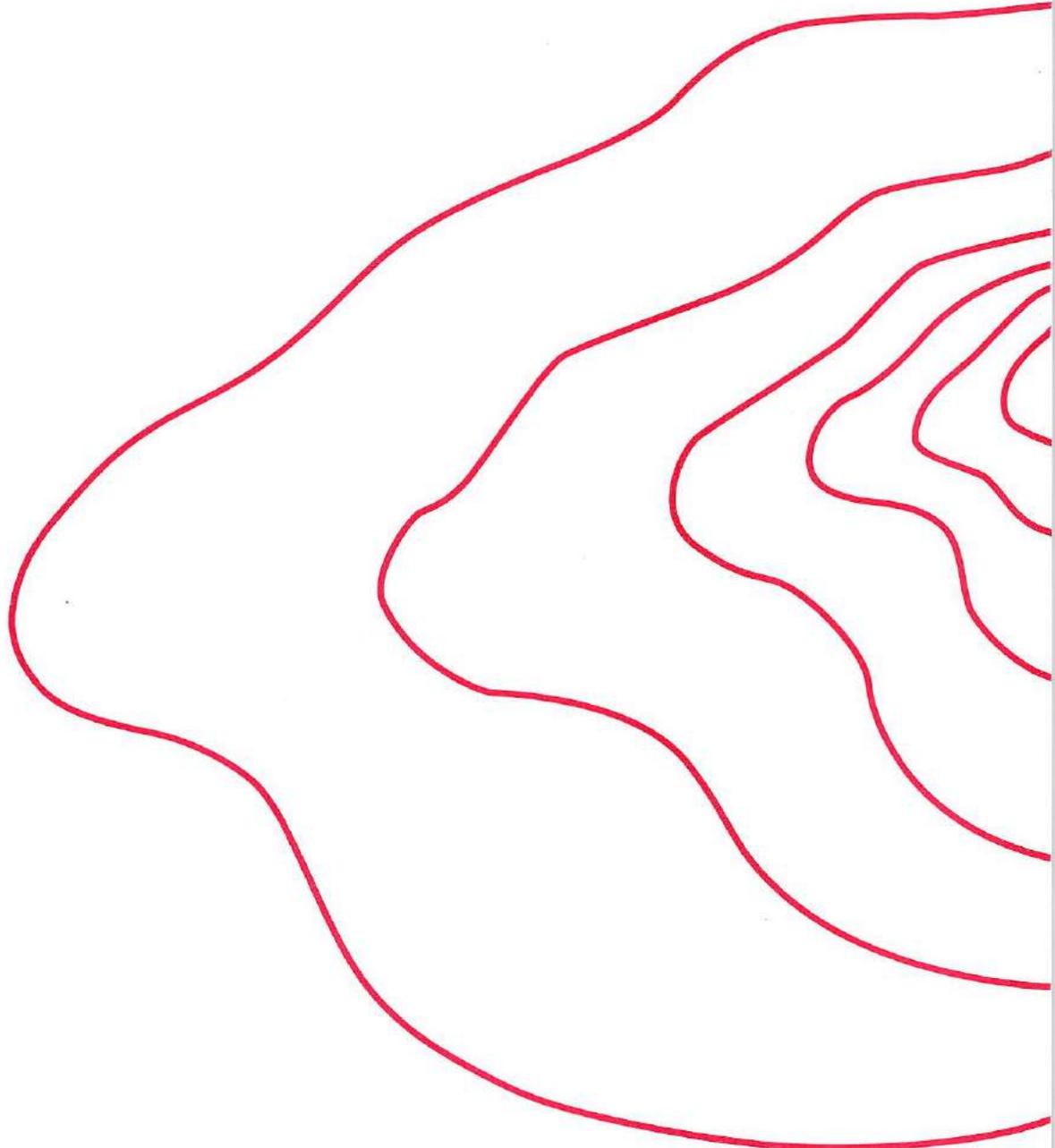


兵庫県立 こども病院 年報 2016 VOL.47



HYOGO PREFECTURAL
KOBE CHILDREN'S HOSPITAL ANNUAL REPORT 16 VOL.47

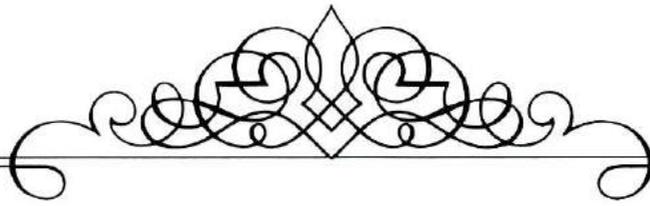


基本理念

周産期・小児医療の総合施設として、母とこどもの高度専門医療を通じて、親と地域社会と一体になってこどもたちの健やかな成長を目指します。

基本方針

- 1 患者の権利を尊重した医療の実践
- 2 安全・安心と信頼の医療の遂行
- 3 高度に専門化されたチーム医療の推進
- 4 地域の医療・保健・福祉・教育機関との連携
- 5 親とこどもが一体となった治療の推進
- 6 こどもへの愛とまことに満ちた医療人の育成
- 7 医療ボランティアとの協調による患者サービスの向上
- 8 継続的な高度専門医療提供のための経営の効率化

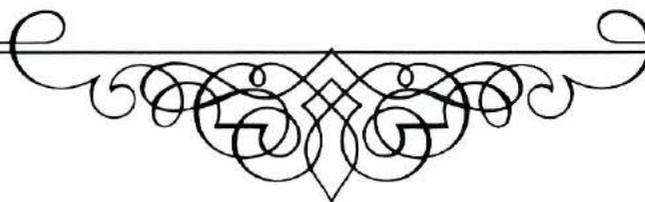


患者の権利

- 1 あなたはひとりの人間として尊重され、おもいやりのある医療を受ける権利があります。
- 2 あなたとご家族は、理解しやすい言葉や方法で十分な説明と情報を得て、治療計画に参加する権利があります。
- 3 あなたとご家族には、治療方針について同意や拒否する権利及びセカンドオピニオンを受ける権利があります。
- 4 あなたとご家族のプライバシーは守られます。

みなさまと私たちがお互いを尊重しあい、良質な医療を実現していけるよう次のことにご協力ください。

- 病気について理解し、安心して医療が受けられるよう。今までの経過・病状の変化や問題について詳しく正確にお知らせください。
- 病院のきまりや約束ごとをお守りください。



はじめに

兵庫県立こども病院
2016年度病院長 長嶋 達也

はじめに、兵庫県立こども病院に期待を寄せ、見守り応援してくださるすべての皆様に感謝申し上げます。2016年度の歩みを記録した年報をお届けいたします。年報を通じて当院の活動へのご理解が深まり、一層のご支援、ご指導を賜ることができれば幸いに存じます。

2016年5月1日に無事に新病院への移転・開院を完了いたしました。移転開院に際しましては、多くの医関係者の皆様にご支援いただきました。心より感謝申し上げます。新しい土地に新しい病院施設、新しく導入した電子カルテ、大量の新人・新卒看護師を抱えての船出となり、まさしく薄氷を踏む思いで臨んだ1年間でした。おかげさまで、すべての職員が力を合わせて、無事に新しい年を迎えることができました。

新病院でも、総合周産期母子医療センター、小児救急医療センター、小児がんセンター（小児がん拠点病院）、小児心臓センターの4分野を大きな柱とする小児の高度専門医療を担ってまいります。総合周産期母子医療センターはNICUを21床に増床し、高度な機器も導入いたしました。兵庫県下の総合周産期医療センターが6カ所になった状況の中でも、ほぼ満床の状態が続いています。当院では極めてリスクの高い新生児の治療やあらゆる困難な外科的治療が可能であるという、他にはない特性を生かして、広域を支える「最後の砦」として機能してまいります。小児がんセンターも順調に患者数が増加しつつあります。西播磨の粒子線治療センターと共同で開始した小児がんに対する陽子線治療も、鎮静を要する例の治療が可能になり、小児の治療チーム作りが進んでいます。こども病院に隣接して建設中の「神戸陽子線センター（仮称）」は2017年12月開院予定であり、2016年4月の小児がんに対する陽子線治療の保険適用にともない、小児がん患者の長期予後の改善に大きな期待が集まっています。

小児救急医療センターは、新病院の開院とともに「断らない救急」を旗印にして、より

広い範囲からの救急受け入れに取り組んでいます。ヘリコプター搬送による重症救急患者の搬送も軌道に乗り、診療開始から10か月で42例を受け入れています。救急患者数は旧病院の2倍、救急車の応需率は98%を記録しています。今後、より広い地域から、より重症の患者を受け入れるとともに、受診しやすい小児救急医療センターとして機能を充実してまいります。小児心臓センターは、新たに整備した集中治療科がCICUを24時間体制で受け持つことになり、心臓外科医が手術に集中できるようになりました。新生児、乳児の困難な心臓手術を引き受けるとともに、移行期医療にも力を入れてまいります。

「神戸ハウス」と名付けられた家族滞在施設は、(財)「ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ」にその運営を委託し、多くの皆様からのご寄附とボランティアによって24時間体制で運営されています。常に満室に近い状態が続いており、ご家族を支える心強い味方となっています。

2016年度は、新病院で迎える特別な1年となりました。高度な専門医療であるとともに「安全な医療」を肝に銘じて、こども達の「最後の砦」であり続けることをお約束いたします。こども病院は、多くの方々の温かい支援を得ることにより初めてその力を発揮いたします。一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

目 次

I 病院概要	
1 兵庫県立こども病院の設立目的	1
2 沿革	1
3 業務図	4
(1) 機構一覧表	4
(2) 担当医師表	5
(3) 外来診療スケジュール	6
4 職員	7
(1) 職種別人員表	7
5 近畿厚生局長への届出に関する事項	8
6 研修・教育認定施設設定内容	9
7 委員会一覧	10
II 医事経理関係	15
III 診療統計	
1 救急総合診療科（総診）	31
2 救総合診療科（救急）	32
3 代謝・内分泌科	37
4 リウマチ科	38
5 アレルギー科	39
6 脳神経内科	40
7 血液・腫瘍内科	42
8 循環器内科	46
9 腎臓内科	48
10 感染症科	50
11 臨床遺伝科	52
12 精神神経科	55
13 小児外科	59
14 心臓血管外科	63
15 脳神経外科	66
16 形成外科	68

17	整形外科	69
18	リハビリテーション科	71
19	眼科	74
20	耳鼻咽喉科	76
21	泌尿器科	79
22	小児歯科	80
23	麻酔科	81
24	新生児内科	83
25	産科	86
26	放射線科	92
27	小児集中治療科	94
28	病理診断科	96
29	看護部	97
30	薬剤部	109
31	検査・放射線部（検査部門）	112
32	検査・放射線部（放射線部門）	118
33	栄養管理課	122
34	家族支援・地域医療連携部	127
35	ME室	133
36	医療安全管理室	134
37	感染対策管理室	136
38	褥瘡管理室	139
39	がん相談支援室	140
40	院内学級	141

IV 学術・研究・教育活動

1	書籍	143
2	雑誌	146
3	学会発表	170
4	報道関連	202
5	実習生・研修生受け入れ状況	203
6	院内・院外研修	207

V	ボランティア	233
---	--------	-----

I 病 院 概 要

1. 兵庫県立こども病院の設立目的

こども病院は、小児治療が内科疾患を除いては、成人と同じ環境で診療が行われている現状と、ますます進展しつつある専門化、細分化した医学を基礎とした小児特有の検査、診断、治療を行いうる小児専門病院の設置を望む社会的要請に応じて、県政100年の記念事業の一環として、昭和45年に開設されました。これは、小児病院の業務に加え、異常児の出生予防、小児の精神保健、各科医療に伴う訓練部門等の医療行政もあわせて行う、小児メディカルセンターでもあります。

具体的には、

- (1) 近代小児医療の進歩、在り方に則し、小児疾患の診断と治療に関する高度に専門化、細分化した機能を総合的に発揮できること。
- (2) 小児に関する医療相談機関であること。
- (3) 小児の保健衛生に関する行政分野に対して、あらゆる面で協力機関であること。
- (4) 小児医療従事者の育成研修期間であること。

などであります。

平成6年10月には、ハイリスク母子の救命を図ることを目的とし、ハイリスク母子の24時間体制受け入れ、妊産婦、胎児、新生児の管理を連続かつ一体的に行うことのできる周産期医療センターをオープンしました。

また、平成14年10月より県下の第3次小児救急の拠点として救急医療室を開設し、その後、平成19年10月に、機能を一層充実させた小児救急医療センターを新たにオープンしました。

さらに、平成25年2月には小児がん拠点病院に指定され、平成26年4月に小児がん医療センターを設置しました。

平成28年5月には、須磨からポートアイランドに移転開院しました。

2. 沿革

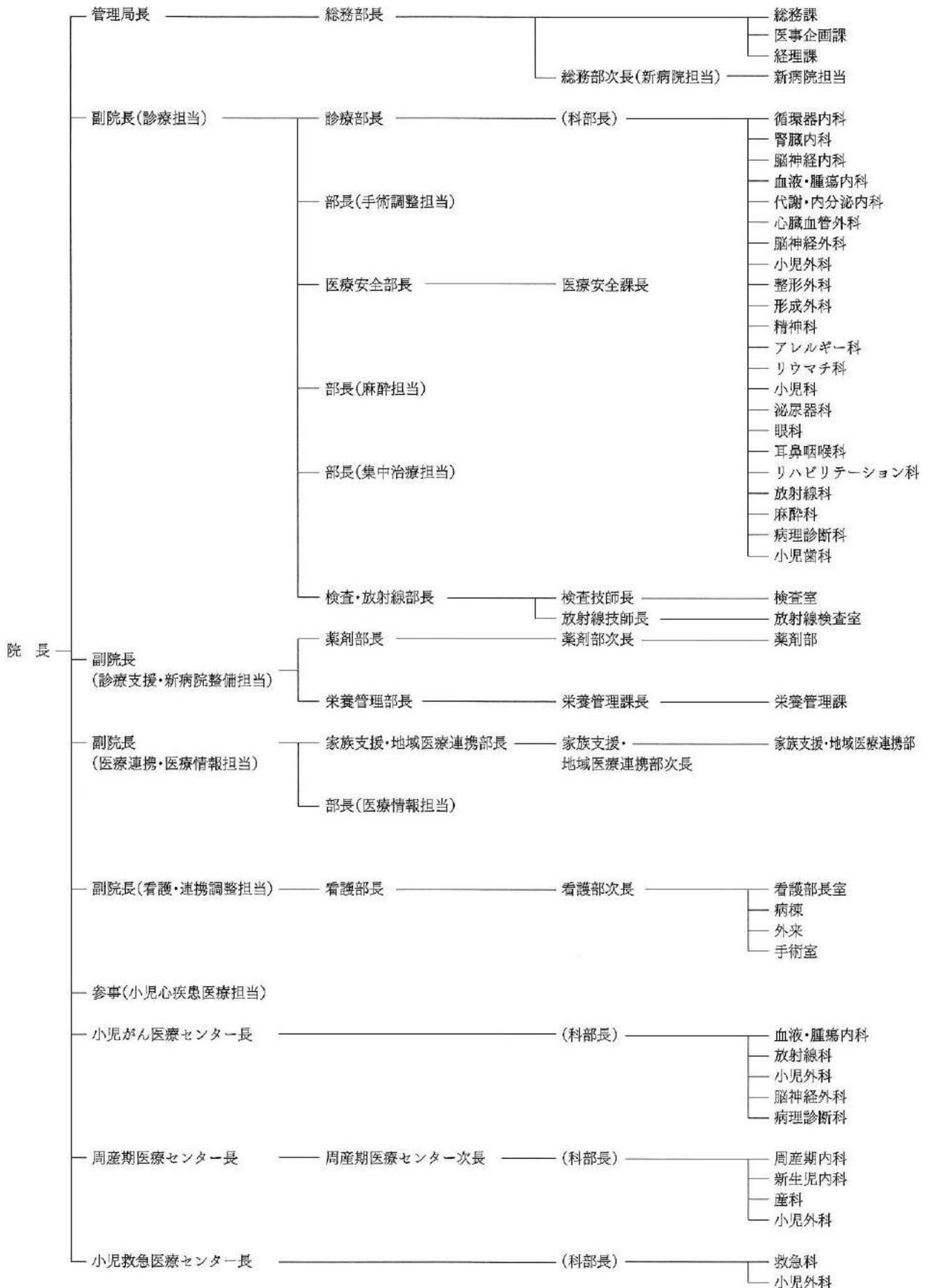
- | | | |
|-------|------------|---------------------------------------|
| (1) 名 | 称 | 兵庫県立こども病院 |
| (2) 開 | 設 | 昭和45年4月1日（現管理者 長嶋 達也） |
| (3) 所 | 在 | 神戸市中央区港島南町1丁目6番7 TEL 078-945-7300（代表） |
| (4) 診 | 療 | 循環器内科 腎臓内科 脳神経内科 血液・腫瘍内科 代謝・内分泌内科 |
| | 科 | 周産期内科 新生児内科 心臓血管外科 脳神経外科 小児外科 |
| | 目 | 整形外科 形成外科 精神科 アレルギー科 リウマチ科 小児科 |
| | | 泌尿器科 産科 眼科 耳鼻咽喉科 リハビリテーション科 放射線科 |
| | | 麻酔科 病理診断科 救急科 小児歯科 |
| (5) 病 | 床 | 数 一般290床（稼働267床） |
| (6) 沿 | 革 | |
| | 昭和45年4月1日 | 病院開設（管理者 平田 美穂） |
| | 昭和45年4月30日 | 日病院本館完成 |
| | 昭和45年5月8日 | 診療開始 |
| | 昭和45年7月23日 | 基準寝具実施（寝第295号） |
| | 昭和45年9月17日 | 基準給食実施（食第307号）基準看護実施（看第130号） |

昭和 46 年 12 月 28 日	母と子の指導教室完成 現在は母と子の教室と呼称
昭和 47 年 2 月 1 日	基準看護一般特類変更承認 (険第 98 号)
昭和 47 年 12 月 1 日	基準看護精神特類変更承認 (険第 219 号)
昭和 49 年 10 月 1 日	基準看護一般特二類変更承認 (険第 108 号) 基準看護精神特一類変更承認 (険第 108 号)
昭和 50 年 4 月 1 日	管理者変更受理 (管理者 児嶋 喜八郎)
昭和 54 年 3 月 31 日	全館防災設備工事完成
昭和 54 年 8 月 2 日	日本脳神経外科学会認定医制度による指定訓練場所として認定される
昭和 55 年 4 月 1 日	昭和 55 年 3 月 26 日 兵庫県条例第 11 号 兵庫県病院事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例により診療科目改正、形成外科、脳神経外科、心臓血管外科を追加
昭和 56 年 5 月 5 日	シアトル小児整形外科病院医療センターとの間に姉妹病院提携
昭和 56 年 10 月 7 日	日本外科学会認定医制度による指定訓練場所として認定される
昭和 56 年 10 月 12 日	日本麻酔学会認定医制度による指導病院として認定される
昭和 56 年 12 月 6 日	日本胸部外科学会認定医認定制度による指定訓練場所として認定される
昭和 57 年 4 月 1 日	日本小児外科学会認定医制度による認定医育成施設として認定される
昭和 58 年 4 月 1 日	日本病理学会認定病理医制度による認定病院として認定される
昭和 58 年 4 月 11 日	日本整形外科学会認定医制度研修施設として認定される
昭和 58 年 10 月 1 日	日本眼科学会専門医制度による研修施設として認定される
昭和 60 年 3 月 18 日	プリンセス・マーガレット小児病院との間に姉妹提携
昭和 60 年 3 月 28 日	日帰り手術棟完成
昭和 60 年 4 月 3 日	日本形成外科学会認定医研修施設として認定される
昭和 60 年 4 月 15 日	日帰り手術棟手術開始
昭和 61 年 3 月 31 日	日本小児科学会認定医制度による研修施設として認定される
昭和 61 年 4 月 1 日	管理者変更受理 (管理者 玉木 健雄)
昭和 61 年 4 月 1 日	日本泌尿器科学会専門医教育施設として認定される
昭和 61 年 10 月 1 日	日本医学放射線学会専門医制度規定による修練機関として認定される
昭和 62 年 1 月 22 日	自家発電設備改良工事完成
平成元年 2 月 1 日	外国医師臨床習練制度による研修施設として認定される
平成 3 年 5 月 1 日	基準看護一般特三類 (一部) 変更承認 (険第 220 号)
平成 4 年 4 月 1 日	基準看護一般特三類 (260 床に) 変更承認 (険第 363 号) 医事会計システムの電算化開始、医療業務・事務当直・警備の全面委託開始
平成 4 年 5 月 9 日	週 40 時間制試行
平成 4 年 5 月 18 日	病床数 260 床に変更承認 (精神病棟廃止)
平成 4 年 7 月 6 日	病床数 290 床に変更承認 (兵庫県指令医第 1 - 67 号)
平成 4 年 7 月 29 日	周産期医療センター安全祈願祭
平成 4 年 11 月 7 日	週 40 時間制本格実施
平成 5 年 4 月 1 日	管理者変更受理 (管理者 竹峰 久雄)
平成 6 年 7 月 20 日	周産期医療センター定礎式
平成 6 年 9 月 1 日	管理者変更受理 (管理者 小川 恭一)
平成 6 年 9 月 30 日	ドクターズカー購入

平成6年 9月 30日	周産期医療センター完成
平成6年 10月 1日	行政組織規則の改正（兵庫県規則第66号）により、周産期医療センターを設置
平成6年 10月 3日	周産期医療センター開設記念式典
平成6年 10月 4日	周産期医療センター診療開始
平成7年 1月 17日	阪神・淡路大震災
平成7年 9月 1日	本館改修工事に着手
平成8年 4月 1日	日本産科婦人科学会認定医制度による卒後研修指導施設として指定される
平成10年 6月 30日	本館改修工事完了
平成11年 4月 2日	管理者変更受理（管理者 山本 節）
平成12年 3月 1日	総合周産期母子総合医療センターとして指定される
平成12年 4月 24日	慢性疾患児家族宿泊施設（ファミリーハウス）を開設
平成13年 10月 10日	駐車場立体化工事に着手
平成14年 2月 28日	立体駐車場完成
平成14年 4月 1日	臨床研修病院指定（厚生労働省発医政第0401006）
平成14年 4月 1日	地方公営企業法の財務適用から全部適用に移行
平成14年 10月 15日	第3次小児救急開設（稼働病床260床）
平成15年 4月 2日	管理者変更（管理者 中村 肇）
平成15年 10月 30日	臨床研修病院指定（厚生労働省医政発第1030005号-511,519,526,533）
平成15年 11月 28日	臨床研修病院指定（厚生労働省医政発第1128007号-330）
平成16年 3月 22日	（財）日本医療機能評価機構による病院機能評価認定（ver.3.1）
平成16年 4月 1日	アレルギー科追加
平成18年 4月 1日	日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設として認定される
平成18年 4月 1日	日本気管食道科学会専門医研修施設（咽喉系）として認定される
平成19年 10月 1日	小児救急医療センターを開設（稼働病床266床）
平成20年 4月 1日	管理者変更（管理者 丸尾 猛）
平成21年 4月 1日	医療法施行令の改正に伴う診療科目標榜名変更
平成21年 7月 3日	（財）日本医療機能評価機構による病院機能評価認定（ver.5.0）
平成21年 12月 16日	地域医療支援病院の名称使用承認
平成21年 1月 4日	「母と子の指導教室」を「研修センター」に改修して供用開始
平成22年 4月 1日	駐車場の拡張（北駐車場増設）と有料化
平成23年 1月 4日	本館玄関周辺及び玄関ロビーを改修して供用開始
平成23年 4月 1日	日本精神神経学会精神科専門医研修施設として認定される
平成24年 4月 9日	中国福利会国際和平婦幼保健院と交流協定締結
平成25年 2月 8日	小児がん拠点病院として指定される
平成25年 4月 1日	管理者変更（管理者 長嶋 達也）
平成26年 4月 1日	小児がん医療センター設置
平成26年 12月 8日	新生児専用ドクターズカー運行開始
平成28年 5月 1日	ポートアイランドに移転開院 リハビリテーション科追加

3. 業務図

(1) 機構一覧表 (2016.12.31 現在)



(2) 担当医師表 (2016.12.31 現在)

- (1) 救急総合診療科 上谷良行、宅見晃子、竹田洋樹、山口善道、神田杏子、林卓郎、梶原伸介、楠元真由美、藤田杏子、松井鋭
- (2) 感染症内科 笠井正志
- (3) 臨床遺伝科 森貞直哉
- (4) 新生児内科 中尾秀人、芳本誠司、坂井仁美、秋田大輔、大久保沙紀、玉置祥子、松井紗智子、武岡恵美子、浅野貴大 (非常勤)
- (5) 脳神経内科 丸山あずさ、豊嶋大作
- (6) 循環器内科 城戸佐知子、田中敏克、藤田秀樹、富永健太、小川禎治、亀井直哉、松岡道生
- (7) 腎臓内科 田中亮二郎、中川拓
- (8) 代謝内分泌内科 郷司克己、尾崎佳代
- (9) 血液・腫瘍内科 小阪嘉之、川崎圭一郎、長谷川大一郎、石田敏章、岸本健治、神前愛子、齋藤敦郎、田村彰広
- (10) 集中治療科 長谷川智巳、黒澤寛史、椎間優子、青木一憲、制野勇介
- (11) アレルギー・リウマチ科 中岸保夫、笠井和子、三好麻里 (非常勤)
- (12) 小児外科 前田貢作、横井暁子、中尾真、福澤宏明、久松千恵子、大片祐一、森田圭一
- (13) 心臓血管外科 大嶋義博、松久弘典、日隈智憲
- (14) 脳神経外科 長嶋達也、河村淳史、小山淳二、阿久津宣行
- (15) 形成外科 小野田素大、池村光之介
- (16) 整形外科 薩摩眞一、坂田亮介、衣笠真紀
- (17) リハビリテーション科 小林大介
- (18) 泌尿器科 杉多良文、春名晶子
- (19) 耳鼻咽喉科 大津雅秀、勝沼紗矢香、阪本浩一 (非常勤)
- (20) 眼科 野村耕治、柳沢翠芳
- (21) 精神科 関口典子、玉岡文子
- (22) 小児歯科 小本由美子
- (23) 産科 船越徹、佐本崇、喜吉賢二、高松祐幸、牧志綾、森下紀、河崎あさひ
- (24) 放射線科 赤坂好宣、杉岡勇典
- (25) 麻酔科 香川哲郎、鈴木毅、高辻小枝子、大西広泰、池島典之、三浦由紀子、末田グリンドロド彩、森悠、黒田光朗、藤原孝志、田中康智
- (26) 病理診断科 吉田牧子
- (27) フェロー・専攻医 伊藤雄介、生田寿彦、山内貴未、李進剛、田中司、石田悠介、谷口由記、平海良美、瓦野昌大、上村和也、白鳥孝俊、日外祐理、二野菜々子、植村優、横井健人、太原鉄平、平田旭、楠本耕平、増井美苗、高寺侑、染谷真紀、神納幸治、祖父江俊樹、山口宏、稲熊洋祐、上月愛瑠、谷澤直子、永尾宏之、大野茜子、飯塚理、村田剛士、花房広昭、三星あかり、田中俊光、幸伏寛和、大西理史、山田優里子 (救急総合診療科)、菱谷好洋 (アレルギー・リウマチ科) 三島泰彦、山木聡史、矢部清晃、三浦紫津、関根沙知 (小児外科) 岩城隆馬、松島峻介、村上優 (心臓血管外科)、山下俊輔 (脳神経外科)、杉尾勇太 (形成外科)、山中理菜、山本哲也 (整形外科)、加來泰大 (泌尿器科)、福永とも子、中野由美子 (眼科)、鷺尾佳一 (産科)、松永卓明 (放射線科)、飯塚勇介、横田有里、池田真悠実、西部伊千恵、白川尚隆、平井優哉 (麻酔科)

(3) 外来診療スケジュール (2016.12.1)

科目	曜日	月		火		水		木		金	
		午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
内科	救急総合診療	◎森貞	担当医	◎上谷	担当医	◎神田	担当医	◎担当医	担当医	◎藤田(杏)	
	アレルギー		笠井	◎笠井	笠井				◎笠井		
	リウマチ			中岸	◎中岸	中岸	中岸	◎中岸	中岸	◎菱谷	
	感染症内科						◎笠井(正)				
	臨床遺伝科			◎森貞	◎森貞			◎森貞	◎森貞		
	神経	◎豊嶋	丸山		豊嶋 田中(司)			◎田中(司) 児玉		◎丸山	
	循環器	田中(敏)		◎田中(敏)	田中(敏)	城戸		◎城戸	城戸	◎富永	富永
		◎亀井	亀井	◎松岡		◎藤田	藤田			◎小川	
	循環器特殊	城戸 (思春期)	城戸 (成人先天性)		小川 (自律神経)			田中 (カテ)	担当医 (シナジス)		小川 (不整脈)
	腎臓	◎神田	担当医	◎田中(亮)	担当医	◎田中(亮)	神田			担当医	◎田中(亮)
		◎中川 ◎白鳥		◎神田 ◎白鳥		◎中川	担当医				◎白鳥 ◎中川
代謝内分泌		検査	◎日外		◎郷司	郷司	◎郷司	郷司	◎尾崎	尾崎	
新生児				3週 ◎芳本 三村 1.3.5週 大久保 2.4週 玉置			◎中尾 秋田		◎中尾 芳本	◎松井(紗) 1.3.5週 武岡 2.4週 生田	
血液・腫瘍	◎小阪 長谷川	川崎 田村		◎小阪 化学療法のみ				◎石田	齊藤	◎川崎 化学療法のみ	岸本 長谷川
外科	一般	◎森田	横井 森田	◎福澤	福澤	◎大片	大片	◎前田	前田	◎横井	横井
	ヘルニア外来	1.3.5週◎前田 2.4週◎横井						1.3.5週◎中尾(眞) 2.4週◎福澤			
	特殊外来		ストマ 尾藤		在宅 中尾(眞)						
	心臓		◎大嶋 松久 日隈					◎大嶋 日隈 松島			◎大嶋 松島 松久
	脳神経	◎小山	小山			◎長嶋 ◎阿久津	◎阿久津			◎河村	◎河村 1・3週 二春(長嶋) 2・4週 二春(担当医)
	形成			◎小野田 池村 杉尾 言語療法				◎小野田 池村 杉尾 言語療法			
	整形		◎小林 ◎坂田	◎薩摩 ◎坂田	◎小林 ◎衣笠 2週倒湾外来	◎薩摩 ◎小林				◎担当医	二分脊椎
放射線科										副島	
眼科	◎野村 柳沢 福永 中野			コンタクト 外来	◎野村 柳沢 福永 中野	検査		◎野村 柳沢 福永 中野	検査		
泌尿器科	◎担当医		◎杉多 春名 賀来	検査	◎担当医				検査	◎春名 杉多 賀来	二分脊椎
耳鼻咽喉科	◎大津	大津 1週・2週 補聴器	◎勝沼	◎勝沼 3週・4週 補聴器				◎大津	大津	阪本	阪本
		言語聴覚	言語聴覚	言語聴覚	言語聴覚	言語聴覚	言語聴覚	言語聴覚	言語聴覚	◎勝沼	◎勝沼
歯科	◎担当医	担当医						◎石原	石原	◎本郷 (1週のみ休診)	本郷 (1週のみ休診)
精神科	◎関口 ◎玉岡	関口 ◎玉岡	関口 玉岡	◎松川 玉岡	◎関口 ◎玉岡	◎玉岡	◎玉岡	◎長谷川		関口	◎玉岡
卒煙外来						休診					
産科	◎船越 佐本	超音波 検査	◎高松 喜吉	超音波 外来	◎佐本 牧志	超音波 検査	◎喜吉 高松	超音波 外来		◎牧志 船越 南谷	超音波 検査

* 急な学会・出張等で休診・代診になる場合がありますのでご了承下さい。◎印は新患受付曜日となります。

兵庫県立こども病院

〒650-0047 神戸市中央区港島南町1-6-7

代 表 TEL 078-945-7300

予約センター直通 TEL 078-945-7329 (平日9:00~17:00)

予約センター直通 FAX 078-945-7330 (24時間対応)

4. 職 員

(1) 職種別人員表 (2016.12.31 現在)

職 種 別		現 員 [人]
事 務 職		19
技	医 師 ・ 歯 科 医 師	98 (61)
	薬 劑 師	18
	診 療 放 射 線 技 師	13 (1)
	臨 床 検 査 技 師	18 (1)
	栄 養 士	2 (1)
	看 護 師	564 (3)
術	視 能 訓 練 士	3
	心 理 判 定 員	2
	精 神 保 健 福 祉 士	1
	医 療 福 祉 相 談 員	2 (1)
	保 育 士	4
職	言 語 聴 覚 士	4
	臨 床 工 学 技 士	8
	理 学 療 法 士	2
	小 計	758 (68)
	技 能 労 務 職	調 理 員
合 計		767 (68)

注1 「医師・歯科医師」の現員数は、非常勤医師、研修医師を除く。

2 ()外書きは、臨時的任用職員

5. 近畿厚生局長への届出に関する事項（平成28年4月1日現在）

当院は診療報酬の請求に関し、近畿厚生局長へ以下の事項について届出を行っています。

【入院基本料等の施設基準】

一般病棟(7対1)入院基本料 (一般入院)第32号

【入院基本料等加算の施設基準】

臨床研修病院入院診療加算(協力型) (臨床研修)第95号
 救急医療管理加算 (救急加算)第46号
 妊産婦救急搬送入院加算 (妊産婦)第41号
 診療録管理体制加算2 (診療録)第52号
 医師事務作業補助体制加算2(25対1) (事務補助)第63号
 急性期看護補助体制加算(25対1、5割以上) (急性看護)第100号
 看護職員夜間配置加算 (看護夜配)第12号
 無菌治療室管理加算1 (無菌1)第8号
 重症者等療養環境特別加算 (重)第30号
 医療安全対策加算1 (医療安全)第428号
 感染防止対策加算1 (感染防止1)第5号
 感染防止対策加算地域連携加算 (感染防止1)第5号
 患者サポート体制充実加算 (患サポ)第25号
 褥そうハイリスク患者ケア加算 (褥創ケア)第35号
 ハイリスク妊娠管理加算 (ハイ妊娠)第36号
 ハイリスク分娩管理加算 (ハイ分娩)第3号
 新生児特定集中治療室退院調整加算1,2,3 (新生児退院)第13号
 救急搬送患者地域連携紹介加算 (救急紹介)第152号
 救急搬送患者地域連携受入加算 (救急受入)第151号
 データ提出加算2 (データ提)第10号

【特定入院料の施設基準】

特定集中治療室管理料1 (集1)第11号
 特定集中治療室管理料2 (集1)第6号
 総合周産期特定集中治療室管理料 (周)第1号
 母体・胎児集中治療室管理料 (周)第1号
 新生児特定集中治療室管理料 (周)第1号
 小児入院医療管理料1 (小入1)第1号
 食事療養費1 (食)第119075号

【医学管理等】

高度難聴指導管理料 (高)第124号
 がん性疼痛緩和指導料 (がん疼)第276号
 がん患者指導管理料1 (がん指1)第55号
 がん患者指導管理料2 (がん指2)第8号
 夜間休日救急搬送医学管理料 (夜救管)第169号
 開放型病院共同指導料 (開)第58号
 薬剤管理指導料 (薬)第253号
 医療機器安全管理料1 (機安1)第93号
 持続血糖測定器加算 (持血測)第16号

【検査】

造血器腫瘍遺伝子検査 (血)第34号
 検体検査管理加算(IV) (検IV)第43号
 心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算 (血内)第2号

埋込型心電図検査 (埋心電)第44号
 胎児心エコー法 (胎心エコー)第16号
 ヘッドアップティルト試験 (ヘッド)第44号
 皮下連続式グルコース測定 (皮グル)第23号
 補聴器適合検査 (補聴)第15号
 小児食物アレルギー負荷検査 (小検)第45号

【画像診断】

画像診断管理加算2 (画2)第82号
 CT撮影(64列以上)及びMRI撮影(1.5以上3テスラ未満) (C・M)第487号
 冠動脈CT撮影加算 (冠動C)第54号
 大腸CT撮影加算 (大腸C)第5号
 心臓MRI撮影加算 (心臓M)第5号

【投薬】

抗悪性腫瘍剤処方管理加算 (抗悪処方)第54号

【注射】

外来化学療法加算1 (外化1)第99号
 無菌製剤処理料 (菌)第55号

【リハビリテーション】

脳血管疾患等リハビリテーション料(I)(脳I)第332号
 集団コミュニケーション療法料 (集コ)第38号

【処置】

一酸化窒素吸入療法 (NO)第5号

【手術】

頭蓋骨形成手術 (頭移)第4号
 上顎骨形成術・下顎骨形成術 (顎移)第2号
 ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術 (ペ)第85号
 埋込型心電図記録計移植術及び埋込型心電図記録計摘出術 (埋記録)第36号
 大動脈バルーンパンピング法 (大)第53号
 経皮的動脈遮断術 (大遮)第13号
 ダメージコントロール手術 (ダメ)第17号
 胎児胸腔・羊水腔シャント術 (胎羊)第1号
 手術の通則の5及び6に掲げる手術 (通手)第23号
 胃瘻造設術 (胃瘻造)第28号
 輸血管理料I (輸血I)第269号
 人工肛門・人口膀胱造設術前処置加算 (造設前)第39号

【麻酔】

麻酔管理料(I) (麻管I)第15号
 麻酔管理料(II) (麻管II)第2号

【放射線治療】

高エネルギー放射線治療 (高放)第83号

【歯科関係】

歯科外来診療環境体制加算 (外来環)第303号
 歯科矯正診断料 (矯診)第131号

6. 研修・教育認定施設内容

厚生労働省認定病院等	<p>◆ [厚生労働省認定]</p> <p>厚生労働省認定臨床研修指定病院（小児） 厚生労働省認定外国医師臨床研修施設</p> <p>◆ [専門医教育病院学会指定]</p> <p>日本小児科学会専門医研修施設 日本外科学会外科専門医訓練施設 日本脳神経外科学会専門医訓練施設 日本泌尿器科学会専門医教育施設 日本整形外科学会専門医研修施設 日本眼科学会専門医研修施設 日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設 日本病理学会登録施設 日本麻酔学会麻酔指導病院 日本医学放射線学会専門医修練機関 日本胸部外科学会認定医指定施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本形成外科学会認定医指導施設 日本小児外科学会認定施設 日本産科婦人科学会専門医研修指導施設 日本内分泌代謝科専門医認定教育施設 日本気管食道科学会認定日本気管食道科専門医研修施設 日本周産期新生児医学会専門医研修施設 日本小児循環器学会専門医修練施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本小児血液・がん専門医研修施設 日本小児神経学会専門医研修施設 日本集中治療医学会集中治療専門医研修施設 日本心臓血管麻酔学会専門医認定施設 日本精神神経学会精神科専門医研修施設</p>
姉妹提携・交流協定病院	<p>シアトル小児病院（アメリカ合衆国） プリンセスマーガレット小児病院（オーストラリア） 国福利会国際和平婦幼保健院（中華人民共和国）</p>

7. 委員会一覧（平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月）

委員会名	開催回数	活動内容と結果
幹部会	毎月第2月曜日	病院の管理及び運営に関する基本方針等を審議
運営協議会・経営計画推進委員会	毎月第4月曜日	幹部会からの指示事項の調査、検討と職員への周知
保険診療対策委員会	毎月第4金曜日	減点内容の検討、返戻に対する対応の検討
医療事故防止対策委員会	毎月第4月曜日	リスクマネジメント部会からの報告、事故等案件の状況報告
リスクマネジメント部会	毎月第2火曜日	①各部門の毎月のヒヤリハット発生状況の報告 ②医療安全研修会の開催 ③医療安全推進週間の啓蒙 ④重点取り組み課題の決定と実施、評価
医療事故対策部会	事故発生時	①事故原因の追及 ②再発防止策の策定
院内感染対策委員会	毎月第2金曜日	①病院の感染対策に関する審議 ②院内外における感染微生物の発生状況の把握 ③院内発生時の早急な対応と拡大防止
ICT	毎週木曜日	①院内感染に関する情報収集・相談・対策検討・評価 ②感染予防における職員への教育 ③院内ラウンド
衛生委員会	月1回	職員の健康障害の防止対策等について審議
情報システム管理委員会	月1回	情報システムの効果的な運用、整備を推進する
診療材料委員会	6回	①新規診療材料採用申請の審議 ②JITSシステムデータに基づく診療材料変更提案の審議
薬事委員会	3回	採用・中止薬品の検討、後発医薬品への切替え薬品の検討 新規採用医薬品（20品目）、中止医薬品（42品目）、後発への切替え薬品（47品目）
手術運営委員会	第4水曜日	①手術件数報告 ②効率的な手術室運営について ③機種保守点検、更新について ④安全、感染について
医療用ガス安全管理委員会	1回	医療用ガス設備に係る定期点検の報告
放射線安全委員会	1回	①放射線業務従事者管理状況について ②放射線安全研修会開催について
倫理委員会	6回	詳細は別紙のとおり
虐待防止委員会	3回及び事例発生時	年間事例の報告 処遇検討
治験審査委員会	5回	詳細は別紙のとおり
化学療法レジメン委員会	2回	①新規化学療法レジメンの承認等について ②がん化学療法レジメン管理要項変更について ③抗がん剤曝露対策について
褥瘡対策委員会	12回	①院内の褥瘡に関する状況の報告 ②褥瘡に関する研修 ③褥瘡対策患者対象の回診 ④褥瘡に関するデータの共有とケアの評価や対策の検討。
輸血療法委員会	隔月第1水曜日	①血液製剤の使用状況報告 ②輸血に関連した副作用報告 ③安全な輸血に関する取り決め ④輸血に関する諸問題の対応
検査委員会	2回 不定期	①検査項目、運用等の変更に関する承認 ②検査に関する諸問題の解決 ③検査に関する要望

栄養給食委員会 NST部会	1回	①平成27年度給食及び栄養指導実施状況報告 ②平成27年度栄養サポート件数及び特殊食品提供数 ③電子カルテ運用について ④院内約束食事基準の改定について ⑤その他
防災対策委員会	1回	防災対策の推進について審議
省エネルギー推進委員会		日常の省エネルギー活動の推進と活動結果の検証
医師の負担軽減等推進委員会	1回	負担軽減計画の策定
広報委員会	4回	①ニュースレター「がんきカエル」の発行（年4回） ②2015年報の発行 ③新病院ホームページのアップ ④診療のご案内2016の発行 ⑤ホームページ更新方法の研修会 3回
研修教育委員会	2回	①症例検討会について ②地域医療支援病院について
診療記録等管理委員会	2回	診療録記載ガイドラインの改定 看護記録などの様式変更
外来運営委員会	3回	耳鼻科外来の午後枠の造設 ヘッドアップティルト試験の運用 循環器移行期外来などの診察枠の増設
病棟運営委員会	1回	①夏休みのベッドコントロールについて ・各診療科のめやすベッドについて ・入院キャンセル等の対応について ②新病室での病床利用の考え方の整理 ③集中室でのベットコントロール
クリニカルパス委員会	11回	①クリニカルパスの広報・作成・運用・管理 ②院内クリニカルパス大会1回開催 ③新規クリニカルパス作成 ④電子パス適応に関する運用決定
国際交流推進委員会	5回	①シアトル小児病院研修派遣について ・第9回シアトル小児病院派遣研修について ・シアトル小児病院派遣研修申請・報告について
国際交流推進委員会	9回	①シアトル小児病院研修派遣について ・第8回シアトル小児病院派遣研修について ・シアトル小児病院派遣研修申請・報告について
緩和ケア委員会	13回	緩和ケアチームの立ち上げ 緩和ケアマニュアルの作成、ポスター作成 症例検討
臨床研究支援室	2回	こども病院・神戸中央市民病院・理研ジョイレットシンポジウムについて
在宅推進委員会	5回	①在宅推進委員会の立ち上げ ②在宅推進委員会の活動内容の検討・計画実施 ・地域関係機関との連携、在宅医療の情報整理 ・退院支援システムの周知に関連する業務整理 ・地域連携パス委員会との連携

各種委員会（別紙）

名 称	委員長	開催日時	場 所	出席者数	議 題
倫理委員会	上谷 良行	7月28日 9:30～	会議室	8	<ol style="list-style-type: none"> 1 先天性食道閉鎖症に対する胸腔鏡手術ならびにフォガティーカーテールによる術中食道気管瘻のブロック<福澤小児外科医長> 2 先天性食道閉鎖症に対するフォガティーカーテールによる術中食道気管瘻のブロック<香川麻酔科部長> 3 先天性ミオパチーの児に対するL-チロシン製剤の使用 国内未承認薬の使用<生田新生児科フェロー> 4 小児血液・腫瘍疾患の疾患関連遺伝子解析<小阪血液・腫瘍科部長>
倫理委員会	上谷 良行	8月25日 9:30～	会議室	6	<ol style="list-style-type: none"> 1 多項目迅速ウイルスPCR法を用いた免疫不全患者におけるウイルス感染症の早期診断の有用性に関する研究<長谷川血液・腫瘍科部長> 2 小児心肺蘇生の質に関する多施設共同観察研究（pediRES-Q）<黒澤小児集中治療科医長> 3 プロポフォールの小児集中治療科における限定使用について<黒澤小児集中治療科医長>
倫理委員会	上谷 良行	9月26日 9:00～	会議室	9	<ol style="list-style-type: none"> 1 左異所性尿管瘤にともなう上腎無機能腎の患者に対する腹腔鏡下左上腎摘除術の実施<杉多泌尿器科部長>
倫理委員会	上谷 良行	10月20日 9:00～	会議室	7	<ol style="list-style-type: none"> 1 人工肛門造設術後の極低出生体重児における肛門側腸管機能の維持および栄養状態の改善を目的とした肛門側人工肛門への便およびGlutamin-Fiber-Oligosaccharide(GFO®)の注入療法<玉置新生児科医長>
倫理委員会	上谷 良行	1月26日 9:30～	会議室	8	<ol style="list-style-type: none"> 1 日本光電換気モニター（RFM-X）を使用した小児呼吸機能検査の基準値に関する研究<染谷小児集中治療科フェロー>
倫理委員会	上谷 良行	2月23日 9:30～	会議室	12	<ol style="list-style-type: none"> 1 医療行為の妥当性について<松井新生児科医長>

治験審査委員会	中尾 秀人	6月24日 16:30～	会議室	9	Horai 試験の実施の適否について審議、また現在進行中の治験1課題の継続について審議した
治験審査委員会	中尾 秀人	8月26日 16:30～	会議室	9	retosiban 試験2件およびKRN23試験の実施の適否について審議した。また2課題の終了と1課題の中止を報告した
治験審査委員会	中尾 秀人	10月21日 16:30～	会議室	8	PALO 試験の実施の適否について審議、また現在進行中の治験3課題の継続について審議した。また、2課題の終了を報告した
治験審査委員会	中尾 秀人	12月16日 16:30～	会議室	9	ボルテゾミブ試験の実施の適否について審議、また現在進行中の治験3課題の継続について審議した。また、1課題の終了を報告した
治験審査委員会	中尾 秀人	2月17日 16:30～	会議室	9	現在進行中の治験6課題の継続について審議した

II 医事経理関係

第1節 患者数統計

1. 総括

(1) 年度別

区 分				24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
外 来	a	診 療 日 数	日	245	244	244	243	243
	b	新 患 者 数	人	7,631	8,032	7,744	7,687	7,347
	c	一日平均新患者数	人	31.1	32.9	31.7	31.6	30.2
	d	延 患 者 数	人	86,902	87,254	85,527	86,135	84,099
	e	一日平均延患者数	人	354.7	357.6	350.5	354.5	346.1
	f	平均通院日数	日	11.4	10.9	11.0	11.2	11.4
入 院	g	稼 働 日 数	日	365	365	365	366	365
	h	稼 働 病 床 数	床	266	266	266	266	267
	I	入 院 患 者 数	人	5,290	5,271	5,406	5,546	5,681
	j	一日平均入院患者数	人	14.5	14.4	14.8	15.2	15.6
	k	退 院 患 者 数	人	5,302	5,279	5,392	5,580	5,651
	l	一日平均退院患者数	人	14.5	14.5	14.8	15.2	15.5
	m	延入院患者数	人	88,036	86,385	83,845	83,583	76,733
	n	一日平均延患者数	人	241.2	236.7	229.7	228.4	210.2
	o	病 床 利 用 率	%	90.7	89.0	86.4	85.9	78.8
	p	病 床 回 転 数	回	19.9	19.8	20.3	20.9	21.2
	r	日 帰 入 院 患 者 数	人	88	120	237	371	369
	s	NICU・GCU 入 院 患 者 数	人	963	1,009	961	933	720
	t	平均在院日数	日	15.6	15.4	14.5	14.0	12.5
	u	外 来 入 院 比 率	%	98.7	101.0	102.0	103.1	109.6
v	入 院 率	%	69.3	65.6	69.8	72.1	77.3	
計 算 式	f 平均通院日数 = d/b o 病床利用率 = (m / (h × g)) × 100 p 病床回転率 = ((I+k) / 2) / h t 平均在院日数 = (m-k) / ((I+k) / 2) u 外来入院比率 = (d/m) × 100 v 入院率 = (I/b) × 100							

(2) 月別患者統計

H28 年度

区 分				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
外 来	a	診 療 日 数	日	20	19	22	20	22	20	20	20	19	19	20	22	243
	b	新 患 者 数	人	391	480	695	648	757	574	628	633	643	606	545	747	7,347
	c	一日平均新患者数	人	19.6	25.3	31.6	32.4	34.4	28.7	31.4	31.7	33.8	31.9	27.3	34.0	30.2
	d	延 患 者 数	人	6,109	4,806	6,620	7,003	8,830	7,083	6,925	6,818	7,484	7,013	6,742	8,666	84,099
	e	一日平均延患者数	人	305.5	252.9	300.9	350.2	401.4	354.2	346.3	340.9	393.9	369.1	337.1	393.9	346.1
	f	平均通院日数	日	15.6	10.0	9.5	10.8	11.7	12.3	11.0	10.8	11.6	11.6	12.4	11.6	11.4
入 院	g	稼 働 日 数	日	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
	h	稼 働 病 床 数	床	266	267	267	267	267	267	267	267	267	267	267	267	3,203
	l	入 院 患 者 数	人	299	382	467	502	546	483	481	486	487	510	498	540	5,681
	j	一日平均入院患者数	人	10.0	12.3	15.6	16.2	17.6	16.1	15.5	16.2	15.7	16.5	17.8	17.4	15.6
	k	退 院 患 者 数	人	437	276	423	486	550	483	478	489	543	455	484	547	5,651
	l	一日平均退院患者数	人	14.6	8.9	14.1	15.7	17.7	16.1	15.4	16.3	17.5	14.7	17.3	17.6	15.5
	m	延入院患者数	人	4,432	4,093	5,721	6,852	7,125	6,882	7,180	6,974	6,925	6,677	6,442	7,430	76,733
	n	一日平均延患者数	人	147.7	132.0	190.7	221.0	229.8	229.4	231.6	232.5	223.4	215.4	230.1	239.7	210.2
	o	病 床 利 用 率	%	55.5	49.5	71.4	82.8	86.1	85.9	86.7	87.1	83.7	80.7	86.2	89.8	78.7
	p	病 床 回 転 数	回	1.4	1.2	1.7	1.9	2.1	1.8	1.8	1.8	1.9	1.8	1.8	2.0	1.8
	r	日 帰 入 院 患 者 数	人	33	19	23	41	39	28	30	27	30	18	41	40	369
	s	N I C U ・ G C U 入 院 患 者 数	人	26	37	47	65	83	65	77	56	66	86	63	49	720
	t	平均在院日数	日	10.9	11.6	11.9	12.9	12.0	13.2	14.0	13.3	12.4	12.9	12.1	12.7	12.5
	u	外 来 入 院 比 率	%	137.8	117.4	115.7	102.2	123.9	102.9	96.4	97.8	108.1	105.0	104.7	116.6	109.6
v	入 院 率	%	76.5	79.6	67.2	77.5	72.1	84.1	76.6	76.8	75.7	84.2	91.4	72.3	77.3	
計 算 式	f 平均通院日数 = d/b o 病床利用率 = (m / (h × g)) × 100 p 病床回転率 = ((I+k) / 2) / h t 平均在院日数 = (m-k) / ((I+k) / 2) u 外来入院比率 = (d/m) × 100 v 入院率 = (I/b) × 100															

2. 月別科別外来患者数

H28年度

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
循環器内科	新患者数	23	44	55	46	48	49	55	37	43	41	41	54	536
	再来患者数	709	490	676	635	1,008	717	674	654	727	683	645	907	8,525
	延患者数	732	534	731	681	1,056	766	729	691	770	724	686	961	9,061
腎臓内科	新患者数	5	6	8	28	37	9	8	5	11	6	7	5	135
	再来患者数	241	171	225	269	343	232	245	225	296	276	252	328	3,103
	延患者数	246	177	233	297	380	241	253	230	307	282	259	333	3,238
神経内科	新患者数	8	8	11	9	10	8	13	5	7	11	8	12	110
	再来患者数	234	175	218	212	276	225	238	266	254	284	238	296	2,916
	延患者数	242	183	229	221	286	233	251	271	261	295	246	308	3,026
血液内科	新患者数	10	4	3	2	7	8	1	8	4	5	7	7	66
	再来患者数	332	262	274	364	493	358	312	313	340	318	313	443	4,122
	延患者数	342	266	277	366	500	366	313	321	344	323	320	450	4,188
代謝・内分泌内科	新患者数	8	12	20	17	16	14	17	13	11	20	6	14	168
	再来患者数	374	295	456	449	509	461	445	428	460	463	470	563	5,373
	延患者数	382	307	476	466	525	475	462	441	471	483	476	577	5,541
新生児内科	新患者数	2	7	3	5	3	1	1	7	1	3	2	0	35
	再来患者数	231	125	178	156	164	165	172	191	186	209	208	215	2,200
	延患者数	233	132	181	161	167	166	173	198	187	212	210	215	2,235
心臓血管外科	新患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	再来患者数	142	73	94	101	98	105	130	120	133	116	98	120	1,330
	延患者数	142	73	94	101	98	105	130	120	134	116	98	120	1,331
脳神経外科	新患者数	16	24	27	36	34	28	38	35	29	20	23	28	338
	再来患者数	317	222	270	410	471	346	315	296	348	357	286	410	4,048
	延患者数	333	246	297	446	505	374	353	331	377	377	309	438	4,386
小児外科	新患者数	32	38	81	45	56	35	37	43	32	43	50	47	539
	再来患者数	421	363	465	488	567	447	391	402	445	386	423	562	5,360
	延患者数	453	401	546	533	623	482	428	445	477	429	473	609	5,899
整形外科	新患者数	57	60	88	54	72	52	87	105	103	72	60	100	910
	再来患者数	400	333	401	439	698	450	436	466	573	443	385	625	5,649
	延患者数	457	393	489	493	770	502	523	571	676	515	445	725	6,559
形成外科	新患者数	21	34	38	30	33	33	30	32	37	31	28	40	387
	再来患者数	211	185	262	211	309	257	231	193	259	213	227	300	2,858
	延患者数	232	219	300	241	342	290	261	225	296	244	255	340	3,245
精神科	新患者数	6	3	12	7	9	6	5	11	14	9	12	14	108
	再来患者数	272	252	323	336	370	302	295	328	327	309	286	382	3,782
	延患者数	278	255	335	343	379	308	300	339	341	318	298	396	3,890
アレルギー内科	新患者数	5	6	5	5	10	7	2	2	1	2	6	3	54
	再来患者数	119	95	141	137	184	120	139	64	79	64	69	117	1,328
	延患者数	124	101	146	142	194	127	141	66	80	66	75	120	1,382
リウマチ科	新患者数	0	0	0	0	0	0	1	3	4	1	0	5	14
	再来患者数	0	1	0	0	0	6	20	94	99	88	83	133	524
	延患者数	0	1	0	0	0	6	21	97	103	89	83	138	538

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
感染症内科	新患者数	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	3	6
	再来患者数	0	0	4	4	2	2	0	2	2	1	0	2	19
	延患者数	0	0	4	4	3	2	2	2	2	1	0	5	25
臨床遺伝科	新患者数	0	1	0	2	3	4	1	1	4	2	1	2	21
	再来患者数	0	6	9	8	12	23	22	19	24	23	20	29	195
	延患者数	0	7	9	10	15	27	23	20	28	25	21	31	216
泌尿器科	新患者数	45	26	56	63	87	62	61	81	62	69	51	66	729
	再来患者数	291	215	312	377	450	389	408	388	399	379	371	428	4,407
	延患者数	336	241	368	440	537	451	469	469	461	448	422	494	5,136
産科	新患者数	7	13	21	12	17	22	18	14	14	11	16	18	183
	再来患者数	57	90	133	144	185	203	151	187	162	179	158	130	1,779
	延患者数	64	103	154	156	202	225	169	201	176	190	174	148	1,962
眼科	新患者数	30	34	40	29	45	38	45	38	36	33	35	48	451
	再来患者数	669	394	616	698	836	760	757	690	796	702	715	823	8,456
	延患者数	699	428	656	727	881	798	802	728	832	735	750	871	8,907
耳鼻咽喉科	新患者数	18	31	43	52	44	32	35	24	42	40	40	35	436
	再来患者数	380	232	417	473	568	411	412	347	439	407	440	495	5,021
	延患者数	398	263	460	525	612	443	447	371	481	447	480	530	5,457
リハビリテーション科	新患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	再来患者数	0	15	43	39	60	54	34	33	35	29	47	59	448
	延患者数	0	15	43	39	60	54	34	33	35	29	47	59	448
放射線科	新患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	再来患者数	0	1	0	0	0	1	1	2	4	2	2	2	15
	延患者数	0	1	0	0	0	1	1	2	4	2	2	2	15
麻酔科	新患者数	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	3
	再来患者数	68	68	58	66	88	65	64	69	62	67	73	94	842
	延患者数	69	68	58	66	88	65	64	69	63	68	73	94	845
総合診療科	新患者数	8	16	20	22	31	16	25	15	14	14	17	20	218
	再来患者数	93	62	115	106	131	106	115	123	98	125	105	124	1,303
	延患者数	101	78	135	128	162	122	140	138	112	139	122	144	1,521
救急科	新患者数	22	73	97	99	128	92	102	97	110	103	96	135	1,154
	再来患者数	48	114	110	129	153	171	185	174	201	186	178	197	1,846
	延患者数	70	187	207	228	281	263	287	271	311	289	274	332	3,000
小児集中治療科	新患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	再来患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
歯科	新患者数	67	40	67	85	66	58	44	57	62	68	39	91	744
	再来患者数	109	87	125	104	98	133	105	111	93	98	105	135	1,303
	延患者数	176	127	192	189	164	191	149	168	155	166	144	226	2,047
合計	新患者数	391	480	695	648	757	574	628	633	643	606	545	747	7,347
	再来患者数	5,718	4,326	5,925	6,355	8,073	6,509	6,297	6,185	6,841	6,407	6,197	7,919	76,752
	延患者数	6,109	4,806	6,620	7,003	8,830	7,083	6,925	6,818	7,484	7,013	6,742	8,666	84,099

3. 月別科別入院患者数

H28年度

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
循環器内科	新規入院患者数	19	20	30	29	41	36	30	39	41	30	32	36	383
	退院患者数	31	17	35	29	42	34	28	43	52	30	33	46	420
	延患者数	555	309	374	378	450	358	462	510	513	459	480	608	5,456
腎臓内科	新規入院患者数	6	6	4	8	14	6	5	7	12	13	7	14	102
	退院患者数	9	6	6	9	13	12	9	8	20	14	9	21	136
	延患者数	119	130	85	77	215	169	165	166	160	157	96	207	1,746
神経内科	新規入院患者数	3	3	5	4	7	10	11	6	2	9	8	10	78
	退院患者数	7	4	8	15	15	16	16	18	9	13	19	23	163
	延患者数	52	49	115	172	147	165	211	214	121	157	183	261	1,847
血液内科	新規入院患者数	49	70	64	54	67	67	49	46	45	63	59	64	697
	退院患者数	71	46	61	57	70	65	54	42	58	53	54	66	697
	延患者数	713	725	978	1,000	1,007	1,007	959	914	931	996	1,030	1,260	11,520
代謝・内分泌内科	新規入院患者数	1	2	6	3	8	10	3	5	9	7	8	4	66
	退院患者数	2	3	5	4	8	9	4	5	11	7	7	4	69
	延患者数	15	14	34	22	41	57	31	42	45	38	48	33	420
新生児内科	新規入院患者数	16	22	30	43	51	38	43	32	37	50	35	26	423
	退院患者数	44	13	17	33	34	41	33	30	41	43	30	28	387
	延患者数	915	636	860	1,247	1,493	1,490	1,510	1,467	1,547	1,383	1,206	1,267	15,021
心臓血管外科	新規入院患者数	5	11	9	11	15	12	15	15	12	13	13	13	144
	退院患者数	15	6	9	14	19	16	18	19	16	11	12	19	174
	延患者数	373	143	220	271	300	279	297	226	227	152	178	228	2,894
脳神経外科	新規入院患者数	13	12	15	23	21	13	18	17	24	25	27	18	226
	退院患者数	24	8	16	21	23	20	15	22	31	22	28	23	253
	延患者数	167	71	91	139	177	223	188	240	293	280	209	199	2,277
小児外科	新規入院患者数	55	52	71	85	85	64	45	66	46	57	56	84	766
	退院患者数	73	44	74	88	91	69	54	61	56	56	59	84	809
	延患者数	500	427	599	658	534	586	420	520	487	513	508	627	6,379
整形外科	新規入院患者数	13	14	18	16	20	21	21	22	24	23	21	31	244
	退院患者数	28	9	14	16	28	22	25	29	27	18	24	26	266
	延患者数	161	166	294	398	384	274	349	348	203	311	333	276	3,497
形成外科	新規入院患者数	1	15	26	23	25	14	21	14	12	19	19	28	217
	退院患者数	8	12	26	24	25	15	24	11	18	17	19	24	223
	延患者数	24	81	147	179	144	116	137	101	109	80	102	180	1,400
精神科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アレルギー内科	新規入院患者数	6	0	1	4	6	2	7	6	8	8	10	6	64
	退院患者数	7	0	1	9	7	3	11	6	9	8	12	8	81
	延患者数	54	0	1	34	26	10	23	7	17	15	19	22	228
リウマチ科	新規入院患者数	0	4	1	0	2	4	1	1	2	2	1	4	22
	退院患者数	0	5	2	1	2	3	4	3	4	4	3	6	37
	延患者数	0	28	8	4	18	60	66	12	17	17	25	68	323

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
感染症内科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
臨床遺伝科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌尿器科	新規入院患者数	18	16	18	20	23	23	23	25	24	26	26	22	264
	退院患者数	20	12	22	17	22	29	25	26	29	21	26	28	277
	延患者数	84	67	104	107	157	137	137	157	121	109	123	109	1,412
産科	新規入院患者数	5	23	29	37	32	32	33	25	27	27	30	31	331
	退院患者数	19	12	13	37	31	33	34	31	29	28	24	28	319
	延患者数	144	191	509	915	829	821	911	599	669	685	572	781	7,626
眼科	新規入院患者数	26	28	29	36	42	36	41	35	27	38	43	44	425
	退院患者数	30	25	28	34	46	32	42	40	28	34	42	42	423
	延患者数	137	119	117	156	198	136	169	161	111	155	184	185	1,828
耳鼻咽喉科	新規入院患者数	6	6	9	9	10	7	8	10	10	11	10	8	104
	退院患者数	8	4	11	7	11	5	8	10	12	8	10	8	102
	延患者数	53	29	65	62	71	38	71	62	71	64	69	70	725
リハビリテーション科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
放射線科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻酔科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総合診療科	新規入院患者数	0	8	16	25	18	12	13	12	19	6	9	4	142
	退院患者数	1	4	18	17	20	11	13	14	21	13	15	6	153
	延患者数	89	92	224	247	262	226	244	271	286	222	195	129	2,487
救急科	新規入院患者数	57	58	59	53	43	55	80	84	80	67	68	72	776
	退院患者数	40	44	48	44	29	40	54	62	63	47	53	46	570
	延患者数	277	320	359	215	148	191	298	364	368	288	309	310	3,447
小児集中治療科	新規入院患者数	0	12	27	19	16	21	14	19	26	16	16	21	207
	退院患者数	0	2	9	10	14	8	7	9	9	8	5	11	92
	延患者数	0	496	537	571	524	539	532	593	629	596	573	610	6,200
菌科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	新規入院患者数	299	382	467	502	546	483	481	486	487	510	498	540	5,681
	退院患者数	437	276	423	486	550	483	478	489	543	455	484	547	5,651
	延患者数	4,432	4,093	5,721	6,852	7,125	6,882	7,180	6,974	6,925	6,677	6,442	7,430	76,733

4. 年度別科別外来患者数

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
循環器内科	新患者数	430	454	512	519	536
	再来患者数	7,301	7,749	8,451	8,638	8,525
	延患者数	7,731	8,203	8,963	9,157	9,061
腎臓内科	新患者数	152	157	138	135	135
	再来患者数	2,896	3,124	3,168	3,197	3,103
	延患者数	3,048	3,281	3,306	3,332	3,238
神経内科	新患者数	185	174	138	149	110
	再来患者数	3,512	3,515	3,573	3,134	2,916
	延患者数	3,697	3,689	3,711	3,283	3,026
血液内科	新患者数	70	64	80	89	66
	再来患者数	3,721	3,763	3,567	3,716	4,122
	延患者数	3,791	3,827	3,647	3,805	4,188
代謝・内分泌内科	新患者数	142	156	167	141	168
	再来患者数	4,668	5,091	4,933	5,148	5,373
	延患者数	4,810	5,247	5,100	5,289	5,541
新生児内科	新患者数	598	617	541	531	35
	再来患者数	3,213	3,160	2,653	2,709	2,200
	延患者数	3,811	3,777	3,194	3,240	2,235
心臓血管外科	新患者数	3	5	5	7	1
	再来患者数	1,530	1,509	1,509	1,610	1,330
	延患者数	1,533	1,514	1,514	1,617	1,331
脳神経外科	新患者数	223	301	328	394	338
	再来患者数	3,712	3,573	3,812	3,829	4,048
	延患者数	3,935	3,874	4,140	4,223	4,386
小児外科	新患者数	606	634	634	637	539
	再来患者数	5,486	5,239	5,223	5,463	5,360
	延患者数	6,092	5,873	5,857	6,100	5,899
整形外科	新患者数	835	868	871	807	910
	再来患者数	5,336	5,313	5,167	5,028	5,649
	延患者数	6,171	6,181	6,038	5,835	6,559
形成外科	新患者数	482	449	437	433	387
	再来患者数	3,620	3,272	2,976	3,467	2,858
	延患者数	4,102	3,721	3,413	3,900	3,245
精神科	新患者数	106	79	87	119	108
	再来患者数	2,859	3,273	3,598	3,686	3,782
	延患者数	2,965	3,352	3,685	3,805	3,890
アレルギー内科	新患者数	73	62	72	54	54
	再来患者数	1,447	1,383	1,424	1,505	1,328
	延患者数	1,520	1,445	1,496	1,559	1,382
リウマチ科	新患者数					14
	再来患者数					524
	延患者数	0	0	0	0	538

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
感染症内科	新患者数					6
	再来患者数					19
	延患者数	0	0	0	0	25
臨床遺伝科	新患者数					21
	再来患者数					195
	延患者数	0	0	0	0	216
泌尿器科	新患者数	724	710	714	684	729
	再来患者数	5,060	4,844	4,694	4,463	4,407
	延患者数	5,784	5,554	5,408	5,147	5,136
産科	新患者数	515	536	539	434	183
	再来患者数	2,773	2,987	2,526	2,148	1,779
	延患者数	3,288	3,523	3,065	2,582	1,962
眼科	新患者数	565	587	517	502	451
	再来患者数	10,502	10,049	9,888	10,036	8,456
	延患者数	11,067	10,636	10,405	10,538	8,907
耳鼻咽喉科	新患者数	436	437	436	441	436
	再来患者数	5,438	5,602	5,720	6,017	5,021
	延患者数	5,874	6,039	6,156	6,458	5,457
リハビリテーション科	新患者数					0
	再来患者数					448
	延患者数	0	0	0	0	448
放射線科	新患者数	0	0	0	0	0
	再来患者数	0	0	0	0	15
	延患者数	0	0	0	0	15
麻酔科	新患者数	8	3	10	16	3
	再来患者数	952	952	976	1,026	842
	延患者数	960	955	986	1,042	845
総合診療科	新患者数	255	228	164	198	218
	再来患者数	1,556	1,614	1,280	1,271	1,303
	延患者数	1,811	1,842	1,444	1,469	1,521
救急科	新患者数	632	591	586	616	1,154
	再来患者数	1,008	795	825	852	1,846
	延患者数	1,640	1,386	1,411	1,468	3,000
小児集中治療科	新患者数					1
	再来患者数					0
	延患者数	0	0	0	0	1
歯科	新患者数	591	920	768	781	744
	再来患者数	2,681	2,415	1,820	1,505	1,303
	延患者数	3,272	3,335	2,588	2,286	2,047
合計	新患者数	7,631	8,032	7,744	7,687	7,347
	再来患者数	79,271	79,222	77,783	78,448	76,752
	延患者数	86,902	87,254	85,527	86,135	84,099

5. 年度別科別入院患者数

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
循環器内科	新規入院患者数	321	327	367	440	383
	退院患者数	369	391	443	495	420
	延患者数	9,198	8,880	8,993	8,519	5,456
腎臓内科	新規入院患者数	84	81	63	76	102
	退院患者数	100	87	80	88	136
	延患者数	1,302	1,591	1,238	1,394	1,746
神経内科	新規入院患者数	42	56	45	24	78
	退院患者数	120	138	135	90	163
	延患者数	2,102	1,833	1,961	1,722	1,847
血液内科	新規入院患者数	581	606	569	672	697
	退院患者数	634	650	591	717	697
	延患者数	10,881	10,736	10,559	12,166	11,520
代謝・内分泌内科	新規入院患者数	29	45	41	35	66
	退院患者数	35	51	48	51	69
	延患者数	306	357	337	447	420
新生児内科	新規入院患者数	631	650	542	517	423
	退院患者数	582	595	539	526	387
	延患者数	22,868	22,769	19,549	17,900	15,021
心臓血管外科	新規入院患者数	145	138	136	133	144
	退院患者数	165	155	150	143	174
	延患者数	3,845	3,850	3,654	4,436	2,894
脳神経外科	新規入院患者数	165	150	180	171	226
	退院患者数	221	213	247	216	253
	延患者数	3,353	3,382	3,399	2,868	2,277
小児外科	新規入院患者数	586	541	741	856	766
	退院患者数	687	669	833	954	809
	延患者数	9,073	8,273	8,035	8,214	6,379
整形外科	新規入院患者数	239	228	249	239	244
	退院患者数	247	236	256	240	266
	延患者数	2,998	2,950	3,500	3,582	3,497
形成外科	新規入院患者数	259	242	257	269	217
	退院患者数	268	248	265	278	223
	延患者数	1,563	1,607	1,747	1,722	1,400
精神科	新規入院患者数	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0
アレルギー内科	新規入院患者数	29	16	22	40	64
	退院患者数	28	24	48	56	81
	延患者数	354	152	374	343	228
リウマチ科	新規入院患者数					22
	退院患者数					37
	延患者数					323

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
感染症内科	新規入院患者数					0
	退院患者数					0
	延患者数					0
臨床遺伝科	新規入院患者数					0
	退院患者数					0
	延患者数					0
泌尿器科	新規入院患者数	260	272	266	264	264
	退院患者数	263	279	276	270	277
	延患者数	1,316	1,508	1,408	1,394	1,412
産科	新規入院患者数	524	523	508	415	331
	退院患者数	519	534	509	422	319
	延患者数	11,345	10,848	9,916	9,900	7,626
眼科	新規入院患者数	478	436	436	407	425
	退院患者数	477	433	438	407	423
	延患者数	2,193	2,002	1,954	1,790	1,828
耳鼻咽喉科	新規入院患者数	112	138	128	128	104
	退院患者数	113	137	131	130	102
	延患者数	836	960	948	893	725
リハビリテーション科	新規入院患者数					0
	退院患者数					0
	延患者数					0
放射線科	新規入院患者数	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0
麻酔科	新規入院患者数	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0
総合診療科	新規入院患者数	3	5	7	5	142
	退院患者数	4	5	6	8	153
	延患者数	32	53	1,839	1,469	2,487
救急科	新規入院患者数	802	817	849	855	776
	退院患者数	470	434	397	489	570
	延患者数	4,471	4,714	4,432	4,824	3,447
小児集中治療科	新規入院患者数					207
	退院患者数					92
	延患者数					6,200
歯科	新規入院患者数	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0
合計	新規入院患者数	5,290	5,271	5,406	5,546	5,681
	退院患者数	5,302	5,279	5,392	5,580	5,651
	延患者数	88,036	86,465	83,843	83,583	76,733

6. 年齢別患者状況

H28年度

年齢区分	外 来		入 院	
	患者数 (人)	構成比 (%)	患者数 (人)	構成比 (%)
0歳～1歳未満	2,519	10.4%	839	20.0%
1歳以上～3歳未満	3,675	15.1%	762	18.2%
3歳～6歳未満	4,465	18.4%	779	18.6%
6歳～13歳未満	8,593	35.4%	1,060	25.3%
13歳以上～16歳未満	2,622	10.8%	268	6.4%
16歳以上	2,410	9.9%	484	11.5%
合 計	24,284	100.0%	4,192	100.0%

7. 地域別患者状況

(1) 外来

区 分	27年度		28年度		
	患者数	構成比	患者数	構成比	
兵 庫	神戸市	11,184	47.2%	11,753	48.4%
	姫路市	1,156	4.9%	1,053	4.3%
	尼崎市	315	1.3%	656	2.7%
	明石市	2,334	9.9%	2,038	8.4%
	西宮市	814	3.4%	808	3.3%
	洲本市	169	0.7%	548	2.3%
	芦屋市	225	0.9%	375	1.5%
	伊丹市	203	0.9%	210	0.9%
	相生市	60	0.3%	75	0.3%
	豊岡市	262	1.1%	259	1.1%
兵 庫 県	加古川市	802	3.4%	605	2.5%
	赤穂市	125	0.5%	146	0.6%
	西脇市	158	0.7%	271	1.1%
	宝塚市	319	1.3%	299	1.2%
	三木市	385	1.6%	321	1.3%
	高砂市	281	1.2%	218	0.9%
	川西市	106	0.4%	152	0.6%
	小野市	231	1.0%	265	1.1%
	三田市	518	2.2%	483	2.0%
	加西市	138	0.6%	114	0.5%
兵 庫 県	篠山市	175	0.7%	175	0.7%
	養父市	86	0.4%	156	0.6%
	丹波市	321	1.4%	306	1.3%

(1) 入院

区 分	27年度		28年度		
	患者数	構成比	患者数	構成比	
兵 庫	神戸市	1,972	48.6%	2,111	50.4%
	姫路市	160	3.9%	164	3.9%
	尼崎市	42	1.0%	81	1.9%
	明石市	357	8.8%	311	7.4%
	西宮市	149	3.7%	150	3.6%
	洲本市	30	0.8%	68	1.6%
	芦屋市	41	1.0%	51	1.2%
	伊丹市	25	0.6%	31	0.8%
	相生市	10	0.2%	9	0.2%
	豊岡市	47	1.2%	41	1.0%
兵 庫 県	加古川市	119	2.9%	92	2.2%
	赤穂市	17	0.4%	11	0.3%
	西脇市	26	0.7%	39	0.9%
	宝塚市	53	1.3%	40	1.0%
	三木市	69	1.7%	58	1.4%
	高砂市	35	0.9%	33	0.8%
	川西市	13	0.3%	20	0.5%
	小野市	37	0.9%	40	1.0%
	三田市	104	2.6%	69	1.6%
	加西市	23	0.6%	26	0.6%
兵 庫 県	篠山市	32	0.8%	30	0.7%
	養父市	10	0.2%	17	0.4%
	丹波市	46	1.1%	53	1.3%

区 分	27 年度		28 年度		
	患者数	構成比	患者数	構成比	
兵 庫 県	南あわじ市	190	0.8%	195	0.8%
	朝来市	115	0.5%	105	0.4%
	淡路市	234	1.0%	187	0.8%
	宍粟市	81	0.3%	73	0.3%
	加東市	201	0.8%	155	0.6%
	たつの市	165	0.7%	139	0.6%
	猪名川町	16	0.1%	25	0.1%
	多可町	65	0.3%	59	0.2%
	稲美町	117	0.5%	84	0.4%
	播磨町	146	0.6%	106	0.4%
	市川町	26	0.1%	19	0.1%
	福崎町	47	0.2%	61	0.3%
	神河町	25	0.1%	33	0.1%
	太子町	70	0.3%	61	0.3%
	上郡町	26	0.1%	20	0.1%
	佐用町	24	0.1%	24	0.1%
	香美町	45	0.2%	40	0.2%
	新温泉町	25	0.1%	35	0.1%
	その他	4	0.0%	80	0.3%
計	21,989	92.8%	22,787	93.8%	
近畿圏	881	3.7%	735	3.0%	
近畿圏外	816	3.4%	762	3.2%	
総 計	23,686	100.0%	24,284	100.0%	

区 分	27 年度		28 年度		
	患者数	構成比	患者数	構成比	
兵 庫 県	南あわじ市	35	0.9%	39	0.9%
	朝来市	16	0.4%	37	0.9%
	淡路市	37	0.9%	18	0.4%
	宍粟市	7	0.2%	7	0.2%
	加東市	27	0.7%	31	0.7%
	たつの市	25	0.6%	22	0.5%
	猪名川町	6	0.1%	5	0.1%
	多可町	13	0.3%	13	0.3%
	稲美町	16	0.4%	13	0.3%
	播磨町	22	0.6%	19	0.5%
	市川町	2	0.0%	5	0.1%
	福崎町	8	0.2%	8	0.2%
	神河町	3	0.1%	6	0.2%
	太子町	10	0.2%	12	0.3%
	上郡町	6	0.1%	2	0.0%
	佐用町	5	0.1%	0	0.0%
	香美町	9	0.2%	6	0.2%
	新温泉町	5	0.1%	10	0.2%
	その他	0	0.0%	19	0.5%
計	3,669	90.3%	3,817	91.1%	
近畿圏	176	4.3%	146	3.5%	
近畿圏外	218	5.4%	229	5.4%	
総 計	4,063	100.0%	4,192	100.0%	

※実患者数

8. 公費負担患者状況

H28 年度

公費負担制度	件数	構成比
1. 小児慢性特定疾患	1,134	47.6%
2. 育成医療	72	3.0%
3. 養育医療	156	6.5%
4. 児童福祉（措置）	47	2.0%
5. 特定疾患	65	2.7%
6. 生活保護	57	2.4%
7. 精神保健	65	2.7%
8. 自 費	788	33.1%
合 計	2,384	100.0%

9. 時間外患者状況

H28年度

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
循環器内科	外来	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2
	入院	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	計	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	3
腎臓内科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
神経内科	外来	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	入院	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	計	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
血液内科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	4
	入院	0	0	0	2	0	2	1	0	1	0	1	0	7
	計	0	0	0	2	0	2	1	0	5	0	1	0	11
代謝・ 内分泌内科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
新生児内科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	5	11	9	15	22	14	16	11	18	21	19	12	173
	計	5	11	9	15	22	14	16	11	18	21	19	12	173
心臓血管外科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脳神経外科	外来	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2
	計	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	3
小児外科	外来	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	入院	0	1	3	2	0	0	1	1	1	1	2	1	13
	計	1	1	4	3	0	0	1	1	1	1	2	1	16
整形外科	外来	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	入院	0	0	0	1	0	1	1	0	1	1	0	1	6
	計	1	0	0	2	0	1	1	0	1	1	0	1	8
形成外科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
精神科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アレルギー 内科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	3
	計	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	3
リウマチ科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
感染症内科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
臨床遺伝科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌尿器科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
産科	外来	1	0	1	3	0	2	1	3	3	3	2	2	21
	入院	0	6	2	4	6	7	3	6	5	5	3	5	52
	計	1	6	3	7	6	9	4	9	8	8	5	7	73
眼科	外来	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
耳鼻咽喉科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
リハビリテーション科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
放射線科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻酔科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総合診療科	外来	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
	入院	0	1	7	6	6	4	5	3	10	0	1	1	44
	計	0	1	8	6	6	5	5	3	10	0	1	1	46
救急科	外来	43	110	132	144	187	172	196	184	226	199	172	217	1,982
	入院	18	20	20	19	13	19	23	20	30	22	20	24	248
	計	61	130	152	163	200	191	219	204	256	221	192	241	2,230
小児集中治療科	外来	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	入院	0	5	8	10	6	8	5	4	13	5	6	7	77
	計	0	5	8	10	6	9	5	4	13	5	6	7	78
歯科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	外来	49	110	135	149	187	177	197	187	233	203	174	219	2,020
	入院	23	44	49	59	54	55	56	47	83	55	53	51	629
	計	72	154	184	208	241	232	253	234	316	258	227	270	2,649

10. 小児がん患者入院延べ日数

平成28年度 [総計] 11,573 日

区 分		単位	27年度 決 算	28年度				決算評価			
				計 画	決 算	計画対比	前年対比	計画対比	前年対比		
業務量	入院	許可病床数	床	290	290	290	0	0			
		稼働病床数	床	266	267	267	0	1			
		病床利用率	%	85.9	79.8	78.8	△ 1.0	△ 7.1	×	×	
		延入院患者数	人	83,583	77,745	76,733	△ 1,012	△ 6,850	×	×	
		1日当たり患者数	人/日	228	213	210	△ 3	△ 18	×	×	
		新規入院患者数	人	5,546	5,500	5,681	181	135	○	○	
		平均在院日数	日	14.0	12.8	12.5	△ 0.3	△ 1.5	○	○	
	外来	入院単価	円	86,189	91,181	91,145	△ 36	4,956	×	○	
		延外来患者数	人	86,135	86,135	84,099	△ 2,036	△ 2,036	×	×	
		1日当たり患者数	人/日	354	354	346	△ 8	△ 8	×	×	
		外来単価	円	20,689	20,689	18,371	△ 2,318	△ 2,318	×	×	
		新規外来患者数	人	7,687	7,200	7,347	147	△ 340	○	×	
		紹介率	%	96.7	98.0	95.8	△ 2.2	△ 0.9	×	×	
		手術件数	件	4,052	4,200	4,312	112	260	○	○	
	救急車搬送患者数	人	621	1,500	1,608	108	987	○	○		
収支	入院収益	百万円	7,204	7,089	6,994	△ 95	△ 210	×	×		
	外来収益	百万円	1,782	1,782	1,545	△ 237	△ 237	×	×		
	その他医業収益	百万円	102	112	125	13	23	○	○		
	* 医業収益 *	百万円	9,088	8,983	8,663	△ 320	△ 425	×	×		
	医業外収益	百万円	133	106	110	4	△ 23	○	×		
	長期前受金戻入額	百万円	249	295	295	0	46	-	-		
	* 経常収益計① *	百万円	9,470	9,383	9,069	△ 314	△ 401	×	×		
	給与費	給与費	百万円	6,740	7,566	7,548	△ 18	808			
		(うち退職給与金)	百万円	165	185	200	15	35			
		(うち退職給付引当金)	百万円	157	157	157	0	0			
	材料費	材料費	百万円	2,312	2,321	2,102	△ 219	△ 210			
		(うち薬品費)	百万円	1,459	1,433	1,230	△ 203	△ 229			
		(うち診療材料費)	百万円	782	818	808	△ 10	26			
	経費	百万円	1,493	2,044	1,972	△ 72	479				
	減価償却費	百万円	437	243	243	0	△ 194				
	その他の医業費用	百万円	55	167	151	△ 16	96				
	* 医業費用 *	百万円	11,038	12,342	12,017	△ 325	979				
	医業外費用	百万円	169	254	250	△ 4	81				
	* 経常費用計② *	百万円	11,207	12,595	12,266	△ 329	1,059				
	繰入前経常損益③(①-②)	百万円	△ 1,737	△ 3,212	△ 3,197	15	△ 1,460	○		×	
一般会計繰入金④	百万円	1,768	2,296	2,296	0	528	-	-			
経常損益⑤(③+④)	百万円	32	△ 916	△ 902	14	△ 934	○	×			
特別利益⑥	百万円	3	107	1	△ 106	△ 2	-	-			
特別損失⑦	百万円	11	2,883	2,783	△ 100	2,772	-	-			
当期純損益⑤+⑥-⑦	百万円	23	△ 3,692	△ 3,684	8	△ 3,707	○	×			
経営指標	医業収益比率	給与費比率	%	74.2	84.2	87.1	2.9	12.9		×	×
		材料費比率	%	25.4	25.8	24.3	△ 1.5	△ 1.1		○	○
		(うち薬品費比率)	%	16.1	16.0	14.2	△ 1.8	△ 1.9	○	○	
		(うち診療材料費比率)	%	8.6	9.1	9.3	0.2	0.7	×	×	
	経費比率	%	16.4	22.8	22.8	0.0	6.4	○	×		
医業収支比率	%	82.3	72.8	72.1	△ 0.7	△ 10.2	×	×			
経常収支比率	%	100.3	92.7	92.7	△ 0.1	△ 7.6	×	×			

※紹介率=地域支援病院の紹介率

決算の推移

入院日数 日 365 365 365 366 365
 外来日数 日 245 244 244 243 243 (単位:床、%、人、千円)

区分	平成24年度			平成25年度			平成26年度			平成27年度			平成28年度					
	決算	医業比	前年比	決算	医業比	前年比	決算	医業比	前年比	決算	医業比	前年比	決算	医業比	前年比	前年度差引		
業務量	稼働病床数	床	266	—	100.0	266	—	100.0	266	—	100.0	266	—	100.0	267	—	100.4	1
	病床利用率	%	90.7	—	99.3	89.0	—	98.1	86.4	—	97.1	85.9	—	99.4	78.8	—	91.7	△ 7.1
	平均在院日数	日	15.6	—	101.3	15.4	—	98.7	14.5	—	94.2	14.0	—	96.6	12.5	—	89.3	△ 1.5
	延入院患者数	人	88,036	—	99.1	86,385	—	98.1	83,843	—	97.1	83,583	—	99.7	76,733	—	91.8	△ 6,850
	(1日当り)	人	241	—	99.2	237	—	98.3	230	—	97.0	228	—	99.1	210	—	92.1	△ 18
	新規入院患者数	人	5,290	—	97.5	5,271	—	99.6	5,406	—	102.6	5,546	—	102.6	5,681	—	102.4	135
	延外来患者数	人	86,902	—	100.5	87,254	—	100.4	85,527	—	98.0	86,135	—	100.7	84,099	—	97.6	△ 2,036
	(1日当り)	人	355	—	100.3	358	—	100.8	351	—	98.0	354	—	100.9	346	—	97.7	△ 8
新規外来患者数	人	7,631	—	99.2	8,032	—	105.3	7,744	—	96.4	7,687	—	99.3	7,347	—	95.6	△ 340	
収益	入院収益	千円	7,235,953	79.4	102.6	7,156,347	79.4	98.9	7,424,137	80.2	103.7	7,203,916	79.3	97.0	6,993,826	80.7	97.1	△ 210,090
	(1日1人)	円	82,193	—	103.6	82,842	—	100.8	88,548	—	106.9	86,189	—	97.3	91,145	—	105.8	4,956
	外来収益	千円	1,755,701	19.3	103.8	1,725,720	19.1	98.3	1,720,897	18.6	99.7	1,782,031	19.6	103.6	1,545,024	17.8	86.7	△ 237,007
	(1日1人)	円	20,203	—	103.3	19,778	—	97.9	20,121	—	101.7	20,689	—	102.8	18,371	—	88.8	△ 2,318
	その他医業収益	千円	119,905	1.3	107.3	134,832	1.5	112.4	107,974	1.2	80.1	101,946	1.1	94.4	124,591	1.4	122.2	22,645
	* 医業収益計 *	千円	9,111,559	100.0	102.9	9,016,899	100.0	99.0	9,253,008	100.0	102.6	9,087,893	100.0	98.2	8,663,441	100.0	95.3	△ 424,452
	医業外収益	千円	138,529	1.5	91.3	155,866	1.7	112.5	429,262	4.6	275.4	382,166	4.2	89.0	405,326	4.7	106.1	23,160
	特別利益	千円	43,082	0.5	159,563.0	1,926	0.0	4.5	1,263	0.0	65.6	2,737	0.0	216.7	856	0.0	31.3	△ 1,881
** 収益合計 **	千円	9,293,170	102.0	103.2	9,174,691	101.7	98.7	9,683,533	104.7	105.5	9,472,796	104.2	97.8	9,069,623	104.7	95.7	△ 403,173	
費用	給与費	千円	6,685,902	73.4	107.8	6,455,660	71.6	96.6	6,658,655	72.0	103.1	6,740,424	74.2	101.2	7,548,291	87.1	112.0	807,867
	うち退職給与金	千円	(168,081)	1.8	61.2	(193,264)	2.1	115.0	(186,486)	2.0	96.5	(165,319)	1.8	88.6	(200,489)	2.3	121.3	35,170
	うち退職給与引当金	千円	(178,185)	—	93.9	(178,185)	2.0	100.0	(157,000)	1.7	88.1	(157,000)	1.7	100.0	(157,000)	1.8	100.0	0
	材料費	千円	2,179,583	23.9	99.4	2,176,781	24.1	99.9	2,176,205	23.5	100.0	2,311,603	25.4	106.2	2,102,489	24.3	91.0	△ 209,114
	経費	千円	1,430,088	15.7	100.9	1,465,310	16.3	102.5	1,505,218	16.3	102.7	1,493,342	16.4	99.2	1,971,681	22.8	132.0	478,339
	減価償却費	千円	506,104	5.6	104.6	517,497	5.7	102.3	590,150	6.4	114.0	437,252	4.8	74.1	242,978	2.8	55.6	△ 194,274
	資産減耗費	千円	28,132	0.3	126.4	5,575	0.1	19.8	2,101	0.0	37.7	582	0.0	27.7	90,787	1.0	15,599.1	90,205
	研究研修費	千円	59,989	0.7	109.6	67,032	0.7	111.7	57,766	0.6	86.2	54,713	0.6	94.7	60,331	0.7	110.3	5,618
	* 医業費用計 *	千円	10,889,798	119.5	105.0	10,687,855	118.5	98.1	10,990,095	118.8	102.8	11,037,916	121.5	100.4	12,016,557	138.7	108.9	978,641
	医業外費用	千円	196,638	2.2	93.3	196,811	2.2	100.1	182,173	2.0	92.6	168,990	1.9	92.8	249,709	2.9	147.8	80,719
	特別損失	千円	43,505	0.5	166.4	27,670	0.3	63.6	26,161	0.3	94.5	10,764	0.1	41.1	2,783,070	32.1	25,855.4	2,772,306
** 費用合計 **	千円	11,129,941	122.2	104.9	10,912,336	121.0	98.0	11,198,447	121.0	102.6	11,217,670	123.4	100.2	15,049,336	173.7	134.2	3,831,666	
差引損益	千円	△ 1,836,771	△ 20.2	85.7	△ 1,737,645	△ 19.3	105.4	△ 1,514,914	△ 16.4	112.8	△ 1,744,874	△ 19.2	84.8	△ 5,979,713	△ 69.0	342.7	△ 4,234,839	
一般会計繰入金	千円	1,810,684	19.9	104.6	1,781,957	19.8	98.4	1,830,581	19.8	102.7	1,768,367	19.5	96.6	2,295,934	26.5	129.8	527,567	
経常損益	千円	△ 25,664	△ 0.3	△ 0.3	70,056	0.8	473.0	340,565	3.7	486.1	31,520	0.3	9.3	△ 901,565	△ 10.4	△ 2,860.3	△ 933,085	
当期純損益	千円	△ 26,087	△ 0.3	△ 21.0	44,312	0.5	369.9	315,667	3.4	712.4	23,493	0.3	7.4	△ 3,683,779	△ 42.5	△ 15,680.3	△ 3,707,272	

(注1) 延入院患者数欄上段は、人間ドック分を外書き ※平成24年度賞与引当金 270,000千円を給与費に計上

経常収支比率	%	99.8	—	98.4	100.6	—	100.9	103.0	—	102.4	100.3	—	97.3	92.7	—	92.4	—
医業収支比率	%	83.7	—	98.1	84.4	—	100.8	84.2	—	99.8	82.3	—	97.8	72.1	—	87.6	—

Ⅲ 診 療 統 計

1. 救急総合診療科（総合）

総合診療科は(1) 専門各科における診療になじまない紹介患者への対応、(2) 院内各科からの相談対応、(3) セカンドオピニオンに準じた相談に応じることなどが主な業務である。症例としては発育・発達障害や感染症を中心に、各診療科にまたがるような疾患の全身管理や、様々な特殊な問題を抱えた common disease 症例が数多く紹介されてくる。

担当スタッフは2名である。研修医や専攻医の研修の受け皿となり、研修計画の立案や実際の研修を担当し、コーディネートする役割も担っている。

旧病院では、入院患者はスタッフの関係上、救急集中治療科スタッフが担当する体制になっていた。多くが基礎疾患を持った児の合併症、特に感染症である。

新しい病院では、総合診療科は救急部門と連携して、救急総合診療という大きな枠組みの中で救急外来対応と院内の患者の内科的管理を担当している。入院患者の管理に関しては、スタッフが不足していることから、神経内科、腎臓内科、アレルギー科、リウマチ科、代謝内分泌科、臨床遺伝科、感染症科のスタッフとともに実施する体制で臨んでいる。

我が国のみならず世界中の小児科が抱えている大きな問題として小児期に発症した疾患が治癒せずそのまま成人まで医療を必要とする患者が年々増加しており、所謂小児期発症疾患を有する患者の移行期医療の問題が深刻になっている。成人の内科で管理するにしても全くこれまで経験がなく、小児科が継続して管理するにしても成人期に特有の疾患についての経験がほとんどないことから、どこでだれが管理するのが最も良いのか答えの出ない状況である。おそらく全く新しい分野として取り組んでいかねばならない問題である。いずれにしてもその受け皿を整備する必要があり、そこに総合診療科がタッチしていくことが求められている。そのための環境整備を進めていくことが喫緊の課題である。

また在宅移行支援も大きな問題であり、そこにも総合診療としての大きな枠組みの中で多くの診療科がタッチしていく必要がある。

当院は各専門診療科に細分化されており、各々の診療科でのサブスペシャリティー研修を目的に応募する専攻医が多くを占めるが、専門医制度の大幅な改革に対応するためにも専攻医はまず小児医療の基礎を身に着けることが先決であり、その意味で総合診療の重要性をアピールし、研修体制を充実する必要がある。

外来担当スタッフ：上谷良行、藤田杏子、竹田洋樹、森永杏子、森貞直哉

2. 救急総合診療科（救急）

1. 診療活動

1) 救急集中治療科

小児救急医療センターが平成19年10月1日に開設以来8年、当センターの前身である救急医療室が平成14年10月に開設され、三次救急医療がスタートしてから13年が経過した。当センターで診療の中心を担ってきたのは救急集中治療科である。

平成28年4月30日をもって旧病院での診療を終了するに伴って、新たに救急総合診療科と集中治療科に分けて小児救急医療センターを運営することになった。主に救急外来と救急外来からの比較的軽症の患者を対象にする救急総合診療科と、院内の重症患者を集めてすべて管理する集中治療科である。従って4月までの実績で救急集中治療科としての締めくくりを行った。

当センターは院外からの重症患者の受入や院内の急変患者、術後患者の受入など、多岐にわたる分野の患者を受け入れて、他院の医師をはじめ各関連診療科との連携と調整を行いながら対応してきた。これらの実績を踏まえて、新しい病院での救急・集中治療分野の新しい体制がスタートし、ステップアップできることを信じている。

2) 救急総合診療科（救急）

新病院に移転してからは、救急外来部門を新たに2名のスタッフを迎えて6名で担当している。

救急患者の受け入れを積極的に行うために、救急車の依頼を断らないことを徹底し、2次の患者や初期の患者も来院すれば受け入れることで対応し、平日の日勤帯も救急担当を配置することとした。

その結果、救急搬送件数は旧病院のほぼ1.5倍に増加し、神戸市の救急隊からの応需率はほぼ100%となっている。

軽症の外傷も多く、できるだけ救急医が縫合や骨折の固定なども実施するように外科系各科からの指導を仰いでいる。

近隣の医療施設からの出迎え搬送の依頼にもできるだけ対応するようにしているが、ナースや医師が常に搬送に出ることができる体制を組めていない現状を何とか改善したい。

今後は病院が掲げている「断らない救急」を実現すべく、初期患者にも対応するように体制を作る予定である。

2. スタッフ

救急集中治療科：上谷良行、竹田洋樹、福原信一、山口善道、中岸保夫、神田杏子、楠元真由美、
梶原伸介、藤田杏子

兼任：田中亮二郎（腎臓内科）、長谷川大一郎（血液腫瘍科）、尾崎佳代（代謝内分泌科）、
丸山あずさ（脳神経内科）、笠井和子（免疫アレルギー科）、中川拓（腎臓内科）

救急総合診療科（救急）：上谷良行、竹田洋樹、山口善道、楠元真由美、梶原伸介、林卓郎、松井鋭

専攻医：神納 幸治（平成28年1月～3月）
上月 愛瑠（平成28年1月～3月）
飯塚 理（平成28年4月～5月）
山田優里子（平成28年4月～6月）
大野 茜子（平成28年4月～6月）
三星アカリ（平成28年6月～9月）
田中 俊光（平成28年7月～9月）
大西 理史（平成28年10月～12月）

小児外科、脳神経外科、整形外科、形成外科など外科系各科は on call で back up 体制をとっている。新病院では小児外科が救急対応のために当直体制を組んでおり、その他の診療科は on call 体制を継続している。

3. 診療統計

旧病院（1月～4月）

新病院（5月～12月）

兵庫県立こども病院 小児救急医療センター 統計 2016年1月～4月

【1】 救急医療センター 来院患者 全体統計

2016年 1月～4月		外来のみ				本館入院				救急センター入院						小計				合計				
		時間内		時間外		時間内		時間外		入院		転棟		時間内		時間外								
		初診	再診	初診	再診	初診	再診	初診	再診	初診	再診	初診	再診	初診	再診	初診	再診							
救急集中 治療科 Dr 外来診察	救急科 Dr 外来診察 (救急科以外に入院)	27	60	46	185	5	50	5	7	31	37	75	124	8	12	63	165	126	328	672				
	小計	87		231		55		12		68		199		20		218		454						
		318				67				287														
他科 Dr 外来診察	小児外科	1	9	1	7	0	9	0	0	/						1	18	1	7	27	131			
	脳外科	0	4	0	3	1	5	0	0							1	9	0	3	13				
	泌尿器科	2	1	0	4	0	1	0	2							2	2	0	6	10				
	形成外科	0	15	0	5	0	1	0	1							0	16	0	6	22				
	その他	0	1	0	1	0	1	0	0							0	2	0	1	3				
	心外・循環器科	0	17	0	6	0	6	0	0							0	23	0	6	29				
	新生児科	0	0	0	1	0	1	0	0							0	1	0	1	2				
	他の内科系	0	15	0	4	2	4	0	0							2	19	0	4	25				
	小計	3	62	1	31	3	28	0	3							6	90	1	34	96		35		
		65		32		31		3																
	97				34																			
		131																						
合計		30	122	47	216	8	78	5	10	31	37	75	124	8	12	314		489		803				
		516								287														

【2】救急センター外来・入院患者の内訳（救急集中治療科診察）2016年1月～4月

1) 総内訳

外来患者	385（本館入院67 帰宅318）
------	-------------------

入院患者	死亡	8	PICU	102
	最重症	98		
	重症	183	救急病棟	187
	計	289	計	289

2) 来院患者重症度別

① 重症度

来院患者		初診	再診	計	%
	死亡	1	7	8	1.3
	最重症	49	49	98	15.3
	重症	56	127	183	28.6
	外来	83	268	351	54.8
	計	189	451	640	100

② 事故・疾病別重症度

来院患者		事故	%	疾病	%	計	%
	死亡	0	0.0	8	100.0	8	1.3
	最重症	13	13.3	85	86.7	98	15.3
	重症	21	11.5	162	88.5	183	28.6
	外来	63	17.9	288	82.1	351	54.8
	計	97	15.2	543	84.8	640	100.0

3) 来院方法別（全体）

		小計	計	%	
自家用車・タクシー・徒歩		514	514	66.4	
救急車	公共	228	233	30.1	
	Dr car	当院			1
		災害医療			1
		中央市民			1
		その他			2
ヘリ	7	7	0.9		
転棟	20	20	2.6		
計		774		100.0	

4) 主な症例

1	人工換気療法	19
2	緊急手術	32
消化器系		20
脳神経系		6
3	交通外傷	5
4	脳低温・平温療法	12
5	血液浄化	2
6	到着時心肺停止	6

5) 外科系緊急協力科 (含 重複)

小児外科	80	泌尿器科	13
脳外科	34	放射線科	25
麻酔科	21	耳鼻科	3
形成外科	12	眼科	1
整形外科	12	精神科・指導相談	2
心外循環器	27	歯科	0

6) 救急センター入院 最重症患者住所

	2016年	
	数	%
神戸・三田	60	56.6
阪神	5	4.7
東播磨	18	17.0
北播磨	4	3.8
西播磨	2	1.9
但馬	4	3.8
丹波	2	1.9
淡路	8	7.5
県外	3	2.8
不明	0	0.0
計	106	100.0

小児救急医療センター 救急外来統計 2016年5月～12月

1. 救急患者数

平日昼間	初診	帰宅	244
		入院	143
	再診	帰宅	423
		入院	253
平日夜間	初診	帰宅	212
		入院	105
	再診	帰宅	369
		入院	145
休日	初診	帰宅	321
		入院	119
	再診	帰宅	516
		入院	179
	合計		3029

3. 住所地別患者数

	入院	帰宅	総計
兵庫県	892	1971	2863
神戸	584	1516	2100
阪神南	44	91	135
阪神北	36	53	89
東播磨	114	175	289
北播磨	47	58	105
中播磨	15	28	43
西播磨	11	14	25
但馬	8	4	12
丹波	13	18	31
淡路	20	14	34
県外	52	114	166
合計	944	2085	3029

2. 救急車、ヘリコプター搬送

当院救急車	8
公的救急車	890
他救急車	22
ヘリ	35

3. 代謝内分泌科

1. スタッフ

部長(科長)	郷司 克己
部長	尾崎 佳代
フェロー	日外 祐理

本年はスタッフ2名、フェロー1名の3名体制で診療をおこなった。また、専攻医8名が1～2ヶ月間のサイクルで研修を行った。

2. 診療活動

代謝内分泌科は小児における大きな特性である成長と成熟にかかわる疾患、すなわち低身長症、肥満、糖尿病、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患、思春期発来異常、性分化異常などを対象としている。本年度の新規外来患者数は236名であった。施設としては日本内分泌学会の認定教育施設に認定され、内分泌専門医を目指す小児科医の研修支援を行っている。

当科においては遺伝工学的手法を駆使して診療にあたるのが社会的要請に合致することと考え分子生物学的技術を用いた解析に努めている。今後も神戸大学小児科とも協力しながら、分子生物学的手法を用いた解析、研究を臨床の場に役立てたいと考えている。

近年、病気の原因の解明、病気の予防・診断・治療の改善、患者さんの生活の質の向上を目的とした臨床研究が推進されている。当科においても本年度は低リン血症性くる病における腎石灰化のリスク因子についての検討を行い、臨床と直結する成果が得られた。また、最先端の治療を取り入れるために、治験にも積極的に参加している。本年度は1型糖尿病、低リン血症性くる病の治験に参加した。

外来患者（新患）

	患者数
低身長症	89
甲状腺疾患	18
性腺疾患	47
副腎	0
糖代謝異常	15
肥満	7
マスキング	
クレチン症	12
先天代謝異常症	9
先天性副腎過形成	8
その他	31
計	236

入院患者

	患者数
低身長症	27
糖代謝異常	19
性腺疾患	4
甲状腺疾患	3
副腎疾患	4
その他	16
計	73

4. リウマチ科

1. 人事異動

【スタッフ】

科長 中岸 保夫

医長 笠井 和子

2. 診療活動

16歳未満で発症した小児の膠原病・リウマチ性疾患を対象に診察している。具体的には、昔は若年性関節リウマチ（JRA）と呼ばれていた若年性特発性関節炎（JIA）、全身性エリテマトーデス（SLE）、若年性皮膚筋炎（JDM）、全身性強皮症、混合性結合固有組織病（MCTD）、シェーグレン症候群、ベーチェット病、他にはクリオピリン関連周期熱症候群（CAPS）、家族性地中海熱などの自己炎症性疾患、川崎病や高安動脈炎を含めた血管炎症候群などが対象になる。

こどもの膠原病・リウマチ性疾患に対しては、標準的な医療のみならず、重症度に応じて適切な免疫抑制薬や生物学的製剤を用いて積極的な治療を行っている。難治性の川崎病に対しては、集中治療科と連携して血漿交換療法を行っている。

3. 特色

外来診療にあたっては、小児施設には数少ない日本リウマチ財団登録リウマチケア看護師（リウマチケア看護師）が在籍している。患児の気持ちを理解し、患児自身が理解・納得できるようにサポートしている。

当院は日本リウマチ学会で認定された教育病院であり、日本リウマチ学会の専門医が常勤している。小児リウマチ専門医研修施設認定も受けており、全国でも有数の小児のリウマチ性疾患の診療ができる医師を育成する病院である。

4. 診療実績

外来初診 66名

入院患者 のべ36名

内訳 診断確定したもの

内訳

関節型若年性特発性関節炎	8名
全身型若年性特発性関節炎	1名
全身性エリテマトーデス	1名
シェーグレン症候群	2名
ベーチェット病	1名
IgA血管炎	1名
ブドウ膜炎	2名
家族性地中海熱	2名

全身型若年性特発性関節炎 (初発時および生物学的製剤導入のため)	13名
関節型若年性特発性関節炎	1名
若年性皮膚筋炎 (初発時および定期治療のため)	6名
全身性エリテマトーデス	3名
川崎病	10名
高安動脈炎の増悪	1名
結節性紅斑 他	2名

診断がつかなかったもの

関節痛	15名
不明熱	9名
CAPS 疑い	2名
他 口内炎など	

5. アレルギー科

1. 人事異動

【スタッフ】

科長	中岸 保夫 日本リウマチ学会専門医
医長	笠井 和子 日本アレルギー学会専門医・指導医 日本リウマチ学会専門医

2. 診療活動

外来は月曜日・木曜日の午後・火曜日の午前を基本外来としている。食物負荷試験は外来・入院両方で行っている。再診患者の疾患内訳は、食物アレルギー 75.2%、気管支喘息 53.5%、アレルギー性鼻炎 45.7%、アトピー性皮膚炎 41.8%であった。アレルギー疾患の総合的なコントロールを心がけており、スギ・ダニへの皮下・舌下免疫療法患者が増加している。また重症喘息への生物学的製剤投与を開始した。アレルギー専門看護師（日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会認定の小児アレルギーエデュケーター）2名を中心にしたコメディカルが食物アレルギーでのエピペン指導や喘息の吸入指導、アトピー性皮膚炎の皮膚ケア、舌下免疫療法の指導などを行い、より患者に寄り添った医療を行うよう努めている。

当科は日本アレルギー学会で認定された教育病院であり、若手医師への教育を行っている。

3. 診療実績

(7月～12月 半年)

●食物負荷試験	87件	(外来 52件・入院 35件)
●新規患者	66名	
内訳(重複あり)		
食物アレルギー	27名	
気管支喘息	28名	
アトピー性皮膚炎	25名	
アレルギー性鼻炎	22名	
その他	5名	

6. 脳神経内科

1. スタッフ

医長（科長）	丸山 あずさ
医長	豊嶋 大作
フェロー	田中 司
	石田 悠介 (2016年4月-)

【2016年専攻医】

1月	山口 宏
4-5月	稲熊 洋祐
7-9月	上月 愛瑠

本年は4月から神戸大学連携大学院生の石田がフェローとなり、スタッフ2名と合わせ4名体制で診療を担当した。また児玉荘一先生と永瀬裕朗先生に月2回ずつ診療応援や専攻医教育、臨床研究のアドバイスなどをお願いしている。

2. 活動状況

診療活動は、神経内科外来初診290名、外来延べ人数2936名であった。また入院患者延べ人数は1399名であった。県内の中核機関としての役割を引き続き担っていきたいと考えている。

当科で重点的に取り組んでいる集中治療領域における連続脳波モニタリングは155例に対して行った。救急外来やPICUにおいて意識障害やけいれん重積の小児の脳波をリアルタイムでモニタリング体制が24時間365日とれるのは兵庫県下では当院だけであり、全国的にみてもその実施件数はトップレベルである。引き続きけいれん重積症例の急性期管理の質の向上に取り組んでいく予定である。

小児神経専門医研修認定に代わって、H.28度から日本てんかん学会研修施設にも認定された。新病院では、ビデオ脳波が出来る環境が整ったこともあり、積極的に発作時脳波を行うことができるようになった。今後もてんかん診療を中心とした小児神経疾患全般の診療と、小児神経専門医を目指す小児科医の育成にも引き続き尽力していく方針である。

学術活動については、急性脳症に対する臨床研究を神戸大学と連携して行っており、こども病院のデータを神戸大学で解析し、学会報告やpublicationの準備をしている。

神経外来初診患者 290名
 (疾患名には疑いも含む、一部重複あり)

発作性疾患 178

てんかん	92
ウエスト症候群	4
熱性けいれん	67
失神	12
憤怒けいれん	3
不随意運動	5

感染性・炎症性疾患 21

急性脳症・脳炎	21
---------	----

自己免疫性神経疾患 10

多発性硬化症・CIS	2
急性散在性脳脊髄炎	2
ギランバレー症候群	1

発達障害 40

精神遅滞	37
広汎性発達障害	4
ADHD	4

心身症 等 31

チック	4
頭痛	11
身体表現性障害	13

7. 血液・腫瘍内科

【人事】

2016年3月にフェローの高藤哲医師が退職し神戸大学大学院に進学した。4月から岸本健治医師と田村彰広医師が正規となり、太原鉄平医師がフェロー採用となった。6月中旬から神前愛子医師が産休に入ったため実働体制としては1人増であり、2015年4月時点で1人減となった状況から旧に復する形で新病院での診療を開始できた。短期ローテーターは割愛する。

部長（小児がん医療センター長）	小阪嘉之
部長（科長）	川崎圭一郎
部長	長谷川大一郎
医長	石田敏章
医長	岸本健治
医長	神前愛子
医長	斎藤敦郎
医長	田村彰広
フェロー	太原鉄平
フェロー	植村優
フェロー	二野菜々子
フェロー	横井健人

【診療活動】

新患者数と造血細胞移植数に関してはそれぞれ表1、表2を参照されたい。2016年は5月に新病院への移転があることから様々な面での安全を最大限に勘案し、この前後の時期には新患者の受け入れや造血細胞移植の実施を制限せざるを得なかった。そのため例年に比較すると新患者数は腫瘍性疾患、非悪性の血液疾患ともに若干減少している感は否めない。しかしそれでもやはり腫瘍性疾患に関しては全国屈指の症例数であり、移植数も小児科単科の施設のものとしては多い。新病院移転後も新患者の紹介数は順調に伸びており、また移転前後にやむを得ずお断りした施設からも再び症例の紹介や相談を受けている。移転1ヵ月後に自家移植から再開した造血細胞移植の件数の伸びも順調であり、移転の影響は最小限に留められたのではないかと考えられる。新病院ではフロアー全体がラミナールフローとなった病棟が整備され、無菌室も4室に増床となった。新しい環境の下でスタッフ一同、なお一層の熱意をもって小児血液腫瘍性疾患の診療に邁進していく所存である。

月1回（第1月曜日午後）の長期フォローアップ外来は神前愛子医師が、主にフォローが長期に及んでいる造血細胞移植後の症例を対象に代謝・内分泌科や循環器内科他の協力を得て行っていたが、神前愛子医師が産休に入った後は斎藤敦郎医師が引き継いで担当している。小児がん拠点病院としてこの分野も当院への期待は大きく、今後も徐々に対象疾患を広げる等、拡充に努めたい。また毎週金曜日の午前には造血細胞移植後外来を開設し、長谷川大一郎医師が比較的最近移植した症例の免疫抑制剤の調節や食事指導、軽微な感染等の診療にあたっている。

また2017年度に小児がんに重点を置いた新粒子線治療施設が整備されるのに先立ち、たつの市の兵庫県粒子線医療センターと協力して2016年末までに計10例の鎮静の不要な小児例に対して陽子線治療を実施し

た。双方のコメディカルスタッフを含めた総員の協力体制の下、全例に陽子線治療は安全裏に施行できた。この実績を踏まえ 2017 年には鎮静を要する症例の陽子線治療を計画している。これまでとは格段に介入の程度やリスクが上がることが予想されるが、是非とも成功裏に治療を施行し、これを基に問題点を抽出・検討して新粒子線治療施設でのよりよい陽子線治療に結びつけていきたい。

このような多忙な臨床の業務と並行して、積極的に内外の学会・研究会で発表を行っている。詳細は業績の項目を参照されたい。また当該外科系科、放射線科、病理科と合同で毎週腫瘍カンファレンスを開催し各科と一体になった集学的医療を推進している。対外的には県内の小児がん診療病院会議、近畿ブロックの小児がん拠点病院会議、中国四国ネットワーク会議等を通して各施設との緊密な連携を図るとともに、兵庫県がん診療連携協議会に参加するなどして成人領域のがん拠点病院とも連携を深めている。

2016年1月～12月 新患

血液腫瘍性疾患	急性リンパ性白血病		
		BCP	10
		T	3
	急性骨髄性白血病		
		AML(M1)	3
		AML(M5a)	1
		AML(M6)	1
	まれな白血病		1
	悪性リンパ腫		
		nodal MZL	1
	骨髄異形性症候群 (MDS)		
		RCC	2
		RCMD	1
	Down 症 TAM		2
	ランゲルハンス細胞組織球症		5
	血球貪食性リンパ増殖性疾患 (HLH)		1
		31	

固形腫瘍性疾患	髄芽腫		2
	頭蓋内胚細胞腫瘍		1
	神経膠芽腫		2
	神経芽腫		3
	網膜芽細胞種		5
	肝芽腫		6
	肝細胞性線腫		1
	腎腫瘍		
		wilms 腫瘍	2
	副腎皮質癌		1
	ユーイング肉腫		2
	横紋筋肉腫		2
	頭蓋外胚細胞腫瘍		
		immature teratoma	1
		mature teratoma	3
	卵黄のう腫瘍 + 成熟奇形腫		1
	過誤腫		1
	卵巣腫瘍		1
	固形その他		13
			47

血液疾患	慢性肉芽腫症 (CGD)		1
	サラセミア		3
	特発性血小板減少性紫斑病		11
	血友病 A		1
	再生不良性貧血		
	赤芽球ろう		2
	巨赤芽球性貧血		1
	自己免疫性好中球減少症		8
	好中球減少症		3
	血液その他		34
	(Fナー)		15
			79
	セカンドオピニオン		7

造血細胞移植一覧

番号	疾患	年齢	性別	病期	移植種別	転帰
1	急性リンパ性白血病	10	F	第2寛解	非血縁者間骨髄移植	腫瘍死
2	網膜芽細胞腫	1	F	第1寛解	自家末梢血幹細胞移植	腫瘍死
3	未分化肉腫	1	F	第1寛解	自家末梢血幹細胞移植	無病生存
4	横紋筋肉腫	19	M	部分寛解	自家末梢血幹細胞移植	無病生存
5	神経芽腫	2	M	部分寛解	自家末梢血幹細胞移植	担癌生存
6	非定型奇形腫様 / ラブドイド腫瘍	4	M	部分寛解	自家末梢血幹細胞移植	担癌生存
7	神経芽腫	3	M	部分寛解	自家末梢血幹細胞移植	担癌生存
8	小児不応性血球減少	12	M	—	血縁者間骨髄移植	無病生存
9	家族性血球貪食症候群	1	M	—	非血縁者間臍帯血移植	無病生存
10	X連鎖リンパ増殖症候群	1	M	—	非血縁者間骨髄移植	無病生存
11	急性骨髄性白血病	5	M	第2寛解	血縁者間骨髄移植	無病生存
12	骨髄異形成症候群	5	F	—	血縁者間骨髄移植	無病生存
13	急性骨髄性白血病	6	F	第2寛解	非血縁者間骨髄移植	無病生存
14	急性リンパ性白血病	11	F	第2寛解	血縁者間末梢血幹細胞移植	無病生存
15	EB ウィルス関連血球貪食性リンパ組織球症	2	F	—	非血縁者間臍帯血移植	無病生存

8. 循環器内科

【スタッフ・フェロー】

スタッフ	城戸佐知子	フェロー	三木 康暢 (2016年3月まで)
	田中 敏克		祖父江俊樹 (2016年3月まで)
	藤田 秀樹		福田 旭伸 (2016年3月まで)
	富永 健太		平海 良美
	小川 禎治		谷口 由記
	亀井 直哉		上村 和也 (2016年4月から)
	松岡 道生 (2016年4月から)		瓦野 昌大 (2016年4月から)

非常勤 佐藤 有美

スタッフ7名、フェロー4名、他に専攻医数名。専攻医は2か月ごとのローテーションで、主に入院患者管理、カテーテル検査の補助などに従事。心疾患患者の扱いに慣れ、心疾患の診断技術として主として心エコーの基礎を習得し、カテーテル検査の結果を読み、軽症では診断から手術適応の判断ができることを主たる目的とする。またフェローは1年単位の比較的長期間循環器診療に携わり、できる限りカテーテル検査、心エコー検査を単独でこなし、軽症から重症の疾患までの治療方針を自身の判断で立てられること、小児循環器学会専門医を取得すること、などが目標である。

【診療活動】

- (1) 外来：月曜日から金曜日まで週5日、旧病院では午前・午後、基本1診であったが、新病院移転後は基本2診体制とした。外来総患者数はのべ8933名で昨年に比べやや減少、新規患者数は毎日受け入れており、総新規患者数は659名で昨年に比べ増加傾向であった。2診体制が定着すれば、今後は再診患者数の増加が期待できると考えている。新患者の主体は比較的軽症の疾患であり、内訳は心室中隔欠損(122)、心房中隔欠損(83)、肺動脈狭窄(27)、動脈管開存(22)、川崎病(既往含む)(11)、ファロー四徴症(3)、不整脈(95)、意識消失(28)、自律神経調節障害(45)などであった。カテーテル治療相談外来(木曜午前、担当：田中医師)や移行期外来(月曜午前、担当：城戸)、成人先天性心疾患外来(月曜午後、担当：城戸)、OD外来(火曜午後、担当：小川)、不整脈外来(金曜午後、担当：小川)など専門外来も紹介患者が増加傾向である。成人に達した患者については、地域との医療連携の必要性を考慮に入れ、兵庫県立姫路循環器病センターなどでの診療応援(外来応援)を続ける一方、2013年1月からは神戸大学附属病院循環器内科において成人先天性心疾患部門を立ち上げ、協力体制を強化している。また胎児心疾患診断についても、産科外来において胎児心エコーを行っているほか、他院にて診療の応援を行い、医療連携にも重点を置いて取り組んでいる。
- (2) 入院：1年間の総入院患者数は391名で、昨年と比べ減少傾向であったが、移転に伴う入院制限の影響を受けたと考える。また、心疾患の他に他疾患を合併する症例も多く、CICU、ICU滞在期間・入院期間は必然的に長くなっており、昨年に引き続き病棟運営上の問題となっている。
- (3) 生理検査：総心電図件数4697件、Master負荷心電図件数1357件、Holter心電図件数325件、トレッドミル負荷心電図は255件と昨年までと比べやや減少傾向であった。心エコーは6767件と毎年増加傾向が続いている。新病院では6W病棟にエコー室が設置されたため、入院中のエコー件数は今後さ

らに増加すると予想される。胎児心エコーは205件（担当：佐藤医師、亀井医師 主として木曜日）。また、2017年から心肺機能検査（CPX）を導入予定である。

- (4) 心臓カテーテル検査・治療：総件数279件、カテーテル治療の件数は101件と、昨年に比べ約10%減であった。移転に伴い、3週間アンギオ装置を使用できない期間があったことが影響していると考えられるが、移転後は昨年と同等の症例数となっている。麻酔科医増員に伴うカテーテル検査枠の増加により、今後は300-330/年の件数が見込まれる。

【その他の活動】

- (1) カンファレンス：月曜日に心臓外科との合同カンファレンス、木曜日にカテーテル検査および心エコー検討会、木曜日に心臓外科と合同の抄読会・検討会を行い、討議の時間をもっている。
- (2) 学会参加：小児循環器病学会、JPIC研究会、胎児循環器学会、成人先天性心疾患研究会、HOT研究会、川崎病研究会、日本循環器学会などへの参加。

【新規患者内訳】

入院患者総数 391

全入院患者の疾患内訳（カテーテル検査入院含む同一患者の重複あり）	391	カテーテル治療（カテーテル総数件279）	101
フォンタン型手術関連疾患（いわゆる単心室型心臓）	159	弁形成（大動脈弁・肺動脈弁）	5
ファロー四徴症	26	血管形成	34
肺動脈閉鎖・心室中隔欠損	20	ステント留置術	3
心室中隔欠損	9	コイル塞栓術（動脈管開存）	5
動脈管開存	10	コイル塞栓術（側副血管・動静脈瘻）	20
両大血管右室起始	25	バルーン心房中隔裂開術	14
大動脈弓離断・大動脈縮窄	8	心房中隔欠損閉鎖術（Amplatzer, FF-II）	15
房室中隔欠損	15	動脈管開存閉鎖術（Amplatzer）	5
大血管転位	17		
心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖	11		
肺動脈狭窄	6		
心臓・心筋疾患	2		
大動脈弁疾患（狭窄・逆流）	3		
川崎病・冠動脈後遺症	5		
総肺静脈環流異常	18		
両大血管右室起始・房室中隔欠損	0		
感染性心内膜炎	1		
不整脈	9		
エプスタイン奇形	0		
総動脈幹症	2		
僧帽弁閉鎖不全	1		
肺動脈弁欠損	2		
肺高血圧	0		
大動脈・肺動脈瘻	0		
修正大血管転位	7		
その他	15		

9. 腎臓内科

外来/入院診療については、白鳥孝俊医師（フェロー）、中川拓医師、神田杏子医師（救急科兼務）と田中亮二郎医師が担当した。また専攻医の山口宏医師（4、5月）、稲熊洋祐医師（6月-8月）、飯塚理医師（9月）、上月愛瑠医師（10、11月）、松田百代医師（11-2月 市立豊中病院）、田中俊光医師（12月）が当科で研修した。また2016年度の外来初診患者数は212名、入院患者数は124名であった。

【活動状況】

ネフローゼ症候群、急性腎炎、IgA腎症、紫斑病性腎炎、遺伝性腎炎、その他慢性腎炎、全身性エリテマトーデス、溶血性尿毒症症候群などの急性腎不全、慢性腎不全、高血圧、尿路感染症、先天性尿路奇形、腎臓移植後のフォロー、夜尿症等を対象としている。本年度はネフローゼ症候群や腎炎などに対して22例の腎生検を施行した。急性腎不全の患児に対しては集中治療科と協力して診療にあたった。低形成腎、低形成腎+IgA腎症、腎血管性高血圧による慢性腎不全の計3名の患児に対して新規に腹膜透析を導入し、現在6名の慢性腎不全患児が外来維持腹膜透析を受けている。腎移植に関しては他院にお願いし、現在計7名の患者さんが外来にてフォロー中である。今後急性腎不全に対する血液浄化や慢性腎不全に対する在宅腹膜透析を積極的に推し進めたいと考えている。2008年より厚生労働科学研究「小児保存期慢性腎臓病患者の長期予後の解明と腎不全進行抑制の治療法の確立」に参加し、「本邦小児の新たな診断基準による小児慢性腎臓病（CKD）の実態把握のための調査研究」や「保存期の小児慢性腎臓病を対象とした多施設共同非盲検ランダム化比較試験」を行ってきた。また2008年より「小児期発症の難治性ネフローゼ症候群に対する IDEC-C2B8 の多施設共同二重盲検プラセボ対照ランダム化比較試験」を医師主導治験として実施し、治験を終了した。治験結果に基づき2014年8月にリツキシマブが難治性頻回再発型/ステロイド依存性ネフローゼ症候群に対して保険適用薬として承認された。現在は、「初発寛解後早期に再発する小児ステロイド感受性ネフローゼ症候群を対象とした標準治療と標準治療+高用量ミゾリピン併用治療の多施設共同オープンランダム化比較試験」と「頻回再発型小児ネフローゼ症候群を対象としたタクロリムス治療とシクロスポリン治療の多施設共同非盲検ランダム化比較試験」、また先進医療Bとして「小児難治性頻回再発型/ステロイド依存性ネフローゼ症候群を対象としたリツキシマブ治療併用下でのミコフェノール酸モフェチルの多施設共同二重盲検プラセボ対照ランダム化比較試験」と「小児難治性頻回再発型/ステロイド依存性ネフローゼ症候群を対象としたリツキシマブ治療併用下でのミコフェノール酸モフェチルの薬物動態試験」の臨床研究に参加している。さらに2013年より神戸市と協力して、「3歳児検尿の効果的方法と腎尿路奇形の早期発見に関する研究」を行っている。先天性腎尿路奇形は小児期腎不全の60%を占める重要な疾患である。また2017年度から小児治験ネットワークを通じて「6歳以上16歳未満の小児高血圧患者を対象とした TAK-536（アジルサルタン）の第III相長期投与試験」を開始した。このように当科では臨床研究・治験と疫学的研究を通して新しいエビデンス構築に向けて貢献している。院内活動としては、週1回英文抄読会を行い、最新の情報の収集に努めている。さらに2006年より日本腎臓学会の研修教育施設にも指定されている。臨床研究のできる小児腎臓医を育てることを目標にしている。

2016 年入院患者内訳

ネフローゼ症候群	46
IgA 腎症	6
IgM 腎症	2
膜性腎症	1
C3 腎症	1
IgA 血管炎	6
HSPN	5
急性糸球体腎炎	2
SLE	5
溶血性尿毒症症候群	1
ARPKD	2
尿路感染症	16
腎移植後	4
急性腎不全	3
高血圧	2
ネフロンろう	1
慢性腎不全（腹膜透析）	19
CKD	2
合計	124 名

10. 感染症科

・概要

2016年4月より感染症科が正式に設立された。人員は、科長笠井正志、フェロー伊藤雄介の2名体制である。

主な業務

1. 感染症コンサルテーション、2. チーム医療（ICT など）、3. 予防接種センター、4. 教育、

1. コンサルテーション数

世界標準の感染症診療を24時間365日実践する。

コンサルテーション数524件（2016年1月～12月）

休日対応率50%（休日呼び出し日数/全休日日数）

発疹対応（入院トリアージナースより直接相談）：2017年1月までで110件

小児感染症学会認定専門医指導施設：西日本では当施設を含めて5施設のみ

2. チーム医療の推進

患者中心の病院になるために多職種連携チームのロールモデルを目指して活動

感染対策（ICT）：感染管理加算1、アウトブレイク発生なく病棟閉鎖ゼロ、集中治療領域でデバイス関連サーベイランス開始、「無駄を無くす感染対策」

抗菌薬適性使用（ASP）：超広域抗菌薬（カルバペネム系薬）は半減以下、院内ガイドライン作成（周術期、無脾症予防、抗菌薬標準使用量、抗インフルエンザ薬の指針）

微生物検査：培養検査の最適化を行い、約4000検体減少。

3. 予防接種センター

2016年10月設立（上谷副院長センター長）。相談業務、接種業務、教育活動。

相談業務は地域保健師や開業医師よりあり、ワクチン関連の外来受診増加

4. 教育

院内後期研修医受け入れ2016年度1名、共同研究で学術発表7本、論文2編

院外より短期研修受け入れ2016年4名：派遣元、和歌山赤十字病院、豊岡病院、六甲アイランド病院、神戸市立医療センター中央市民病院

5. その他（他団体、施設との連携など）

厚労省「AMR対策」小委員会作業部会メンバー（厚労科研研究で地域AMRモデル構築）

一般社団法人こどものみかた：医学教育、小児科医教育者との連携

小児医療のための医学生・研修医ネットこどもどこ：医学生との連携

神戸市立医療センター中央市民病院との合同自主勉強会：毎月1回（宿泊合宿1回含む）

Microbiology round（微生物勉強会）を毎月1回主催

その他主催セミナー）神戸小児超音波セミナー54名（院内27人、院外27人）、バンクーバー小児病院

GOLDMAN教授招聘 参加者20名

今後のビジョン

院内）感染管理加算1＋地域連携加算（＝500点/新入院）の維持

数値化・文書化し、患者安全を守り、感染診療・感染管理の無理無駄を削減する

アウトブレイク予防・早期対応で、ベッドコントロールに貢献する

チーム医療のロールモデルとなり、職員モチベーション向上し病院機能向上させる

研修医教育を通じた病院の診療レベルアップさせる

感染症専門医として診療の質向上に務める

院外) 地域医療・県民の安心安全に貢献する。

病院の価値を高める活動・広報を行い、患者紹介数向上に貢献する。

11. 臨床遺伝科

臨床遺伝科は2016年の病院移転にあわせて開設された新しい診療科で、森貞直哉（部長）が診療を担当した。

【診療活動】

臨床遺伝科は当院を受診している遺伝性疾患の患者（疑いを含む）の診療を行っている。外来日は火曜日と木曜日の終日であるが、そのほかにも入院中の患者や他科診療患者の突発的な依頼にも、可能な限り応じることとしている。

具体的な診療内容

- ・ 遺伝性疾患のトータル管理（ダウン症候群、神経線維腫症1型、滑脳症など）
- ・ すでに臨床診断されている疾患の原因遺伝子解析（結節性硬化症、アペール症候群など）
- ・ 他施設で解析された事例の遺伝学的説明（染色体異常、心筋症家系など）
- ・ 原因不明患者の網羅的遺伝子解析（神戸大学小児科、IRUD-Pとの共同研究）
- ・ 神戸大学遺伝子診療部などへの出生前遺伝カウンセリングの橋渡し

受診症例、具体的な解析数は別表のとおりである。

【遺伝子解析】

当院症例の遺伝子解析は主に神戸大学小児科との共同研究として行っている。直接シーケンスは結節性硬化症（TSC2）、Apert症候群（FGFR2）、LEOPARD症候群（PTEN11）、腎コロボーマ症候群（PAX2）、発作性運動誘発性ジスキネジア（PRRT2）、Multicentric carpotarsal osteolysis syndrome（MAFB）で行った。MLPA法では22q11.2欠失症候群（FISH法では同定できないタイプ）の診断ができた。網羅的解析は保険診療で行えるGバンド法以外に、アレイCGH、次世代シーケンサー（next generation sequencing、NGS）による解析を研究目的で行っている。本年はアレイCGHでの20番染色体長腕部分欠失症候群や、NGSでWDR35によるcranioectodermal dysplasiaを診断できた。外部研究機関にも、当院の倫理委員会の承認を得た上で検体を送付している。大阪府立母子保健総合医療センター、名古屋市立大学、広島大学、神戸大学疫学などである。これら解析でも診断が同定できない場合は、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）が主導している未診断疾患イニシアチブ（IRUD-P）に検体を送付している。本年は4検体を送付した。

【研究活動】

論文・著書は腎臓、神経、遺伝関係の雑誌で執筆、投稿し掲載された。また、以下のような各種学会での発表や外部研究会での講演を行った。

【学会活動（森貞が演題発表したもののみ）】

- | | |
|---------|---|
| 2016.4 | The 13th International Congress of Human Genetics (Kyoto) |
| 2016.5 | 日本小児科学会（札幌） |
| 2016.6 | 日本腎臓学会（横浜） |
| 2016.7 | 日本小児腎臓病学会（名古屋） |
| 2016.10 | American Society of Human Genetics 2016 (Vancouver) |
| 2016.12 | 日本小児遺伝学会（東京） |

【院外講演】

- 2016.9 第 24 回中部日本小児腎臓病研究会（松本）
2016.9 南阪神小児神経疾患研究会（西宮）
2016.12 第 27 回 Dysmorphology の夕べ（大阪）

【今後の課題】

当科の課題としては、まだ新しい診療科でなじみが薄いことから、院内外の医療者、患者に対して臨床遺伝科を受診することの利点について知っていただくことが挙げられる。兵庫県全体に遺伝診療を普及するために各県立病院などにサテライト外来を開設することも検討している。

現在は研究目的での解析事例が多いが、近年保険診療として遺伝子解析が可能な疾患が増加していることから、持続可能な遺伝医療を行うために保険診療としての遺伝診療を確立する必要がある。この点については現在当院医事科とも連携し検討中である。

現在は臨床遺伝専門医 1 名のみで診療をしていることから、今後は認定遺伝カウンセラー、臨床心理士などと連携して本格的な遺伝カウンセリング体制を構築する必要がある。さらに、遺伝性疾患は研究対象ともなり得ることから、倫理的に適切な形で神戸大学や理研 CDB などとの基礎研究へつなげて行きたいと考えている。

疾患名	患者数
神経線維腫症 1 型	8
ダウン症候群	4
22q11.2 欠失症候群	3
13 番染色体長腕部分欠失症候群	3
先天性ミオパチー	2
Klippel-Feil 症候群	2
大理石骨病	1
Sturge-Weber 症候群	1
結節性硬化症	1
先天性関節拘縮症候群	1
Sotos 症候群	1
滑脳症	1
家族性拡張型心筋症	1
Beckwith-Wiedemann 症候群	1
常染色体劣性多発性嚢胞腎	1
脊髄性筋萎縮症	1
Charcot-Marie-Tooth 病	1
Dandy-Walker 症候群	1
白血病	1
異数性モザイク症候群	1
LEOPARD 症候群	1
1q21.1 重複症候群	1
Apert 症候群	1
20q11.2 欠失症候群	1

疾患名	患者数
てんかん性脳症	1
Alagille 症候群	1
家族性不整脈	1
内臓逆位症候群	1
後頭葉てんかん	1
僧帽弁狭窄	1
発作性運動誘発性ジスキネジア	1
腎コロボーマ症候群	1
均衡型染色体転座	1
Beals 症候群	1
Kniest 異形成	1
Waardenburg 症候群	1
15q テトラソミー	1
Y 染色体同腕二動原体	1
MCTO	1
Cranioectodermal dysplasia	1
軟骨無形成症候群	1
片側腎無発生	1
6q 中間部欠失症候群	1
22q13 重複症候群	1
皮膚まだら症	1
原因不明先天異常症候群	5
原因不明知的障害	8

手法	解析症例数
直接シーケンス	6
MLPA 法	1
アレイ CGH	14
次世代シーケンサー（腎疾患解析パネル）	1
次世代シーケンサー（メディカルエクソーム）	19
外部への依頼事例	4
IRUD-P	4

12. 精神神経科

【スタッフ】

部長	関口 典子
医長	玉岡 文子
非常勤医師	長谷川 弘子（神戸市こども家庭センター） 松川 悦之（松川神経科診療所）
心理士	宮崎美知恵 藤井美有 淀裕美子
非常勤心理士	3名
精神保健福祉士	野呂朝子

常勤医師2名、非常勤医師2名で診療を行った。非常勤医師は長谷川（木曜日）、松川（火曜日）が週1回半コマ外来を担当している。

病院移転に伴う組織改編により、心理士、精神保健福祉士が地域連携部門から診療部精神科の所属となった。

【活動内容】

- 1) 対象疾患は、身体疾患など器質に由来する精神障害から、発達障害、ストレス関連障害を中心として多岐に渡る。年齢は小学生から中学生の学齢期を中心としている。
- 2) 診療活動は外来診療が主であり、初診予約待ちは2週間程度である。病院移転後は、新たに総合診療科とともに発達行動外来を担当している。
- 3) 入院患者に対するリエゾンでは、虐待、産後うつなど精神科医が必要とされている分野は多く、小児がんや救急患者の家族への支援を期待されることもある。心理士、精神保健福祉士が精神科所属となったことで、病棟との連携は以前よりとりやすくなった。今後、より細やかに緊密な関係をとることは課題である。
- 4) 児童精神科領域での啓蒙、教育研修として聖和短期大学での講義を行った。児童精神科領域に興味を持つ精神科医の見学を受けいれている。
- 5) 兵庫県の子どものこころの診療ネットワーク事業に参加し、兵庫県内の関連施設と連携している。

平成 28 年 新患分布

			1-2	3-5	6-8	9-11	12-17		
			幼児 前期	幼児 後期	学童 前期	学童 後期	中学 高校	18歳 以上	計
F0	F06	脳損傷、脳機能不全および身体疾患による他の精神障害	1						1
F4	F41	他の不安障害				1	2		3
	F42	強迫性障害			4				4
	F43	重度ストレス反応 [重度ストレスへの反応]および適応障害		3	2	11	12	5	33
	F44	解離性[転換性]障害			4	7	9		20
	F45	身体表現性障害			7	14	14	1	36
F5	F50	摂食障害					1		1
	F51	非器質性睡眠障害			1			1	2
F6	F63	習慣および衝動の障害				4	1		5
F7	F70	軽度精神遅滞[知的障害]		4	3	2	3		12
	F71	中度[中等度]精神遅滞[知的障害]	1	1	2		2		6
	F72	重度精神遅滞[知的障害]					1		1
F8	F80	会話および言語の特異的発達障害			1				1
	F84	広汎性発達障害	4	12	23	10	9	1	59
F9	F90	多動性障害	1		2	2	1		6
	F91	行為障害			1	4	2		7
	F92	行為および情緒の混合性障害					1		1
	F93	小児期に特異的に発症する社会的機能の障害			1				1
	F94	小児期および青年期に特異的に発症する社会的機能の障害		1	4	2			7
	F95	チック障害			3				3
	F98	小児期および青年期に通常発症する他の行動および情緒の障害		1	3		1		5
他	G40	てんかん			1		2		3
計			7	22	62	57	61	8	217

【こどもとおやの相談室について】

心理士、精神保健福祉士は、こどもとおやの相談室として活動を開始した。他科からのコンサルテーションに対し、精神科医師、心理士、精神保健福祉士でチームとしての相談対応も行っている。今後もより広い診療科と連携を深め、こどもと家族の療養支援を実施していく予定である。

① 心理士

外来では、複数の科と連携し、心理アセスメントや心理治療を中心に行っている。

入院では、小児がん拠点病院の認定に伴い、血液腫瘍科との連携を継続している。

② 精神保健福祉士

外来、入院において、医療福祉相談、発達相談、療養の相談など様々な相談に対応している。また、患者だけでなく家族や学校、関係機関からの相談にも対応し、院内外との連携の中心として活動している。

心理士

診療科	アセスメント			本人				家族		その他	新患
	知能発達	性格	その他	プレイセラピー	カウンセリング	心理サポート	小児ガンフォロー	相談	結果報告		
救急総合診療科	34	8	6			1		7			27
代謝内分泌科	103		47					2	1	1	12
神経内科	36		2			4		12		3	23
血液腫瘍科	7		1			8	601	19	6	11	11
循環器科	3					31		1		8	1
腎臓内科						39					1
臨床遺伝科	4										3
新生児科	33							1	1		20
精神科	138	133	69	99	138	24		18		3	96
脳神経外科	27					1		4		1	15
一般外科	1					8					1
リウマチ科	2	2									2
救急集中治療科								9		2	2
耳鼻咽喉科	24	7				1		2	2		17
合計	412	150	125	99	138	117	601	75	10	29	231

PSW 相談内容別

相談内容／対象	本人・ 家族	院内	保健 センター	福祉 事務所	こども 家庭 センター	学校・ 園・ 教育関係	訪問 看護	児童福祉 施設	その他	計
福祉・経済問題	60	165	0	37	16	3	8	15	7	311
療養問題	120	298	3	6	22	25	39	13	2	528
教育問題	7	14	0	0	1	21	0	1	0	44
家庭問題	5	66	2	11	13	3	4	4	0	108
心理情緒的問題	69	23	0	0	1	0	0	0	93	0
養育問題	23	84	5	13	31	3	3	4	0	166
受診援助	44	98	1	3	5	2	1	10	8	172
その他	0	13	1	0	1	1	0	0	0	16
計	328	761	12	70	90	58	55	47	17	1438

支援方法別

面接	267	630	0	3	19	15	5	21	4	964
電話	61	130	12	65	70	42	33	24	11	448
文書	0	1	0	2	1	1	17	2	2	26
計	328	761	12	70	90	58	55	47	17	1438

初回相談依頼者

院内

精神科	38
救急総合診療科	19
代謝内分泌内科	2
腎臓内科	2
小児外科	2
脳神経外科	2
整形外科	2
その他の科	1

院外

市町村	6
家族	5
こども家庭センター	5
学校	2
その他	1

13. 小児外科

小児外科スタッフ

副院長（科長）	前田貢作（昭和 54 年卒）
部長	横井暁子（平成 2 年卒）
部長	中尾真（平成 3 年卒）
医長	福澤宏明（平成 11 年卒）
医長	久松千恵子（平成 12 年卒）
医長	大片祐一（平成 16 年卒）
医長	森田圭一（平成 17 年卒）

小児外科フェロー・専攻医

フェロー	三浦紫津（平成 17 年卒）
フェロー	山木聡史（平成 18 年卒）
フェロー	三島泰彦（平成 22 年卒）
フェロー	矢部清晃（平成 23 年卒）
フェロー	關根沙知（平成 23 年卒）

【人事異動】

4 月に中尾真医師が大分県立病院小児外科より赴任された。また、三浦紫津医師が京都府立医科大学小児外科より、山木聡史医師が宮城県立こども病院小児外科より、矢部清晃医師が東京女子医科大学八千代医療センター小児外科より、關根沙知医師が自治医科大学小児外科よりそれぞれ赴任された。

【診療活動】

入院手術は 866 件、日帰り手術は 219 件であった。全手術件数は 1085 件であった。カンファレンスについては、昨年同様に術前・術後カンファレンス（各 1 回/週）、抄読会（1 回/週）、クリニカルカンファレンス（2 回/週）を行った。

【教育活動】

例年通り神戸大学 4 年生の BSL を 2 週間毎に 6 - 7 名を受け入れた。熊本大学からは 5 年生を臨床実習生として受け入れた。海外からは短期留学生としてタイ Chula longkon 大学より Orada Sa-nguantrakul 医師を受け入れた（平成 26 年 10 月より 1 か月間）。

【学会活動】

日本小児外科学会、小児血液がん学会、日本周産期新生児学会、日本内視鏡手術手技研究会、日本小児呼吸器科研究会など多数の学会・研究会で発表した。発表論文は邦文 12 編、英文 10 編であった。

入院手術 866 例

頭頸部	舌切除術 (巨大舌リンパ管種)	1	Hirschsprung 病 / 類縁疾患	-	
	頸部嚢胞摘出術	1		腹腔鏡補助下 Swenson 手術	1
	甲状舌管嚢腫摘出術	2		腹腔鏡補助下 Duhamel 手術	1
	梨状窩瘻摘出術	2		開腹 Swenson 手術	1
	経口の梨状窩瘻摘出 (梨状窩瘻再発)	1		直腸・結腸生検	6
	側頸瘻手術	2		人工肛門造設・再造設術	3
	喉頭食道裂手術	1		腸瘻造設・閉鎖・吻合	-
気道	声帯外方移動術 (Ejnell 法)	1	膈腸管遺残	1	
	声門下腔狭窄症	-	特発性消化管穿孔	1	
	喉頭前方切開、T-tube 留置	3	壊死性腸炎	2	
	肋軟骨グラフト、前方切開、T-tube 留置	1	先天性回腸狭窄	2	
	肋軟骨グラフト、前後方切開、T-tube 留置	1	胎便性イレウス	3	
	気管狭窄症	-	腸管膜裂孔ヘルニア	1	
	スライド気管形成術	8	外傷性消化管穿孔縫合閉鎖	1	
	縫合不全・再形成	1	腹腔鏡下虫垂切除術	20	
	その他の気管形成	2	人工肛門ポリープ切除	2	
	気管バルーン拡張術	3	直腸肛門	直腸肛門奇形 / 鎖肛	-
	気管軟化症	-		PSARP	3
	気管つり上げ術	1		仙骨会陰式鎖肛根治術 (SP)	1
	喉頭嚢胞切除	1		肛門移動術 (Potts 法)	1
	気管切開術	29		カットバック	2
	気管切開孔形成術	1		直腸前庭痔瘻閉鎖術	1
	気管切開孔閉鎖術	7		人工肛門造設術	5
	喉頭気管分離術	2		人工肛門閉鎖術	7
	腕頭動脈離断術	1		人工肛門再造設	2
	腕頭動脈胸骨固定術 (つり上げ術)	2		人工肛門ポリープ切除	2
	ビデオ喉頭鏡下処置 (腫瘍生検など)	2		根治術後再肛門形成術	5
肺	肺部分切除	8		総排泄腔遺残症根治術	1
	肺葉切除	4		膈形成	1
	胸腔鏡下肺生検	1	便失禁に対する肛門管形成術	1	
	肺剥皮術	2	痔核・痔瘻手術	3	
胸壁・縦隔	漏斗胸	-	肛門粘膜脱切除・Gant 三輪法	1	
	Nuss bar 挿入術	1	肛門周囲膿瘍手術 (切開排膿など)	1	
	Nuss bar 抜去術	2	摘便	3	
	Ravitch 法	1	肝胆膵脾	先天性胆道拡張症	-
	胸腔鏡下縦隔腫瘍摘出術	1		肝外胆管切除 肝管空腸吻合術	4
横隔膜	先天性横隔膜ヘルニア	-		腹腔鏡下肝外胆管切除 肝管空腸吻合術	2
	開腹直接閉鎖	4		胆嚢瘻造設	3
	胸腔鏡下直接閉鎖	2		腹腔鏡下胆嚢瘻造設	1
食道	食道閉鎖症	-	胆道閉鎖症 葛西手術	3	
	TEF 離断 食道食道吻合術	4	逆行性門脈造影・肝生検	1	
	食道食道吻合術	1	腹腔鏡下 / 開腹胆嚢摘出術	2	
	TEF 離断 胃瘻造設術	1	REX シャント手術	1	
	胸壁外食道延長術	1	腹壁	臍帯・臍帯内ヘルニア	-
	胸腔鏡下 H 型食道閉鎖根治術	1		一次的閉鎖	2
胃	開腹胃瘻造設術	4		腹壁破裂	-
	腹腔鏡下胃瘻造設術	4		腹壁閉鎖術	1
	胃瘻再造設	3		鼠径ヘルニア根治術 / 陰嚢水腫手術	94
	胃瘻閉鎖術	3		腹腔鏡下鼠径ヘルニア根治術 (LPEC)	7
	開腹噴門形成術	7	腹腔鏡補助下両側内鼠径ヘルニア根治術	1	
	腹腔鏡下噴門形成術	7	臍ヘルニア手術	5	
	肥厚性幽門狭窄症手術	5	白線ヘルニア手術	1	
	胃軸捻転に対する胃固定術	1	泌尿・生殖器	尿管遺残摘出術	1
十二指腸	十二指腸閉鎖・狭窄症手術	6		卵巣腫瘍	-
	小腸・大腸	腸回転異常症手術		3	腫瘍摘出術 / 付属器切除術
空腸閉鎖・狭窄症根治術		4		腫瘍核出術	2
観血的腸重積整復術		6	卵巣腫瘍再発に対する核出術	1	
腹腔鏡補助下 / メッケル憩室切除術		1	腫瘍	肝芽腫	-
イレウス解除術・腸管切除術		10		開腹腫瘍生検	3
腸管膜嚢腫摘出術		1		腫瘍摘出術	4
		神経芽腫		-	
		腫瘍生検		2	
		腫瘍摘出術	5		

	腎芽腫	—	長期留置型 CV カテーテル抜去	74
	腫瘍摘出術	1	中心静脈ポート留置・抜去	3
	その他の腫瘍生検	6	テンコフカテーテル留置	5
	その他の腫瘍切除	9	テンコフカテーテル抜去	2
	リンパ管腫硬化療法	2	テンコフカテーテル位置変更・再固定術	4
	リンパ管腫切除	1	気管支鏡検査・処置	187
	皮膚・皮下腫瘍摘出術	6	気管支鏡下肉芽切除・レーザー焼灼	21
処置・検査	胸腔ドレナージ・ドレーン留置	2	気管支鏡下異物摘出	1
	縦隔洗浄ドレナージ	1	上部消化管内視鏡検査	8
	切開排膿・デブリードメント	2	異物摘出	7
	試験開腹術	3	バルーン拡張	24
	開腹止血術	4	ERCP	1
	長期留置型 CV カテーテル留置	75	下部消化管内視鏡	12
			ポリペクトミー	3

日帰り手術 219 例

鼠径ヘルニア手術	189
臍ヘルニア手術	18
上部消化管内視鏡	3
精巣固定術	1
陰唇癒合剥離術	1
腹壁ヘルニア手術	1
皮下腫瘍切除	3
肛門ポリープ切除	1
臍ポリープ切除	2
肛門刺激装置を用いた肛門位置の確認	1

新生児手術

病名	術式	件数
左下咽頭梨状窩瘻	左下咽頭梨状窩瘻切除	1
左頸部嚢胞	嚢胞ドレナージ	1
咽頭嚢胞	嚢胞開窓術	1
気胸	肺部分切除術	1
先天性食道閉鎖症	気管食道瘻離断、食道食道吻合（一次的吻合）	3
	気管食道瘻離断＋胃瘻造設	1
先天性左横隔膜ヘルニア	開腹横隔膜ヘルニア修復術	2
	胸腔鏡下横隔膜ヘルニア修復術	2
先天性気管狭窄症	気管バルーン拡張術	1
先天性十二指腸閉鎖症・狭窄症	ダイヤモンド吻合術	5
十二指腸閉鎖術後通過障害	癒着剥離術	1
先天性小腸閉鎖症	腸切除吻合	1
腸回転異常症	Ladd 手術	3
ヒルシユスプルング病類縁疾患	腸瘻造設術	1
新生児壊死性腸炎	腸切除・腸瘻造設術	1
胎便性イレウス	腸瘻造設術	2
臍腸痔瘻術後、縫合不全	再腸瘻造設・腸瘻閉鎖術	2
腹腔内出血	開腹止血術	2
鎖肛	人工肛門造設術	3
	肛門形成術	2
	cut back	2

胆道閉鎖症	葛西手術	1
先天性胆道拡張症	肝管空腸吻合術	1
	胆嚢瘻造設術	1
臍帯ヘルニア	一期的根治術	2
腹壁破裂	腹壁閉鎖術（回腸閉鎖に対する腸管切除吻合）	1
	腹壁閉鎖術	2
尿膜管瘻	尿膜管摘出術	1
総排泄腔遺残	人工肛門造設術	1
	気管切開術	3
	ヒックマンカテーテル留置術	1
	計	51

14. 心臓血管外科

【スタッフ紹介】

部長（手術部長兼任） 大嶋 義博（昭和 57 年神戸大卒）、
神戸大学医学研究科医科学専攻外科系講座客員教授、
心臓血管外科専門医、同 修練指導者

医 長 松久 弘典（平成 11 年神戸大卒）心臓血管外科専門医

医 長 日隈 智憲（平成 12 年神戸大卒）心臓血管外科専門医

フェロー

松島 峻介（平成 20 年大阪大卒）心臓血管外科専門医

岩城 隆馬（平成 19 年愛媛大卒）心臓血管外科専門医

専攻医（心臓血管外科修練医）

村上 優（平成 23 年神戸大卒）

【診療体制】

外来：月、水、金の午後 2 診

手術：月～金。

心臓センター開設後、外科・内科のより緊密な連携に加え、加古川中央市民病院や神戸大学との地域連携、救急医療の強化も含め、新たな体制づくりが進んでいる。圓尾文子先生は 27 年 4 月に加古川中央市民へ、山本真由子先生が高砂市民病院へ転任、入れ替わりに日隈智憲先生が富山大学より、村上 優先生が沖縄県立南部医療センターより赴任した。また、新病院移転後 5 月からは長谷川 智巳先生が集中治療科スタッフとして、CICU、PICU、ICU の診療に従事している。新病院移転後は、術前・術後管理を集中治療医に委ねるようになり、心臓外科医、循環器医の業務内容が大きく変化している。

移転による周産期部門の入院制限、手術制限の影響は多少みられ、新生児の症例は例年を下回ったが、全体の手術件数はほぼ横ばいであった。2016 年の体外循環を用いた手術は 185 例（新生児 15 例）、体外循環非使用の心臓手術は 52 例（新生児 30 例）、その他 41 例であった。術後 30 日未満の手術死亡は 3 例で、胎児期からの高度房室弁逆流例や多臓器不全を伴った未熟児動脈管症例など、救命困難例であった。毎朝の CICU カンファレンス、麻酔科との術前カンファレンス、毎週月曜朝の術前検討会、夕方の循環器カンファレンス、金曜の術後検討会に加え、循環器科および複数科との audit meeting も定期的に行っている。

学会活動：Spring 8 における他施設共同研究では、科研費取得や複数の英文掲載、さらに全国学会で最優秀演題に選出されるなど成果を上げている。その他、英文、邦文論文が掲載あるいは投稿中で、海外学会、胸部外科学会、心臓血管外科学会、小児循環器学会、その他、多数の学会、研究会にて発表した。

術式 (疾患)	28日未満			～1歳未満			1歳～17歳			18歳以上			総数		
	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡
PDA															
CoA (simple)	1			1		1							2		1
+VSD	1			4									5		
+DORV															
+AVSD															
+TGA				2									2		
+SV	1												1		
+others															
IAA (simple)	1												1		
+VSD				1									2		
+DORV															
+Truncus															
+TGA															
+SV															
+others	1												1		
Vascular ring								1					1		
PS				1				1					2		
PPA or critical PS								1					1		
TAPVR	3												3		
asplenia	2	1	1	1									3		
PAPVR ± ASD								2					2		
ASD								23					23		
Cor triatriatum															
AVSD (partial)				1				1					2		
AVSD (complete)				2				1					3		
+TF or DORV															
+others															
VSD (I)				1				2					3		
VSD (II or IV)				36				11					47		
VSD (III)				4									4		
VSD + PS															
DCRV ± VSD															
Aneurysm of sinus Valsalva															
TF				4				5					9		
(SP shunt)				1									1		
PA + VSD (Rastelli)				1									1		
(SP shunt)				1									1		
(UF ± shunt)															
DORV				1				4					5		
TGA (simple)	1												1		
+ VSD	2												2		
+ VSD + PS															
corrected TGA								1					1		
Truncus arteriosus															
SV (SP shunt)				3									3		
(BDG)				8				2					10		
(Fontan)								6					6		
TA (SP shunt)															
(BDG)				2									2		
(Fontan)															
HLHS (Norwood)	1			4									5		
(BDG)				6				1					6		
(Fontan)								1					1		
Aortic valve lesion (形成)															
(弁置換)								2					2		
SAS								1					1		
supra AS															
Mitral valve lesion (MR形成)				2									2		
(MR 弁置換)				1									1		
(MS 形成)															
(MS 弁置換)															
Ebstein															
Coronary disease															
その他	1												1		
再手術															
VSD 再閉鎖															
PS 解除				1		1							1		
RV-PA 導管再置換								5		2			7		
(PVR を伴う)															
その他				3				4		1			8		
総数	15	1	1	92		2	75		3			185	1	3	

術式(疾患)	28日未満			～1歳未満			1歳～17歳			18歳以上			総数		
	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡
PDA	17	1	1	4			1						21	1	1
CoA (simple)	1												1		
+VSD				1									1		
+DORV				1									1		
+AVSD															
+TGA															
+SV															
+others	1														
IAA (simple)															
+VSD	1												1		
+DORV															
+Truncus															
+TGA	1												1		
+SV															
+others															
Vascular ring				2									2		
PS															
PPA or critical PS															
TAPVR															
asplenia															
PAPVR ± ASD													0		
ASD													0		
Cor triatriatum													0		
AVSD (partial)													0		
AVSD (complete)	1			5									6		
+TF or DORV													0		
+others													0		
VSD (I)													0		
VSD (II or IV)				2									2		
VSD (III)													0		
VSD + PS													0		
DCRV ± VSD													0		
Aneurysm of sinus Valsalva													0		
TF				1									1		
PA + VSD				2									2		
DORV													0		
TGA (simple)													0		
+ VSD	3			1									4		
+ VSD + PS													0		
corrected TGA													0		
Truncus arteriosus													0		
SV (SP shunt)													0		
(PAB)	2	1	1										2	1	1
TA (SP shunt)													0		
(BDG)													0		
(Fontan)													0		
HLHS (bil.PAB)	3												3		
(SP shunt追加)													0		
Aortic valve lesion (形成)													0		
(弁置換)													0		
SAS													0		
supra AS													0		
Mitral valve lesion (MR形成)													0		
(MR 弁置換)													0		
(MS 形成)													0		
(MS 弁置換)													0		
Ebstein													0		
Coronary disease													0		
その他													0		
再手術 VSD 再閉鎖													0		
PS 解除													0		
RV-PA 導管再置換													0		
(PVRを伴う)													0		
その他							2						0		
総数	30	2	2	19	0	0	3	0	0	0	0	0	52	2	2

	症例数	死亡	在院死亡
皮下膿瘍、デブリードメント	3		
ペースメーカー植え込み	7		
ペースメーカー電池交換	4		
心塞ドレナージ	4		
ECMO 装着 (ショック)	10	2	2
ECMO 装着 (気管形成術等)	5		
横隔膜縫縮	1		

気管腕頭動脈瘻			
縦隔炎手術	1		
大動脈/肺動脈吊上げ	1		
気胸手術			
血腫除去	2		
その他	3		
総計	41	2	2

15. 脳神経外科

2016年度の脳神経外科スタッフは長嶋達也（院長）、河村淳史（診療科長）、小山淳二（医長）、阿久津宣行（医長）、の指導医とローテーション医師とで診療に従事した。

専攻医として、2015年10月1日—2016年3月31日は山口陽二（医員）、2016年4月1日—9月30日は橋口 充（医員）、2016年10月1日から山下俊輔（医員）が脳神経外科専門医研修の一環として着任した。

診療活動では2016年5月の病院移転に伴い外来患者数の増加と共に、兵庫県下のみならず他府県からの紹介及びセカンドオピニオン例も増加している。当施設脳神経外科の特色は複数科との連携によるチーム医療であり、血液腫瘍内科・放射線治療科・臨床病理部との集学的治療を必要とする脳脊髄腫瘍症例、整形外科・泌尿器科・育児内科との治療および管理は必要な二分脊椎症例、形成外科合同の外科的治療を要する頭蓋顔面奇形症例、救急集中治療科をはじめ多数科との協力が必要な頭部外傷・多発外傷症例などを中心に積極的な治療に取り組んでいる。

特に小児脳腫瘍に関しては小児がん拠点病院として全人的医療を実施するために必要な部署と連携して治療チームを編成し、時間を取って診療に従事している。

また正常組織への侵襲の少ない陽子線治療にも対応可能な体制を構築し、鎮静が必要な症例も含め既に11例を経験した。

各症例においては地域小児医療各方面と密な連絡・連携を保ちながら長期の追跡を行ない、成人した時点でのQOLの向上を目指しており、神経奇形、頭部外傷、脳腫瘍を中心に国際的な水準を維持する手術・治療成績を積み重ねていく所存である。

脳神経外科手術ナビゲーションが順調に稼働し、新型顕微鏡も導入したので困難な手術を支える施設面も充実した。今後も24時間365日、あらゆる小児の脳神経外科手術に対応するという体制を維持し続けたい。

その他の活動

- (1) カンファレンス；毎週水曜日 腫瘍治療検討会、月1回 二分脊椎カンファレンス、随時 頭部外傷カンファレンス、陽子線治療検討会
- (2) 学会参加；日本小児神経外科学会、脳神経外科学会学術総会、日本脳神経外科コンgres、日本脳神経外科学会近畿支部学術集会、日本二分脊椎研究会、日本こども病院神経外科医会、日本脳卒中学会学術総会、日本脳腫瘍学会、小児血液・がん学会学術集会、日本脳腫瘍病理学会、日本神経内視鏡学会、日本粒子線臨床研究会などへの参加

2016 年入院患者内訳

ネフローゼ症候群	46
IgA 腎症	6
IgM 腎症	2
膜性腎症	1
C3 腎症	1
IgA 血管炎	6
HSPN	5
急性糸球体腎炎	2
SLE	5
溶血性尿毒症症候群	1
ARPKD	2
尿路感染症	16
腎移植後	4
急性腎不全	3
高血圧	2
ネフロンろう	1
慢性腎不全（腹膜透析）	19
CKD	2
合 計	124 名

2016 年度 脳神経外科手術件数

脳神経外科手術の総数		件数
1	脳腫瘍	
	摘出術	10
	開頭生検術	0
	経蝶形骨洞手術	3
2	脳血管障害	
	バイパス手術	12
	開頭血腫除去術	0
	脳血管奇形手術	3
3	外傷	
	急性硬膜外血腫	1
	急性硬膜下血腫	3
	減圧開頭術	1
	慢性硬膜下血腫	2
4	奇形	
	頭蓋・脳	14
	脊髄・脊椎	30
5	水頭症	
	脳室シャント術	36
	内視鏡手術	2
6	脊髄・脊椎	
	腫瘍	12
	脊髄空洞症	0
7	その他	12
8	血管内手術	0
9	定位放射線治療	0
10	陽子線治療	5
		146

日本脳神経外科学会の分類に準ずる

16. 形成外科

2016年は3月末に長い期間にわたり多大な貢献のあった大山知樹医師が退職し、交代で大阪労災病院から小野田素大医師が4月より赴任した。スタッフの構成は池村光之介医師(2015年3月～)と杉尾勇太医師(2016年1月～)の三名体制で診療に従事した。診療面では、病院の移転に伴い前年度に比べ手術件数の減少となったが、ルビーレーザーとV beamレーザーでの色素性疾患の治療実績が地域に浸透し、治療件数・紹介患者数ともに順調な伸張が見られたのと、依然として唇顎口蓋裂の治療実績に対する評価は変わらず、一定の紹介患者数を確保している。今後は小耳症や先天性眼瞼下垂、瞼裂狭小などの比較的稀な先天性疾患の治療実績を蓄積し、他施設との差別化をさらに推進していく予定である。

年間の患者数及び手術件数

2016年1月1日～12月31日

形成外科新患者数	392名
形成外科入院患者数	244名(延べ人数ではない)
形成外科手術件数	
入院手術	全身麻酔 236件(合計237件)
	腰麻・伝達麻酔 0件
	局所麻酔・その他* 0件
外来手術	全身麻酔 131件(合計445件)
	腰麻・伝達麻酔 0件
	局所麻酔・その他* 314件 *その他には無麻酔や分類不明を入れる

手術内容区分

区 分	件 数						計
	入 院 手 術			外 来 手 術			
	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	
I. 外傷	9			1			10
熱傷・凍傷・化学損傷・電撃傷で全身管理を要する非手術例							
熱傷・凍傷・化学損傷・電撃傷の手術例	2			1			3
顔面軟部組織損傷	2						2
顔面骨折	1						1
頭部・頸部・体幹の外傷							0
上肢の外傷	3						3
下肢の外傷	1						1
外傷後の組織欠損(2次再建)							0
II. 先天異常	169			44		4	217
唇裂・口蓋裂	69			4		2	75
頭蓋・顎・顔面の先天異常	45			37		1	83
頸部の先天異常	1			1			2
四肢の先天異常	47			1		1	49
体幹(その他)の先天異常	7			1			8
III. 腫瘍	43		1	52		4	100
良性腫瘍(レーザー治療を除く)	39			52		4	95
悪性腫瘍	1		1				2
腫瘍の続発症	1						1
腫瘍切除後の組織欠損(一次再建)	2						2
腫瘍切除後の組織欠損(二次再建)							0
IV. 瘻痕・瘻痕拘縮・ケロイド	12			2		2	16
V. 難治性潰瘍	1						1
褥瘡	1						1
その他の潰瘍							0
VI. 炎症・変性疾患	1						1
VII. 美容(手術)							0
VIII. その他							0
Extra. レーザー治療	1			32		304	337
良性腫瘍でのレーザー治療例	1			32		304	337
美容処置でのレーザー治療例							0
大分類計	236	0	1	131	0	314	682

17. 整形外科

2016年度の整形外科は茨木一行医師が転出し、新に山本哲也医師が赴任した。さらに琉球大学より山中理菜医師（フェロー）を国内留学医として迎えた。これにより、薩摩眞一（部長）小林大介（リハビリテーション部長と兼任）、坂田亮介（医長）、衣笠真紀（医長）に上記2名を加えた6人の体制にて、診療に従事した。

従来より、股関節、足部疾患を中心に、兵庫県内のみならず他府県よりの紹介患児を幅広く受け入れ、多彩な小児整形外科疾患の診療を行ってきた。本年度より、外来枠を従来の月曜日午後、火曜日終日、水曜日午前に加え、金曜日午前を新に開設し、増加する外来患児の診療にあたっている。また、他院では手術困難な全身状態を含めたハイリスク患児の手術も、集中治療部や麻酔科、外科、循環器内科などの関係各科との連携に支えられ、多数行っている。これらの診療経験及び実績を蓄積し、専攻医を含めた後進の指導を行う一方で、本年度は第58回近畿小児整形外科懇話会を当院で主催するなど学術研究を推進している。

2016年度は兵庫県立こども病院として、新病院への移転という大きな転換点を迎えたが、同時にこれまで以上の救急診療の充実を目指す方針となり、救急診療に大きく関わる当科としても診療体制の再構築を迫られた。麻酔科の強力なバックアップを得て、整形外科単科として、救急診療、緊急手術を行う体制を整えるだけでなく、救急診療部との連携の確立を研修会や症例検討会を通して行ってきた。これにより、今後の兵庫県立こども病院における救急診療体制に大きく寄与できるものと考えている。

新病院に移転した本年度の手術実績は、下記の通り261件と新病院移転後増加している。これに対応するため、スタッフの教育、確保を含めた診療体制のさらなる整備が今後の課題となっていく。県内、近隣の小児整形外科患児のため、より一層の努力を進めていく所存である。

手術

	病名	術式	手術数	小計
体幹	斜頸	切腱術	3	9
	側弯症 後弯症	矯正術、ロッド延長、病巣搔爬など	4	
	脊椎疾患（側弯を除く）	頸椎固定術 ハロー装着など	2	
股関節	先天性股関節脱臼など （麻痺性除く）	観血的整復術	2	23
		大腿骨骨きり術など	3	
		白蓋形成術（ソルター骨盤骨切り術以外）	1	
		ソルター骨盤骨切り術	8	
	ペルテス病	大腿骨骨きり術	1	
	骨頭すべり	大腿骨骨切り術	0	
		ピンニング	6	
麻痺性股関節脱臼など、 先天性股関節脱臼以外の疾患	筋解離術（観血的整復術含む）	1		
膝関節	膝関節脱臼、膝蓋骨脱臼	骨盤骨切り術など（大腿骨切り術含む）	1	5
	関節炎、円板状半月板など	観血整復 鏡視下手術など	5 0	
足部	先天性内反足	アキレス腱皮下切腱術（Ponseti）	26	58
		軟部組織解離術 腱移行術 エバンス手術 アキレス腱延長術など	17	
		足根骨骨切り（トリプル骨切り術など）	4	
	麻痺性変形（症候性）	軟部組織解離術 腱移行術など	6	
		それ以外の変形矯正（創外固定、骨切り術含む）	2	
	垂直距骨	変形矯正術など	2	
	下肢先天性疾患など	形成術など その他骨接合、骨移植など	0 1	
下肢	脚長差変形など	脚延長、変形矯正（創外固定使用）	7	23
		成長抑止術（8プレート）	12	
		短管骨延長	1	
		変形矯正（創外固定使用以外）	2	
	足根骨癒合症	癒合部切除	1	
	外脛骨	摘出など	0	
上肢	下肢変形	矯正、切断など	0	1
	橈骨頭脱臼	観血的整復術	0	
	上肢短縮	上肢骨延長術（上腕、前腕）	1	
外傷	橈尺骨癒合症	回旋骨切り術	0	37
	上肢骨の骨折脱臼（顎上、外顎など）	整復固定術	25	
	下肢骨折	整復 固定	8	
	骨折後偽関節	骨接合術など	1	
	骨折など	鋼線牽引	2	
炎症・腫瘍	腱断裂、外傷	腱縫合など	1	21
	化膿性関節炎 脊椎炎	病巣搔爬、洗浄 穿刺	7	
	腫瘍 骨髄炎、LCH、病態不明など	生検術 病巣搔爬	4	
	腫瘍	骨 軟部	6 4	
手指・足趾	多・合指（趾）症	余剰指（趾）切除	7	17
		指（趾）間形成	8	
	手指（足趾含む）変形	矯正、骨切り術など	2	
その他	癒痕拘縮 先天性拘縮	形成術	0	67
	剛直母指	腱鞘切開	5	
	その他		62	
			総数	
年間手術件数			261	261

検査

	部位	方法		
	股関節	アルトロ	22	24
	その他	アルトロ	2	
			24	

18. リハビリテーション科

リハビリテーション科は2016年5月より当院が移転された際に新設された科である。病院の規模、性質を考えると遅すぎた感はあるがまずは第一歩と考えている。施設基準としては、開設時、脳血管疾患リハビリテーション料Ⅱ、運動器疾患リハビリテーション料Ⅱ、呼吸器疾患リハビリテーション料Ⅰ、廃用症候群リハビリテーション料Ⅱに加えて、9月には障害児リハビリテーション料を取得した。新病院の2階に念願の理学療法室が設置され入院、外来患者のリハビリテーションを行っている。全国的にも小児のリハビリテーションを専門的に行う施設は少なく我々の担う役割は非常に大きいと認識している。病院の性格上急性期のリハビリテーションがメインとなるが余裕があれば当院に多く通院する二分脊椎などの先天性疾患の患者の外来リハビリテーションも充実させたい。また2017年1月に医師、看護師、セラピストがグループとなりがんリハビリテーション講習を受講しがんリハビリテーションとしての申請が可能になった。当院に多く入院する小児がん患者のリハビリテーションを今後さらに充実させていきたいと考えている。今回のリハビリテーション科新設に際しセラピストの増員はあったものの同規模の他病院と比べるとまだまだその人数は少なくどうしても仕事に限界が出てきてしまう。今後粘り強く人員増要求をしていきたい。

スタッフ

平成28年5月こども病院移設とともに開設。開設に伴い小林大介医師が部長に就任。理学療法士1名、作業療法士1名、言語聴覚士1名の増員となり、理学療法士2名、作業療法士1名、言語聴覚士4名の体制となる。

平成28年度 施設基準別患者数および単位数（平成28年5月～12月）

1. 理学療法

	施設基準	患者数	単位数
入院	脳血管疾患等リハ料(Ⅱ)	1,085	1,744
	運動器疾患リハ料(Ⅱ)	520	1,043
	呼吸器疾患リハ料(Ⅰ)	416	692
	障害児リハ料6歳未満	135	220
	障害児リハ料6歳以上18歳未満	51	105
	障害児リハ料18歳以上	39	66
	廃用症候群リハ料	111	191
	がんリハ料	0	0
外来	脳血管疾患等リハ料(Ⅱ)	81	175
	運動器疾患リハ料(Ⅱ)	102	253
	呼吸器疾患リハ料(Ⅰ)	1	1
	障害児リハ料6歳未満	14	33
	障害児リハ料6歳以上18歳未満	9	19
	障害児リハ料18歳以上	1	3
計		2,565	4,545

2. 作業療法

	施設基準	患者数	単位数
入院	脳血管疾患等リハ料(Ⅱ)	638	1,038
	運動器疾患リハ料(Ⅱ)	92	169
	呼吸器疾患リハ料(Ⅰ)	6	13
	障害児リハ料6歳未満	194	323
	障害児リハ料6歳以上18歳未満	34	65
	障害児リハ料18歳以上	23	42
	廃用症候群リハ料	287	623
	がんリハ料	0	0
外来	脳血管疾患等リハ料(Ⅱ)	41	95
	運動器疾患リハ料(Ⅱ)	7	20
	呼吸器疾患リハ料(Ⅰ)	0	0
	障害児リハ料6歳未満	18	44
	障害児リハ料6歳以上18歳未満	2	6
	障害児リハ料18歳以上	0	0
計		1,342	2,438

3. 言語聴覚療法

	施設基準	患者数	単位数
入院	脳血管疾患等リハ料(Ⅱ)	1,290	2,661
	障害児リハ料6歳未満	180	342
	障害児リハ料6歳以上18歳未満	20	34
	障害児リハ料18歳以上	0	0
	がんリハ料	0	0
外来	脳血管疾患等リハ料(Ⅱ)	446	1,118
	障害児リハ料6歳未満	3	5
	障害児リハ料6歳以上18歳未満	0	0
	障害児リハ料18歳以上	0	0
計		1,939	4,160

4. 言語聴覚士耳鼻咽喉頭科関連業務件数

検査項目	件数
標準純音聴力検査	487
標準語音聴力検査	46
気道純音聴力検査	255
遊戯聴力検査	2,870
補聴器適合検査 1回目	39
補聴器適合検査 2回目以降	249
計	3,946

診療科別リハビリテーション科処方数

診療科	入院			外来		
	PT	OT	ST	PT	OT	ST
循環器内科	8	2	7	1	1	0
腎臓内科	3	0	0	0	0	0
神経内科	4	4	5	2	1	2
血液腫瘍内科	29	23	2	1	1	0
代謝・内分泌内科	1	0	0	0	0	0
新生児内科	16	5	16	0	1	0
心臓血管外科	6	2	5	0	0	1
脳神経外科	19	13	19	9	5	5
小児外科	8	1	20	1	1	3
整形外科	50	1	0	63	18	0
形成外科	1	0	0	0	0	26
精神科	0	0	0	7	0	28
リウマチ科	3	1	0	1	0	0
耳鼻咽喉科	0	0	1	0	0	27
救急科総合診療科	17	6	8	2	2	5
集中治療科	37	3	17	0	0	0
合計	202	61	100	87	30	97

19. 眼 科

本年度の眼科医師の異動は以下の通り。3月末に前田祥史専攻医が1年間の研修を終え、三菱神戸病院に異動、後任として4月に中野由美子専攻医が着任した。

新病院への移転に際して大きな懸案事項であった電子カルテの導入については、眼科部門システムの作り込みや手入力が必要となる検査の多くについてテンプレートを用意するなど、事前の作業が奏を功した結果、心配された様な大きな混乱はなかった。電子カルテへの記載や閲覧の慣れ、実際の稼働に伴う部門システム各所の手直しなどを経て、当初、大きな制限をかけていた外来の予約枠も、順次、広げていくことが出来、秋頃には移転前と同様の患者数で外来診療を行える状況となった。

移転と同時に長年の要望が叶った静的視野計、光干渉断層計（OCT：Optical Coherence Tomography）など検査機器の新規導入も診療に弾みをつける結果となった。特に、後者、平たく言うと眼底の三次元画像解析装置であるが、この導入により、従来、限られた疾患のみに行っていた眼底画像検査の件数が大きく伸びた。対象となる患者の増加のみならず、これまで推察するしかなかった眼底深部の評価が可能となったことで、各種網膜変性など先天性疾患の診断精度が向上するとともに、より若年例での診断に繋がるものと期待している。

2016年 眼科 新患統計

病名	新生児	乳児		幼児		学童		思春期	合計
		1～5ヶ月	6～11ヶ月	1～3歳	4～6歳	7～9歳	10～12歳	13歳以上	
屈折異常	0	8	29	191	171	75	47	20	541
弱視	0	0	0	47	39	7	3	3	99
斜視及び疑い	0	3	44	135	83	32	23	8	328
未熟眼底	0	0	0	0	0	0	0	0	0
未熟児網膜症	0	6	2	2	8	4	0	0	22
眼瞼疾患	2	19	20	50	23	13	2	0	129
涙器疾患	0	6	6	20	0	1	1	0	34
結膜疾患	0	1	1	7	0	1	4	0	14
角膜・強膜疾患	1	7	5	15	1	6	6	5	46
ブドウ膜疾患	0	9	3	5	6	1	1	0	25
網膜・硝子体疾患	6	10	22	14	8	0	6	7	73
水晶体疾患	3	7	8	26	9	1	5	3	62
眼窩疾患	0	0	0	2	0	1	0	0	3
遺伝性疾患	0	0	0	0	1	2	2	0	5
視神経・視路疾患	0	2	3	7	9	12	6	4	43
眼振	0	5	3	2	1	2	0	0	13
緑内障	0	2	2	18	4	7	13	7	53
外傷	0	0	0	1	1	1	0	0	3
症候群	0	0	1	6	0	1	0	0	8
心因性視力障害	0	0	0	0	0	12	1	1	14
腫瘍	0	8	0	7	3	0	0	0	18
その他	1	5	8	3	5	9	2	0	33
小計	13	98	157	558	372	188	122	58	1566

(2) 入院手術

	新生児	乳児		幼児		学童		思春期	計
		前期	後期	前期	後期	前期	後期		
斜視	0	0	5	20	37	76	90	25	253
内反症	0	0	0	8	13	14	14	3	52
眼瞼下垂	0	0	0	0	1	0	0	0	1
眼瞼・眼窩疾患	0	0	0	5	3	3	3	0	14
結膜疾患(腫瘍)	0	0	1	1	0	1	0	3	6
角膜疾患	0	0	0	0	0	0	0	0	0
網膜疾患(腫瘍)	0	0	0	1	0	1	0	0	2
硝子体	0	1	0	0	0	0	0	0	1
鼻涙管閉鎖及び異常	0	0	0	5	2	1	1	0	9
眼瞼形成	0	0	0	0	0	0	0	0	0
緑内障	0	4	0	0	0	0	3	1	8
白内障	0	3	0	6	3	4	2	2	20
未熟児網膜症	0	3	0	0	0	0	0	0	3
眼球振盪症	0	0	0	0	0	3	0	0	3
外傷・検査・その他	0	1	1	10	3	1	2	0	18
合計	0	12	7	56	62	104	115	34	390

2016年 訓練及び検査人数(合計 828名)

PAT(プリズム検査)	141名
矯正・その他の検査	26名
PL検査・TAC	401名
弱視訓練	1名
視野検査(GP) 1～12月	198名 389眼
視野検査(ハンフリー) 5～12月	61名 119眼

20. 耳鼻咽喉科

1. 外来診療

10年以上にわたり加古川医療センターと兼任勤務を続けていただいた阪本医師は、本年4月大阪市立大学准教授として転出した。引き続き2017年3月まで週1回外来を担当する予定である。代わって5月ポートアイランドへの病院移転と共に、神戸大学乳幼児難聴外来を担当していた勝沼紗矢香医師が赴任した。42年ぶりに常勤医2人体制となり、今後診療面の充実が図られる。

新患数は768名、延べ患者数は5629人と、移転期の受け入れ制限の影響もありやや減少した。内訳としては、例年同様、難聴疑い、滲出性中耳炎、反復性中耳炎、扁桃・アデノイド肥大、言葉の遅れの精査依頼などが多い。新生児聴覚スクリーニング検査の普及に伴い新生児の聴力精査依頼は56名と前年より約1割増えた。高度難聴のみならず軽中等度難聴児も早期発見されるようになり、乳児期からの補聴器装用開始児が増えてきている。早期からの聴覚支援学校との連携がますます重要となってきた。年長の感音難聴児の聴覚管理について、地域の医療機関との役割分担が今後の課題である。

聴力図の電子カルテへの登録方法に現時点で適切なものは開発されていない。当院の様に聴力検査件数の多い施設では、診療効率を維持するために電子カルテ導入後も10年以上紙カルテでの聴力検査結果閲覧を続ける施設もある。過去の聴力検査結果の閲覧性をどう維持していくかは耳鼻科外来診療の最大の課題である。

2. 手術・入院診療

移転前後に入院手術制限を行ったため、手術件数は減少したが、他科入院中の併施症例や日帰り手術を合わせると、6年連続300件を超えた。阪神間、神戸市東部からの手術症例の紹介も徐々に増えてきている。年少児の重症睡眠時無呼吸症候群に対する扁桃摘出、アデノイド切除術は周術期の呼吸管理が重要であり術後数日間挿管管理を要することもあり、麻酔科各医師と救急HCU病棟看護スタッフの多大の協力で支えられている。医療安全に十分配慮しつつ手術治療に取り組みたい。

入院手術（併施含む）

扁桃摘出術	70
アデノイド切除術	62
鼓膜チューブ挿入術	50
鼓膜穿孔閉鎖術・鼓膜形成術	1
鼻副鼻腔内視鏡手術	4
異物摘出術	2
鼻涙管チューブ挿入	8
その他	7
合計症例数（他科入院31名含）	133

日帰り手術（併施を含む）

鼓膜チューブ挿入術	193
鼓膜穿孔閉鎖術・鼓膜形成術	15
鼓膜肉芽切除術、鼓膜切開等	16
耳良性腫瘍切除術	1
舌小帯形成術	4
合計症例数	221

3. 言語聴覚療法について

【人員】

言語聴覚士（以下、ST）は1名増となり、正規職員4名であった。平成28年5月の移転に伴い、STの所属はリハビリテーション科となったが、耳鼻科診察日は2名が外来業務に従事した。

【主な業務】

耳鼻科外来では①聴力検査、②補聴器外来を行った。健診でことばの遅れが指摘された児についてはその場で医師がリハビリテーション科のST処方を出し、耳鼻科外来で対応した。

【業務詳細】

①聴力検査

一般病院では行うことの難しい聴性行動反応聴力検査や条件詮索反応聴力検査、遊戯聴力検査などをケースに合わせて実施している。

②補聴器外来

週一度実施している。新生児聴覚スクリーニング検査の普及により、早期からの補聴器装着ケースが増えているのにくわえ、これまで補聴器装用の適応とは考えられてこなかった軽度の難聴であっても学習面での困難さが指摘されるようになり、補聴器適応となる患者は増加傾向にある。各人の予約時間を長めに設定し、慎重な評価、親への心理面を含めたサポート、難聴児通園施設や聴覚特別支援学校など適切な機関への橋渡しタイミングよく行えるように心がけている。

表1 【H28年聴力検査件数】

検査項目	件数（件）
標準純音聴力検査	487
標準語音聴力検査	46
気導聴力検査	255
遊戯聴力検査	2870
補聴器1回目	39
補聴器2回目以降	249
計	3946

2016年耳鼻咽喉科新患集計

	症例数	院内	耳鼻科	小児科	産科	健診	聾学校	その他	なし
言語発達遅滞	95	21	46	4		22		2	
構音障害	25	9	5	3		5		2	1
耳介奇形・小耳症	6		1	2	3				
外耳道閉鎖・狭窄	9	3	1	3	2				
副耳	3				3				
先天性耳ろう孔	8	2	4	1					1
外耳炎	7	6	1						
耳垢栓塞	15	8	1	2		3			1
急性中耳炎	20	17	3						
反復性中耳炎	3	3							
滲出性中耳炎	180	42	117	12	3	3		1	2
慢性中耳炎	7	2	5						
真珠腫性中耳炎	4		2		2				
癒着性中耳炎	2		2						
先天性難聴(疑い含む)	101	28	31	22	13	6	1		
ムンプス難聴(疑い含む)	7	1	6						
心因性難聴	12	1	10			1			
突発性難聴	4		4						
難聴	119	21	81	7	1	4	1	2	2
難聴(疑)	150	62	53	11	2	17	1	2	2
後迷路性難聴	2	1	1						
聾	3		2	1					
内耳奇形	11	2	6	2	1				
中耳奇形	1		1						
側頭骨骨折・耳小骨離断	2		1					1	
めまい	10	5	4						1
顔面神経麻痺・下口唇麻痺	7	1		5		1			
慢性鼻・副鼻腔炎	86	26	47	10				2	1
急性鼻・副鼻腔炎	21	16	4	1					
アレルギー性鼻炎	63	11	38	11		1		2	
鼻出血	5	4		1					
鼻中隔彎曲症	3	2	1						
鼻咽腔閉鎖不全	4	2	2						
後鼻孔閉鎖・狭窄/鼻腔狭窄	6	4	1	1					
後鼻孔ポリープ	1							1	
鼻腔腫瘍	1							1	
鼻骨骨折	1	1							
アデノイド肥大	150	19	98	27		2		3	1
扁桃肥大	96	13	65	15		1		2	
扁桃炎	6	2	1	3					
睡眠時無呼吸症候群	114	16	75	21				1	1
舌腫	5		4	1					
咽頭のう胞	1			1					
口唇粘液のう胞	1			1					
舌小帯短縮症	4	1		2				1	
耳下腺炎	1			1					
耳下腺腫瘍・顎下腺腫瘍	1		1						
頸部膿瘍	3	2	1						
咽・喉頭異物	1			1					
喉頭軟化症	39	34	1	4					
反回神経麻痺	28	27		1					
声帯ポリープ・喉頭肉芽	4	2	2						
先天性声門下狭窄	2	2							
急性声門下喉頭炎	2	2							
嚙下障害	27	25	1	1					
正中顎のう胞・側顎のう胞	2		2						
舌根のう胞・喉頭蓋のう胞	2		2						
喉頭浮腫	4	3				1			
頸部リンパ節炎	11	3	7	1					
感染症評価目的	38	38							
新スク後精密検査	56	13	19	17	7				
小計	1602	503	760	196	37	67	3	23	13
健診	55	4	16	4	1	30			
その他症例	10								
合計症例数	1667	507	776	200	38	97	3	23	13
新患数(重複除く)	768								

21. 泌尿器科

2016年3月に中川賀清が退職し、4月に専攻医の賀來泰大が入職した。2016年度は3人体制（杉多、春名、賀來）で診療を行った。医師数の減少（2015年9月から4人→3人）、新病院への移転による外来・入院診療制限があったにもかかわらず、前年度並みの手術件数を維持することができた。

新病院では機器の整備が進み、Ho-YAGレーザーによる尿管瘤穿刺や尿路結石治療、最新のウロダイナミクス機器による膀胱機能評価、トイレでの尿流量検査、精索静脈瘤に対する深部温測定が可能となり、診療が充実した。

入院手術は約4か月待ちとなっており、この待機患者数をいかに減少させるかが重要課題となっている。次年度は4人体制で診療を行うので、他科の空いた手術枠を有効利用するなどして、待機患者数の減少を図りたい。

学術活動に関しては、杉多がAsia-Pacific Association of Pediatric Urologists（クアラルンプール）でライブサージェリーおよび口演を行った。また、日本泌尿器科学会総会（仙台）、日本小児外科学会総会（福岡）、日本小児泌尿器科学会総会（京都）、日本泌尿器科学会中部総会（四日市）、日本泌尿器内視鏡学会総会（大阪）等において、小児泌尿器科疾患に関する教育講演、当科の手術成績等を発表した。次年度も高度かつ安全な医療を提供し、積極的に学術活動を行いたい。

2016年度 手術実績

405

尿路系

VUR手術（開腹）	46
VUR手術（気膀胱）	3
デフラックス注入	7
膀胱尿管新吻合	4
尿管カテーテル抜去	16
腎盂形成	10
腹腔鏡下腎盂形成	5
内視尿道切開	5
腹腔鏡下腎摘出	1
腎瘻造設	4
内視鏡（膀胱鏡、腔鏡）	10
下部尿管尿管吻合	1
PNL	1
開腹切石	1
尿管瘤開窓	1
膀胱瘻造設	2
経尿道的凝血塊除去	1
腸管利用膀胱拡大	2
尿管管遺残切除	1
上半腎摘除	1
計	122

性器系

外陰部形成	3
包茎手術	10
尿道下裂形成	44
ヘルニア手術	11
腹腔鏡下ヘルニア手術	3
陰嚢水腫根治術	13
顕微鏡下精巣静脈低位結紮術	3
精巣固定術	137
精巣捻転	11
停留精巣摘除	1
腹腔鏡下精巣血管結紮（F-S1期目）	3
腹腔鏡下精巣固定術（F-S2期目）	2
包皮形成術（逆Byars flap）	5
尿道下裂術後瘻孔閉鎖	13
外尿道口形成、切開	6
外陰部腫瘤切除	8
陰嚢形成	5
陰嚢内腫瘤摘出	2
精巣生検	1
腔形成	2
計	283

22. 小児歯科

診療内容として、全身疾患を有する患児や心身障害児の齲蝕予防・治療を行うことが大きな柱となっていることに変化はない。特に院内において先天性の疾患を有する患児に対しては低年齢（乳前歯萌出時期）からの定期受診により歯科疾患予防を積極的に行っている。また、周術期における口腔管理が保険に組み込まれ数年たち周知されたことにより、歯科衛生士による口腔ケア介入症例は増加傾向にある。一方、摂食嚥下外来については現在休診中である。

人事面に変わりはなく、小児歯科は常勤歯科医師一名（曾根由美子）の体制をとっているが、2016年8月下旬より2017年2月まで休職（産休）し、外来診療は本郷孝子歯科医師、石原順子歯科医師による非常勤体制となり、外来診察枠の縮小、手術実施困難となり大幅な患者数。手術件数の減となった。

新患内訳 (2015)		院内紹介	院外紹介		紹介なし	計
			歯科	医科		
小児歯科関連	口腔内検診希望	28	3	1	0	32
	齲 蝕	9	39	1	0	49
	乳歯晚期残存	2	1	0	0	3
	先天性歯	0	1	3	0	4
	その他	3	2	0	0	5
矯正歯科関連	不正咬合	6	0	1	0	7
	術前顎矯正	2	0	0	0	2
口腔外科関連	外 傷	2	1	0	0	3
	埋伏歯・過剰歯	0	5	0	0	5
周術期口腔機能管理		41	0	0	0	41
その他（小児歯科以外）		2	0	0	0	2
計		95	52	6	0	153

全身麻酔下処置	歯科単独	他科合同	計
入院手術	0	1	1
外来手術	20	0	20
計	20	1	21

23. 麻酔科

1. 2016年の人事異動

常勤医である三浦医師が岡山榊原病院に転出した。豊富な心臓麻酔経験を活かし、当院の特に循環器・心臓外科の麻酔、さらに専攻医の教育に貢献していただいたことに感謝したい。

各大学所属医師の異動としては、神戸大学から横田医師、白川医師を迎え、香川大学からは京嶋医師、ついで西部医師を迎えた。舟井医師は大阪市大に、松波医師は大阪医大に転出した。中央市民病院から池田医師を迎えた。また、兵庫県立病院麻酔科総合研修システムにおいては田中医師（尼崎医療センターから転入）、平井医師（がんセンターから転入）、の異動があった。

公募採用医師は、JA 広島総合病院から藤野医師を、聖路加国際病院から飯塚医師を迎えた。当院小児科から短期研修として瓦野医師、山口宏医師を迎えた。

2016年12月の時点では香川、鈴木、高辻、大西、池島、末田（産休中）、森（産休中）、藤原、黒田、横田、池田、飯塚、田中、白川、西部、平井、山口宏、が従事している。

2. 活動状況と反省

2016年は、新病院への移転に向けて、そして移転後の立ち上げおよび安定した手術室運営に向けて、様々な取り組みを行った。特に移転前後の手術受け入れについては入念な計画・対応を行った。移転前後の2週間は予定手術を行わないこととなったが、この間も緊急手術には対応する必要があった。このため旧病院では患者搬送が終了する5月1日正午まで、新病院では5月1日患者搬送直後（午前5時半頃）から手術可能な状態となるよう、医療資源を旧・新病院に分配し、いずれの科の緊急手術にも対応できるように両病院の手術室を整備することとし、旧病院から3部屋分の麻酔関連器材を先に新病院へ搬送し、麻酔科医は手術受け入れのために点検・整備を含めた準備を行った。加えて新病院では新たに電子カルテの導入も行ったため、手術前後の手順を確かめるために看護師、外科医師と共に一般外科手術、緊急産科手術、日帰り手術のシミュレーションなどを行った。実際には、4月27日に1件、5月2日に1件の緊急手術に問題なく対応できた。

移転当日は患者搬送にも参加し、最重症の患者2名の搬送時に麻酔科医がそれぞれの高規格救急車に同乗した。また搬送とは別に、当日の緊急事態に対応するための緊急対応チームにも麻酔科として加わり、実際搬送直前に呼吸状態が一時的に増悪した患者の対応に当たった。結果として多くの麻酔科医が移転当日の業務に関与し、また移転に際して準備、計画、役割分担、シミュレーションなどのためにも相当なエネルギーを要したが、結果的に大きな問題なく移転を終えることができたとともに、手術室が一丸となって取り組むことができ、貴重な経験であったと考えている。

新病院では手術室は10室となり、うち1室は産科専用、1室は血管造影室、2室は日帰り手術用としている。各手術室はこれまでよりも広くなり、患者搬送、準備、動線、収納、清潔度など様々な面で業務が改善された。血管造影室が手術室と同じエリアに入ったことで、心臓手術との連携、緊急時の対応がスムーズになった。また旧病院の時代から、血液腫瘍疾患などに対する骨髄採取、髄液採取など痛みを伴う処置のための全身麻酔を病棟で行っていたが、より安全で快適な麻酔環境を整えるべく、新病院の血液内科病棟の処置室に麻酔器、昇降式処置台に加えて无影灯、余剰ガス排出、ヘパフィルター付き空調などを新たに整備していただくことができた。

3. 展望

移転前後の手術制限の影響などにより、2016年の総麻酔件数は4298件となり、前年よりも減少したが、次年度はマンパワーの増強を見込んでおり、必要な手術はすみやかに受け入れることができる体制を目指したい。

と考えている。

2018年10月に当院麻酔科が日本小児麻酔学会学術集会を主幹することになり、その準備を鋭意進めていく予定である。麻酔科医はもちろん小児医療・手術に関わる医療従事者の交流や情報交換のチャンスであり、こうした機会を通じて当院のみならず広く小児麻酔の安全性や質の向上に寄与できると確信している。

診療統計

総麻酔件数（麻酔科管理症例数） 2016.1.1～12.31

4298 件

麻酔の場所による内訳

2016/01/01～4/30 (旧病院)	件数	2016/05/01～12/31 (新病院)	件数	合計
旧1室	82	1室	173	255
旧2室	219	2室	199	418
旧3室	151	3室	214	365
旧5室	196	4室	395	591
		5室	379	379
旧7室	137	6室	262	399
旧6室	49	7室	93	142
旧日帰り2	12	8室	13	25
旧日帰り	298	9室	569	867
旧放(アンギオ)	104	10室	200	304
旧MRI	2	MRI	7	9
旧透視室	10	X-TV	14	24
旧病棟	202	病棟	318	520
合計	1462	合計	2836	4298

旧病院ではアンギオ検査が手術室外であったが、新病院では10番手術室で施行されるようになった。

手術室内で行われた麻酔は3641件(うち日帰り手術は約24%)、手術室外で行われた麻酔は657件であった。また上表にあるように、アンギオ室で行われた全麻検査は304件、MRI検査の麻酔は9件、病棟で行われた麻酔は520件であった。

麻酔法による内訳

全身麻酔・吸入麻酔	2228
全身麻酔・静脈麻酔	1396
全身麻酔・吸入麻酔+硬膜外麻酔	334
全身麻酔・静脈麻酔+硬膜外麻酔	202
脊椎麻酔(脊髄くも膜下麻酔)	128
硬膜外麻酔	1
硬膜外麻酔+脊椎麻酔	0
その他	9
全身麻酔 小計	4160
合計	4298

年齢別内訳

1ヶ月まで	119
12ヶ月まで	609
5歳まで	1751
18歳まで	1618
65歳まで	201
66歳以上	0
計	4298
その他	9
全身麻酔 小計	4160
合計	4298

24. 新生児内科

1. 医師の異動

前年より引き続いて玉置祥子，大久保沙紀，秋田大輔，三村仁美，芳本誠司，中尾秀人が在任した。産婦人科専門医である角健司医師は新生児研修を終え産婦人科医師として異動した。フェローとして勤務中であった武岡恵美子医師，および，他施設 NICU より新生児専門医，松井紗智子医師がスタッフとして着任し即戦力として活躍している。フェローの生田寿彦医師は神戸大学大学院生としての研究も開始した。山内貴未医師，李進剛医師が新たにフェローとして着任した。岡山大学産婦人科より谷和祐医師が6ヶ月間新生児管理研修をおこなった。新病院移転を機に地域周産期医療施設との連携を深めるため西神戸医療センター小児科から後期研修医の田坂佳資医師，永井貞之医師が2か月ずつ新生児管理研修をおこなった。ローテート専攻医（後期研修医）として村田剛士，永尾宏之，山田優里子，三星アカリ，花房宏昭各医師が3-4か月研修をおこなった。

当科の特徴として女性医師も活躍できる診療体制をめざしているが，産休，育休，育児とのライフワークバランスという現実の課題に直面しており，24時間365日の診療業務とフェロー，専攻医の研修教育という当施設に課せられた使命を全うするにはスタッフの負担はやはり過剰と言わざるをえず，持続可能な診療教育体制の確保が急務である。

2. 診療活動

新生児病棟の診療統計は別表の通り，移転準備のための診療制限と移転後の院内出生数の回復期の3か月を除くと入院数は前年並みであった。新生児病棟全体としては45床でのオープンで，NICUは15床から21床へ増床となりNICU満床による入院制限の危惧が減少した。移転後，新生児搬送依頼していただく医療機関の多くは遠距離になり当院ドクターカーによる搬送時間が延長した。一方，距離が短縮した施設からの入院例は明らかに増加した。

新病院での新たな取り組みとしてNICU内手術室を設置し，最重症児のNICU内手術を開始した。重篤な児に対し手術室への移動の負荷を避け至適な時期の手術的介入をめざす目的に3例実施し，いずれも救命可能であった。また，同室を使用した膜型人工肺療法も2例に施行し救命できた。

急性期以降も医療的ケアを必要とする児の継続的管理については，新病院において在宅支援病棟の設置，総合診療科の協力を得て，新生児病棟から当該病棟への橋渡しをめざし症例毎にカンファレンスを重ねている。在宅医療へのスムーズな移行のために引き続き病院全体，地域医療機関，福祉施設，行政機関などとの連携を図っていきたい。

3. 研究学会活動

日常診療における疑問の解決，稀有な疾患管理，治療法の工夫などを臨床研究として医療チーム全体で取り組んでいる。それらの結果は順次，国内外の多くの学会で発表をおこなっており，日常診療の限られた時間の中で論文化し当院での成果を世界に発信する努力を続けている。

2016年新生児科統計

I. 新生児病棟統計

1) 月別入院数

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
45	42	39	13	20	28	43	48	34	43	31	38	424

2) 診療科別入院数

新生児科入院	467	新生児科からの転科	54
循環器内科	6	集中治療科	22
整形外科	1	循環器内科	12
		総合診療科	5
		一般外科	9
		脳神経外科	3
		血液腫瘍科	1
		泌尿器科	1
		形成外科	1

3) 入院形態と紹介医療機関地域

	神戸	阪神南	阪神北	東播磨	中播磨	西播磨	北播磨	淡路	丹波	但馬	県外	
院外出生	168	116	4	0	30	1	0	1	2	3	3	0
一次搬送	121	93	3	0	23	0	0	0	1	1	0	0
(14日以上)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
二次搬送	47	23	1	0	7	1	0	1	1	2	3	8
院内出生	256	178	9	1	30	3	0	5	6	6	1	17
緊急母体	72	53	3	0	5	0	0	3	4	1	0	3
非緊急母体	184	125	6	1	25	3	0	2	2	5	1	14
院内出生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日齢14未満一次搬送+院内出生	377	271	12	1	53	3	0	5	7	7	1	17

II. 新生児科統計

対象：新生児科入院（日齢14未満一次搬送入院及び院内出生377症例，転科例を含む）

1) 院内出生と院外出生

出生体重	患者数	院内	率	帰院	産科
500 g 未満	3	3	100%	0	0
500-749 g	8	8	100%	0	0
750-999 g	10	10	100%	0	0
1,000-1,499 g	25	22	88%	0	0
1,500-1,999 g	54	45	83.3%	0	1
2,000-2,499 g	83	66	79.5%	1	14
2,500 g 以上	194	98	50.5%	10	47
計	377	252	66.8%	11	62

週数	患者数	院内	率	帰院	産科
22, 23	1	1	100%	0	0
24, 25	9	9	100%	0	0
26, 27	11	11	100%	0	0
28, 29	8	8	100%	0	0
30, 31	12	12	100%	0	0
32, 33	26	26	100%	0	0
34-36	95	76	80.0%	1	8
37以上	215	114	53.0%	10	54
計	377	257	68.2%	11	62

2) 分娩方法・出生前ステロイド

出生体重	患者数	帝切	率	ANS	率
500 g 未満	3	3	100%	2	67%
500-749 g	8	5	62.5%	5	63%
750-999 g	10	8	80%	9	90%
1,000-1,499 g	25	21	84.0%	16	64%
1,500-1,999 g	54	39	72.2%	13	24%
2,000-2,499 g	83	49	59.0%	4	5%
2,500 g 以上	194	84	43.3%	3	2%
計	377	209	55.4%	52	14%

週数	患者数	帝切	率	ANS	率
22, 23	1	0	0.0%	1	100%
24, 25	9	8	89%	6	67%
26, 27	11	8	73%	8	73%
28, 29	8	6	75.0%	5	63%
30, 31	12	8	66.7%	11	92%
32, 33	26	21	80.8%	11	42%
34-36	95	67	70.5%	8	8%
37以上	215	91	42.3%	2	1%
計	377	209	55.4%	52	14%

3) 生存率, 死亡率

出生体重	患者数	死亡数	生存率
500 g 未満	3	0	100%
500-749 g	8	1	88%
750-999 g	10	0	100%
1,000-1,499 g	25	1	96%
1,500-1,999 g	54	0	100%
2,000-2,499 g	83	1	99%
2,500 g 以上	194	0	100%
計	377	3	99.2%

週数	患者数	死亡数	生存率
22, 23	1	1	0%
24, 25	9	0	100%
26, 27	11	1	91%
28, 29	8	0	100%
30, 31	12	0	100%
32, 33	26	0	100%
34-36	95	1	99%
37 以上	215	0	100%
計	377	3	99.2%

4) 多胎割合 (品胎 2 組)

出生体重	患者数	多胎	率	品胎
500 g 未満	3	1	33.3%	0
500-749 g	8	2	25.0%	0
750-999 g	10	0	0.0%	0
1,000-1,499 g	25	8	32.0%	3
1,500-1,999 g	54	13	24.1%	0
2,000-2,499 g	83	23	27.7%	0
2,500 g 以上	194	19	9.8%	0
計	377	66	17.5%	3

週数	患者数	多胎	率	品胎
22, 23	1	0	0.0%	0
24, 25	9	2	22.2%	0
26, 27	11	0	0.0%	0
28, 29	8	2	25.0%	0
30, 31	12	5	41.7%	3
32, 33	26	6	23.1%	0
34-36	95	31	32.6%	0
37 以上	215	20	9.3%	0
計	377	66	17.5%	3

5) 人工呼吸管理の割合

出生体重	患者数	MV	率	HFO	CPAP
500 g 未満	3	3	100%	3	3
500-749 g	8	8	100%	6	7
750-999 g	10	7	70%	2	9
1,000-1,499 g	25	15	60.0%	3	21
1,500-1,999 g	54	14	25.9%	0	20
2,000-2,499 g	83	21	25.3%	1	14
2,500 g 以上	194	31	16.0%	3	33
計	377	99	26.3%	18	107

週数	患者数	MV	率	HFO	CPAP
22, 23	1	1	100%	1	0
24, 25	9	9	100%	7	9
26, 27	11	11	100%	5	9
28, 29	8	8	100%	1	8
30, 31	12	7	58.3%	0	11
32, 33	26	8	30.8%	0	17
34-36	95	23	24.2%	1	27
37 以上	215	32	14.9%	3	26
計	377	99	26.3%	18	107

6) 特殊治療

PDA 閉鎖術	13例 (+ 二次搬送 6 例)	生後ステロイド全身投与	26例
NO 吸入療法	16例	ステロイド吸入	0例
NICU 内手術	3例	在宅酸素療法	27例
ECMO	2例	ROP レーザー	1例
CHDF	0例		
PD	0例		

7) 新生児搬送出動回数 110 回

入院	89	分娩立合い	1
転院	18		
非搬送	3	時間外搬送	37

8) 多胎生存率, 死亡率

出生体重	患者数	死亡数	生存率	品胎
500 g 未満	1	0	100%	0
500-749 g	2	0	100%	0
750-999 g	0	0	—	0
1,000-1,499 g	8	0	100%	3
1,500-1,999 g	13	0	100%	0
2,000-2,499 g	23	0	100%	0
2,500 g 以上	19	0	100%	0
計	66	0	100%	3

週数	患者数	死亡数	生存率
22, 23	0	0	—
24, 25	2	0	100%
26, 27	0	0	—
28, 29	2	0	100%
30, 31	5	0	100%
32, 33	6	0	100%
34-36	31	0	100%
37 以上	20	0	100%
計	66	0	100%

25. 産科

当科は2016年5月1日の病院移転時にベビーセンター入院患者を可能な限り減らしかつ産科の入院患者を「0」にするよう要請を受けておりましたため、移転数ヶ月前から移転後1週間には外来患者ならびに搬送入院の受け入れ制限を厳密に行いました。皆様方のご理解ならびにご協力を得て無事に病院移転が完了しました。お世話になった方々に心より感謝申し上げます。

当院は総合周産期母子医療センターとしてハイリスク妊産婦のみを受け入れる紹介型医療施設です。病床はMFICU（母体胎児集中治療室）6床を含めて32床で、新病院において増減はありません。「LDR（陣痛・分娩・回復室）」1室と羊水検査、羊水除去、胎児胸水除去等を行う「侵襲的検査処置室」1室が増設されたため陣痛室2→1室、分娩室3→2室となり、外来と病棟が隣接しスタッフの動線が短くなりました。また、産科専用手術室1室を有し、4D超音波断層装置が4台あり、2人当直制（第2当直の80%は院外医師が担当）を行っています。そして、「近畿ブロック周産期医療広域連携事業」における兵庫県の拠点病院として他府県からの母体搬送にも対応しています。

2016年の入院理由の上位は「切迫早産」、「胎児形態異常」、「羊水過多・過少」、「前期破水」、「胎児発育不全」です。近年高年妊娠の増加に伴い「羊水染色体検査」が増加しておりますが、2013年の「NIPT（新型出生前診断）」導入に伴い最近は減少しました（2016年：31例）。なお、当院はNIPT実施施設ではありませんので希望者には実施施設である神戸大学病院、兵庫医大病院等をご紹介します。

今年には病院移転の関係で外来ならびに母体搬送受け入れを必要な期間制限しましたので臨床統計は大きく減少しております。病院移転に伴い産科看護スタッフ9人の入れ替わりや電子カルテの本格導入もございましたので、病床稼働率が低めであったことで、高度のヒヤリハット事例や医療事故を免れることができたという意見もございます。

2016年臨床統計：分娩数235（22週未満の単胎4例、双胎1例の死産含む）、出産数270、生産児数258、死産児数12、多胎34（双胎33、品胎1）、帝切数140（率60.9%）、早産率54.3%、出生体重1,000g未満の児数20（率7.6%）。病床稼働率66.3%、緊急母体搬送の受け入れ111件（受け入れ率73%）。

2010～2015年の厚労省周産期母子医療センター評価で6年連続産科、新生児科共にAでした。

当院は兵庫県の周産期医療の「最後の砦」として診療レベルの維持・向上に努め、また、空床がある限り母体搬送入院を受け入れております。胎児機能不全等の適応があれば手術決定から15分以内の児の娩出を目指す「超緊急帝王切開」を関連部門・スタッフの協力を得て行なっております。2016年の超緊急帝切は5件でした。当院は「周産期新生児医学会専門医制度」の母体胎児研修の基幹施設であり周産期新生児医学会専門医を育成しています。また、学会活動を奨励しています（研究業績参照）。

病院の公式の内覧会の日程が、「第68回日本産科婦人科学会学術集会」と重なっており、かつ、地域の先生方からの要望もございましたので、4月30日に産科と新生児科で協力して「周産期医療センター内覧会」を行いました。

7月3日に開催された「第90回兵庫県産科婦人科学会」において、中澤浩志フェローの「Journal of Obstetrics and Gynaecology Research」に投稿した論文「Factors affecting maternal serum magnesium levels during long-term magnesium sulfate tocolysis in singleton and twin pregnancy」が兵庫県産科婦人科学会の学会賞を受賞しました。当科の切迫早産治療の臨床データをまとめたものです。

12月17日に兵庫県医師会館で「平成28年度兵庫県周産期医療研修会」が関係部署と協力して開催され、東邦大学医学部新生児科教授の与田仁志先生に「新生児科医から見た双胎間輸血症候群の今と昔」の特別講

演をいただきました。

神戸赤十字病院から末吉俊貴(8月)、長谷部仁美(9月)、浪花祥太(10月)、兵頭俊紀(12月)、松本直久(2016年1月)(敬称略)の5名が臨床研修医(2年目)として1か月ずつ当科で研修を行いました。1ヶ月という短い期間ですが、大学病院のBSLでは経験できない貴重な研修ができたと思います。

病院移転ならびに移転と同時に始まる電子カルテの導入やそれに伴う運用の見直し等課題が山積みでしたが、産科スタッフならびに病院全体で協力して大過なく進めることができました。私は5年前から始まったヒアリング、書類、各種会議、電子カルテのコンテンツ作成(産科関連約130項目)等で1年前から多忙でしたが、40～50年の時間軸を視野に入れて未来の患者様ならびにスタッフのため限られた予算と時間の中で勤めて参りました。

当科はこども病院に併設された周産期母子医療センターですので、他科のベッドを借りることができません。従って、当科が満床となれば搬送依頼をお断りし、他院を紹介せざるを得ないこともあります。そのため、病状が落ち着いた方や、紹介元で対応可能な妊娠週数となれば、紹介元へ戻っていただいております。2016年のバックトランスファー(紹介元へ戻れた方)は210名でした(外来レベルで行われたものも含む)。また、産科以外の成人を継続的に診療できる常勤の専門医がおりませんので、母体合併症に関しては神戸大学医学部附属病院や神戸市立医療センター中央市民病院等をご紹介します。隣接する神戸市立医療センター中央市民病院も総合周産期母子医療センターですが、中央市民病院は「母体合併症」を、当院は「胎児・新生児」にフォーカスした診療のすみわけ、病病連携を行なっております。

人事:2016年は、船越 徹周産期医療センター次長兼産科部長、佐本 崇産科科長兼部長、喜吉賢二医長、高松祐幸医長、牧志 綾医長、南谷智之医長、森下 紀医長、河崎あさひフェロー、中澤浩志フェローの9人で始まりました。3月末に中澤浩志フェローが姫路赤十字病院へ、4月末に南谷智之医長が大雄会第一病院(愛知)へ異動し、7人体制になりました。4月に河崎フェローが医長に昇任しました。7月に鷺尾佳一専攻医が県立淡路医療センターから入職し8人体制になりました。

1) 平成28年(2016年)産科診療状況

入院患者数*	327
うち緊急母体搬送によるもの	111
紹介元へ戻すまたは他院紹介**	210
分娩母体数(22週以降)***	230
正期産	105
早産	125
過期産	0
多胎妊娠	33
うち双胎	32
うち品胎	1
経産分娩	91
うち吸引分娩	9
うち骨盤位牽出術	0
帝王切開術	140****
出産児数(22週以降、死産含む)***	264
正期産児	115
早産児	149
過期産児	0
低出生体重児(2,500g未満)	163
巨大児(4,000g以上)	0
そ の 他	
22週未満死産児*****	6
22週以降死産児	6
D I C	3
自己血貯血回数	2

* 入院患者数は2016.1-12入院したもの

** 紹介元へ戻すまたは他院紹介は、外来で行なわれたものも含む

*** 分娩母体数、出産児数は2016.1-12に出産したもの

**** 双胎第1子経産、第2子帝切1例あり

***** 単胎4、双胎1

2) 紹介元施設所在地別入院件数

大分類	地区	件数	率	大分類	地区	件数	率
阪神南	尼崎市	0	0%	中播磨	姫路市	12	2%
	西宮市	5	1%		神崎郡	0	0%
	芦屋市	3	1%		小計	12	2%
	小計	8	2%	西播磨	相生市	0	0%
阪神北	宝塚市	0	0%		たつの市	0	0%
	三田市	0	0%		赤穂市	0	0%
	川西市	0	0%		揖保郡	0	0%
	伊丹市	0	0%		赤穂郡	0	0%
	川辺郡	0	0%		佐用郡	0	0%
	小計	0	0%		宍粟市	0	0%
神戸市	須磨区	26	5%		小計	0	0%
	中央区	62	12%	但馬	豊岡市	2	0%
	西区	72	14%		美方郡	0	0%
	垂水区	8	2%		養父市	0	0%
	灘区	17	3%		朝来市	0	0%
	東灘区	15	3%	小計	2	0%	
	北区	9	2%	丹波	篠山市	3	1%
	兵庫区	0	0%		丹波市	4	1%
	長田区	10	2%		小計	7	1%
	小計	219	43%	淡路	洲本市	6	1%
東播磨	明石市	38	7%		淡路市	0	0%
	加古川市	4	1%		南あわじ市	0	0%
	高砂市	3	1%		小計	6	1%
	加古郡	0	0%	他府県	京都	6	1%
	小計	45	9%		大阪	5	1%
北播磨	西脇市	1	0%		東京	2	0%
	三木市	0	0%		他	6	1%
	小野市	8	2%	計	19	4%	
	加西市	0	0%	海外	0	0%	
	加東市	0	0%	院内紹介	0	0%	
多可郡	0	0%	計	327	64%		
小計	9	2%					

救急隊はその所属地域にカウントした

3) 取り扱い疾患（重複あり）

疾患名*	件数	率
切迫早産	157	48%
高年妊娠(35歳以上)	106	32%
胎児形態異常	69	21%
羊水過多・過少	47	14%
前期破水	46	14%
胎児発育不全	40	12%
多胎	36	11%
羊水検査	31	9%
B群溶連菌保菌者	28	9%
既往帝王切開	27	8%
胎位異常	24	7%
子宮筋腫合併	21	6%
妊娠高血圧症候群	20	6%
胎児機能不全	18	6%
胎児水腫	14	4%
甲状腺疾患合併	13	4%
絨毛膜羊膜炎・子宮内感染	11	3%
その他感染	10	3%
胎児不整脈	9	3%
子宮内胎児死亡	9	3%
双胎胎児発育不均衡	7	2%
胎児染色体異常	7	2%
妊娠糖尿病	6	2%
前置・低置胎盤	6	2%
切迫流産	5	2%
他科合併症(GDM,甲状腺疾患以外)	4	1%
常位胎盤早期剥離	4	1%
胎盤機能不全	4	1%
心疾患合併	4	1%
血種	4	1%
その他	152	46%
計	775	237%

入院時、入院中に診断された疾患名

4) 入院時間帯

時間帯	件数	率
時間内	245	75%
平日日勤帯		
時間外	82	25%
平日夜勤帯	32	10%
休日日勤帯	21	6%
休日夜勤帯	29	9%
計	327	100%

6) 分娩時間帯（流産、死産含む）

時間帯	件数	率
時間内	136	58%
平日日勤帯		
時間外	100	42%
平日夜勤帯	60	25%
休日日勤帯	18	8%
休日夜勤帯	22	9%
計	236	100%

8) 分娩時妊娠週数（流産、死産含む）

週数	件数	率	累積率
～21週	6	3%	3%
22～24週	7	3%	6%
25～28週	20	8%	14%
29～32週	25	11%	25%
33～36週	73	31%	56%
37～41週	105	44%	100%
42週～	0	0%	100%
不明	0	0%	100%
計	236	100%	

5) 入院時妊娠週数（母）

週数	件数	率	累積率
～21週	44	13%	13%
22～24週	37	11%	25%
25～28週	49	15%	40%
29～32週	67	20%	60%
33～36週	66	20%	80%
37週～	61	19%	99%
不明	0	0%	99%
産後	3	1%	100%
非妊娠	0	0%	100%
計	327	100%	

7) 帝王切開時間帯

時間帯	件数	率
時間内	99	71%
平日日勤帯		
時間外	41	29%
平日夜勤帯	24	17%
休日日勤帯	8	6%
休日夜勤帯	9	6%
計	140	100%

9) 出産時児体重（流産、死産含む）

児体重	件数	率	累積率
～499g	10	4%	4%
500～999g	22	8%	12%
1000～1499g	25	9%	21%
1500～1999g	46	17%	38%
2000～2499g	67	25%	63%
2500～2999g	58	21%	84%
3000～3499g	30	11%	96%
3500～3999g	12	4%	100%
4000～4499g	0	0%	100%
計	270	100%	

10) 緊急母体搬送依頼電話受信状況

月	依頼件数	受け入れ不能件数	受け入れ不能率
1	15	2	13%
2	13	9	69%
3	12	5	42%
4	3	2	67%
5	14	3	21%
6	12	0	0%
7	8	2	25%
8	15	2	13%
9	17	3	18%
10	18	10	56%
11	11	2	18%
12	11	1	9%
不明	3	0	100%
計	152	41	27%

11) 年次別搬送受け入れ不能状況

年	依頼件数	受け入れ不能件数	受け入れ不能率	備考
平成6年	66	12	18%	10月開設(22床)
平成7年	240	38	16%	阪神・淡路大震災
平成8年	312	76	24%	
平成9年	340	111	33%	
平成10年	324	105	32%	
平成11年	326	55	17%	フルオープン(32床)
平成12年	362	100	28%	総合周産期センターに指定
平成13年	328	60	18%	
平成14年	394	110	28%	
平成15年	367	140	38%	
平成16年	298	126	42%	
平成17年	285	120	42%	MFICU6床整備
平成18年	316	124	39%	空床情報ネットワーク整備
平成19年	285	91	32%	
平成20年	259	65	25%	
平成21年	279	88	32%	
平成22年	276	85	31%	
平成23年	256	96	38%	
平成24年	225	83	37%	
平成25年	232	41	27%	
平成26年	221	71	32%	
平成27年	160	42	26%	
平成28年	152	41	27%	病院移転、病床稼働率66.3%

12) 搬送依頼施設所在地別受信件数

大分類	地区	件数	率	大分類	地区	件数	率	
阪神南	尼崎市	0	0%	中播磨	姫路市	0	0%	
	西宮市	3	2%		神埼郡	1	1%	
	芦屋市	2	1%		小計	1	1%	
	小計	5	3%		相生市	0	0%	
阪神北	宝塚市	0	0%	西播磨	赤穂市	0	0%	
	三田市	0	0%		宍粟市	0	0%	
	川西市	0	0%		たつの市	0	0%	
	伊丹市	0	0%		揖保郡	0	0%	
	川辺郡	0	0%		赤穂郡	0	0%	
	小計	0	0%		佐用郡	0	0%	
					小計	0	0%	
神戸市	須磨区	9	6%	但馬	豊岡市	0	0%	
	中央区	30	20%		養父市	1	1%	
	西区	32	21%		朝来市	0	0%	
	垂水区	1	1%		美方郡	0	0%	
	灘区	7	5%		小計	1	1%	
	東灘区	6	4%		丹波	篠山市	0	0%
	北区	13	9%			丹波市	2	1%
	兵庫区	0	0%			小計	2	1%
	長田区	6	4%			淡路	洲本市	4
	小計	104	68%		南あわじ市		0	0%
東播磨	明石市	13	9%	淡路市	1		1%	
	加古川市	2	1%	小計	5		3%	
	高砂市	0	0%	他府県	大阪府		2	1%
	加古郡	0	0%		京都府	2	1%	
	小計	15	10%		その他	3	2%	
			小計		7	5%		
北播磨	西脇市	1	1%	海外	0	0%		
	三木市	0	0%	院内紹介	0	0%		
	小野市	9	6%	不明	2	1%		
	加西市	0	0%	計	152	100%		
	加東市	0	0%					
	多可郡	0	0%					
	小計	10	7%					

救急隊はその所属地域にカウントした

13) 搬送依頼元施設種類別

施設種類	件数	率
総合周産期医療センター	18	12%
地域周産期医療センター	8	5%
一般病院	62	41%
診療所	54	36%
助産院	0	0%
救急隊	9	6%
他	0	0%
不明	1	1%
計	152	100%

他府県の施設も含む

14) 搬送依頼電話受信時刻

勤務帯		件数	率
時間内	平日・日勤帯	84	55%
	平日・夜勤帯	32	21%
時間外	休日・日勤帯	21	14%
	休日・夜勤帯	13	9%
不明		2	1%
計		152	100%

15) 搬送電話依頼時理由

搬送理由	件数	率
切迫早産	78	51%
前期破水	17	11%
胎児発育不全	12	8%
妊娠高血圧症候群	7	5%
胎盤早期剥離	3	2%
胎児機能不全	2	1%
胎児形態異常	2	1%
前置胎盤	2	1%
切迫流産	2	1%
多胎	1	1%
その他	26	17%
不明	0	0%
計	152	100%

主たる理由で分類

18) 受け入れ不能の理由

理由	件数	率
NICU 満床	8	20%
産科満床	2	5%
両方満床	0	0%
対象外	8	20%
その他	17	41%
不明	6	15%
計	41	100%

その他：病院移転関連、当直医が手術中、搬送受入中

16) 搬送電話依頼時妊娠週数

妊娠週数	件数	率
22 週未満	13	9%
22 ～ 24 週	31	20%
25 ～ 28 週	34	22%
29 ～ 32 週	33	22%
33 ～ 36 週	23	15%
37 ～ 40 週	9	6%
41 週以降	0	0%
分娩後	0	0%
不明	8	5%
非妊娠	1	1%
計	152	100%

17) 受け入れ可否返事所要時間

所要時間	件数	累積率
～ 1 分	120	79%
～ 3 分	8	84%
～ 10 分	14	93%
～ 20 分	3	95%
～ 30 分	1	96%
～ 60 分	0	96%
～ 120 分	1	97%
～ 240 分	1	97%
不明	4	100%
計	152	100%

26. 放射線科

1. 人事異動

2016年度は人事異動として4月1日付で上原栄理子医師が転出し、杉岡勇典医師が転入となった。また、松永卓明医師がフェローとして採用となった。

従来通り放射線治療担当で副島俊典医師ががんセンターと兼務で週1回（金曜）、藤本雄介医師が月曜、木曜の週2日超音波検査担当で応援していただいている。

2. 2016年の動向

本年の最も大きな出来事は新病院移転であるが、大きな混乱なくスムーズに移行でき、将来数十年の変化にも対応できる設備が得られた。システム上も問題なく超音波検査が施行でき、読影端末も応援医師、研修医師の増加にも対応すべく配置されている。

新病院移転に際して検査件数は若干減少することが予想されたが、超音波検査とMRIが移転後大幅に増えている。

超音波検査件数は年々増加を続けており今後もますます増えることとおもわれる。予約枠を大幅に増やした影響と外来ブース数増加の影響が考えられる。新病院移転後は2列から3列稼働で対応し、特別待ち時間が長くなることなく検査が行えているが安定した人的資源の確保が望まれる。

また、新病院ではMRIが1台から2台に増え、読影件数がますます増加することが予想される。

新病院移転に際し、放射線科の院内呼称を“放射線診断科”と“放射線治療科”に変更した。放射線診断科は3名（赤坂、杉岡、松永）で、放射線治療科は非常勤1名（副島医師）となる。

院内、院外の小児科医を対象とした放射線研修も軌道に乗っている。

放射線科読影件数（2016年）

CT	2623件
MRI	2580件
RI	270件
超音波	5643件
透視	250件

放射線治療（照射） 16人

研修医・専攻医指導記録

専攻医：上村和也（小児科）
 研修科：放射線科
 研修期間：2016.1.1. ～ 2016.3.31
 指導医：赤坂好宣
 読影件数
 CT：164
 MRI：99
 RI：0
 透視検査：0
 超音波検査：248

専攻医：山口 宏（小児科）
 研修科：放射線科
 研修期間：2016.8.1. ～ 2016.10.31
 指導医：赤坂好宣
 読影件数
 CT：189
 MRI：252
 RI：0
 透視検査：0
 超音波検査：287

専攻医：内藤昭嘉（尼崎総合医療センター 小児科）
 研修科：放射線科
 研修期間：2015.12.1. ～ 2016.3.31
 指導医：赤坂好宣
 読影件数
 CT：149
 MRI：111
 RI：0
 透視検査：4
 超音波検査：295

専攻医：松田百代（市立豊中病院 小児科）
 研修科：放射線科
 研修期間：2016.9.1. ～ 2016.10.31
 指導医：赤坂好宣
 読影件数
 CT：139
 MRI：87
 RI：17
 透視検査：0
 超音波検査：184

専攻医：上月愛瑠（小児科）
 研修科：放射線科
 研修期間：2016.4.1. ～ 2016.6.30
 指導医：赤坂好宣
 読影件数
 CT：137
 MRI：63
 RI：0
 透視検査：0
 超音波検査：170

専攻医：谷澤直子（小児科）
 研修科：放射線科
 研修期間：2016.11.1. ～ 2017.1.31
 指導医：赤坂好宣
 読影件数
 CT：108
 MRI：66
 RI：0
 透視検査：0
 超音波検査：287

専攻医：潮見祐樹（神戸中央市民病院 小児科）
 研修科：放射線科
 研修期間：2016.6.1. ～ 2016.8.31
 指導医：赤坂好宣
 読影件数
 CT：222
 MRI：316
 RI：0
 透視検査：0
 超音波検査：344

27. 小児集中治療科

【スタッフ】

2016年4月に新たに小児集中治療科が組織された。2016年度の常勤医は黒澤寛史（診療科長）、長谷川智巳、椎間優子、青木一憲、制野勇介の5名。フェローは楠本耕平、祖父江俊樹、染谷真紀、増井美苗、神納幸治、高寺侑、平田旭の7名。ローテート専攻医（後期研修医）3名受け入れ。院外からの短期研修1名受け入れ。

【診療体制】

5月の新病院移転時より、CICU8床、PICU/SICU 4床、ICU 11床の23床を担当し（Closed ICU）、関係各科と連携をとりながら重篤な症例の診療に当たった。日中は常勤医2名とフェロー3～4名、夜間は常勤医1名とフェロー2名。

【集中治療室入室患者の内訳（2016年5月～12月）】

- 入室患者数 596 例
- 平均月齢 55 ヶ月
- 予測死亡率（PIM3） 2.6%
- 死亡者数 12 例（2.0%）
- 在室日数中央値（IQR）3 日（2 - 8）、平均 7.4 日
- 搬送手段
 - ・院内（手術室、病棟など） 490 例（82.2%）
 - ・当院搬送チーム 1 例（0.2%）
 - ・救急車（他院同乗） 33 例（5.5%）
 - ・救急車（現場直送、ER 経由） 30 例（5.0%）
 - ・ヘリコプター 20 例（3.4%）
 - ・その他（独歩など） 22 例（3.7%）
- 入室理由
 - ・術後管理 375 例（62.9%）
 - ・呼吸不全 80 例（13.4%）
 - ・循環不全 49 例（8.2%）
 - ・中枢神経系の異常 40 例（6.7%）
 - ・モニタリング 32 例（5.4%）
 - ・心肺停止蘇生後 7 例（1.2%）
 - ・その他 13 例（2.2%）
- 治療内容
 - ・人工呼吸管理 268 例
 - ・NPPV（非侵襲的陽圧人工呼吸） 65 例
 - ・High Flow Nasal Cannula（11 月～） 9 例
 - ・一酸化窒素吸入療法 56 例
 - ・ECMO（体外式膜型人工肺） 9 例
 - ・血液浄化療法 / 血漿交換 8 例

●病棟別内訳

病棟		CICU (8床)	PICU/SICU (4床)	ICU (11床)	全体 (23床)
入室患者数		219	167	210	596
平均月齢		36	58	73	55
予測死亡率 (%)		2.6	4.2	1.4	2.6
在室 日数	平均	10.0	8.4	3.9	7.4
	中央値 (IQR)	6 (2-10)	5 (3-9)	2 (2-3)	3 (2-8)
入室理由	術後管理	165	80	130	375
	呼吸不全	14	33	33	80
	循環不全	27	16	6	49
	中枢神経	0	27	13	40
	モニタリング	10	3	19	32
	蘇生後	2	4	1	7
	その他	1	4	8	13
担当科	心臓外科	132	1	3	136
	循環器科	60	2	11	73
	外科	19	55	87	161
	脳外科	2	40	31	73
	総合診療科	1	30	27	58
	神経内科	0	22	4	26
	血液腫瘍科	1	7	9	17
	整形外科	1	2	12	14
	形成外科	0	2	8	10
	泌尿器科	0	1	7	8
	新生児科	2	2	2	6
	腎臓内科	1	1	4	6
	眼科	0	0	5	5
	アレルギー科	0	2	0	2
	耳鼻科	1	0	0	1

●県外から直接入室

- ・合計 22 例
- ・担当科別内訳
 - 外科 16 例
 - 心臓外科 4 例
 - 総合診療科 2 例
 - 循環器科 1 例
 - 脳外科 1 例

●地域別内訳

○北海道2、富山県2、愛知県1、滋賀県1、京都府3、大阪府4、広島県1、鳥取県1、愛媛県1、高知県1、福岡県3、大分県2

●居住地域別入室患者数（医事課統計より。複数回入室は1回と数える）

地域	患者数	地域	患者数
神戸市	205	但馬	2
阪神南	27	丹波	3
阪神北	19	淡路	4
東播磨	27	兵庫県	386
北播磨	30	近畿圏	30
中播磨	41	近畿圏外	45
西播磨	28	総計	461

28. 病理診断科

病理診断科では、胎盤病理・死産児の剖検などの周産期の病理診断、ヒルシュスプルング病や嚢胞性肺疾患などの小児外科領域の病理診断、小児固形腫瘍の病理診断を主体として、小児期の病理診断全般を行っている。小児固形腫瘍は国立成育医療センターを中心とする小児固形腫瘍観察研究に登録・参加して、中央病理診断や分子生物学的診断を受けている。腎生検は、電子顕微鏡の所見を加えた最終診断は腎臓内科が行っている。病理診断科では、検体のマクロ検索からミクロ検索までを一連の業務として取り組み、一例一例を大切に丁寧に診断することを心がけている。必要に応じて免疫染色や特殊染色、外部委託や小児固形腫瘍観察研究による分子生物学的検索、他施設へのコンサルテーション依頼等を行い、客観的で再現性のある標準化に則った病理診断を目指している。臨床カンファレンスを通じて、診断名のみならず所見の詳細を臨床に伝えることで診療に病理診断結果を活かしてもらえるように努めている。また病理診断は一時期の病変部のみの検索であるが、診療過程の全体を把握して病理診断にフィードバックしたいと考えている。大学のカンファレンスや全国の講習会や研究会に積極的に参加している。

2016年の動向

2016年に病院の移転があり、検査部病理および病理診断科の設備や作業環境が改善された。病院に電子カルテが導入されたことにより、病理組織検査や細胞診検査や剖検の結果が電子カルテから閲覧可能となった。標本作成においても自動化がすすんだ。ディスカッション顕微鏡が設置されたことにより、臨床医や実習生と顕微鏡をみながらのディスカッションが可能となった。蛍光顕微鏡も導入され、腎生検凍結切片の蛍光免疫染色を当院で開始するべく準備をすすめており、2017年より開始する予定である。

2016年6月11日には大阪市立総合医療センターにて第75回関西小児病理研究会および小児腫瘍セミナーの世話人を行った。2016年11月26日には、大阪府立母子保健総合医療センター病理診断科の竹内真先生が世話人を務められ、当院講堂を会場として第76回関西小児病理研究会を行った。

2016年12月には当院の産科実習中の神戸赤十字病院の研修医のうち病理志望者1名が病理診断科の見学を行った。

2013年から当院腎臓内科の主催で、神戸大学医学部付属病院病理部の原重雄先生を講師に招いた腎生検カンファレンスを開催している。2016年も2回の腎生検カンファレンスが、3月と10月に行われた。

2016年3月17日にCPCが行われ、臨床報告は血液腫瘍科の二野菜々子先生が担当された。

2016年の件数

組織診断件数 1033件（うち迅速有り44件、胎盤238件、腎生検21件、その他）

細胞診断件数 139件

剖検件数 2件（産科死産児1件、新生児科1件）

29. 看護部

看護部理念

命を守り、育てることに努力し、安心と満足が得られる看護の提供に努めます。

看護部のスローガン

「小児看護」→「笑児看護（しょうにかんご）」

「みる・まもる・つなぐ・つたえる」で、こどもと家族の輝く笑顔を引き出そう！！

看護部方針

- こどもの権利を守り、患者・家族の思いを尊重した看護を提供します。
- 看護の質の向上を目指し、安全と安心に繋がる看護を提供します。
- 患者を中心としたチーム医療の調整役として、主体的に行動します。
- 真の優しさと逞しさを備えた人間性を養い、自己研鑽に努めます。

看護の体制

- より安全で質の高い看護を提供することを目的とし、パートナーシップ・ナーシング・システム（PNS）看護提供方式への変更に取組み、全部署日勤帯でのPNSから導入を図っています。
- 患者様が治療や検査を理解し、確実に行えるように、プリパレーションやディストラクションを取り入れた看護を実践しています。
- 保育士と協働し、患者様の成長発達に応じた療育への支援を行っています。
- 患者様に少しでも快適で豊かな入院生活を送っていただけるよう様々なボランティアの皆様と季節折々の行事を実施しています。
- 看護系大学との事例検討会や共同研究を推進し、看護の向上に向けて取り組んでいます。

看護部目標

★新たな創造「共働・共育・共創」

1. 共働：互いを尊重し合うチームづくりと安全な看護の提供
2. 共育：教え育む力を発揮し共に成長
3. 共創：新システムにマッチした業務改善を革新
4. 共働：在宅支援・地域連携の強化

看護部の活動

看護部

新病院では重症集中系病床の増床に伴い、看護師も増員となった。新規採用看護師の育成と定着促進のために、教育担当看護師長と共に精神リエゾン専門看護師や臨床心理士が精神的フォローを行う体制作りをした。

また、新病院での業務フローの変化や新システムに対応するべく、業務改善に取り組んだ。

5階西病棟

小児外科と泌尿器科を主体とした病棟であり、周手術期の患者が多く、病院移転後の新システムにスムーズに移行でき、安全・安楽な看護が提供出来るように取り組んだ。

5 階東病棟

在宅支援病棟として、在宅カンファレンス（多職種によるカンファレンス）の定期開催や、退院前後訪問（看護師による自宅訪問）の開始、在宅支援訓練室の運用、医療評価入院の実施などに取り組み、患者・家族が安全に、そして安心して在宅療養に移行出来る退院支援に務めた。

6 階西病棟

循環器疾患主体の混合病棟として、新生児から移行期の入院患者に対して、安心・安全な看護が行えるようベッドサイドラウンドを行うなど PNS の強化を図った。また、旧病院からの育児教室の継続など家族看護の実践に努めている。

6 階東病棟

PNS や夜勤チームの中で個人の思い込みがミスにつながらないように、意識的にコミュニケーションを図り患者の安全確保に努めた。内科、外科混合病棟の特性に合わせ、各科の医師とのカンファレンスの機会を持ち看護ケアに活かした。

「移行期支援」は腎臓内科医を中心に、外来、他部門とも共に慢性腎炎の患者家族に対する親と子の教室を開催した。

7 階西病棟

今年度、小児がん拠点病院として、がん治療に伴うリスクを予測し予防的にケアを提供することで、患者の療養生活の質の維持向上を目指して、がんリハビリテーションの導入・管理栄養士による栄養指導の充実・歯科衛生士による口腔ケアを徹底した。また、抗がん薬曝露対策を実施すると共に、看護手順を作成、看護の統一を実施して安全な抗がん剤投与に努めた。新設された血液細胞移植室の運営基準や患者の生活環境を整え、2.6 人 / 日の有効な病床利用ができた。人材育成では PNS 看護体制を確立するために看護の可視化、伝承、伝達に努め、新人看護師 11 名の育成につなげることができた。

7 階東病棟

新病院から新たに開設された病棟である。血液腫瘍科の患者が半数以上をしめ、その他の内科外科の患者の入院の受け入れ、集中系からの転入の受け入れを病棟の役割として運用を行ってきた。化学療法を必要とする患者が多く、曝露防止の必要性、特に排泄物からの曝露防止に対してのスタッフの意識が高まり汚物室、トイレの環境整備に取り組み改善を行った。多数の新人に対する教育を計画、評価、修正を定期的に行い成長に繋げることができた。

C I C U

5 月から集中治療科管理となり、集中治療医師・多職種・他部門との連携を強化したことにより新システムの変更による混乱の解除をおこなうことができた。多数（10 名）新採用者から、従来の教育体制を見直し、フォロー体制の強化を行った。また中堅看護師の育成も強化した。ICT と連携しデバイスサーバーランスの導入・家族面会時の健康チェックの開始など感染対策を強化した。

P I C U ・ I C U

チーム医療を推進し安全なクリティカルケアの提供ができることを目指した。日々、医師とともにベッドサイドカンファレンスを行ないながら個別性の高いケアを提供することができた。また、移転による病棟編成の変更に伴いマニュアル類の整備を行ない、集中治療を要する患者に統一したケアを実施できている。

N I C U

増床・増員に伴い年間パートナーで年間目標を立案し、ラダーチェック・評価を通して人材育成を図った。また、分娩全例立ち会いに変更し、認定看護師を中心として、NCPR 取得に向け取り組んだ。母乳育児支援・プレネイタルヴィジット等産科・GCU との連携を図った。

GCU

受け持ち看護師の役割を通し、患者・家族によりよい看護の提供に努めた。24時間電話相談、外来や家族支援・地域医療連携部との連携、養育支援ネットを用いた地域の保健師への情報提供を行い、退院後も継続して育児支援を行えるよう取り組んだ。

産科

外来通院中から受け持ち看護師が関わり、入院・分娩・育児と継続した看護を実践している。母乳外来では、当院だけでなく、他院で分娩した母親も対象とし、母乳栄養指導だけでなく母親の精神面での支援や、育児不安の緩和に努めることができた。

手術室

WHO指針の手術室安全チェックリストを用い、安全な手術環境を整えると共に、看護師が主体となり他部門と連携を図り、チーム医療の質の向上に取り組んでいる。また、周手術期の家族看護に視点を置いた勉強会を継続し、術前・術中・術後訪問に繋げるマイマスク運動やプレパレーション活動を推進している。

外来

安全な外来診療・看護の提供を目標とし、教育や、ヒヤリハットの共有、再発防止の取り組みを行なっている。在宅療養支援では、他部署との連携の強化と、看護相談外来の拡大を図り、個々のニーズに合わせた支援の取り組みを行なっている。

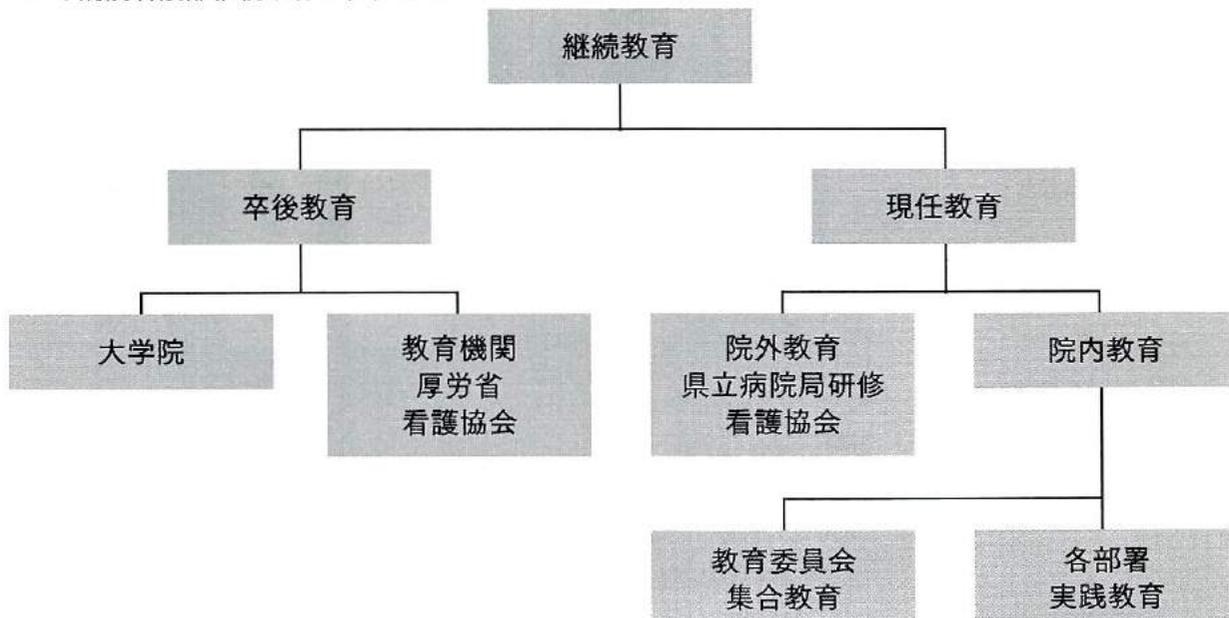
救急・HCU

高度集学的救急医療と同時に「子どもと家族を中心とした救急医療」をテーマに「つなぐ看護」を目指した。「カンファレンスの定着」「重症初療シミュレーション」「PNS導入」に取り組んだ。

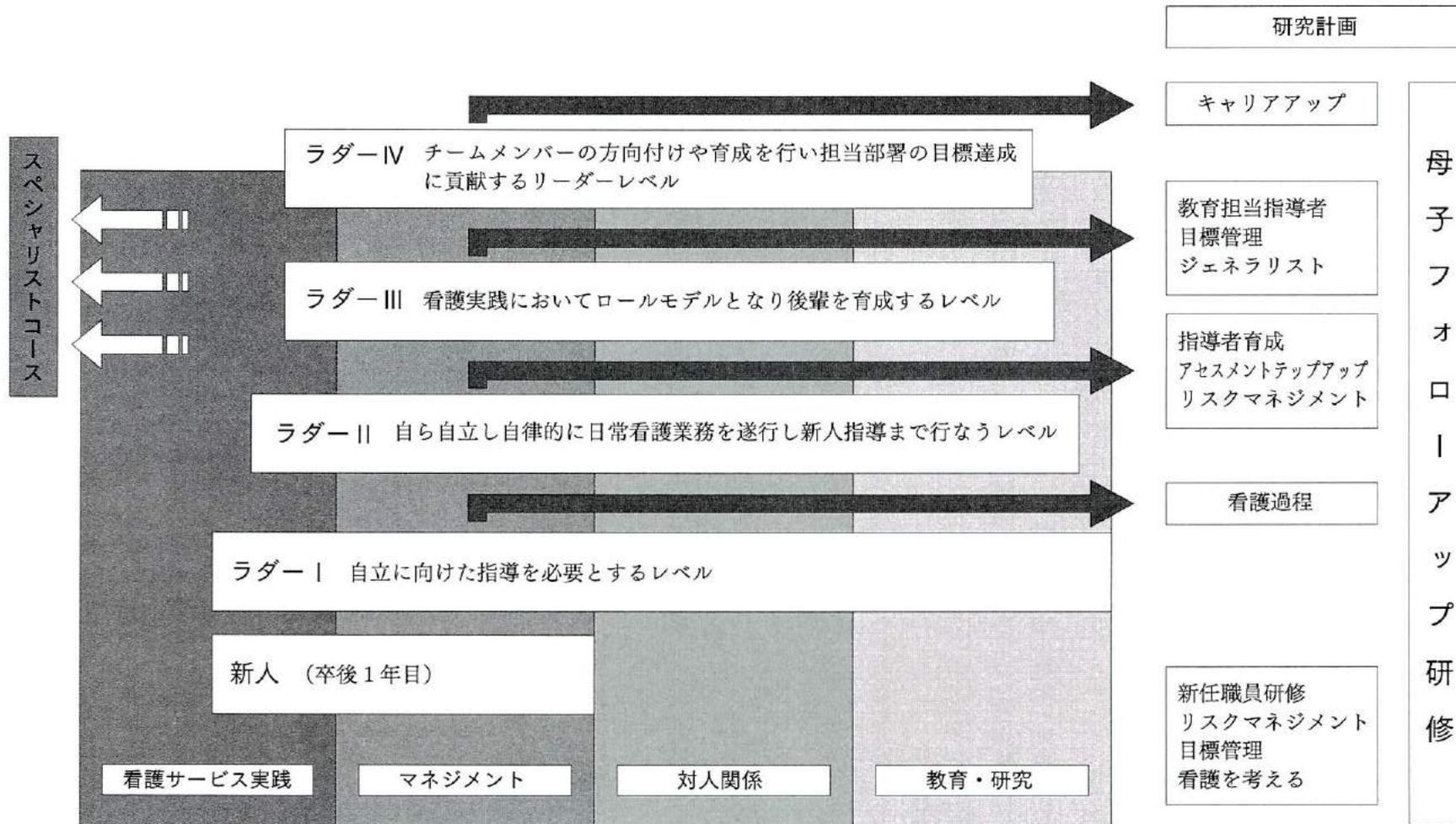
こども病院看護部教育方針

1. 高度専門的な母子看護の知識・技術をもち、エビデンスに基づいた看護実践ができる看護師の育成
2. こどもの権利を守り、患者家族の思いを尊重できる看護師の育成
3. チーム医療の調整役として行動できる看護師の育成
4. 研究的視点で看護実践の改善がはかれる看護師の育成

こども病院看護部継続教育の位置づけ



小児ジェネラリストの実践家として役割を認識し行動できる



看護部委員会

委員会名	開催回数	活動内容と結果
看護師長補佐会	11回	<p><目的> 新病院で各看護単位の円滑な運営と看護の質向上を図る</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. PNS が定着、発展し安全、安心な看護の提供ができる 2. 新たに導入されたルールや業務を円滑に行い、安全な看護が提供できる 3. 電子カルテの安全で効果的な運用ができる 4. SPD システムの調整を行い、円滑な物品管理業務を遂行する 5. 看護補助者と共働し患者の安全を優先としたケアの実施 6. インターンシップ、病院見学を開催し人材確保につなげる <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. PNS の定着に向けたラダー別の研修会の企画と運営 <ol style="list-style-type: none"> ①ラダー別にパートナーシップマインド研修会を2回開催。参加者の評価は良かった。PNS定着に向けた啓蒙活動を継続する。 ②PNS 院内評価基準の作成に向けたアンケート内容の検討と実施 2. 業務・手順委員会と連携し、業務業務の手引きの見直しを行った。 3. 電子カルテの運用においてセキュリティを守りタイムリーな記録ができるよう広報活動（ポスターの提示）と監査を実施。意識向上が図れた。 4. SPDシステムの調整を行い円滑な物品管理業務の遂行に繋げることができた。 <ol style="list-style-type: none"> ①薬剤運搬、受領と返品について病棟の現状調査を行いレイアウトの見直しを行った。 ②物品管理のためモデル病棟を決め、円滑な物品管理の検証を行い、院内統一の物品管理フローシートを作成した。 5. 看護補助者と看護師の協働による看護補助者の安全な業務拡大 <ol style="list-style-type: none"> ①看護補助者研修を6回開催し、内容の理解を得られた。 ②看護補助者の勤務時間変更に伴うタイムスケジュールの見直しを行った。 ③次年度に向け、看護補助者のベッドサイドケア参加を検討。 6. インターンシップ内容を新病院用に修正し実施。病院のアピールポイントをまとめ病院見学時に活用した。参加者からの評価はよく9割以上が小児看護に興味を持つことができた。
看護部教育委員会	14回	<p><目的> 看護職員のキャリア開発を支援するとともに、良質な看護を提供するための教育体系を整備、実践する</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 年間計画に沿って、集合教育を実施し、看護のおもしろさ・やりがい感を発見することができる研修を企画する 2. 教育委員が元気で、各病棟の教育支援ができるとともに、委員としての成長ができる <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内集合研修の企画・運営・評価 2. OJTとリンクした継続性のある教育の検討と実施 3. 看護師個々のキャリアに応じた支援の検討と実施

看護部教育担当者会	14回	<p><目的> 新人看護師を支援する教育体制を整備し、実践する</p> <p><目標> 1. 新人看護師が現場に順応し、各自のペースに合わせて目標を達成していけるよう支援できる 2. 教育担当者が、新人看護師やプリセプターへの指導・教育、研修企画・運営、問題解決に関する知識やスキルを高め、成長できる</p> <p><活動内容> 1. 新人看護師の院内集合研修の企画・運営・評価 2. OJTでの継続性のある新人看護師教育の検討と実施 3. 実施指導者・教育担当者の支援・育成 4. 全スタッフで新人看護師を育成する風土づくり・体制整備</p>
臨床指導者会	9回	<p><目的> 臨床指導者の育成と学生の効果的な臨床実習ができる</p> <p><目標> 1. 新病院での実習環境を整える 2. 実習生を受け入れることで小児看護を目指す学生を育てるという意識がもて、指導スキルが向上する。</p> <p><活動内容> 1. 新病院での実習指導要領を整えた。 2. スキルアップをはかる方法の一つとして積極的に研修会参加ができた。対象の理解と学生の学びを支えるための支援者の姿勢などについて学び、伝達講習会を開催し、学びを共有した。 3. 学生カンファレンスへの参加や学生との振り返り時に、自分の看護観を話す事で、学生に看護の楽しさややり甲斐を伝えるように努めた。</p>
業務・手順委員会	11回	<p><目的> 業務を見直し、当院で必要な看護業務基準・手順を作成し、安全で安楽な標準化したケアを提供する</p> <p><目標> 1. 看護業務の見直しと改善策の検討 2. 各委員会と連携を図り、看護業務手順の作成及び修正を図る</p> <p><活動内容> 1. 物品管理、他科との連携を見直すことで新システムでの業務をスムーズに行えるよう、看護師長補佐会と調整し、「業務の手引き」の修正を行った。 2. 新システムにあわせ食事に関連した看護手順を修正し、下膳に関しては、ポスター作成を行い、周知できるよう啓蒙した。 3. 安全委員と連携し、電子カルテによる認証業務の手順を作成し、与薬システム（内服、注射）、輸血の手順を作成した。 4. 新システムに関連した看護手順に関して10項目の修正し、周知した。</p>

<p>感染対策委員会</p>	<p>11回</p>	<p><目的> 1. 各看護単位での感染対策の中心的役割を担う。 2. 各看護単位の感染対策を検討・改善し、感染対策に関する看護の質を向上させる。 3. ICC や ICT、ICN と連携し、院内の感染対策を推進する。</p> <p><目標> 1. 感染対策に対するスタッフの知識・技術が向上する。 2. 流行性感染症、耐性菌などのアウトブレイクが発生しない。 3. 勉強会、研修会、学会参加などをおして実践モデルとしての役割がとれる。</p> <p><活動内容> 1. スタッフが、感染対策マニュアルを視覚的に理解して使用できるよう、標準予防策と感染経路別予防策マニュアルの可視化に取り組んだ。 2. スタッフに手指衛生の正しい知識、技術が浸透し、実践できるよう、直接観察法を用いて監査を行い、遵守率向上に向けて取り組んだ。 3. 個人防護具の着用率の向上と正しい着脱方法が浸透するよう、チェックリストによる評価と啓発ポスターの作成をおこなった。 4. ICT と密に連携し、問題発生時に早期対処した。 5. 病棟の感染対策に還元できるよう、ICT ラウンドに同行して自己の学びを深めた。 6. リンクナースとして必要な知識、技術を習得するためチェックリストによる自己評価を年2回実施した。院外研修会にも自主的に参加した。</p>
<p>安全対策委員会</p>	<p>11回</p>	<p><目的> 看護事故防止対策を検討し、全看護職員のリスク感性向上に向けて取り組むことを目的とする</p> <p><目標> 1. ヒヤリハット報告・事件事例を分析し対応策を検討することができる 2. 安全文化の醸成に向けた活動を推進することができる 3. 安全な療養環境が提供できる</p> <p><活動内容> 1. ヒヤリハットの情報共有 2. 転倒・転落アセスメントシートの活用と環境ラウンドの実施 KYT 分析を各部署で実施 3. 安全な与薬に向け、内服手順の作成と周知を行う 4. 安全な食事（ミルク）に向けて安全啓蒙活動と行う 5. 委員会内でヒヤリハット事例の KYT を実施し、病棟へ還元する</p>
<p>看護部情報管理委員会</p>	<p>11回</p>	<p><目的> 病院情報システムに必要なとされる「真正性」「見読性」「保存性」の3原則の確保のために、業務上看護が取り扱う情報を以下の3点に基づき管理することを目的とする。</p> <p>①看護過程に必要な情報を特定し、分析を行い看護計画に役立てる。 ②看護実践用のシステム（看護支援システム・病院情報システム）を活用し、その改善に関わる。 ③情報管理に関する法令遵守及び、施設のセキュリティーポリシーに基づいたシステムの安全管理に関わる。</p> <p>本会は前項の目的を達成するために次の事項を協議する</p> <p>1. 看護に必要な情報の適切な入力および適時の入力 2. 看護の思考過程の記録 3. 看護記録の量的・質的監査の実施 4. 看護情報の2次利用</p> <p><活動内容> 1. 電子カルテにおける、看護記録の監査 2. 電子カルテシステムに対応した記録要項の修正 3. 情報管理上の課題の検討</p>

<p>看護部地域連携委員会</p>	<p>11回</p>	<p><目的> 在宅療養支援に関する院内外の現状を知り、地域連携推進に取り組む</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子供の健康生活を支援する地域関係機関との連携の充実を図る 2. 在宅療法指導マニュアルの見直しを行う。 3. 看護連絡票の必要な情報が記載できる。 4. 退院支援システムを理解し、早期から院内連携を図り、スムーズな退院支援ができる <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 退院支援スクリーニングシートの具体的な記載方法を提示し、スタッフ全員がスクリーニングできるようにした。 2. 訪問看護ステーションとの交流会を1回、事例検討会を1回行い、地域との連携を図り在宅支援を考えることができた。 3. 事例検討会を3回開催し、各病棟で情報共有を行った
<p>看護部専門・認定看護師会</p>	<p>10回</p>	<p><目的> 医療・看護の質向上に向け、専門看護師・認定看護師が連携して問題解決への取り組みや支援を行う</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各専門・認定看護師の活動を共有し連携をはかる 2. 各専門分野もしくは共通している問題について、ともに検討し解決につなげる 3. 専門・認定看護師が協働して教育活動を行う 4. 専門・認定看護師の支援体制を整える <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各自の年間計画、月間・年間活動報告の共有 2. 活動の中で発見した問題提起と検討、互いの支援 3. 専門・認定看護師が協働する勉強会の企画・運営 4. 活動に関する看護部との調整・交渉
<p>看護部研究支援委員会</p>	<p>3回</p>	<p><目的> スタッフが看護研究を意欲的かつ適切に実施できるように、研究の全過程にわたって支援する</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護研究の計画や実施において、スタッフが適切な倫理的配慮を行えるよう支援する 2. スタッフが、看護に関して科学的方法を用いて探求し、新しい知見を得るために、適切な指導と支援を行う <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護研究の倫理的配慮に対する指導・教育 2. 看護研究の計画・実施プロセスにおけるスタッフの支援
<p>皮膚・排泄ケア部会</p>	<p>10回</p>	<p><目的> 皮膚排泄における専門知識を習得し、ケアの質向上を図る</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ストーマケア、失禁ケア、創傷ケアなどの専門知識、技術を共有する 2. 各部署におけるストーマケア、失禁ケア、創傷ケア、電子カルテでの記入不備の現状や課題を検証し改善する <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 褥瘡対策に関する電子カルテの入力が確実にできるよう、入力手順表を作成した。また、看護指示を活用できるようにした。 2. 体圧分散寝具の新病院での定数配置の調整を行った。定数表を修正し、病棟間での貸借がスムーズに行えるようにした。 3. CIC・ストーマ保有者の災害時の家族用リーフレットを作成した。今後、使用手順を作成し、家族指導に使用していく。

<p>呼吸障害ケア部会</p>	<p>10回</p>	<p><目的> 1. 呼吸障害における専門知識を習得する 2. 呼吸障害におけるケアの質の向上を図る <目標> 1. 呼吸障害における専門知識を習得し根拠をもって実践できる 2. 各呼吸器に応じた安全チェックが統一して行える 3. 新病院システムに即した物品管理を確立する <活動内容> 1. MEと協力し、呼吸器関連物品の管理方法の検討や統一、 2. 呼吸療法マニュアルの修正と項目（新マニュアル）の追加 3. 理学療法士の協力を得て、肺理学療法の勉強会の開催 4. 感染科医師・歯科衛生士の協力を得て、口腔ケアの勉強会の開催</p>
<p>摂食障害ケア部会</p>	<p>11回</p>	<p><目的> 1. 摂食に関する最新の知識を学び、共有する 2. 事例検討を行い、摂食ケアの質の向上を図る <目標> 1. 症例検討を通じて摂食ケアの考え方について学び、適切なケアを提供できる 2. 各委員が各部署における摂食ケアのレベルアップ方法を計画し、実践できる <活動内容> 1. 委員が、摂食ケアについての基礎知識を習得できるよう上半期計画的に勉強会を行った。 2. 毎月各部署から症例をあげ検討し、各部署での摂食に対する意識の向上につなげた。 3. 口腔ケアが確実に実施でき、摂食ケアに関する情報収集が行ないやすいよう、看護指示や摂食ケアテンプレートの活用を進めた。</p>

平成28年度 院内研修

	研修会名	日程	時間	ねらい	参加数	講師
新人	フォロー研修① 子どもの看護・感染	4月6日(水)	1日	1. 必要な看護知識と技術を段階的に身につけることができる 2. 同期との就職後の思いを共有し、今後の意欲に繋げる 3. 看護実践について振り返り、自己の看護師像を明らかにし、次のステップへの目標を見い出せる	120名	瓜次長、栗林Ns、大亀Ns、藤田課長、安藤Ns、鳴滝CN、武田看護師長、西村補佐、教育担当者
	フォロー研修② 感染・安全	4月7日(木)	0.5日×2		120名	鳴滝CN、教育担当者
	フォロー研修③ 与薬・清潔ケア	4月11日(月) 4月12日(火)	1日×2		116名	教育担当者
	フォロー研修④ 輸液管理	4月18日(月) 4月19日(火)	1日×2		119名	テルモ、教育担当者
	フォロー研修⑤ 呼吸生理・周手術ケア・小児麻酔	4月25日(月)	1日		118名	坂本CN、木和田補佐、安藤Ns、轡Ns、新井Ns、中谷CNS、教育担当者
	フォロー研修⑥ 吸引・吸入・NG管理	4月26日(火)	0.5日×2		119名	教育担当者
	フォロー研修⑦ 救急蘇生	5月19日(木) 5月20日(金)	1日×2		119名	藤原CN、坂本CN、和久Ns、教育担当者
	フォロー研修⑧ 権利・スキニングケア・栄養・摂食	6月17日(金)	1日		119名	鎌田CN、森本CN、西川CNS、島井管理栄養士、検査技師、放射線科医師/技師、教育担当者
	フォロー研修⑨ 多重業務	7月14日(木) 7月15日(金)	1日×2		116名	教育担当者
	フォロー研修⑩ 家族看護・褥瘡・薬剤管理	8月8日(月)	1日		115名	福井薬剤部次長、鎌田CN、浅井CNS、中田PT、板原Ns、末廣Ns、教育担当者
	フォロー研修⑪ 継続看護・ストーマケア・静脈注射	8月29日(月)	1日		114名	鎌田CN、鳴滝CN、藤田課長、泊CN、中川補佐、大亀Ns、橋本次長、教育担当者
	フォロー研修⑫ 技術発表	9月16日(金)	0.5日×2		112名	教育担当者
	フォロー研修⑬ 看護過程	10月20日(木) 10月21日(金)	1日×2		107名	中谷CNS
	フォロー研修⑭ 看護を考える	2月28日(火) 3月1日(水)	1日×2		107名	教育担当者
フィジカルアセスメント・救急蘇生研修	11~2月	各1日	107名	藤原CN、坂本CN、インストラクター他		
既卒	既卒者研修①	6月6日(月)	0.5(PM)	1. 先輩看護師や同期との交流を深め、リフレッシュの機会とする 2. 自己の役割・目標を明確化する機会とする	15名	中村郁子看護部参事、寺田・夏川・工藤Ns
	既卒者研修②	8月24日(水)	0.5(PM)	1. ストレスマネジメント方法について理解できる 2. 抱えている悩みを解決する糸口を見つけることができる 3. 3か月を振り返り、研修①で立てた目標の達成状況と、今後の課題を明確にする 4. 同期との交流を深め、リフレッシュの機会とする	13名	河野臨床心理士
	既卒者研修③	10月11日(火)	0.5(PM)	1. 小児特有の看護について知識を深め、実践の場面で役立てることで自信につなげることができる 2. 同期との交流を深め、リフレッシュの機会とする 3. 半年を振り返り、研修①で立てた目標の達成状況と、今後の課題を明確にする	13名	灰木補佐
ラダー1	看護過程	6月28日(火)	1日	1. 個別性のある看護過程の展開を学び、日々の実践に活かすことができる	52名	中谷CNS
	家族看護①	8月30日(火)	1日	1. 家族看護の基本的な考え方、理念を知ることができる 2. 家族の抱える課題に気づくことができる 3. 家族を看護の対象と捉えて、関わり方を見出すことができる	52名	浅井CNS
	看護倫理	9月29日(木)	1日	1. 子どもの権利・看護倫理を理解し、実践の中で倫理問題について気づくことができる	49名	栗林CNS
	ケーススタディ発表	12月5日(月)	1日	1. 看護過程・家族看護・看護倫理を踏まえて、自分の大切にしている看護を明確化することで考えを整理することができる 2. 他者承認を得ることで、自身のモチベーションに繋げることができる	48名	教育委員
	PNS マインド研修	12月13日(火)	0.5(AM)	1. パートナースhipマインドについて理解し、育て、活用することができる 2. 自己の役割を理解し、日々の看護ケアの中でメンバースhipを発揮することができる 3. 自己の課題を見出し、具体的な行動計画を立て、取り組むことができる	32名	奈須補佐、鞠補佐、伊丹補佐
	後輩指導	2月22日(水)	0.5(PM)	1. 支援を受けて、後輩と関わることができ、自己の役割がとれる 2. 支援を受けて、プリセプターとしての役割がとれる	55名	佐藤看護師長

リーダーII	リーダーシップ発表会 (前年度県立病院リーダーシップ初級編受講者)	7月26日(火)	0.5 (AM)	1. リーダーの役割を遂行し、リーダーシップについて自己の考えをまとめ、自己の課題が明らかになる 2. 実践場面において、状況に応じたリーダーシップが発揮できる	16名	教育委員
	プリ・アソプリフォロー①	8月24日(水)	0.5 (AM)	1. 8月までの自己の関わりを振り返り、課題や今後の方向性を明確にできる 2. プリセプティの成長に合わせた関わりができる(プリセプター) 3. 自己の関わりの中から、自分のプリセプティに対する関わりの意味が理解できる(プリセプター) 4. プリセプティ・プリセプターの成長に合わせた関わりができる(アソプリ) 5. 自己の関わりの中から、自分のプリセプティ・プリセプターに対する関わりの意味が理解できる(アソプリ)	32名	佐藤看護師長
	リーダーシップ初級編	9月23日(金)	1日	1. リーダーの役割を遂行し、リーダーシップについて自己の考えをまとめる 2. 実践場面において、状況に応じたリーダーシップが発揮できる	24名	竹井看護師長
	看護実践と看護倫理	10月25日(火)	1日	1. 日々の実践の中で倫理問題提議が行え、解決策を導くことができる	29名	西川 CNS
	プリ・アソプリフォロー②	11月29日(火)	0.5 (AM)	1. 自己の関わりを振り返り、課題や今後の方向性を明確にできる 2. プリセプティの現状を把握し成長に合わせた関わりができる(プリセプター) 3. プリセプターや新人の現状を把握し必要なかわりができる(アソプリ) 4. 経験者の体験談を聞いて、自己の関わりを振り返ることができる	31名	竹井看護師長、野田・花房・林 Ns
	リーダーシップ発表会 (H28年度県立病院リーダーシップ初級編受講者)	3月13日(月)	0.5 (AM)	1. 日々の実践においてリーダーシップが発揮できる	22名	教育委員
	リーダーシップ発表会 (H28年度院内リーダーシップ初級編受講者)	3月13日(月)	0.5 (PM)	1. 日々の実践においてリーダーシップが発揮できる	24名	教育委員
リーダーII・III	PNS マインド研修	9月13日(火)	0.5 (AM)	1. PNS の概念、こども病院における基本的な考え方を理解できる 2. PNS におけるパートナーシップマインドについて理解することができる 3. PNS におけるリーダー(ペアリーダー)の役割を理解し実践できる	34名	奈須補佐、鞠補佐、伊丹補佐
リーダーIII・IV	ファシリテーター研修	11月29日(火)	0.5 (PM)	1. ファシリテーターの役割が理解でき実践できる	16名	中井看護師長
看護研究	看護研究①	2月22日(水)	0.5 (AM)	1. 看護研究としての基礎知識を得ることができる 2. 研究的視点で実践を見ることができる 3. 支援を受けながら研究に取り組むことができる	24名	中谷 CNS
役割研修	教育担当者研修①	12月19日(月)	0.5 (PM)	1. 先輩看護師の指導を受けながら、教育担当者、アソシエイト・プリセプターとして新人看護師の支援と教育ができる	32名	三宅一代先生 (にこにこハウス医療福祉センター)
	教育担当者研修②	1月16日(月)	1日	2. シミュレーション教育の知識を習得し、研修の企画運営に活かすことができる	29名	井谷 CN、梁 CN、河南 Ns
	教育研修	1月13日(金) 1月20日(金)	0.5 (PM) ×2	1. 若年看護師の特長を理解し、相手に合わせた教育支援ができる	37名 36名	三宅一代先生 (にこにこハウス医療福祉センター)
スキルアップ 研修	ストーマケア①	7月27日(水) 9月28日(水) 1月24日(火)	0.5 (AM)	1. 小児のストーマケアが適切にできるようになるために、小児のストーマ造設をする疾患や術前後のケア、ストーマ装具・皮膚保護材、スキンケアの原則とスキントラブル、社会保障について理解する	5名	鎌田 CN
	集中ケア		0.5 (AM)	1. 適切な病態アセスメントと情報の共有、報告のスキルを身につけ、患者への適切なケアや治療につなげることで、児の急変や重症化、合併症を予防することができる 2. 病態アセスメントの視点と報告の仕方についてスタッフに指導することができる	6名	坂本 CN
	新生児看護		0.5 (PM)	1. 新生児期の生理学的適応過程を理解し、必要な看護について理解する 2. 親子の始まりを支えるための看護を理解する 3. 母乳育児支援の実際について理解する 4. デベロップメンタルケアやポジショニングなど、新生児の神経発達援助を理解する 5. 1～4をふまえ、疾病新生児の看護の実際について考えられる	9名	井谷 CN
	小児救急看護		0.5 (PM)	1. 看護師の生理学的異常に対するアセスメント力及び初期対応力を培い、もって早期の治療介入・患児の状態悪化防止につなげる 2. 役割モデルとしてアセスメント・急変時対応を実践、スタッフへの指導ができる	7名	藤原 CN、坂本 CN

スキルアップ 研修	ストーマケア②	8月3日(水) 9月27日(火) 1月25日(水)	0.5 (AM)	1. 管理が難しい小児のストーマケア(尿路ストーマ、ストーマ周囲に皮膚炎のあるストーマ、低出生体重児のストーマ、ストーマ合併症のあるストーマ)を適切に行うために、ケアの特徴と方法について理解する	4名	鎌田 CN
	化学療法看護		0.5 (AM)	1. がん化学療法看護に必要な基礎知識や基本技術を習得し、抗がん剤投与において安全で確実な看護実践ができる	5名	後藤 CN
	感染管理		0.5 (PM)	1. ラダーⅡ以上の看護師の感染対策に対するレベルが向上する 2. 現場における感染対策の風土を改善する 3. 受講者が、感染対策の基礎知識を基盤に、根拠を理解して看護ケアを展開できる 4. 受講者が、役割モデルとして感染対策を実践、推進、スタッフへの指導ができる 5. 受講者が、常に問題意識をもって行動し、感染防止対策の改善策について考えることができる	8名	鳴滝 CN
	摂食・嚥下障害看護	7月25日(月) 10月17日(月) 2月6日(月)	0.5 (AM)	1. 摂食・嚥下の基本的なメカニズムについて知り、子どもにとっての食の意味や食行動の理解を深めることができる 2. 当院に入院中の子どもたちの摂食・嚥下障害の原因について理解・推測し、必要時、看護計画を立案及び実施・展開することができる 3. 各所属部署のリンクナース的役割を担い、必要時、認定看護師へのコンサルテーションをし、共同して取り組むことができる	5名	森本 CN
	糖尿病看護		0.5 (PM)	1. 糖尿病の病態理解に基づいた支援を行うために、血糖調節機構と異常を説明できる能力を身につける 2. 糖尿病の成因と病態を理解し、小児1型糖尿病の療養支援を実践できる自身が持てる 3. 小児1型糖尿病患者に成長発達段階をふまえた看護の実際を考えることができる	2名	泊 CN

30. 薬剤部

1 薬剤部員異動

(平成28年4月1日付)

【退職者】	課長補佐	赤松 則子		(平成28年3月31日付)
【転入者】	課長補佐	丁子 江利	県立尼崎総合医療センター	(平成28年4月1日付)
	職員	岸本 早百合	県立がんセンター	(平成28年4月1日付)
	職員	由良 沙央理	県立尼崎総合医療センター	(平成28年4月1日付)
	職員	研 真梨子	新規採用者	(平成28年4月1日付)
	職員	中西 有璃	新規採用者	(平成28年4月1日付)
	職員	野田 有貴子	新規採用者	(平成28年4月1日付)
	職員	乗松 耕平	新規採用者	(平成28年4月1日付)

2 平成28年活動報告

本年の主な取り組み概要を下記に記す。

(1) 病棟薬剤師業務の充実

新病院となり6名の増員を受け、電子カルテや最新の調剤機器も導入された。そのため、調剤業務のみならず病棟での薬剤師業務の充実を図った。従来の薬剤管理指導件数の増だけでなく、7月から病棟薬剤業務実施加算1を取得し、一般病棟全てに週20時間以上薬剤師を常駐させ医療スタッフや患者からの問い合わせ・指導を行った。

(2) 薬剤部内での医薬品に係わるヒヤリハット防止への取組

薬品取り間違い防止のための機械化の促進を図り、従来のダブルチェックに調剤機器を加えたトリプルチェックが実施可能となった。また、増加している若手職員を中心にリスク防止対策等の研修会を実施しリスク防止意識の醸成を図った。更に薬剤業務が適正に実施されているかを確認する目的で実践検証を実施する等、部員全員でヒヤリハット防止対策に取り組んだ。

(3) 治験への取組

院内治験審査委員会事務局として新規治験や継続中の治験の適否に携わった。さらに、小児治験ネットワークを介した治験(中央治験審査委員会で審議)にも積極的に参加し、より充実した治験業務が展開できた。

(4) 薬学生の長期実務実習及びレジデントの受け入れ

実務実習モデル・コアカリキュラムに基づき7名の薬学生を受入れ指導を行った。また、1名のレジデントの受け入れについては当院作成のレジデント研修マニュアル等で、病院薬剤師として必要な知識等を指導した。

(5) 部員の育成

薬剤部の活性化と個々の部員のモチベーションを高めるため、部内勉強会や薬剤管理指導症例報告会を定期的実施した。さらに学会等での発表等の支援を行った。

3 今後の展望

医療事故防止対策の充実やチーム医療の促進という観点から病棟での薬剤師業務を更に充実させるため、集中部門や手術室への薬剤師を配備させるべく取り組んでいく。更に、薬剤師個々の技術・知識を充実させ院内の医薬品の適正な管理及び積極的な薬物療法の推進に寄与していく。

(1) 調剤件数

区 分	内用・外用薬		注 射 薬	
	処方箋枚数	調剤数	処方箋枚数	延本数
入 院	49284	95812	103690	621473
外 来	6081	48661	7641	14481
計	55365	144473	111331	635954
一日平均	151.3	394.7	304.2	1737.5

(2) 薬剤管理指導関係件数

診療科	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
薬剤管理指導	369	375	273	177	158	728	763	966	886	894	947	870	7406
麻薬加算	11	3	5	0	6	19	13	12	8	3	4	8	92
退院指導	53	48	45	36	15	62	86	85	79	108	112	88	817

(3) 薬剤情報提供料 件数

診療科	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
全 科	464	445	505	420	349	350	302	330	277	299	291	318	4350

(4) 無菌製剤調製業務

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
抗がん剤	245	259	262	74	53	96	160	179	160	110	101	101	1800
高カロリー	77	71	85	27	34	85	41	42	146	106	103	124	941
計	322	330	347	101	87	181	201	221	306	216	204	225	2741

(5) TDM 件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
バンコマイシン	2	0	0	7	4	6	7	6	1	6	10	5	43

(6) 院内D I 業務

① 電子メールによる情報提供

送 信 日	件 名
2016.8.12	医薬品安全対策情報 No.251
2016.9.28	医薬品安全対策情報 No.252
2016.10.28	医薬品安全対策情報 No.253
2016.11.28	医薬品安全対策情報 No.254
2016.12.26	医薬品安全対策情報 No.255

② 主な問い合わせ内容

問 い 合 わ せ 内 容	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 注射薬配合変化について ・ 注射薬溶解後の安定性について ・ 注射薬のフィルター透過性について ・ 食品と薬剤の相互作用について ・ 内服薬の飲み易い飲み方について ・ 冷所保存医薬品の常温での安定性について 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 抗がん剤の適切な投与方法について ・ 医薬品の副作用について ・ 血液製剤の投与方法について ・ 小児薬用量について ・ 錠剤の粉砕可否について ・ 注射薬の血管外漏出について

(7) 院内製剤

① 内用液剤

製剤名	製剤量 (単位/mL)
内服用ルゴール液	315
0.1%ミダゾラムシロップ	9700

② 軟膏

製剤名	製剤量 (単位/g)
バリアー	77500
10% テストステロン軟膏	1260
0.4% エストラジオール軟膏	1200

③ 外用液剤

製剤名	製剤量 (単位/mL)
アセトール	4000
1/2 カプトドロップ	1440
0.5% アトロピン点眼	65
25% グリセリン液	38600
耳垢水	0
食塩重層液	0
20% 硝酸銀	5
30% 硝酸銀	90
40% 硝酸銀	0
10% ピオクタニン青液	100
1% ピオクタニン青液	0
0.2% ピオクタニン青液	200
30% アルコール	270
50% アルコール	270
ツェンテール液	50

④ 予製剤

製剤名	製剤量 (単位/g)	製剤名	製剤量 (単位/g)
(倍散→倍散)		ベラプロスト (× 50000)	12000
0.01% ジゴシン散	1000	ヒドロクロロチアジド散 (× 10)	500
(錠→散)		フラジール散 (× 4)	100
インデラル (× 100)	1000	オキシブチニン散 (× 100)	2400
グリチロン散	900	メキシチール散 (× 10)	300
コートリル散 (× 20)	1460	ロンゲス散 (× 100)	3500
デカドロン散 (× 1000)	750	イムラン散 (× 10)	25
レバチオ散 (× 50)	13590		

31. 検査・放射線部（検査部門）

1. 人事異動

【転出者】

担当課長補佐 戸田 照美 県立西宮病院へ (平成28年4月1日付)

【転入者】

担当課長補佐 平田 明宏 県立淡路医療センターより (平成28年4月1日付)

課長補佐 山崎 美保 県立がんセンターより (平成28年4月1日付)

課長補佐 細川 珠枝 県立がんセンターより (平成28年4月1日付)

職員 亀山 和明 新規採用 (平成28年4月1日付)

【再任用者】

主任 笹川 のせ子 県立光風病院より (平成28年4月1日付)

2. 活動報告

本年の主な取り組み概要を以下に示す。

(1) 院内感染対策

- ・感染管理加算 I 取得の継続（JANIS 検査部門に参加）
- ・感染対策委員会事務局として、本委員会を定期開催（年12回）

(2) 安全な輸血医療

- ・輸血管理料 I 取得の継続
- ・輸血療法委員会事務局として、本委員会を定期開催（年6回）
- ・アルブミンの一元管理を輸血検査部門で開始
- ・「輸血について」新規採用看護師フォロー研修にて講演
- ・輸血療法マニュアルの改訂（医療情報システムの更新に伴う）
- ・輸血用血液製剤の有効利用、赤血球製剤廃棄率の低減化の推進
赤血球製剤廃棄率は1.8%（目標2.0%）

(3) 医療事故防止の強化

- ・医療安全目標の作成と推進
「未検査・未受付の確認」をテーマとし、日勤帯・時間外の業務終業前に未検査・未受付チェックを実施
- ・危険予知トレーニング（KYT）を実施

(4) 検査委員会活動

- ・検査委員会を年2回開催
- ・日本臨床衛生検査技師会の「精度保証施設」認証を取得
外部精度管理に参加（日臨技臨床検査精度管理調査・兵臨技臨床検査精度管理調査）
- ・パニック値の見直し
- ・検査部研修会（院内全体研修）の開催
講演「細菌検査における炎症マーカーの有用性」

(5) 新病院での取り組み

- ・外来採血業務へ検査技師1名が参画
- ・遺伝子検査等、新規検査の導入
- ・各検査部門システムの新規導入や更新に伴うマニュアルの見直し
- ・基準値の見直し
- ・小児がん拠点病院に対応する臨床検査の充実

(6) 人材育成

- ・学会（発表4名）や研修会へ積極的に参加し、技術や知識を習得した。
- ・県立病院の相互利用による研修を実施し、技術の取得や運用改善を行った。
- ・業務達成度チェックリストの活用
時間外検査・採血業務・各部門ルーチン検査の業務達成度について、チェックリストを用いて評価し研鑽に務めた。

(7) 検査技術科学専攻学生の臨地実習受け入れと指導

北里大学医療衛生学部医療検査学科	1名
神戸大学医学部検査技術科	2名
神戸学院大学栄養学部栄養学科	6名
行岡保健衛生学園	1名

〈認定・資格〉

超音波検査士（消化器）	4名	超音波検査士（循環器）	5名
超音波検査士（体表臓器）	1名	認定輸血検査技師	1名
認定血液検査技師	1名	認定骨髓検査師	1名
細胞検査士	2名	臨床工学士	2名
第一種衛生管理者	1名	有機溶剤作業主任者	1名
衛生工学衛生管理者	1名		
特定化学物質及び四アルカリ鉛等作業主任者	2名		

3. 次年度の課題

- ・新病院関連
 - 遺伝子検査など新規導入検査の知識・技術の修得
 - 他部門との協力体制の強化による円滑な業務運用の構築
 - 災害時・システムダウン時等、危機管理体制の再構築
- ・外来採血の技術の向上と患者対応を学ぶ。
- ・小児がん拠点病院に対応する臨床検査部門の充実（人材育成を中心に）
- ・輸血用血液製剤の有効利用、赤血球製剤廃棄率の低減化の推進
- ・チーム医療への積極的な参加
- ・診療材料や運用の見直しによる経費削減の推進

(1) 平成 28 年臨床検査実施状況

*メディスコードを用いた集計に変更

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
一般	2,880	2,737	3,084	2,291	1,927	2,407	2,703	3,621	2,728	2,790	2,596	2,876	32,640
血液	12,984	11,954	12,474	8,128	9,088	11,854	12,720	14,070	12,705	12,602	12,155	12,468	143,202
細菌	2,350	2,358	2,177	1,229	1,088	1,664	1,748	1,962	1,672	1,884	1,951	1,967	22,050
血清	5,536	4,920	5,286	3,441	3,849	4,586	5,317	6,118	5,178	4,954	5,030	5,108	59,323
生化学	48,834	45,828	48,163	33,398	35,054	44,343	48,375	55,028	47,718	46,964	46,338	48,327	548,370
病理	150	142	139	72	105	120	128	173	153	158	128	150	1,618
生理	1,325	1,364	1,732	1,231	834	1,172	1,136	1,940	1,325	1,221	1,106	1,330	15,716
職員検診	38	38	39	915	23	39	3,311	93	47	44	25	26	4,638
外部委託	2,757	3,295	3,340	3,424	2,213	3,327	3,071	4,001	3,361	3,284	2,666	3,228	37,967
合計	76,854	72,636	76,434	54,129	54,181	69,512	78,509	87,006	74,887	73,901	71,995	75,480	865,524

(2) 平成 28 年時間外（日、当直）検査実施状況

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年度累計
項目数	3,231	2,651	2,546	1,204	1,971	2,937	3,164	3,037	3,425	3,320	2,943	3,261	33,690
対前年比	122.2%	118.3%	100.4%	42.6%	61.0%	127.1%	110.2%	121.2%	126.4%	124.1%	100.1%	103.1%	100.0%
患者数	1,343	1,093	1,052	511	801	1,115	1,315	1,253	1,427	1,311	1,197	1,330	13,748
対前年比	121.8%	117.1%	97.3%	44.7%	58.9%	116.1%	109.1%	121.1%	128.2%	119.2%	97.9%	99.1%	98.4%

(3) 平成 28 年血液製剤使用状況

製剤		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
RCC	購入数 単位数	284	239	255	96	131	200	233	211	270	241	254	254	2,668
	使用量 単位数	280	237	249	90	125	198	229	204	268	231	254	254	2,619
	廃棄量 単位数	4	2	6	6	6	2	4	7	2	10	0	0	49
	廃棄率 %	1.4	0.8	2.4	6.3	4.6	1.0	1.7	3.3	0.7	4.1	0.0	0.0	1.8
FFP	購入数 単位数	149	97	134	32	65	148	167	92	167	86	108	128	1,373
	使用量 単位数	148	95	134	30	61	148	165	92	166	80	108	128	1,355
	廃棄量 単位数	1	2	0	2	4	0	2	0	1	6	0	0	18
	廃棄率 %	0.7	4.0	0.0	6.3	6.2	0.0	1.2	0.0	1.0	7.0	0.0	0.0	1.3
PC	購入数 単位数	1,020	770	820	460	290	510	865	700	870	940	830	1,045	9,120
	使用量 単位数	1,020	770	820	450	290	500	865	690	870	940	830	1,035	9,080
	廃棄量 単位数	0	0	0	10	0	10	0	10	0	0	0	10	40
	廃棄率 %	0.0	0.0	0.0	2.2	0.0	2.0	0.0	1.4	0.0	0.0	0.0	1.0	0.4

細菌培養材料別検査件数（H28年）

材料	依頼件数
気管内採痰	525
喀出痰	97
気管洗浄液	870
咽頭粘液	686
鼻腔内	1648
口腔内	12
その他（呼吸器）	10
便	181
胆汁	8
胃液	3
肛門（GBS増菌）	135
生検材料（消化器）	1
その他（消化器）	1
自然排尿	276
採尿カテーテル尿	433
留置カテーテル尿	131
カテーテル尿	16
尿道分泌物	1
膣分泌物	561
膣（GBS増菌）	90
子宮腔内	139
悪露	77
その他（泌尿器）	2
動脈血	351
静脈血（末梢血）	1622
静脈血（CV血）	571
臍帯血	3
髄液	141
胸水	42
腹水	22
関節液	23
羊水	1
骨髄	1
心嚢水	6
その他（穿刺液）	16
開放性膿	56
閉鎖性膿	13
CV先端	66
耳分泌物	20
眼分泌物	11
皮膚	192
臍部	123
褥瘡	2
創部	47
その他	366
培養合計	9598

耐性菌検出状況（H28年）

菌名	件数
MRSA	130
S.pneumoniae(PISP)	0
S.pneumoniae(PRSP)	0
H.influenzae(BLNAR)	9
H.influenzae(BLPACR)	0
E.coli ESBL	21
K.pneumoniae ESBL	0
K.oxytoca ESBL	0
P.mirabilis ESBL	0
Enterobacter sp. MBL	1
P.aeruginosa MBL	0
P.aeruginosa MDRP	0
K.pneumoniae AmpC	3

重複なし

その他検査件数（H28年）

ウイルス迅速検査	932
ウイルス以外の迅速検査	81
MRSA検査	2064
PCR検査（H28.10～）	83

血液培養

材料	件数	陽性件数	陽性率 (%)
静脈血 (末梢血)	1622	94	5.8
静脈血 (CV 血)	571	54	9.5
動脈血	351	6	1.7

血液培養 検出菌	件数
Coag Neg Staph MRS	22
S.epidermidis(MRSE)	13
S.pneumoniae(PSSP)	8
Staphylococcus aureus	8
Viridans Streptococcus	7
Bacillus sp.	7
Coag Neg Staph	6
Staphylococcus epidermidis	5
Gram Negative rod	5
Corynebacterium sp.	4
Escherichia coli	3
Klebsiella pneumoniae	3
Enterococcus faecium	2
Gram Pos rod	2
S.aureus(MRSA)	2
Streptococcus agalactiae	1
Enterococcus faecalis	1
Enterococcus sp.	1
E.coli ESBL	1
Enterobacter cloacae	1
Salmonella sp.	1
Haemophilus influenzae	1
Pseudomonas aeruginosa	1
Stenotrophomonas maltophilia	1
Acinetobacter baumannii	1
Campylobacter jejuni	1
Clostridium perfringens	1
Trichosporon sp.	1

のべ件数 (重複あり)

細菌別薬剤感受性率 (H28年)

グラム陽性球菌

菌名	株数	PCG	ABPC	C/A	CEZ	CDTR	CFDN	CZOP	CMZ	IPM	MEPM	GM	AMK	EM	AZM	CAM	LVFX	VCM	TEIC	ABK	LZD	ST	CLDM	MINO
Staphylococcus aureus	131	1	1	100	99	91	100	100	100	100	100	84	99	73	75	74	86	100	100	100	98	100	87	99
S.aureus(MRSA)	130	0	0	0	0	0	0	0		0	0	68	90	9	10	9	28	100	100	99	100	100	27	60
Staphylococcus epidermidis	44	30	30	100	100	98	100	100	100	100	100	91	100	80	80	80	89	100	100		100	100	93	100
S.epidermidis(MRSE)	224	0	0	0	0	0		0	0	0	0	41	90	44	44	44	39	100	99		100	97	70	99
Staphylococcus lugdunensis	23	17	17	100	100	100	100	100	100	100	100	26	100	83	87	87	91	100	100		100	100	100	100
S.lugdunensis MRS	28	0	0	0	0	0		0	0	0	0	4	96	85	85	85	96	100	100		100	100	100	100
Enterococcus faecalis	56	100	100							100	86			5			98	100	100		100			13
Enterococcus faecium	9	22	22											0			33	100	100		100			44
Enterococcus avium	1	0	0											0			100	100	100		100			100

肺炎球菌

菌名	株数	PCG	ABPC	C/A	CTM	CTX	CTRX	CDTR	CFPM	CZOP	MEPM	EM	AZM	LVFX	VCM	ST	CLDM	MINO	RFP	CP
S.pneumoniae(PSSP)	41	100		97	66	94	100	100	100	89	82	16	20	100	100	96	48	18	100	96

グラム陰性桿菌 腸内細菌

菌名	株数	ABPC	PIPC	S/A	P/T	CEZ	CCL	CTM	CTX	CTRX	CAZ	CFPM	CMZ	FMOX	S/C	AZT	IPM	MEPM	GM	AMK	LVFX	FOM	ST	MINO
Escherichia coli	86	58	69	65	100	84	81	92	92	92	94	97	99	97	99	94	100	100	93	100	88	93	84	94
E.coli ESBP	21	0	0	48	100	0	0	0	0	0	0	0	100	100	91	0	100	100	86	100	24	86	62	91
Klebsiella pneumoniae	52	0	53	77	100	82	84	86	87	86	90	97	98	89	97	95	100	100	100	100	100	32	79	87
Klebsiella oxytoca	40	0	43	55	96	50	93	96	98	96	100	100	100	100	93	96	100	100	100	100	98	34	98	98
K.pneumoniae AmpC	3	0	0	0	67	0	0	0	0	0	0	100	0	0	67	33	100	100	100	100	100	0	0	100
Enterobacter aerogenes	14	0	61	56	89	0	11	28	83	83	89	100	17	17	100	89	94	100	100	100	100	61	100	100
Enterobacter cloacae	16	0	78	17	78	0	0	6	78	78	72	100	0	6	83	72	100	100	100	100	100	17	100	94
Enterobacter spp. MBL	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	100	100	100	0	100	100
Serratia marcescens	77	7	88	22	97	0	0	1		96	96	100	92	82	100	96	99	100	99	100	100	38	98	92

グラム陰性桿菌 ブドウ糖非発酵菌

菌名	株数	PIPC	P/T	CAZ	CFPM	CZOP	S/C	AZT	IPM	MEPM	DRPM	GM	TOB	AMK	CPFX	LVFX	FOM	ST	MINO	CL
Pseudomonas aeruginosa	91	75	92	87	85	96	84	81	87	88	92	85	100	100	98	96	11			99

H. influenzae

菌名	株数	ABPC	S/A	C/A	CCL	CTM	CTX	CTRX	CFIX	CDTR	CFPM	CZOP	MEPM	CAM	CPFX	LVFX	ST	RFP	TC	CP
Haemophilus influenzae	44	68	95	91	73	65	100	100	96	100	95	47	95	70	100	100	82	100	97	100
H.influenzae(BLNAR)	9	0	0	0	0	0	100	100	67	100	67	0	56	56	100	100	56	100	100	100

32. 検査・放射線部（放射線部門）

1. 人事異動 平成 28 年 4 月 1 日付

【転出者】	担当課長補佐	大谷 幸広	加古川医療センターへ
【転入者】	課長補佐	中出 貴英	がんセンターより
	主査	田島 将行	尼崎総合医療センターより

2. 活動状況

1) 放射線検査業務実績（表 1、2、3）

平成 28 年の放射線検査実績は、総検査人数 40,569 人で、前年より 292 人減少していた。これは、新病院への移転に伴い、入院患者を制限したり、外来診察を停止したりしたことによる。しかし、8 月以降は昨年度を上回っており、特に MRI 検査は、6 月 15 日から 2 台体制となり大幅に増加した。放射線治療は 8 月から再開し、全ての装置が予定どおり稼働を開始できた。時間外検査は、準夜帯・深夜帯の検査が増加している。また、診療報酬改定により、画像診断や放射線治療の小児加算が増加したため、収入は昨年より増加している。

2) 機器更新（表 4）

新病院では、MRI 装置およびポータブル撮影装置を増設し、放射線治療位置付け用 CT 装置、C アーム搭載型フラットパネルディテクタ X 線テレビ装置、X 線撮影用フラットパネルディテクターシステム、パノラマ・セファロ X 線撮影装置、X 線骨密度測定装置を更新した。また、全脊椎や全下肢を一度に撮影処理できる立位長尺フラットパネル装置や小児専用立位撮影装置などを全国に先駆けて導入した。

3) 医療事故防止の取組み

患者間違いや撮影間違いは重大な事故に発展する可能性があるため、その防止に向けて取り組んでおり、新病院では患者情報の取り込みにバーコード認証を導入したことで効果がでていいる。また、MRI 室へ磁性体の持ち込みがないように、入念な確認作業や担当看護師に対して講習会を開催している。今後も、重大な事故に発展する事がないように、他職種と連携しさらなる取組みを実施する。

4) 資質向上と教育

職員の資質向上を図るため、学会・研修会への積極的な参加と研究発表を行っている。また、新病院の紹介について学会誌に執筆も行った。今年度からレジデント制度を開始し、一般撮影や CT 検査を習得し当直にも従事している。来年も引き続き幅広いモダリティの研修を行う予定である。

- ・学会・研修会発表 : 9 演題
- ・学会・研修会等への参加 : 成育医療研修会（診療放射線技師コース）、全国自治体病院学会、小児放射線技術研究会、磁気共鳴医学会、日本核医学技術学会、医療情報学連合大会、兵庫県放射線技師学術大会、電離箱式サーバイメータ比較校正実習、県立病院放射線技師部会

< 認定資格 >

第 1 種放射線取扱主任者	1 名	放射線管理士	1 名
放射線機器管理士	1 名	核医学専門技師	1 名

医療画像情報専門管理士	1名	放射線被ばく相談員	1名
臨床実習指導教員	1名	日本DMAT隊員	1名
第2種放射線取扱主任者	1名	第1種作業環境測定士	1名

5) 新病院開院に際して

新病院開設に伴う医療法や放射線障害防止法等の許認可や廃棄、備付け届け、および立ち入り検査への適切な対応を行い予定どおりに検査が開始できた。開院に際して、機器の操作習得の時間が少なかったが、大きなトラブルはなく放射線検査が実施出来ている。

3. 来年度の課題

装置が新しくなり、患児や職員の負担が軽減している。今後はこれら装置を使いこなし、より安全に、より被ばくの少ない検査を目指して研鑽を積むことが必要である。また、医療事故防止については、部内の継続した取り組みに加え、今後も他部署との連携に着目した安全な検査を目指した取り組みを進めます。

(1) 放射線検査人数 (表 1)

区分		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	
単純撮影	X線撮影	外来	1309	1170	1665	1100	1020	1309	1400	1962	1387	1376	1343	1461	16502
		入院	280	268	321	212	131	160	160	175	149	127	193	112	2288
		計	1589	1438	1986	1312	1151	1469	1560	2137	1536	1503	1536	1573	18790
	ポータブル	外来					47	34	27	16	22	34	31	29	240
		入院	879	776	753	384	553	728	851	822	787	827	786	825	8971
		計	879	776	753	384	600	762	878	838	809	861	817	854	9211
単純撮影合計		外来	1309	1170	1665	1100	1067	1343	1427	1978	1409	1410	1374	1490	16742
		入院	1159	1044	1074	596	684	888	1011	997	936	954	979	937	11259
		計	2468	2214	2739	1696	1751	2231	2438	2975	2345	2364	2353	2427	28001
造影撮影	消化器	外来	22	20	26	13	19	23	22	27	19	21	14	18	244
		入院	16	20	24	13	19	23	20	13	20	14	26	21	229
		計	38	40	50	26	38	46	42	40	39	35	40	39	473
	脳血管	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		入院	0	4	3	2	1	1	2	3	0	2	0	1	19
		計	0	4	3	2	1	1	2	3	0	2	0	1	19
	心臓血管	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		入院	27	28	23	15	12	25	22	33	21	20	31	27	284
		計	27	28	23	15	12	25	22	33	21	20	31	27	284
	その他血管	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		入院	1	1	5	1	1	0	0	0	2	0	1	0	12
		計	1	1	5	1	1	0	0	0	2	0	1	0	12
	泌尿器系	外来	22	19	22	20	15	18	31	34	34	32	21	42	310
		入院	5	4	2	0	1	1	3	2	1	2	3	2	26
		計	27	23	24	20	16	19	34	36	35	34	24	44	336
	その他造影	外来	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
		入院	4	2	2	4	7	2	2	3	5	3	8	4	46
		計	4	3	4	4	7	2	2	3	5	3	8	4	49
造影撮影合計		外来	44	40	50	33	34	41	53	61	53	53	35	60	557
		入院	53	59	59	35	41	52	49	54	49	41	69	55	616
		計	97	99	109	68	75	93	102	115	102	94	104	115	1173
CT検査		外来	127	110	120	87	96	95	135	145	120	113	115	136	1399
		入院	116	114	120	68	67	90	102	135	117	94	111	112	1246
		計	243	224	240	155	163	185	237	280	237	207	226	248	2645
MRI検査		外来	118	115	148	112	86	133	198	298	191	171	189	198	1957
		入院	56	83	56	31	32	47	49	48	60	44	49	72	627
		計	174	198	204	143	118	180	247	346	251	215	238	270	2584
核医学検査		外来	16	9	25	12	8	13	15	33	12	16	9	21	189
		入院	9	4	12	2	5	12	5	6	8	1	8	8	80
		計	25	13	37	14	13	25	20	39	20	17	17	29	269
放射線治療		外来	0	5	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
		入院	71	26	9	0	0	0	87	21	40	60	15	329	
		計	71	31	12	0	0	0	87	21	40	60	15	337	
超音波検査		外来	348	296	414	299	256	335	467	643	370	418	429	379	4654
		入院	67	67	63	45	55	86	72	90	78	57	85	52	817
		計	415	363	477	344	311	421	539	733	448	475	514	431	5471
骨塩定量		外来	2	5	5	6	6	9	7	4	3	6	3	7	63
		入院	3	1	4	1	3	2	3	2	1	2	1	3	26
		計	5	6	9	7	9	11	10	6	4	8	4	10	89
総合計		外来	1964	1750	2430	1649	1553	1969	2302	3162	2158	2187	2154	2291	25569
		入院	1534	1398	1397	778	887	1177	1291	1419	1270	1233	1362	1254	15000
		計	3498	3148	3827	2427	2440	3146	3593	4581	3428	3420	3516	3545	40569

* 6月からMRI装置2台稼働

(2) 時間外 時間帯別検査人数 (表 2)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
日勤帯検査人数	235	161	177	90	138	128	220	154	208	220	195	255	2181
業務時間(時)	39	30	34	23	40	27	45	30	38	43	37	49	433
準夜帯検査人数	104	107	120	65	121	136	156	158	159	140	143	160	1569
業務時間(時)	35	40	38	22	50	46	51	51	52	46	21	48	498
深夜帯検査人数	39	28	35	13	95	87	68	60	45	51	32	60	613
業務時間(時)	17	14	16	7	36	31	27	24	18	19	14	24	245
検査人数(計)	378	296	332	168	354	351	444	372	412	411	370	475	4363
業務時間(計)	92	83	88	52	125	104	122	104	108	108	72	120	1176

(3) 時間外 検査種別検査人数 (表 3)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
ポータブル	312	215	237	109	251	281	339	276	305	310	265	350	3250
一般撮影	37	43	52	28	61	44	61	54	64	64	63	70	641
C T	27	33	38	27	35	23	41	39	40	31	40	47	421
T V	2	4	4	4	7	3	3	0	3	4	0	7	41
M R I	0	1	1	0	0	0	0	3	0	2	2	1	10
アンギオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	378	296	332	168	354	351	444	372	412	411	370	475	4363

(4) 新病院放射線機器一覧表 (表 4)

機器名	製造・販売業者	装置名	
MRI 装置	フィリップス	Ingenia 1.5T CX	増設
MRI 装置	フィリップス	Achieva 1.5T Nova Dual	移設
全身用 CT 装置 (320 列)	東芝メディカルシステムズ	Aquilion PREMIUM	移設
放射線治療位置決め用 CT 装置 (80 列)	東芝メディカルシステムズ	Aquilion PRIME	更新
血管連続撮影装置	フィリップス	Allura Xper FD20/20	移設
FPD システム (12 式)	富士フイルムメディカル	CALNEO Smart	更新
長尺 FPD 装置 (2 台)	富士フイルムメディカル	CALNEO GL	更新
泌尿器用 X 線テレビ装置	東芝メディカルシステムズ	Ultimax-i	更新
消化器用 X 線テレビ装置	日立メディコ	CUREVISTA	移設
診断用 X 線撮影システム (2 台)	島津製作所	RADspeed Pro	更新
医用画像システム	富士フイルムメディカル	VINCENT	移設
パノラマ・セファロ X 撮影装置	モリタ	Veraviewepocs 2DB	更新
ガンマカメラ	GE 横河メディカル	Infinia	更新
リニアック	シーメンス旭メデイトック	ONCOR Impression	移設
治療計画装置	ELEKTA	Xio	移設
移動型 X 線撮影装置 (2 台)	日立メディコ	Sirius 130HP	更新・増設
移動型 X 線撮影装置 (3 台)	日立メディコ	Sirius 130HP	移設
線量モニタリングシステム	米国 Sun Nuclear	1137 型 IVD2	更新
RI 対応安全キャビネット	日本エアテック	BHC-1307 II A2-RI-S	更新
X 線骨密度測定装置	HOLOGIC	Horizon W	更新
アンギオ用動画サーバー	ネクシス	Nahri AQUA	更新
超音波画像診断装置	日立アロカメディカル	Ascendus	更新
超音波診断装置	GE ヘルスケア・ジャパン	LOGIQ E9 with Xdclear	移設
超音波診断装置	GE ヘルスケア・ジャパン	LOGIQ S8	移設
外科用 X 線 C アーム装置	シーメンス	SIREMOBIL Compact-L	移設
外科用 X 線 C アーム装置	シーメンス	ARCADIS Orbic	移設
造影剤自動注入器 (アンギオ)	シーマン	ZONE MASTER MODELA	移設
造影剤自動注入器 (MRI)	根本杏林堂	Sonic Shot GX	移設
造影剤自動注入器 (MRI)	根本杏林堂	Sonic Shot 7	更新
造影剤自動注入器 (CT)	根本杏林堂	Dual Shot GXV	移設
造影剤自動注入器 (CT)	根本杏林堂	Dual Shot GX7	更新
造影剤自動注入器 (TV)	シーマン	ZONE MASTER SR Fusion	更新
キュリーメータ	アロカ	IGC-7E	移設
分注器	安西	AZ-2000N	移設

33. 栄養管理部

1. 人事異動 平成 28 年 4 月 1 日付

(転出者) 技師	友松 憲一	県立光風病院へ
職員	本澤 俊浩	県立明石学園へ
(転入者) 技師	米田 栄会	県立西宮病院より

(主な活動報告)

- ・ N S T (チーム医療) の円滑な稼働
- ・ 医療事故防止対策に関する取り組み。(ひやりはっと報告)
- ・ 褥瘡対策委員会及びクリニカルパス委員会への積極的な参画
- ・ I T 化の推進 (給食オーダーリングシステムの安定稼働)
- ・ 患者給食のサービス向上のための給食イベントの開催「クリスマス・ケーキバイキング食等の提供」等
- ・ 知識や技能の資質を向上させるための調理・栄養関係研修会への参加と課内研修会の充実
- ・ 栄養管理業務に関する研究の成果として学術学会等への積極的な参加と発表

2. これからの展望

平成 29 年に向けては、引き続き「安全な食事の提供」という栄養管理課の基盤業務と共に診療部門との更なる連携強化を図った栄養指導・相談を行うなど患者サービスの充実・向上に努める。

3. 給食

(1) 調製乳・食事月別延数

1) 患者

① 調製乳人数

(単位 人)

区分	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	%
調乳のみ人員(人)		1,412	1,624	1,621	1,144	1,212	1,529	1,594	1,751	1,844	1,825	1,830	1,968	19,354	75.0
調乳食事人員：調乳(人)		189	172	183	114	37	44	45	46	64	80	61	66	1,101	4.3
小計		1,601	1,796	1,804	1,258	1,249	1,573	1,639	1,797	1,908	1,905	1,891	2,034	20,455	79.2
調乳・食事人員(食事)		540	484	518	366	274	439	531	416	478	467	466	382	5,361	20.8
計		2,141	2,280	2,322	1,624	1,523	2,012	2,170	2,213	2,386	2,372	2,357	2,416	25,816	100.0

(注) 調乳・食事人員・・・調乳(人) 調製乳と食事が重複するもの

② 調製乳種類及び本数

(単位 本)

種類	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	%
13% レーベンスミルク		9,598	10,159	11,127	7,159	5,405	9,140	10,563	10,265	10,303	9,684	9,156	10,587	113,146	59.7
15% LW		3,228	3,517	2,609	1,836	1,725	1,733	2,065	2,108	2,634	2,359	2,540	2,130	28,484	15.0
特殊乳	13% LW										8			8	
	17% LW								8		54	180		242	
	6% レーベンスミルク												18	18	
	8% レーベンスミルク							16	265	270	279	182	269	1,281	
	9% レーベンスミルク		36						4		24			64	
	10% レーベンスミルク							16						16	
	14% レーベンスミルク							108	36	90	162			396	
	15% レーベンスミルク	152	199	217	377	229	339	568	777	748	1,073	1,042	742	6,463	
	16% レーベンスミルク	27	282	140	215	318	34							1,016	
	17% レーベンスミルク	527	642	508	348	376	237	287	203	387	768	929	682	5,894	
	18% レーベンスミルク										35	161		196	
	19% レーベンスミルク													63	63
	13% ARミルク						40	190	20		224	224	565	527	1,790
	14% ARミルク							8							8
	13% MA -1							8							8
	14% MA -1						9								9
	15% MA -1	108	272	296	196	16	169	15	90	51	3			198	1,414
	17% MA -1											15	30		45
	8% E赤ちゃん			10											10
	9% E赤ちゃん			9											9
	10% E赤ちゃん		9	9											18
	11% E赤ちゃん			9											9
	12% E赤ちゃん			9											9
	13% E赤ちゃん	262	210	335	321	248	184	196	285	171	184	476	465	3,337	
	14% E赤ちゃん			31	24										55
	15% E赤ちゃん				224	95									319
16% E赤ちゃん					180	270	279	215	150	30				1,124	
17% E赤ちゃん										10				10	
10% エレメンタルフォーミュラ														0	
13% エレメンタルフォーミュラ	54													54	
15% エレメンタルフォーミュラ	216	27												243	
17% エレメンタルフォーミュラ						24	32							56	
14% MCTフォーミュラ	1,200	693	961	700	600	675	182	443	397	366	368	590	7,175		
15% MCTフォーミュラ	63			14										77	
16% MCTフォーミュラ	9		27	19					80	40				175	

	17% MCTフォーミュラ	27								110	40			177	
	18% MCTフォーミュラ	54	191	299	270	279	270	18						1,381	
	15% 8806(低カリウム中リンフォーミュラ)						54	42				35	131		
	14% 必脂MCT(721)		45	337	155	154	197	138	54					1,080	
	9% エレンタール				52	48								100	
	10% エレンタール	11				21								32	
	13% エレンタール				143	116	45		30				55	389	
	15% エレンタール	51	100											151	
	16% エレンタール				27	16			15				6	64	
	17% エレンタール		42											42	
	18% エレンタール	16											2	18	
	20% エレンタール	112	30			52							7	201	
	23% エレンタール												24	24	
	26% エレンタール										28		7	35	
	27% エレンタール	12	4		74		148	52	3	42	36			371	
	5% エレンタールP		29											29	
	6% エレンタールP		18											18	
	10% エレンタールP	9	54				69	16	42	135	9		2	336	
	12% エレンタールP		9											9	
	13% エレンタールP		45		116		52		31	164	377		16	801	
	14% エレンタールP		9	15								9	63	96	
	15% エレンタールP	36	9							73				118	
	16% エレンタールP		9			9			60	90	510	774	428	1,880	
	17% エレンタールP	9	7				14							30	
	18% エレンタールP		6	99						96		35		236	
	19% エレンタールP	171	62											233	
	20% エレンタールP		16	6	11	12		25				132	231	433	
	21% エレンタールP		6											6	
	22% エレンタールP		6	6										12	
	23% エレンタールP		12											12	
	24% エレンタールP					14	12	32	49					107	
	25% エレンタールP							72	245	210	210			737	
	26% エレンタールP													0	
	27% エレンタールP	279	125	307	328	243				4	27			1,313	
	5% ケトンフォーミュラ												7	7	
	7% ケトンフォーミュラ												21	21	
	12% ケトンフォーミュラ												6	6	
	14% ケトンフォーミュラ												21	21	
	マクトンオイル	367	386	247	291									1,291	
	小計	3,772	3,590	3,877	3,905	3,075	3,107	2,046	2,977	3,559	4,374	4,542	4,467	43,559	23.0
濃厚流動食	リソースジュニア													0	
	GFO	46	45	45	2									138	
	アイソカルジュニア	297	290	251	136									974	
	MA-8プラス	498	675	621	473									2,267	
	小計	841	1,010	917	611	0	0	0	0	0	0	0	0	3,379	1.8
	滅菌水	45	119	101	101	80	63	121	84	74	64	111	38	1,001	0.5
	計	17,484	18,395	18,631	13,612	10,285	14,043	14,795	15,434	16,570	16,481	16,349	17,222	189,569	100.0
	空瓶 大 200 c c	4,230	4,557	4,623	3,810	2,545	2,938	3,286	3,894	4,632	5,961	5,245	5,456	51,177	46.0
	空瓶 小 100 c c	5,808	5,472	5,400	2,496	1,776	2,848	5,088	6,096	7,008	5,880	5,845	6,432	60,149	54.0
	計	10,038	10,029	10,023	6,306	4,321	5,786	8,374	9,990	11,640	11,841	11,090	11,888	111,326	100.0

③ 患者食事数

(単位 食)

区分		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
常食	学童食	2,272	2,437	2,352	1,335	1,079	1,680	2,440	3,008	2,075	2,297	2,102	2,421	25,498
	妊産婦食	1,777	1,448	1,467	282	457	1,212	2,390	2,045	2,077	2,396	1,445	1,595	18,591
	小計	4,049	3,885	3,819	1,617	1,536	2,892	4,830	5,053	4,152	4,693	3,547	4,016	44,089
軟菜・幼児・離乳	幼児・離乳食	2,637	2,539	2,403	1,757	1,995	2,874	2,835	2,225	2,602	2,664	3,173	2,331	30,035
	軟菜・流動食	574	339	375	494	677	975	1,082	975	848	750	822	852	8,763
	小計	3,211	2,878	2,778	2,251	2,672	3,849	3,917	3,200	3,450	3,414	3,995	3,183	38,798
非加算特別食	ペースト食	169	112	136	116	113	150	123	202	167	211	161	153	1,813
	アレルギー食	369	570	805	411									2,155
	自由食													0
	口蓋裂食	23	2	30	13		14	89	150	39	39		40	439
	扁摘術後食	157	76	70	109	46	48	123	135	60	148	109	130	1,211
	移植対応食	331	321	175	49	197	334	354	444	463	504	535	401	4,108
	クローン病食													0
	低残渣食	12	51	80	40	38	1	39	2	5	25	7	7	307
	肥満食								66	36	2	67	28	199
	ケトン食													0
	減塩食													0
	その他特別食	497	455	572	393	366	585	775	652	521	467	423	466	6,172
	小計	1,558	1,587	1,868	1,131	760	1,132	1,503	1,651	1,291	1,396	1,302	1,225	16,404
加算特別食	腎臓食	195	177	171	204	255	110	75	216	193	350	252	195	2,393
	肝臓食	108	113	269	146	56	186	188	79	30	3	111	18	1,307
	糖尿病食	134	48	133	88	129	194	70	15	100	57	118	100	1,186
	乳び胸食	32	10			5		23	3	89	111	41		314
	心臓食												18	18
	低ナトリウム食													0
	検査食(加)													0
	妊娠中毒症食	296	119	12				41	215	124	74	98	106	1,085
	妊産婦糖尿病食													0
	妊産婦肝臓病食													0
	高尿酸血症食													0
小計	765	467	585	438	445	490	397	528	536	595	620	437	6,303	
計	9,583	8,817	9,050	5,437	5,413	8,363	10,647	10,432	9,429	10,098	9,464	8,861	105,594	
検査等	保存食	186	174	186	180	186	180	186	186	180	186	180	186	2,196
	検査食	188	176	188	182	188	182	188	188	182	188	182	188	2,220
	小計	374	350	374	362	374	362	374	374	362	374	362	374	4,416
合計	9,957	9,167	9,424	5,799	5,787	8,725	11,021	10,806	9,791	10,472	9,826	9,235	110,010	

④ おやつ数

(単位 食)

月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
おやつ数	2,273	2,173	2,253	-	1,515	2,057	2,354	2,285	1,996	2,129	2,216	1,972	23,223

2) 患者外(保育食)

食事数 (単位 食)

月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
保育児食	250	269	406	95	94	79	109	128	140	170	146	159	2,045

(2) 栄養指導月別種類別件数

(単位 件)

種類	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
1型糖尿病		28	28	32	25	31	30	32	31	32	38	34	34	375
2型糖尿病		16	25	15	15	10	20	14	21	19	19	15	23	212
妊娠糖尿病		0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	1	4
肥満		10	9	7	4	6	15	10	8	14	9	8	10	110
腎臓病		2	2	6	2	2	3	1	5	1	1	5	3	33
妊娠高血圧症候群		0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
心臓病		2	1	1	0	0	0	0	3	2	4	3	1	17
肝臓病		0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	1	2	7
膵臓病		1	1	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	5
フェニルケトン尿症		0	3	0	3	1	3	2	1	3	0	3	0	19
ガラクトース血症		0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	4
脂質異常症		2	3	4	1	1	2	1	1	2	2	1	0	20
高尿酸血症		2	1	2	1	0	0	0	2	0	1	0	1	10
胃潰瘍食		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
低残渣食		0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	4
小児食物アレルギー		11	4	7	3	2	5	6	4	7	4	4	9	66
貧血食		0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	2
移植対応食		8	10	5	3	3	2	0	0	3	0	4	1	39
てんかん食(ケトン食)		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
がん		0	0	0	0	0	5	5	11	7	3	7	2	40
摂食・嚥下機能低下		2	1	2	2	2	7	11	4	4	1	5	3	44
ミキサー食(胃ろう)		0	2	4	2	3	2	2	2	2	3	2	2	26
低栄養		0	0	0	2	2	7	3	3	4	4	4	3	32
調乳(標準ミルク)		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
調乳(特殊ミルク)		0	0	1	2	0	0	0	0	2	0	0	0	5
調乳(高濃度ミルク)		1	2	0	1	2	1	0	1	1	2	1	0	12
その他		8	5	4	1	2	1	3	3	1	5	5	1	39
件数 外来(件)		80	85	78	57	60	88	76	83	84	83	77	80	931
人数 外来(人)		158	157	160	114	117	187	158	173	168	168	152	169	1,881
件数 入院(件)		13	15	12	11	7	19	15	18	22	16	29	18	195
人数 入院(人)		27	30	22	22	14	38	31	34	42	35	59	35	389
合計(件)		93	100	90	68	67	107	91	101	106	99	106	98	1,126
合計(人)		185	187	182	136	131	225	189	207	210	203	211	204	2,270

34. 家族支援・地域医療連携部

I. 組織

28年は、新病院への移転に伴い、組織および名称の改変を行った変動の年であった。

精神科の充実に伴い組織改変として、精神保健福祉相談員と心理判定員は精神科所属となり、当部署から離れ精神科の業務に専念できるようにした。そして当部署の業務は、入院時から退院後の在宅生活の支援も含めた活動に主眼をおき、看護師と医療福祉相談員が中心となって家族の支援に努めた。これを機に、病院設立当初の「指導」という上から目線ではなく「患者・家族に寄り添い支援をする」という姿勢を明確に示すために、「指導相談・地域医療連携部」改め「家族支援・地域医療連携部」に名称変更を行った。

部長	宅見晃子（総合診療科医師）
次長	橋本ひとみ（看護師）
看護師	渡邊千恵 藤定睦子
医療福祉相談員	小橋諒子 松尾さおり（育児休暇中） 河野沙和子（がん相談担当）

予約センターでは、委託業者が受診予約を担当している。

II. 平成 28 年活動

< 28年の主な活動 >

1. 新たな紹介病院、診療所の登録

① 病院訪問による紹介依頼

2. 広報活動の推進（ホームページ更新、年報作成、広報誌「げんきカエル」作成）

3. 在宅療養支援の推進

① 訪問看護ステーションとの連携強化（カンファレンス開催・研修会開催）

② 地域医療機関との連携強化（カンファレンス開催・病院訪問）

③ 制度活用支援・医療機器等の購入支援

④ 周産期センターからの退院児への支援

⑤ 在宅支援病棟での在宅支援の後方支援

4. 院内各科の診療支援

① 院内他部署への連絡調整・院外関係機関への連絡調整

② 家族背景へのケースワーク

5. 患者家族の不安への対応

① 医療制度・福祉制度の説明

② 在宅での医療資源・福祉資源の紹介

③ 各種手続きのサポート

④ その他、治療や生活全般の不安に対する不安の解消への手助け

6. 発達支援・養育支援

- ① 虐待防止活動（委員会開催、地域との連携、家族支援）
- ② 事故予防活動（外傷カンファレンス開催、症例集積、地域との連携）
- ③ 発達相談、育児相談活動（評価、診断、関わり方指導）

7. 教育支援

- ① 教育機関とのカンファレンス

<今後の活動目標>

- ① 医療的ケアを必要とする児と家族が安心して在宅生活を送れるように支援する
- ② 高度専門医療機関としての役割の広報に務め、地域との連携を強化していく
- ③ 地域医療支援病院として、地域医療機関の研修に貢献するよう努める
- ④ 疾病を抱えた子どもと家族の育児支援に努める
- ⑤ 事故予防・虐待予防を含めた子育て支援に努める
- ⑥ 子どもと家族の不安の解消に努める
- ⑦ 小児がん拠点病院としての責務を果たすための支援に努める
- ⑧ 広報活動を強化し、患者獲得に努める

表1 支援内容別業務統計

	内 容	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	2015年	
1	療養中の心理的・社会的問題の解決・調整援助	390	410	471	216	143	204	215	172	134	167	214	217	2953	5383	
2	退院援助	22	21	32	39	19	16	23	20	27	47	42	67	375	548	
3	社会復帰援助	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	5	16	
4	受診・受療援助	29	29	35	29	12	19	15	11	6	5	13	6	209	338	
5	経済的問題の解決・調整援助	24	22	32	17	33	47	27	32	34	52	37	43	400	517	
6	地域活動	0	0	0	1	5	5	4	2	7	22	2	2	50	11	
7	発達外来	10	10	17	総合診療科の外来に変更した										37	173
8	養育支援(虐待予防を省く)	0	0	0	0	4	2	2	3	2	2	0	3	18	3	
9	虐待・虐待予防関連	4	10	8	8	0	6	2	1	3	5	7	5	59	171	
10	発達・発育指導	8	8	17	0	0	0	0	1	0	0	0	0	34	147	
11	わらび学級入級手続き	5	0	3	分教室になり直接で入級手続きができる為、介入終了										8	30
12	一時保護	0	0	1	1	0	0	2	0	0	0	1	1	6	6	
13	がん患者の社会的問題の解決・調整	51	26	36	19	20	20	20	41	60	22	30	22	367	655	
14	その他	0	0	1	1	0	0	1	0	1	2	0	0	6	9	
	合 計	543	538	653	332	236	319	311	283	274	324	346	368	4527	8007	

表2 関連機関カンファレンス

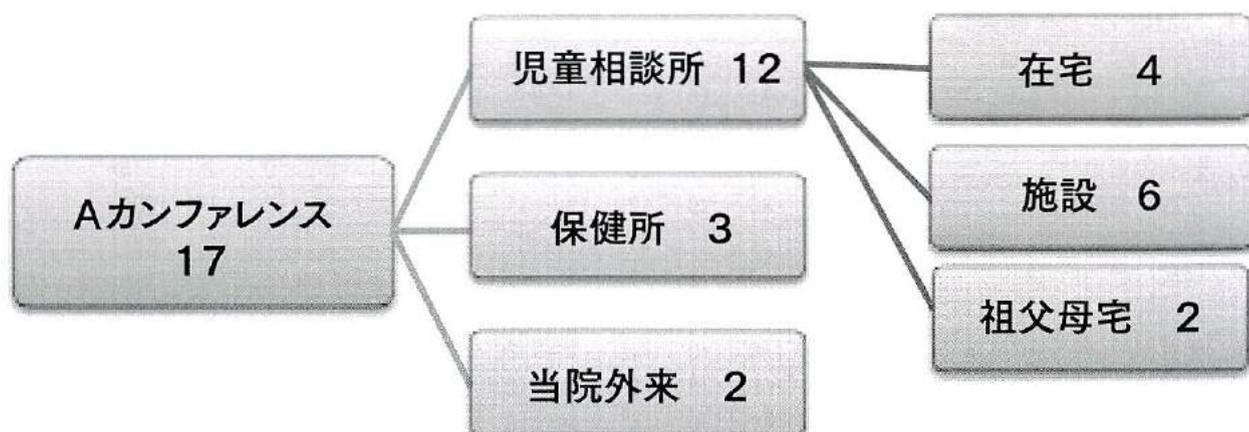
	機 関	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	2015年
1	被虐待児等症例検討会	0	3	1	1	1	2	1	2	1	4	3	3	22	18
2	外傷カンファレンス	1	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0	0	5	18
3	施設入所カンファレンス	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	6
4	在宅病棟移行前カンファレンス	新体制～				8	2	0	3	1	3	0	3	20	
5	在宅病棟カンファレンス	新体制～				3	12	12	8	13	10	9	14	81	
6	外泊前カンファレンス	2	1	5	0	0	0	0	3	0	0	0	0	22	38
7	退院前カンファレンス				2	0	3	3	0	1	0	1	1	11	
8	教育機関カンファレンス	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	7
9	臓器提供Aカンファレンス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合 計	4	5	9	4	12	19	16	16	17	20	13	21	145	87

表3 電話相談件数

項 目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	2015年
電 話 相 談	13	13	4	6	13	13	3	12	13	11	0	14	115	111

表4 2016年1月～12月 Aカンファレンス 外傷(疾患)別処遇

	一時保護	児童相談所	保健所	外来のみ	フォローなし	合計
くも膜下出血	0	1	0	0	0	1
頭蓋骨骨折+くも膜下出血	0	0	1	0	0	1
硬膜外血腫	0	0	0	0	0	0
硬膜外血腫+頭蓋骨骨折	0	0	0	0	0	0
硬膜下血腫	0	3	1	1	0	5
硬膜下血腫+頭蓋骨骨折	0	0	0	0	0	0
上腕骨骨折	0	1	0	0	0	1
臍臓損傷	0	1	0	0	0	1
腹部刺傷	0	1	0	0	0	1
ネグレクト	0	2	1	0	0	3
医療ネグレクト	0	0	0	1	0	1
顔面叩打	0	1	0	0	0	1
腹部叩打	0	1	0	0	0	1
薬物中毒	0	1	0	0	0	1
心肺停止	0	0	0	0	0	0
溺水	0	0	0	0	0	0
合計	0	12	3	2	0	17



Ⅲ. 支援依頼

1. 在宅療養支援の依頼

当部署に紙面またはコンサルテーションで依頼があった件数を表で示す。内容として、医療制度の案内、施設の紹介等が多かった。

表5 依頼件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	2015年
コンサルテーション	7	3	11	3	6	10	6	6	2	9	6	8	77	95
内訳 (外来)	1	2	5	2	2	6	3	3	0	3	2	4	33	
(入院)	6	1	6	1	4	4	3	3	2	6	4	4	44	

*直接電話での依頼は集計に含まず

2. 退院支援の依頼

移転前は退院スクリーニングシートで依頼、移転後はチーム医療（退院支援）で依頼があった件数を示す。

表6 依頼件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	2015年
チーム医療（退院支援）	37	38	25	21	13	21	13	18	19	20	16	23	264	486

表7 診療科別退院支援件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	2015年
総合診療科（総合）			1	1	1	3		1	1	2	1		11	1
総合診療科（救急）	6	3	5	4	1	4			1				24	
新生児科	20	23	9	8	5	9	8	9	11	12	9	14	137	292
神経内科					1	1					1		3	4
循環器内科	2	3	2	2			2			1	2	2	16	43
代謝・内分泌内科													0	1
血液・腫瘍内科	1		1	2					1				5	12
小児集中治療科			1				1		1	2	1	2	8	54
小児外科	2	4	4	3	2	1		2	1	2		1	22	46
心臓血管外科	4	4			1	3	1	3	2		1	2	21	11
脳神経外科	1	1	2		2		1	1	1			2	11	14
形成外科				1						1			2	1
整形外科	1										1		2	5
泌尿器科								1					1	2
眼科								1					1	0
合計	37	38	25	21	13	21	13	18	19	20	16	23	264	486

表8 退院支援加算

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	2015年	
加算1 (600点)	24	10	10	診療報酬が変更された										44	184
加算2 (1200点)	6	6	6										18	71	
加算3 (1200点)	-	-	-	20	4	10	7	11	14	18	10	21	115		

4月から退院支援加算2が退院支援加算3になった

家族支援・地域医療連携部（予約センター）

1. 業務内容

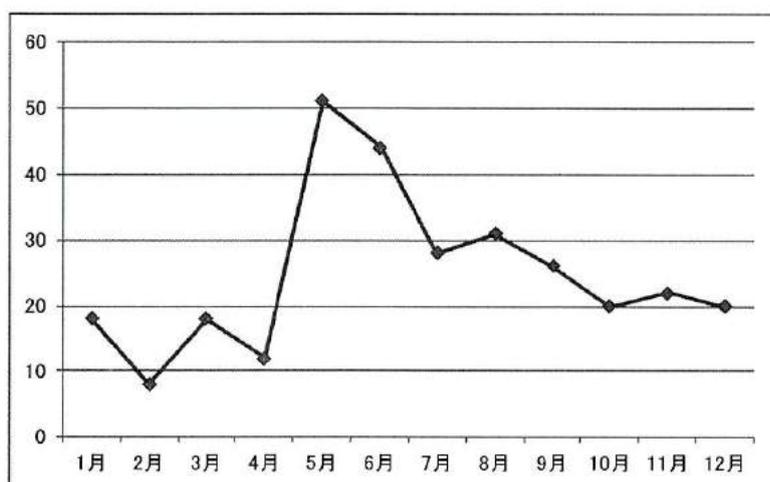
予約センターは委託職員が従事し、移転前は主に初診患者の予約業務と受診報告書の発送を行っていた。移転後は再診予約も予約センター職員が行い、予約日変更や確認の電話が多くなり、通常業務に支障が出てきた。しかし、医事企画課の他の委託職員の応援があり、後半は通常業務ができるようになった。

延べ数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	2015年
メール相談対応数	4	7	5	4	5	4	1	5	2	4	10	5	56	108
(内訳)各科医師相談	1	0	1	0	0	2	1	2	1	0	1	1	10	32
地域医療連携で返答	3	7	4	4	5	2	0	3	1	4	9	4	46	76
セカンドオピニオン数	0	2	1	3	3	2	1	6	3	5	2	0	28	19
受診報告書発送数（紹介状件数）	418	417	482	323	337	544	464	571	411	437	413	439	5256	5787
返書率	97.2	91.1	93.7	93.1	65.6	84.1	87.1	91.5	86.8	89.2	89.7	91.8	88.4%	93.8%
新患 FAX 予約受付件数	401	410	426	291	400	474	345	444	343	359	362	329	6397	5358
新患電話予約受付件数						259	288	253	241	256	275	241		
新患予約キャンセル受付件数	11	9	11	12	8	15	8	19	6	8	11	6	124	98
再診対面・電話予約受付件数						3212	2853	2075	2252	2020	1795	1839	16046	—
その他（予約日確認などの電話件数）						140	929	1004	1147	752	731	807	5510	—

2. 紹介元新規医療機関

紹介元医療機関の登録件数は199件あった。2005年から地域医療連携業務を行い、2016年12月末で累計は4596件になった。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	2015年
新規登録件	18	8	18	12	51	44	28	31	26	20	22	20	298	199



35. ME 室

【スタッフ紹介】

主査 横山 真司 体外循環技術認定士

秋元 明日香

三坂 勇介

箕田 拓磨

秋山 正太

立野 聡

土谷 海雲

井原 智弘

吉本 由衣

【業務実績】

医療機器管理業務

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
院内修理	13	24	33	7	7	12	20	27	23	24	30	14	234	19.5
依頼点検	8	9	11	6	11	13	12	6	10	14	16	5	121	10
定期点検	738	833	1071	797	766	885	1005	1341	1304	1279	1415	1493	12927	1077
メーカー修理・点検	0	1	0	0	1	1	1	1	0	1	0	0	6	0.5
病棟ラウンド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アンビュールプ点検	139	138	148	118	77	161	173	194	139	131	127	135	1680	140
その他	0	1	2	3	2	2	0	0	0	0	0	0	10	0.8

臨床業務

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
体外循環	17	19	17	10	13	13	12	18	20	16	18	15	188	15.6
ECMO	1	1	2	0	0	0	4	2	2	1	1	2	16	1.3
人工心臓・ECMOスタンバイ	1	2	0	0	0	3	0	2	0	0	2	3	13	1
血液浄化療法	23	6	3	3	0	3	6	0	5	8	0	16	73	6
自己血回収	17	19	17	10	13	13	12	18	20	17	18	16	190	15.8
MEP	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	0.1
SPECTRA	0	1	1	1	0	0	0	1	0	0	1	0	5	0.4

各種委員会活動

仕様策定委員会

リスクマネジメント委員会

手術室運営委員会

呼吸ケア部会

36. 医療安全管理室

医療安全管理室は、医療安全部長を室長、管理局長、看護部長を副室長、副院長、診療部長、薬剤部長、医療安全対策担当課長、実働メンバーとして8名の総括リスクマネージャーと総務部長、総務部次長で構成され、院内の安全管理を担っている。

主な活動内容

1. ヒヤリハット報告書に基づく評価・対策の検討

- 1) 総括リスクマネージャー会議を毎週月、木曜日に開催し、送られてきたヒヤリハット報告書に基づき評価・分析、解決策の検討を行った。
- 2) 月1回のリスクマネジメント部会では、各部門が前月分のヒヤリハット内容と評価・対策を報告し、院内で起こったヒヤリハットについて集約し検討を行った。
- 3) リスクマネジメント部会での報告・検討結果を医療事故防止委員会に報告した。

2. Morbidity & Mortality カンファレンスにおいては、1回開催し、次回の事前打ち合わせを行った。

3. コード99症例は、医療安全管理室よりメール配信し情報の共有化を行った。

4. 院内ラウンドは、多部門での定期的開催はできなかったが、ヒヤリハットに応じてラウンドを行った。

5. ヒヤリハット報告

2016年のヒヤリハット報告件数は、2503件で前年度より81件の減少であった。レベル別報告数の割合はレベル0が7%減少し、レベル1が5%増加している。また、レベル3bの医療事故報告が4件あった。部門別にみると看護部からの報告件数が84%をしめ、診療部は4%と約1%（前年度より20件）減少した。

全体的に、ヒヤリハットレベルが高くなっている傾向があることにより、各部門のリスクマネージャーを中心に重点課題を決め取り組み、リスク感性の向上と安全な対応ができることが求められている。また、医療の基本である患者確認を周知徹底し、より安全な医療を提供できるように、医療安全対策室を中心に教育を検討する。レベル0のヒヤリハット報告を推奨しポジティブな視点でヒヤリハット事例を検討することも重要である。

1) レベル別報告件数

レベル0	レベル1	レベル2	レベル3a	レベル3b
719件 (29%)	1700件 (68%)	78件 (3%)	6件 (0.2%)	4件 (0.11%)

2) 部門別ヒヤリハット報告件数

診療部	看護部	検査部	放射線部	薬剤部	リハビリ	栄養指導課	医事課
107 (4%)	2107 (84%)	24 (1%)	185 (7%)	54 (3%)	7 (0.3%)	19 (0.1%)	0 (0%)

6. 主な改善に向けた取り組み

- 1) 薬剤関連のヒヤリハット事例を「安全通信」に掲載し正しい処方方法について周知した。又、医局会メールを利用して情報を共有した。
- 2) 麻薬の重症集中病棟への配置の要望に対して、薬剤部内での払い出し方法を変更し周知したことで、問題となる事例はなく、定数配置にはいたっていない。
- 3) 外来での患者の身長・体重測定の際の転記ミスについては、Wチェック、患者・家族との確認、システムで前回値と比較することを周知し、ヒヤリハット件数は減少している。
- 4) ヒヤリハット情報より病院施設面での不具合について、写真の掲示、注意喚起を行い、施設面の修理を依頼した（特浴室の排水用の溝のフタを設置、7階浴室の浴槽の水道の修理）
- 5) アレルギー情報についてわかりやすく、また、安全性を考え表示マークの変更や造影検査におけるチェック項目を追加、変更を情報管理委員会と協議中である。
- 6) 新病院への移転後は、院内統一の麻酔カートを配置した。

7. 医療安全研修会、勉強会の開催

テーマ	開催日	参加者
各部門の安全への取り組み、“医療事故がおきたら” NEO最強の医療安全フォーラム レジリエンスの観点からの医療安全、医療コミュニケーション	3月8日	151名
	9月16日	26名
	10月21日	260名
Morbidity&Mortality カンファレンス どうなる・どうする重症外傷	12月1日	86名
新採用看護師安全教育	4月6日	120名
新採用医師安全教育	4月2日	25名
新採用補助者・ボランティア安全教育	採用時	約15名

8. 医療安全情報の提供

- 1) 日本機能評価機構からの医療安全情報の提供を月1回行った。
- 2) 院内、院外での重要なヒヤリハット事例を、医療安全ニュースとして発行し情報提供を行った。

37. 感染対策室

感染対策委員会は委員長を副院長、副委員長を診療部長、看護部次長とし、委員を院長、総務部長、検査技師長、栄養管理課長、看護部長、医療安全対策担当課長、感染管理認定看護師の他、診療部 8 名、看護部 4 名、検査部 3 名、薬剤部 2 名、放射線部 1 名、臨床工学技士 1 名、リハビリ部門 1 名、医事企画課 1 名の計 31 名で構成され、院内の感染管理を担っている。このうち診療部 3 名、看護部 1 名、検査部 1 名、薬剤部 1 名の計 6 名が感染対策チーム（ICT）を結成し、実動部隊として活動している。また、2016 年度より抗菌薬適正使用チーム（AST）が発足し、薬剤部 1 名、診療部 4 名（委員会外から 2 名）、検査部 1 名、看護部 1 名で活動している。

主な活動内容

1. 定期的な会議、ラウンドの実施

1) 院内感染対策委員会（毎月第 2 金曜日）

病原微生物の分離状況、抗緑膿菌薬の使用状況、ICT および AST 活動などを報告、検討

2) ICT 会議（毎週木曜日）

病原微生物の分離状況、感染経路別予防策を実施している患者の状況、ICT ラウンド結果、その他事項について検討

3) ICT ラウンド（毎週木曜日）

環境整備を中心に、毎週異なるテーマでチェックリストに沿って実施

4) ASP カンファレンス（5 月～ 毎週木曜日）

耐性菌の検出状況、抗緑膿菌薬の使用状況の情報共有、その他抗菌薬適正使用のための取り組み

5) デバイスサーベイランスカンファレンス（6 月～ 毎週水曜日）

サーベイランスに必要なデバイス関連感染症の判定の他、感染対策の評価と改善策の検討を CICU および PICU スタッフとともに実施

6) 細菌検査室ミーティング（毎日）

無菌検体（主に血液培養）陽性患者、その他の検体で病原微生物が陽性の患者、感染対策が必要な患者について情報共有

2. 職員教育

研修会	開催日	参加人数
看護補助者オリエンテーション 「感染対策の基本」	計3回	3名
平成27年度第2回全職員対象感染対策研修会 「シンプルイズベスト！感染対策」	3月3日	207名
新規採用医師感染対策オリエンテーション 「小児専門病院の感染対策」	4月1日	30名
平成28年度第1回全職員対象感染対策研修会 「楽しく学べる感染対策の重要ポイント～耐性菌も含めて～」	7月5日	287名
ボランティアオリエンテーション 「感染対策の基本」	8月24日	4名
窓口業務職員対象感染対策研修会 「窓口業務における感染対策」	9月23日	27名
平成28年度第2回全職員対象感染対策研修会 「あなたの水回りの耐性菌 ～今こども病院に必要なこと～」	10月18日	225名
神戸ハウススタッフ向けオリエンテーション 「感染対策の基本、吐物の処理」	11月18日	6名
平成28年度第2回全職員対象感染対策研修視聴会 「あなたの水回りの耐性菌 ～今こども病院に必要なこと～」	11月～12月 (計6回)	401名

3. 各種ガイドライン、マニュアルなどの作成

感染対策マニュアルの定期改訂作業中（5月～）

耐性菌の管理ガイドライン変更による MRSA の入院時スクリーニングと入院患者の定期サーベイランス中止（5月）

見学者と研修生の流行性感染症調査のルール変更（6月）

感染経路別予防策ガイドライン策定、感染症患者の入院病棟判断フロー作成（8月）

空気感染対策ガイドラインの策定（10月）

アウトブレイク対応マニュアルの作成、感染性胃腸炎患者の対応についてルール作成（12月）

4. 各種サーベイランスの実施

CICU デバイスサーベイランス（6月～）、PICU デバイスサーベイランス（11月～）

一般外科消化器手術 SSI サーベイランス、AUR サーベイランス

5. 感染症発生時の対応

新生児病棟：MRSA のアウトブレイク2回（7月～9月、11月）

感染経路別予防策が必要な患者の発生時、適宜対応した。

職員のインフルエンザ発症は56例。（アウトブレイクや患者への伝播なし）

6. 感染対策に関する各種相談への対応

新病院移転に伴う感染対策に関する各種備品の準備・調整、感染管理システム導入に伴う準備

7. 各種啓発活動

市中における感染症の流行（インフルエンザなど）や注目すべき感染症の発生時（麻しん、侵襲性髄膜炎菌感染症）に、注意喚起のための情報を配信

抗菌薬啓発週間（11月）、2016年度よりマスク着用令は中止

8. ファシリティマネジメントとして、ファシリティ部門への助言と感染対策の強化

各種業務（清掃、リネン、滅菌）の定例会への出席、新病院移転に関する各種問題への対応
内視鏡管理の中央化（10月）

9. 職業感染防止の活動

- 1) 流行性ウイルス感染症ワクチンプログラムとして、委託業務職員を含む全新規採用職員の抗体検査とワクチン接種を実施

【2016年に接種した流行性ウイルス感染症ワクチン】

	新規医師	新規看護師	新規その他	委託業務職員
抗体採血	32名	130名	42名	51名
麻疹	19名	60名	17名	18名
水痘	0名	5名	1名	3名
風疹	6名	5名	3名	6名
ムンプス	13名	22名	14名	14名
M R	1名	19名	6名	8名

- 2) 職員対象のインフルエンザワクチンの接種（11月）

病院職員：908名、委託職員：200名

- 3) 職員対象のB型肝炎ワクチンの接種

1クール（3回）接種：140名、ブースター（1回）接種：14名

- 4) 血液媒介ウイルス感染防止を目的とした、針刺し・切創、血液・体液曝露についての啓発活動、事象発生時の迅速対応

【2016年に発生した針刺し・切創、血液・体液曝露】

総件数：22件														
内容	針刺し 13件		切創 3件		咬創 3件		擦過傷 1件		血液・体液曝露 2件					
発生部署	手術室 5件		病棟 11件		採血室 3件		その他 2件							
受傷者	医師 3名		看護師 13名		検査技師 4名		患者 1名		その他 1名					
原因器材	注射針 6件		メス 1件		縫合針 2件		翼状針 3件		留置針 1件		血液 2件		その他 3件	

10. 院外活動

- 1) 感染防止対策加算関連

加算1：2016年度より、①神戸大学医学部附属病院、②済生会兵庫県病院との連携に変更相互ラウンド実施（10月に②から受審、11月に①を審査）

加算2：みどり病院と連携。施設間カンファレンス（11月・12月）

- 2) 小児総合医療施設協議会（JACHRI）関連

小児感染管理ネットワーク多職種会議に出席（2月）

相互ラウンド実施（あいち小児総合保健医療センターを7月に審査、10月に受審）

- 3) 県立病院感染対策会議出席（11月）

- 4) 神戸市新型インフルエンザ等対策病院連絡会参加

38. 褥瘡管理室

褥瘡対策委員会は、委員長を形成外科医師、副委員長を看護部次長とし、委員として小児外科医師、看護師、薬剤師、検査技師、管理栄養士、医事課職員により構成され、院内の褥瘡対策及び創傷ケアを検討し、トータルケアを行うことにより、創傷ケアの効果的な推進を図ることを目的としている。平成24年度より褥瘡管理者を置き、褥瘡ハイリスクケア患者ケア加算を導入した。

主な活動内容

1. 褥瘡対策状況

褥瘡対各委員会を月に1回開催し、褥瘡対策に関する報告、情報の共有を行い、褥瘡ケアの評価や対策の検討をおこなう。

1) 褥瘡発生率

2.8% (過去14年で3番目に低い値 過去の発生率は2.6%～4.0%)

褥瘡発生率 = 褥瘡発生数 ÷ 総新規入院数

2) 褥瘡推定発生率

1.4% (過去10年で1番低い値 過去の発生率は1.4～2.7%)

月の1日を調査日とし、

褥瘡推定発生率 = (調査日に褥瘡を保有する患者数 - 院外発生患者数) ÷ 調査日の入院患者数

3) 褥瘡リスクアセスメント実施数 6569件 (月平均547件)

4) 褥瘡ハイリスク患者特定数 967件 (月平均81件)

5) 褥瘡予防治療計画件数 2336件 (月平均195件)

6) 褥瘡ハイリスク患者ケア実施件数 1330件 (月平均110件)

7) 褥瘡発生詳細

褥瘡発生件数 155件

褥瘡発生個数 175個 (体圧による褥瘡は47個、医療機器関連圧迫創は127個、不明1個)

褥瘡発生件数の多い部署

5月以降90件のうち CICU (29)、PICU・ICU (28)、手術室 (7)、6東 (7)、5西 (7)

2. 褥瘡回診状況

褥瘡ハイリスク患者対象の「ハイリスク褥瘡回診」と 週1回実施する褥瘡対策必要患者対象の「総合褥瘡回診をおこなっていた。

平成28年5月より褥瘡発生者を中心に形成外科医師と皮膚・排泄ケア認定看護師、褥瘡対策委員会のメンバーと週1回「褥瘡回診」をおこなっている。褥瘡予防治療計画書をもとに、褥瘡予防、治療方法を評価・検討し、カンファレンスを実施している。

1) 褥瘡回診 回診回数48回 患者数1159名 (のべ)

2) カンファレンス実施数 48回 (月平均3.5回)

3. 新人看護師対象の褥瘡講義の実施

4. 領域別看護ケア向上委員会における事例検討と勉強会の実施

5. 各部署カンファレンスや病棟会における褥瘡勉強会の実施

39. がん相談支援室

がん相談支援室は、小児がんセンター長のもと、血液腫瘍科医師、小児看護専門看護師、医療福祉相談員が小児がんに関する相談に応じている。

スタッフ

医師	石田敏章（血液・腫瘍内科医師）
看護師	中谷扶美（小児看護専門看護師）
医療福祉相談員（MSW）	松尾さおり 河野沙和子
医師クラーク	今吉春奈

平成 28 年 主な活動内容

1. 院内外の小児がんと診断された子どもと家族に対する対面相談、電話相談
 - ・小児がんの病態、標準的治療法等小児がん診療等に関する一般的な情報の提供
 - ・地域の医療機関及び医療従事者に関する事例の情報の収集、提供
 - ・小児がん患者の発育、教育及び療養上の相談
 - ・地域における小児がん診療の連携協力体制の事例に関する情報の収集、提供
 - ・その他の相談支援
2. 小児がんの子どもと家族の療養環境の改善
 - ・がんサロン（名称：nanaくつろぎサロン）の開催（計3回）
 - ・復学支援カンファレンスの調整
3. 院内外の医療従事者への小児がんに関する情報提供
 - ・小児がん看護研修会の企画、運営（看護部、緩和ケアチームとの共同開催）
 - ・近畿ブロック小児がん拠点病院相談員研修の開催（近畿ブロック5病院共催）
 - ・問い合わせに対する相談対応
4. 小児がんを対象とする患者会との調整窓口
5. 相談支援室会議
 - ・月1回開催、小児がんに関する情報の共有、相談支援室の活動の評価・検討
6. 小児がん中央機関、その他の小児がん拠点病院との連携体制強化
 - ・国立成育医療研究センター主催「小児がん相談員継続研修」の修了
 - ・小児がん拠点病院連絡協議会相談支援部会への出席、メーリングリストへの参加

平成 28 年 がん相談支援室相談対応件数

	会議資料	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
がん相談件数 (院内)	相談総件数	40	20	25	15	24	22	42	29	34	19	32	25	327
	1) 対面相談	38	17	25	15	23	20	40	29	31	18	30	22	308
	2) 電話相談	1	3	0	0	1	2	2	0	3	1	2	3	18
院外電話相談		1	0	0	1	0	1	0	0	1	1	0	2	7
計		40	20	25	16	24	23	42	29	35	20	32	27	333

40. 院内学級（みなと分教室・わらび訪問学級）

1. 体制

長期入院のため登校できない小中学生が、みなと分教室（小中学部）に在籍し、神戸市立友生支援学校病弱部門の教員より教室で授業を受けられるようになっている。しかし、28年度は、ほとんどの子供がベッドサイドでの訪問指導を受けている状況であった。

重症心身障害のある生徒（16～18歳）は、わらび訪問学級（高等部）に在籍し、ベッドサイドでの訪問指導を受けられるようになっている。

当部署が、保護者への入級説明、小中学校との連絡調整、主治医との面談を行っている。

2. 在籍状況

2016年度 みなと分教室・わらび訪問学級 在籍状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	延べ人数	2015年
小	12	13	13	15	12	13	11	12	12	13	14	13	153	202
中	6	6	7	7	6	5	7	8	5	4	3	3	67	60
高	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	21
合計	19	20	21	23	19	19	19	21	18	18	18	17	232	283

※その月に1日でも在籍していれば、1人と数える

※小中学部の4月・高等部の全月は、わらび訪問学級

3. 次年度の課題

子供たちが、病室（生活スペース）から離れ、教室で気分をかえて学習に励むことができれば、学力向上だけでなく、治療に向かう意欲を高めることにもつながる。病室を離れることが可能な子供が、少しでも教室で授業を受けられるようにするためには、教室で学ぶ子供を対応する看護師の確保など必要な条件がいくつか考えられる。少しでも早くその条件が整うよう、これまで以上に、病院スタッフ等と話し合いながら、連携を強めていきたい。

訪問指導の状態が続いている間は、子供たちに少しでも多くの学習機会を与えられるよう、病室が離れている子供たちを同じ時間に指導することを実践していく。

IV 学会・研究・教育活動

1) 書籍

テーマ	所属科	発表者名	単著、共著の別	編者名	書籍名	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
VAP診断を気管内吸引痰の定性培養で行うか	感染症科	伊藤雄介	共著	志馬 伸朗	救急・集中治療 感染症診療	589	594	総合医学社	2016.7
小児のVAPは本当にバンドルで回避できるのか	感染症科	伊藤雄介	共著	植田 育也	救急・集中治療 小児の呼吸器管理	797	804	総合医学社	2016.10
HAPPY！こどものみかた 第2版	感染症科	笠井正志	編著	笠井正志 児玉和彦 上村克徳	HAPPY！こどものみかた 第2版	1	381	日本医事新報社	2016.7
第7章 院内肺炎	感染症科	笠井正志	共著	尾内一信他	小児呼吸器感染症診療ガイドライン2017	105	123	協和企画	2016.11
第6章、2 新生児	感染症科	笠井正志	共著	尾内一信他	小児呼吸器感染症診療ガイドライン2017	99	104	協和企画	2016.11
第16章、3 新生児	感染症科	笠井正志	共著	尾内一信他	小児呼吸器感染症診療ガイドライン2017	224	225	協和企画	2016.11
第17章 院内肺炎（人工呼吸器関連肺炎、VAP）	感染症科	笠井正志	共著	尾内一信他	小児呼吸器感染症診療ガイドライン2017	231	232	協和企画	2016.11
Ebstein 病	心臓血管外科	大嶋義博	共著	安達英雄、小野稔、坂本喜三郎	新 心臓血管外科テキスト	446	452	中外医学社	2016
キアリ奇形・脊髓空洞症	脳神経外科	長嶋達也	共著	長嶋達也、山内康雄	水頭症・二分脊椎必携	100	105	(公益財団法人) 日本二分脊椎・水頭症研究振興財団	2016.5.31
編集	脳神経外科		共著	長嶋達也、山内康雄	水頭症・二分脊椎必携	1	274	(公益財団法人) 日本二分脊椎・水頭症研究振興財団	2016.5.31
先天性垂直距骨	整形外科	薩摩眞一	共著	土屋弘行 など	今日の整形外科治療指針 第7版	817	817	医学書院	2016
踵足、外反扁平足	整形外科	薩摩眞一	共著	日本小児整形外科学会	小児整形外科テキスト 改訂第二版	189	194	メディカルビュー社	2016.12
血液疾患 白血病、悪性リンパ腫	整形外科	小林大介	共著	日本小児整形外科学会教育研修委員会	小児整形外科ハンドブック	283	290	メディカルビュー社	2016.12.10
骨、運動器疾患 二分脊椎	整形外科	小林大介	共著	小児内科編集委員会	小児疾患診療のための病態生理3 一改修第5版一	657	661	東京医学社	2016.11.30
先天性股関節脱臼	整形外科	衣笠真紀	共著	白木和夫、高田哲	ナースとコメディカルのための小児科学	416	419	日本小児科医事出版社	2016.4

テーマ	所属科	発表者名	単著、共著の別	編者名	書籍名	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
アデノイド増殖症・扁桃肥大	耳鼻咽喉科	大津雅秀	共著	山口 徹, 北原 光夫	今日の治療指針2016(デスク版)	1531	1532	医学書院	2016.1.1.
アデノイド増殖症・扁桃肥大	耳鼻咽喉科	大津雅秀	共著	山口 徹, 北原 光夫	今日の治療指針2016(ポケット版)	1531	1532	医学書院	2016.1.1.
耳鼻咽喉科疾患	耳鼻咽喉科	大津雅秀	共著	白木 和夫, 高田 哲	ナースとコメディカルのための小児科学 改訂第5版	409	412	日本小児医事新報社	2016.4.5
小児に気管チューブを挿入する際、そのサイズはどのように選択したらよいでしょうか。具体的な基準と判断法を教えてください。	麻酔科	香川哲郎	共著	上嶋浩順, 青山和義	気道管理の疑問 Q & A	56	58	中外医学社	2016.11
小児に用いる気管チューブはカフ付きがいいですか？カフなしがいいですか？	麻酔科	香川哲郎	共著	上嶋浩順, 青山和義	気道管理の疑問 Q & A	59	61	中外医学社	2016.11
術前の評価と検査	麻酔科	香川哲郎	共著	川名信、蔵谷紀文	エビデンスで読み解く小児麻酔	20	23	克誠堂	2016.11
A patient with a novel purine-rich element binding protein A (PURA) mutation	新生児内科	Okamoto Nobuhiko, Nakao Hideto, Niihori Tetsuya, Aoki Yoko	共著		Congenital Anomalies				2016.11
性機能の問題（女性）と妊娠・出産	産科	船越徹	共著	山内康雄, 長嶋達也	水頭症・二分脊椎必携	175	181	日本二分脊椎・水頭症研究振興財団	2016.5
胎児発育 (BPD/AC/FL/ 推定体重) ①	産科	喜吉賢二	共著	ペリネイタルケア編集委員会	ペリネイタルケア2016年夏季増刊号「正常の確認と異常への対応を究める！妊婦健診と保健指導パーフェクトブック」	121	124	メディカ出版	2016
胎児発育 (BPD/AC/FL/ 推定体重) ②	産科	喜吉賢二	共著	ペリネイタルケア編集委員会	ペリネイタルケア2016年夏季増刊号「正常の確認と異常への対応を究める！妊婦健診と保健指導パーフェクトブック」	168	170	メディカ出版	2016
気管チューブによる気道確保	小児集中治療科	黒澤寛史	共	植田育也	徹底ガイド 小児の呼吸管理 Q&A 第3版	35	43	総合医学社	2016.10

テーマ	所属科	発表者名	単著、共著の別	編者名	書籍名	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
小児の蘇生	小児集中治療科	黒澤寛史、 椎間優子、 青木一憲	共	日本蘇生協議会	JRC 蘇生ガイドライン2015	176	242	医学書院	2016.2
小児の救命処置	小児集中治療科	黒澤寛史	共	日本救急医療財団心肺蘇生法委員会	救急蘇生法の指針2015 医療従事者用	111	163	へるす出版	2016.11
医療関連機器別予防・管理 小児：経鼻挿管チューブ 小児：気管切開カニューレ・カニューレ固定具 小児：点滴固定用シーネ	看護部	鎌田直子	共著	日本褥瘡学会	ベストプラクティス医療関連機器圧迫創傷の予防と管理	90	111	照林社	2016.7
社会的な支援の現状と留意点について	家族支援。 地域医療連携部	宅見晃子	共著	山内康雄・長嶋達也	水頭症・二分脊椎必携	217	223	日本二分脊椎・水頭症研究振興財団	2016.5.31

2) 雑誌発表

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
特集：小児救急で求められる単純X線写真「13. 腹膜気腫（気腹）と消化管穿孔」	救急総合診療科	山口善道	小児科診療	79	8	1083	1087	診断と治療社	2016.8
抗菌薬を知って正しく使うために 第一回 抗菌薬の基本を理解する	救急総合診療科	梶原伸介	中学保健ニュース		11月8日号	8	9	少年写真新聞社	2016.11.8
抗菌薬を知って正しく使うために 第二回 なぜかぜに抗菌薬を使ってもいけないのか	救急総合診療科	梶原伸介	中学保健ニュース		12月8日号	8	9	少年写真新聞社	2016.12.8
天然型ビタミンDサプリメントを用いて治療を行ったビタミンD欠乏性くる病の7例	代謝内分泌科	尾崎佳代、日外祐理、郷司克己	小児科診療	第79巻	第4号	567	571	診断と治療社	2016.4.1
Interleukin-33 as a marker of disease activity in rheumatoid factor positive polyarticular juvenile idiopathic arthritis	リウマチ科	Ishikawa S, Shimizu M, Inoue N, Mizuta M, Nakagishi Y, Yachie A.	Modern Rheumatology					Oct 27:1-5. [Epub ahead of print]	2016
Serum ferritin levels as a useful diagnostic marker for the distinction of systemic juvenile idiopathic arthritis and Kawasaki disease.	リウマチ科	Mizuta M, Shimizu M, Inoue N, Kasai K, Nakagishi Y, Takahara T, Hamahira K, Yachie A.	Modern Rheumatology					Jul 19:1-4. [Epub ahead of print]	2016
Disruption of vascular endothelial homeostasis in systemic juvenile idiopathic arthritis-associated macrophage activation syndrome: The dynamic roles of angiotensin-1 and -2.	リウマチ科	Tasaki Y, Shimizu M, Inoue N, Mizuta M, Nakagishi Y, Wada T, Yachie A.	Cytokine	80		1	6	Elsevier	2016.4
若年性特発性関節炎の管理 病態を理解して病勢を評価する(解説)	リウマチ科	中岸 保夫	小児科	57	3	287	294	金原出版	2016.3

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
小児の症候群 出血性ショック脳症 症候群	神経内科	丸山あずさ	小児科臨床	79		135	135		2016
Septic encephalopathy characterized by acute encephalopathy with biphasic seizures and late reduced diffusion and early nonconvulsive status epilepticus.	神経内科	Yamaguchi H, Tanaka T, Maruyama A, Nagase H.	Case reports in Neurological Medicine.	2016	ID 7528238			Hindawi Publishing Corporation	2016
骨髄非破壊的前処置による同種骨 髄移植が奏功した慢性肺感染症合 併重症先天性好中球減少症	血液・腫瘍内科	二野菜々子、神前愛子、 長谷川大一郎、 上田剛、高橋宏暢、 宮田憲二、越智聡史、 山下達也、高藤哲、 植村優、横井健人、 齋藤敦郎、石田敏章、 川崎圭一郎、 中村和洋、小林正夫、 小阪嘉之	臨床血液	57	6	742	747		2016
Persistent clonal chromosomal abnormalities in a chronic myeloid leukemia patient.	血液・腫瘍内科	Muraoka M, Washio K, Kanamitsu K, Kanazawa Y, Ishida T, Miyamura T, Chayama K, Nishiuchi R, Oda M, Shimada A.	Pediatr Int.	58	1	53	56		2016
Medulloblastoma with suprasellar solitary massive metastasis.	血液・腫瘍内科	Hiroaki Nagashima, Tatsuya Nagashima, Atsufumi Kawamura, Kazuki Yamamoto, Makiko Yoshida, Daiichiro Hasegawa, Yoshiyuki Kosaka, Eiji Kohmura.	Neurol Neurochir Pol.	50	3	211	214		2016

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
IKZF1 deletion is enriched in pediatric B cell precursor acute lymphoblastic leukemia patients showing prednisolone resistance.	血液・腫瘍内科	Toshihiko Imamura, Mio Yano, Daisuke Asai, Akiko Moriya-Saito, So-ichi Suenobu, Daiichiro Hasegawa, Takao Deguchi, Yoshiko Hashii, Hirohide Kawasaki, Hiroki Hori, Keiko Yumura-Yagi, Junichi Hara, Keizo Horibe, Atsushi Sato.	Leukemia						2016, in press.
Characterization of pediatric Philadelphia-negative B-cell precursor acute lymphoblastic leukemia with kinase fusions in Japan	血液・腫瘍内科	Imamura T, Kiyokawa N, Kato M, Imai C, Okamoto Y, Yano M, Ohki K, Yamashita Y, Kodama Y, Saito A, Mori M, Ishimaru S, Deguchi T, Hashii Y, Shimomura Y, Hori T, Kato K, Goto H, Ogawa C, Koh K, Taki T, Manabe A, Sato A, Kikuta A, Adachi S, Horibe K, Ohara A, Watanabe A, Kawano Y, Ishii E, Shimada H.	Blood Cancer J.	13	6	e419.			2016 May

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
JAK2, MPL, and CALR mutations in children with essential thrombocythemia.	血液・腫瘍内科	Yuko Sekiya; Yusuke Okuno; Hideki Muramatsu; Olfat Ismael; Nozomu Kawashima; Atsushi Narita; Xinan Wang; Yinyan Xu; Asahito Hama; Hiroyuki Fujisaki; Toshihiko Imamura; Daiichiro Hasegawa; Yoshiyuki Kosaka; Shosuke Sunami; Yoshitoshi Ohtsuka; Shouichi Ohga; Yoshiyuki Takahashi; Seiji Kojima; Akira Shimada.	Int J Hematol.	104	2	266	267		2016 Aug
High event-free survival rate with minimum-dose-anthracycline treatment in childhood acute promyelocytic leukaemia: a nationwide prospective study by the Japanese Paediatric Leukaemia/Lymphoma Study Group.	血液・腫瘍内科	Takahashi H, Watanabe T, Kinoshita A, Yuza Y, Moritake H, Terui K, Iwamoto S, Nakayama H, Shimada A, Kudo K, Taki T, Yabe M, Matsushita H, Yamashita Y, Koike K, Ogawa A, Kosaka Y, Tomizawa D, Taga T, Saito AM, Horibe K, Nakahata T, Miyachi H, Tawa A, Adachi S.	Br J Haematol.	174	3	437	443		2016 Mar

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第〇巻	第〇号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Voriconazole Concentrations in Cerebrospinal Fluid During Prophylactic Use in Children with Acute Myelogenous Leukemia.	血液・腫瘍内科	Kobayashi R, Sano H, Kishimoto K, Suzuki D, Yasuda K, Kobayashi K.	Pediatr Infect Dis J.	35	3	297	298		2016 Mar
Early detection of tumor relapse/re-growth by consecutive minimal residual disease monitoring in two high-risk neuroblastoma patients.	血液・腫瘍内科	Hirase S, Saitoh A, Hartomo Tri Budi, Kozaki A, Yanai T, Hasegawa D, Kawasaki K, Kosaka Y, Matsuo M, Yamamoto N, Mori T, Hayakawa A, Iijima K, Nishio H, Nishimura N.	Oncol Lett.	12	2	1119	1123		2016 Aug
Collaboration of cancer-associated fibroblasts and tumour-associated macrophages for neuroblastoma development.	血液・腫瘍内科	Okito Hashimoto, Makiko Yoshida, Yu-ichiro Koma, Tomoko Yanai, Daiichiro Hasegawa, Yoshiyuki Kosaka, Noriyuki Nishimura, and Hiroshi Yokozaki.	J Pathol.	240	2	211	223		2016 Oct
Vinorelbine + cyclophosphamideによる低侵襲外来治療にて長期無増悪生存を維持しているsPNETの一例	血液・腫瘍内科	植村優、宮田憲二、矢内友子、齋藤敦郎、横井健人、二野菜々子、高藤哲、神前愛子、石田敏章、長谷川大一郎、川崎圭一郎、小阪嘉之、河村淳史、長嶋達也、副島俊典、赤坂好宣、吉田牧子、小川淳	日本小児血液・がん学会誌						2016, in press.

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Clinically Mild Encephalitis/ Encephalopathy with a Reversible Splenic Lesion Accompanied by Epstein-Barr Virus Hemophagocytic Lymphohistiocytosis: A Case Report and Review of the Literature.	血液・腫瘍内科	Hiroshi Yamaguchi, Toshiaki Ishida, Takehito Yokoi, Shinnosuke Tsuji, sukasa Tanaka, Mayumi Kusumoto, Azusa Maruyama, Hiroaki Nagase, Daiichiro Hasegawa, Hiroki Takeda, Yoshiyuki Kosaka, and Yoshiyuki Uetani.	Journal of Pediatric Hematology and Oncology.						2016, in press.
Long-term outcomes of 95 children with moderate aplastic anemia treated with horse antithymocyte globulin and cyclosporine.	血液・腫瘍内科	Nishikawa E, Yagasaki H, Hama A, Yabe H, Ohara A, Kosaka Y, Kudo K, Kobayashi R, Ohga S, Morimoto A, Watanabe KI, Yoshida N, Muramatsu H, Takahashi Y, Kojima S.	Pediatr Blood Cancer.						doi: 10.1002 /pbc. 26305

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Comparison of Donor Sources in Hematopoietic Stem Cell Transplantation for Childhood Acute Leukemia: A Nationwide Retrospective Study.	血液・腫瘍内科	Sakaguchi H, Watanabe N, Matsumoto K, Yabe H, Kato S, Ogawa A, Inagaki J, Goto H, Koh K, Yoshida N, Kato K, Cho Y, Kosaka Y, Takahashi Y, Inoue M, Kato K, Atsuta Y, Miyamura K; Donor/Source Working Group of Japan Society of Hematopoietic Cell Transplantation.	Biol Blood Marrow Transplant.						2016 Sep
Predictive factor for intraoperative tumor rupture of Wilms tumor.	血液・腫瘍内科	Fukuzawa H, Shiima Y, Mishima Y, Sekine S, Miura S, Yabe K, Yamaki S, Morita K, Okata Y, Hisamatsu C, Nakao M, Yokoi A, Maeda K, Kosaka Y.	Pediatr Surg Int.						2016 Nov
Pretransplant paranasal sinus disease is associated with a high incidence of transplant-related mortality in hematopoietic stem cell transplantation for children and adolescents.	血液・腫瘍内科	Kishimoto K, Kobayashi R, Hori D, Sano H, Suzuki D, Yasuda K, Kobayashi K.	Pediatr Transplant.						2016 Oct
Analysis of Risk Factors for Hyponatremia During or Following Chemotherapy in Children With Cancer: A Hospital-based, Retrospective Cohort Study.	血液・腫瘍内科	Kishimoto K, Kobayashi R, Sano H, Suzuki D, Yasuda K, Kobayashi K.	J Pediatr Hematol Oncol.	38	6	443	448		2016 Aug

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
B前駆細胞性急性リンパ性白血病と診断された難治性小児Double-hit lymphoma/leukemiaの治療経験 Refractory double-hit lymphoma/leukemia in childhood presenting as B-precursor acute lymphoblastic leukemia	血液・腫瘍内科	植村優、長谷川大一郎、横井健人、二野菜々子、太原鉄平、田村彰広、齋藤敦郎、神前愛子、岸本健治、石田敏章、川崎圭一郎、山本暢之、森健、西村範行、小阪嘉之 Suguru Uemura, Daiichiro Hasegawa, Takehito Yokoi, Nanako Nino, Teppei Tahara, Akihiro Tamura, Atsuro Saito, Aiko Kozaki, Kenji Kishimoto, Toshiaki Ishida, Keiichiro Kawasaki, Nobuyuki Yamamoto, Takeshi Mori, Noriyuki Nishimura, and Yoshiyuki Kosaka	臨床血液						2016, in press.
成人先天性心疾患の心エコー Foliot四徴症術後－成人期の特徴と心エコー評価のポイント－	循環器内科	城戸佐知子	心エコー	第17巻	第2号	156	166	文光堂	2016.2.1
特集・川崎病－第40回近畿川崎病研究会－ 巻頭言	循環器内科	城戸佐知子	Progress in Medicine	36巻	第7号	847	848	ライフサイエンス	2016.8.31
心臓病患者と運動－その1	循環器内科	城戸佐知子	心臓をまもる	2016.9 月号	630	12	15	全国心臓病のこどもを守る会	2016.9.20
心臓病患者と運動－その2	循環器内科	城戸佐知子	心臓をまもる	2016.10 月号	631	10	12	全国心臓病のこどもを守る会	2016.10.20
Coexistence of congenital long QT syndrome and autonomic dysregulation in children.	Department of Cardiology	Ogawa Y, Aiba T, Kamei N, Tominaga K, Fujita H, Miyamoto Y, Tanaka T, Kido S	Pediatrics International	2016	58	672	674	Japan Pediatric Society	2016.7.26

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Reproducibility of corrected QT interval in pediatric genotyped long QT syndrome	Department of Cardiology	Ogawa Y, Tanaka T, Kido S.	Pediatrics International	2016	58	1246	1248	Japan Pediatric Society	2016.7.26
QT延長症候群を疑う際のknack - (genotyped)QT延長症候群26例と対照群91例のdataから.	循環器内科	小川禎治、稲熊洋祐、谷口由記、祖父江俊樹、三木康暢、平海良美、福田旭伸、亀井直哉、富永健太、藤田秀樹、田中敏克、城戸佐知子	兵庫県小児科医会報	2016	66	10	12	兵庫県小児科医会	2016.9.1
径8mmの冠動脈瘤の破裂により死亡した川崎病の1乳児例	1)循環器内科 2)神戸市立医療センター中央市民病院小児科 3)リウマチ科、 4)心臓血管外科	上村和也1), 青田千恵2), 富永健太1), 瓦野昌大1), 谷口由記1), 平海良美1), 亀井直哉1), 小川禎治1), 藤田秀樹1), 田中敏克1), 城戸佐知子1), 中岸保夫3), 大嶋義博4)	PROGRESS IN MEDICINE	36	7	911	915	ライフサイエンス	2016.8.31
心房頻拍が原因と考えられる、重症心不全を呈した心筋症の1乳児例	循環器内科	上村和也、祖父江俊樹、亀井直哉、田中敏克、瓦野昌大、谷口由記、平海良美、松岡道生、小川禎治、富永健太、藤田秀樹、城戸佐知子	兵庫県小児科医会報	2016	66	19	22	兵庫県小児科医会	2016.9.1
Insignificant impact of VUR on the progression of CKD in children with CAKUT.	腎臓内科	Ishikura K, Uemura O, Hamasaki Y, Nakai H, Ito S, Harada R, Hattori M, Ohashi Y, Tanaka R, Nakanishi K, Kaneko T, Iijima K, Honda M.	Pediatr Nephrol	31		105	112		2016
Transient hyperphosphatasemia in three pediatric patients treated with cyclosporine.	腎臓内科	Mori T, Tanaka R, Nishida K, Yamamoto N, Hayakawa A, Nishimura N, Nozu K, Iijima K.	Pediatrics International	58		429	430		2016

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Association between low birth weight and childhood-onset chronic kidney disease in Japan: a combined analysis of nationwide survey for pediatric CKD and National Report of Vital Statistics.	腎臓内科	Hirano D, Ishikura K, Uemura O, Ito S, Wada N, Hattori M, Hamasaki Y, Tanaka R, Nakanishi K, Kaneko T, Honda M	Nephrol Dial Transplant	31		1895	1900		2016
Efficacy of rituximab therapy against intractable steroid-resistant nephrotic syndrome	腎臓内科	Nakagawa T, Shiratori A, Kawaba Y, Kanda K, Tanaka R.	Pediatric International	58		1003	1008		2016
次世代シーケンサーを用いた先天性腎尿路奇形(CAKUT)の原因遺伝子解析 Comprehensive genetic analysis for CAKUT with next generation sequencing	腎臓内科	森貞直哉、庄野朱美、野津寛大、叶明娟、神田祥一郎、井藤奈央子、亀井宏一、伊藤秀一、山本勝輔、里村憲一、田中亮二郎、西尾久英、飯島一誠	発達腎研究会誌	24		13	15		2016
腎臓内科領域の移行期医療の現状について—成人科からの現状報告	腎臓内科	神田杏子、吉矢邦彦、宮本幹、田中亮二郎、原章二	腎と透析	81		451	454		2016
特集 抗菌薬を正しく使うために第1回	感染症科他	梶原伸介 笠井正志	中学校保健ニュース		1671	8	9	少年写真新聞	2016.11
特集 抗菌薬を正しく使うために第2回	感染症科他	梶原伸介 笠井正志	中学校保健ニュース		1674	8	9	少年写真新聞	2016.12
特集 小児・新生児の抗菌薬適性使用	感染症科	佐藤公則、笠井正志	化学療法の領域	32	2	99	103	医薬ジャーナル社	2016.3
「ほこり」と感染対策	感染症科他	波多江新平、笠井正志、他	Clinic magazine		563	15	19	Clinic magazine	2016.5
スウェーデンの事例から学ぶ耐性菌対策と抗菌薬使用量削減への取り組み	感染症科他	由良温宣、笠井正志、他	診療と新薬	53	5	17	31	医事出版社	2016.5
感染症に罹らないための対策	感染症科他	山之上弘樹、笠井正志、他	診療と新薬	53	6	23	35	医事出版社	2016.6
2016年1月に発症したnon-typable Haemophilus influenzae 心膜炎の1例	感染症科他	神納幸治、笠井正志、他	病原微生物検出情報	37	7	23	24	感染研疫学情報センター	2016.7
オトナリの「オトナ」感染症科 vol.1 矢野晴美先生	感染症科	笠井正志	INFECTION CONTROL	25	4	6	7	メディカ出版	2016.4

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
オトナリの「オトナ」感染症科 vol.2 岡秀昭先生	感染症科	笠井正志	INFECTION CONTROL	25	9	6	7	メディカ出版	2016.9
オトナリの「オトナ」感染症科 vol.3 本田仁先生	感染症科	笠井正志	INFECTION CONTROL	25	10	4	5	メディカ出版	2016.1
オトナリの「オトナ」感染症科 vol.4 倉井華子先生	感染症科	笠井正志	INFECTION CONTROL	25	11	72	73	メディカ出版	2016.11
Alternative splicing of a cryptic exon embedded in intron 6 of SMN1 and SMN2.	臨床遺伝科	Yoshimoto S, Harahap NI, Hamamura Y, Ar Rochmah M, Shima A, Morisada N, Shinohara M, Saito T, Saito K, Lai PS, Matsuo M, Awano H, Morioka I, Iijima K, Nishio H.	Hum Genome Var.	3		16040		Nature Publishing Group	2016.12
Female X-linked Alport syndrome with somatic mosaicism.	臨床遺伝科	Yokota K, Nozu K, Minamikawa S, Yamamura T, Nakanishi K, Kaneda H, Hamada R, Nozu Y, Shono A, Ninchoji T, Morisada N, Ishimori S, Fujimura J, Horinouchi T, Kaito H, Nakanishi K, Morioka I, Taniguchi-Ikeda M, Iijima K.	Clin Exp Nephrol					The Japanese Society of Nephrology	2016.10

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Cryptic exon activation in SLC12A3 in Gitelman syndrome.	臨床遺伝科	Nozu K, Nozu Y, Nakanishi K, Konomoto T, Horinouchi T, Shono A, Morisada N, Minamikawa S, Yamamura T, Fujimura J, Nakanishi K, Ninchoji T, Kaito H, Morioka I, Taniguchi-Ikeda M, Vorechovsky I, Iijima K.	J Hum Genet.					Springer-Verlag	2016.10
A 12p13 GRIN2B deletion is associated with developmental delay and macrocephaly.	臨床遺伝科	Morisada N, Ioroi T, Taniguchi-Ikeda M, Juan Ye M, Okamoto N, Yamamoto T, Iijima K.	Hum Genome Var.	3		16029		Nature Publishing Group	2016.9
Genetic, Clinical, and Pathologic Backgrounds of Patients with Autosomal Dominant Alport Syndrome.	臨床遺伝科	Kamiyoshi N, Nozu K, Fu XJ, Morisada N, Nozu Y, Ye MJ, Imafuku A, Miura K, Yamamura T, Minamikawa S, Shono A, Ninchoji T, Morioka I, Nakanishi K, Yoshikawa N, Kaito H, Iijima K.	Clin J Am Soc Nephrol.	11	8	1441	1449	American Society of Nephrology	2016.8

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Clinical factors associated with prehospital exacerbation of anaphylaxis in children.	臨床遺伝科	Ninchoji T, Iwatani S, Nishiyama M, Kamiyoshi N, Nakagawa T, Taniguchi-Ikeda M, Morisada N, Ishibashi K, Iijima K, Ishida A, Morioka I.	Minerva Pediatr.					Minerva medica	2016.6
Telomeric Region of the Spinal Muscular Atrophy Locus Is Susceptible to Structural Variations.	臨床遺伝科	Noguchi Y, Onishi A, Nakamachi Y, Hayashi N, Harahap NI, Rochmah MA, Shima A, Yanagisawa S, Morisada N, Nakagawa T, Iijima K, Kasagi S, Saegusa J, Kawano S, Shinohara M, Tairaku S, Saito T, Kubo Y, Saito K, Nishio H.	Pediatr Neurol.	58		83	89	Professional Publications	2016.5
Diverse Renal Phenotypes Observed in a Single Family with a Genetic Mutation in Paired Box Protein 2.	臨床遺伝科	Iwafuchi Y, Morioka T, Morita T, Yanagihara T, Oyama Y, Morisada N, Iijima K, Narita I.	Case Rep Nephrol Dial.	6	1	61	69	Karger AG	2016.4

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Daughter and mother with orofaciogingival syndrome type 1 and glomerulocystic kidney disease.	臨床遺伝科	Iijima T, Hoshino J, Mise K, Sumida K, Suwabe T, Hayami N, Ueno T, Takaichi K, Fujii T, Ohashi K, Morisada N, Iijima K, Ubara Y.	Hum Pathol.	55		24	29	Saunders Co.	2016.9
Current Situation of Treatment for Anaphylaxis in a Japanese Pediatric Emergency Center.	臨床遺伝科	Ninchoji T, Iwatani S, Nishiyama M, Kamiyoshi N, Taniguchi-Ikeda M, Morisada N, Ishibashi K, Iijima K, Ishida A, Morioka I.	Pediatr Emerg Care.					Williams & Wilkins	2016.4
Rare renal ciliopathies in non-consanguineous families that were identified by targeted resequencing.	臨床遺伝科	Yamamura T, Morisada N, Nozu K, Minamikawa S, Ishimori S, Toyoshima D, Ninchoji T, Yasui M, Taniguchi-Ikeda M, Morioka I, Nakanishi K, Nishio H, Iijima K.	Clin Exp Nephrol.					The Japanese Society of Nephrology	2016.5
New-onset diabetes after renal transplantation in a patient with a novel HNF1B mutation.	臨床遺伝科	Kanda S, Morisada N, Kaneko N, Yabuuchi T, Nawashiro Y, Tada N, Nishiyama K, Miyai T, Sugawara N, Ishizuka K, Chikamoto H, Akioka Y, Iijima K, Hattori M.	Pediatr Transplant.	20	3	467	471	Munksgaard	2016.5

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
X-linked Alport syndrome associated with a synonymous p.Gly292Gly mutation alters the splicing donor site of the type IV collagen alpha chain 5 gene.	臨床遺伝科	Fu XJ, Nozu K, Eguchi A, Nozu Y, Morisada N, Shono A, Taniguchi-Ikeda M, Shima Y, Nakanishi K, Vorechovsky I, Iijima K.	Clin Exp Nephrol.	20	5	699	702	The Japanese Society of Nephrology	2016.10
WDR45に変異を認めたbeta-propeller protein-associated neurodegeneration(BPAN)の1女性例 小児期の臨床症状と早期診断についての考察	臨床遺伝科	森貞直哉、常石秀市、田口和裕、八木隆三郎、西山将広、豊嶋大作、中川卓、竹島泰弘、高田哲、飯島一誠	脳と発達	48	3	209	212	診断と治療社	2016
次世代シーケンサーを用いた先天性腎尿路奇形(CAKUT)の原因遺伝子解析	臨床遺伝科	森貞直哉、庄野朱美、野津寛大、叶明娟、神田祥一郎、井藤奈央子、亀井宏一、伊藤秀一、山本勝輔、里村憲一、田中亮二郎、西尾久英、飯島一誠	発達腎研究会誌	24	1	13	15	発達腎研究会	2016
【多発性嚢胞腎-基礎と臨床のトピックス】 臨床 遺伝カウンセリングの実際	臨床遺伝科	森貞直哉、飯島一誠	腎と透析	80	6	855	858	東京医学社	2016
小児神経科医が知っておくべき遺伝学的検査シリーズ 反復する熱性けいれんと発達の遅れを認める女児	臨床遺伝科	森貞直哉	脳と発達	48	1	3	4	診断と治療社	2016
内視鏡下縫合法の基礎ポート部からの気胸・気腹漏れに対する工夫と合わせて	小児外科	遠藤耕介、福澤宏明、三島泰彦、玉城昭彦、森田圭一、大片祐一、久松千恵子、横井暁子、前田貢作	小児外科	48	3	377	381	東京医学社	2016
小児腸疾患患者における尿中プロスタグランジンE2主要代謝物質	小児外科	小田嶋貴之、横森欣司、藤原睦憲、前田貢作	小児外科	48	5	533	537	東京医学社	2016

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
小児気道異物の診断におけるCT検査の有用性	小児外科	薄井佳子、小野滋、馬場勝尚、辻由貴、河原仁守、前田貢作	日本小児外科学会雑誌	52	5	927	932	日本小児外科学会	2016
気道異物	小児外科	前田貢作、馬場勝尚、薄井佳子、小野滋	小児外科	48	9	928	932	東京医学社	2016
当院で手術を行った腸回転異常症の82例の合併症の検討	小児外科	岩出珠幾、三島泰彦、玉城昭彦、大片祐一、森田圭一、遠藤耕介、久松千恵子、福澤宏明、中尾真、前田貢作	日本小児救急医学会雑誌	15	2	368	372	日本小児救急医学会	2016
【周産期医学必修知識第8版】 新生児編 気道狭窄	小児外科	前田貢作	周産期医学	46	増刊号	784	786	東京医学社	2016
National Clinical Database(小児外科領域) Annual Report2011-2012	小児外科	米倉竹夫、古村眞、白井規朗、家入里志、高安肇、尾藤祐子、藤代準、藤野明浩、伊勢一哉、佐々木英之、下野隆一、寺脇幹、岡本晋弥、佐々木隆士、照井慶太、永田公二、江角元史郎、平原憲道、宮田裕章、渡辺栄一郎、前田貢作、日本小児外科学会データベース委員会	日本小児外科学会雑誌	52	6	1350	1359	日本小児外科学会	2016
精巣捻転との鑑別が困難であった新生児副腎出血に起因する陰嚢血腫の一例	小児外科	和田佳子、福澤宏明、角健司、前田貢作、中尾秀人	日本周産期・新生児医学会雑誌	52	2	1216	1219	日本周産期・新生児医学会	2016
新生児外科系疾患2 胸部疾患	小児外科	矢本真也、漆原直人、前田貢作	周産期診療ワークブック	第2版		439	444	メジカルビュー社	2016
Biodegradable polydioxanone stent as a new treatment strategy for tracheal stenosis in a rabbit model.	小児外科	Kawahara I, Ono S, Maeda K.	J Pediatr Surg.	51	12	1967	1971	ELSEVIER	2016

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Evaluation of the intraoperative risk factors for esophageal anastomotic complications after primary repair of esophageal atresia with tracheoesophageal fistula.	小児外科	Okata Y, Maeda K, Bitoh Y, Mishima Y, Tamaki A, Morita K, Endo K, Hisamatsu C, Fukuzawa H, Yokoi A.	Pediatr Surg Int.	32	9	869	873	Springer	2016
Perinatal features of congenital cystic lung diseases: results of a nationwide multicentric study in Japan.	小児外科	Japanese Study Group of Pediatric Chest Surgery., Kuroda T, Nishijima E, Maeda K, Fuchimoto Y, Hirobe S, Tazuke Y, Watanabe T, Usui N.	Pediatr Surg Int.	32	9	827	831	Springer	2016
Surgical intervention strategies for congenital tracheal stenosis associated with a tracheal bronchus based on the location of stenosis.	小児外科	Morita K, Yokoi A, Fukuzawa H, Hisamatsu C, Endo K, Okata Y, Tamaki A, Mishima Y, Oshima Y, Maeda K.	Pediatr Surg Int.	32	9	915	919	Springer	2016
Clinical equivalency of cardiopulmonary bypass and extracorporeal membrane oxygenation support for pediatric tracheal reconstruction.	小児外科	Hasegawa T, Oshima Y, Matsuhisa H, Okata Y, Yokoi A, Yokoyama S, Maeda K.	Pediatr Surg Int.	32	10	1029	1036	Springer	2016

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Echocardiographic predictors of poor prognosis in congenital diaphragmatic hernia.	小児外科	Yamoto M, Inamura N, Terui K, Nagata K, Kanamori Y, Hayakawa M, Tazuke Y, Yokoi A, Takayasu H, Okuyama H, Fukumoto K, Urushihara N, Taguchi T, Usui N.	J Pediatr Surg.	51	12	1926	1930	ELSEVIER	2016
Musculoskeletal abnormalities in congenital diaphragmatic hernia survivors: Patterns and risk factors: Report of a Japanese multicenter follow-up survey.	小児外科	Takayasu H, Masumoto K, Goishi K, Hayakawa M, Tazuke Y, Yokoi A, Terui K, Okuyama H, Usui N, Nagata K, Taguchi T; Japanese Congenital Diaphragmatic Hernia Study Group..	Pediatr Int.	58	4	877	880	Wiley	2016
Growth Assessment and the Risk of Growth Retardation in Congenital Diaphragmatic Hernia: A Long-Term Follow-Up Study from the Japanese Congenital Diaphragmatic Hernia Study Group.	小児外科	Terui K, Nagata K, Hayakawa M, Okuyama H, Goishi K, Yokoi A, Tazuke Y, Takayasu H, Yoshida H, Usui N.	Eur J Pediatr Surg.	26	1	60	66	Thieme	2016

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Risk factors for surgical intestinal disorders in VLBW infants: Case-control study.	小児外科	Okuyama H, Ohfuji S, Hayakawa M, Urushihara N, Yokoi A, Take H, Shiraishi J, Fujinaga H, Ohashi K, Minagawa K, Misaki M, Nose S, Taguchi T.	Pediatr Int	58	1	34	39	Wiley	2016
Repair of unbalanced atrioventricular septal defect with small right ventricle	心臓血管外科	Yoshihiro Oshima, Ayako Maruo, Tomomi Hasegawa and Hironori Matsuhisa	Asian Cardiovascular and Thoracic Annals	24	1	78	80	SAGE	2016 Jan
Intact Imaging of Human Heart Structure Using X-ray Phase-Contrast Tomography.	心臓血管外科	Kaneko Y, Shinohara G, Hoshino M, Morishita H, Morita K, Oshima Y, Takahashi M, Yagi N, Okita Y, Tsukube T.	Pediatr Cardiol 2016	DOI 10.1007/ s00246- 016- 1527-z				Springer	2016 Nov.30
Three Dimensional Visualization of Human Cardiac Conduction Tissue in Whole Heart Specimens by High-Resolution Phase-Contrast CT Imaging Using Synchrotron Radiation	心臓血管外科	Shinohara G, Morita K, Hoshino M, Ko Y, Tsukube T, Kaneko Y, Morishita H, Oshima Y, Matsuhisa H, Iwaki R, Takahashi M, Matsuyama T, Hashimoto K, Yagi N.	World J Pediatr Congenit Heart Surg	7	6	700	705	SAGE	2016 Nov

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Left Subclavian Artery Perfusion During the Norwood Operation for Interrupted Aortic Arch With Aortic Atresia.	心臓血管外科	圓尾文子	annals of thoracic surgery	101	1	764	766	Elsevier	2016.2
Three-dimensional evaluation of ductal tissue in coarctation of the aorta using X-ray phase-contrast tomography.	心臓血管外科	Iwaki R, Matsuhisa H, Hoshino M, Oshima Y.	J Thorac Cardiovasc Surg	152	5	1454	1456	Elsevier	2016.6
Aortic arch reconstruction using a Kommerell diverticulum for hypoplastic left heart syndrome with a right aortic arch	心臓血管外科	Shunsuke Matsushima, Yoshihiro Oshima, and Hironori Matsuhisa	The Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery	2016	152	e35	e37	The American Association for Thoracic Surgery	2016.3.30
Medulloblastoma with suprasellar solitary massive metastasis: Case report.	脳神経外科	Nagashima H, Nagashima T, Kawamura A, Yamamoto K, Yoshida M, Hasegawa D, Kosaka Y, Kohmura E.	Neurol Neurochir Pol.	50	3	211	214	ELSEVIER	2016.2.1
The efficacy and safety of burr-hole craniotomy without continuous drainage for chronic subdural hematoma and subdural hygroma in children under 2 years of age.	脳神経外科	Matsuo K, Akutsu N, Otsuka K, Yamamoto K, Kawamura A, Nagashima T.	Childs Nerv Syst	32	12	2369	2375	Springer	2016.9.1
Decompressive craniectomy 116h after malignant middle cerebral artery infarction.	脳神経外科	Yamaguchi H, Yamamoto K, Akutsu N, Kusumoto M, Kajihara S, Yamaguchi Y, Takeda H, Kawamura A, Uetani Y.	Pediatr Int.	58	7	622	624		2016.07

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
経鼻内視鏡的下垂体腺腫摘出時の Narrow Band Imagingによる残存下垂体の評価	脳神経外科	谷口理章、阿久津宣行、甲村英二	日本内分泌学会雑誌	92		76	77		2016.07
Visualization of the normal pituitary gland during the endoscopic endonasal removal of pituitary adenoma by narrow band imaging.	脳神経外科	Akutsu N, Taniguchi M, Kohmura E.	Acta Neurochir (Wien).	158	10	1977	1981		2016.10
The efficacy and safety of burr-hole craniotomy without continuous drainage for chronic subdural hematoma and subdural hygroma in children under 2 years of age.	脳神経外科	Matsuo K, Akutsu N, Otsuka K, Yamamoto K, Kawamura A, Nagashima T.	Childs Nerv Syst	32	12	2369	2375		2016.12
軽微な外力により頸椎不安定性を生じた1例	整形外科	武岡由樹、薩摩眞一、小林大介、衣笠真紀ほか	近畿小児整形外科雑誌	28		6	8	近畿小児整形外科懇話会	2015
A New Predictive Indicator by Arthrography for Future Acetabular Growth Following Conservative Treatment of Developmental Dysplasia of the Hip	整形外科	Shinichi Satsuma, Daisuke Kobayashi, Maki Kinugasa, Yoshiki Takeoka, Ryosuke Kuroda, Masahiro Kurosaka	J Pediatr Orthop B	25	3	207	211	Lippincott Williams & Wilkins, Inc.	2016
先天性内反足においてPonseti治療後の再発は新生児期X線像で予測可能か	整形外科	薩摩眞一、小林大介、衣笠真紀	日整会誌	90	7	486	490	日本整形外科学会	2016
Treatment for unstable slipped capital epiphysis: Current status and future challenge in Japan	整形外科	Takuya Otani, Tohru Futami, Shinichi Satsuma, et al	J Orthop Science	21		847	851	Elsevier	2016
小児可撓性扁平足(flexible flatfoot)の手術療法	整形外科	茨木一行、薩摩眞一、小林大介、坂田亮介	日足外会誌	37	1	324	327	日本足の外科学会	2016
Salter骨盤骨切り術後の臼蓋後捻長期追跡調査	整形外科	小林大介	整形外科	67		5479	5481	南江堂	2016
外傷性大腿骨遠位骨端線損傷後の変形短縮に対して治療を施行した2例	整形外科	山本哲也	近畿小児整形外科	29		25	32	近畿小児整形外科懇話会	2016.12.31
小児の大腿骨骨幹部疲労骨折の3例	整形外科	山中理菜	近畿小児整形外科	29		33	35	近畿小児整形外科懇話会	2016.12.31

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
複数回の手術を要し、治療に難渋した垂直距骨の治療経験	整形外科	坂田亮介	近畿小児整形外科	29		40	42	近畿小児整形外科懇話会	2016.12.31
尖足を呈し、傍神経症候群が疑われた1例	整形外科	衣笠真紀	近畿小児整形外科	29		40	42	近畿小児整形外科懇話会	2016.12.31
頭痛の診かたQ&A 眼科的疾患で頭痛が起きることはあるか	眼科	野村耕治	小児内科	48	8	1207	1209	東京医学社	2016.8.1
頭位性眼振に対するAnderson法の治療成績	眼科	前田祥史、徳永敬司、柳沢翠芳、野村耕治	眼科臨床紀要	9	2	164	168	眼科臨床紀要会	2016
当院における未熟児網膜症の発症ならびに治療状況	眼科	柳沢翠芳、前田祥史、野村耕治	眼科臨床紀要	9	4	345	351	眼科臨床紀要会	2016
手術手技 私が愛用する手術器具パイポーラシザーズ	耳鼻咽喉科	阪本 浩一	JOHNS	32	5	661	663	東京医学社	2016.5
アレルギー性鼻炎に対するフェキサソフェナジン塩酸塩/塩酸ブソイドエフェドリン配合錠の投与方法に関する検討	耳鼻咽喉科	古閑紀雄、阪本浩一、林拓二、梶本康幸、原聡	耳鼻咽喉科臨床	109	11	781	786	耳鼻咽喉科臨床学会	2016
平成26年度「人工内耳実態調査」に関する報告：平成26年度1年間のまとめ	耳鼻咽喉科	伊藤壽一、守本倫子、神田幸彦、麻生伸、阪本浩一、新谷朋子、中澤操、森田訓子	日本耳鼻咽喉科学会会報	119	7	1086	1094	日本耳鼻咽喉科学会	2016
【聴覚異常感をどう診る・どう治す】学童期の聴覚異常感	耳鼻咽喉科	阪本浩一	ENTONI		188	53	58	全日本病院出版会	2016
小児心因性難聴の診断とその背景	耳鼻咽喉科	阪本浩一	耳鼻咽喉科臨床	109	12	890	891	耳鼻咽喉科臨床学会	2016
Clinical characteristics of a Japanese Family with hearing loss accompanied by compound heterozygous mutations in LOXHD1.	耳鼻咽喉科	Minami SB, Mutai H, Namba K, Sakamoto H, Matsunaga T.	Auris Nasus Larynx	43	6	609	613	日本耳鼻咽喉科学会	2016
小児先天性水腎症(腎盂尿管移行部通過障害)診療手引き2016 V.治療 2.外科的治療	泌尿器科	杉多良文	日本小児泌尿器科学会雑誌	25	2	27	30	日本小児泌尿器科学会	2016.03.20
腎盂尿管移行部通過障害に対する腎盂形成術	泌尿器科	杉多良文・春名晶子・賀來泰大	臨床泌尿器科	70	12	918	923	医学書院	2016.11.20
巨大胎児頸部奇形腫に対してEXITを行った一症例	麻酔科	正本真子、大西広泰、土居ゆみ、上北郁男、香川哲郎	麻酔	65	6	610	613	克誠堂	2016.6

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
小児用高容量低圧カフ付きチューブ Microcuff pediatric endotracheal tube(Microcuff PET®)の使用経験	麻酔科	舟井優介 三浦由紀 子 森悠 香川哲郎	日本小児麻酔学会誌	22	1	215	220	日本小児麻酔学会	2016.9
ネパール口唇口蓋裂医療プロジェクト における医療支援体験記	麻酔科	森悠、藤井智子、 世良田和幸、 香川哲郎	日本小児麻酔学会誌	22	1	279	281	日本小児麻酔学会	2016.9
兵庫県立こども病院の紹介および移 転時の麻酔科医の関わり	麻酔科	横田有理 香川哲郎	循環制御	37	3	220	222	日本循環制御医学会	2016.12
尿量から何が分かる？	新生児内科	芳本誠司	ステップアップ 新生児循環管理			72	75	メディカ出版	
胸部X線から何が分かる？	新生児内科	芳本誠司	ステップアップ 新生児循環管理			85	89	メディカ出版	
腸回転異常症	新生児内科	玉置祥子	ケースでみる・わかる新生児の画像検査			126	129	メディカ出版	
ヒルシュスプリング病	新生児内科	玉置祥子	ケースでみる・わかる新生児の画像検査			130	133	メディカ出版	
鎖肛	新生児内科	大久保沙紀	ケースでみる・わかる新生児の画像検査			134	138	メディカ出版	
消化管穿孔	新生児内科	大久保沙紀	ケースでみる・わかる新生児の画像検査			139	143	メディカ出版	
分娩室内でのパルスオキシメータの 使用	新生児内科	大久保沙紀, 中尾秀人	新生児のプライマリケア			108	109	診断と治療社	
母児間輸血症候群	新生児内科	生田寿彦, 中尾秀人	貧血学, 最近の診断・治療動向	75	1114	609	611	日本臨床	
A patient with a novel purine-rich element binding protein A (PURA) mutation	新生児内科	Okamoto Nobuhiko, Nakao Hideto, Niihori Tetsuya, Aoki Yoko	共著					Congenital Anomalies	2016.11
帝王切開術後における血中プロカ シトニン値のカットオフ値の検討	産科	南谷智之、 金子めぐみ、 中澤浩志、 河崎あさひ、森下紀、 牧志綾、高松祐幸、 喜吉賢二、佐本崇、 船越徹	日本周産期・新生児医学会雑誌	52	1	48	52	日本周産期・新生児 医学会	2016
胎児甲状腺機能低下性の甲状腺腫 に対し羊水腔内にレボチロキシン投 与を行い、治療評価に羊水TSHが有 用であった一例	産科	金子めぐみ、佐本崇、 南谷智之、中澤浩志、 河崎あさひ、森下紀、 牧志綾、高松祐幸、 喜吉賢二、船越徹	日本周産期・新生児医学会雑誌	52	1	130	134	日本周産期・新生児 医学会	2016

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
切迫早産で硫酸マグネシウム長期投与中の母体血中マグネシウム濃度推定式の妥当性	産科	中澤浩志、金子めぐみ、河崎あさひ、森下紀、南谷智之、牧志綾、高松祐幸、喜吉賢二、佐本崇、船越徹	日本周産期・新生児医学会雑誌	52	3	866	869	日本周産期・新生児医学会	2016
高齢妊婦におけるnulliparous term singletone vertex cesarean delivery(NTSV CD) ratesの検討	産科	船越徹	産婦人科の進歩	68	3	326	328	産婦人科の進歩編集室	2016
小児にみられる肝腫瘍の鑑別	放射線診断科	赤坂好宣	画像診断増刊号 肝胆膵の鑑別診断のポイント	36	4	80	83	秀潤社	2016.3.10
小児にみられる膵腫瘍の鑑別	放射線診断科	赤坂好宣	画像診断増刊号 肝胆膵の鑑別診断のポイント	36	4	206	209	秀潤社	2016.3.10
小児のMRI	放射線診断科	赤坂好宣	小児科臨床増刊 Q&Aで学ぶ小児の画像診断のポイント	69	suppl.	1927	1932	日本小児医事出版社	2016.12.5
各論 5 泌尿生殖器	放射線診断科	赤坂好宣	小児科臨床増刊 Q&Aで学ぶ小児の画像診断のポイント	69	suppl.	2463	2466	日本小児医事出版社	2016.12.5
肺保護換気の際に至適PEEPはどのように設定するのか	小児集中治療科	黒澤寛史	救急・集中治療	28	9	683	689	総合医学社	2016.9
医療関連機器圧迫創傷(MDRPU)の予防 配慮点と現場のコツ 小児の気管切開カニューレ・カニューレ固定具	看護部	鎌田直子	エキスパートナーズ	32	13	44	51	照林社	2016.11

3) 学会発表

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
急性呼吸不全症例における超音波検査による肺浸潤陰影—レントゲン・エコー・CTの比較	救急総合診療科	福原信一、石田悠介、楠元真由美、梶原伸介、山口義道、竹田洋樹、上谷良行	第30回	日本小児救急医学会 学術集会	仙台	2016.7.1-2
新病院集中治療室における安全性を高めるための、事前シミュレーショントレーニングのあり方	集中治療科	黒澤寛史、野澤正寛、清水淳次、椎間優子、上谷良行	第30回	日本小児救急医学会 学術集会	仙台	2016.7.1-2
小児熱傷の外来治療経過；浅達性II度熱傷43例の検討	救急総合診療科	安田真人、松井鋭、植松悟子、辻聡	第119回	日本小児科学会	札幌	2016.5.15
Association between depths and causes of burns in a pediatric emergency department in Japan	Emergency & General Pediatrics	Masato Yasuda, Ryuuji Sasaki, Satoko Uematsu, Kennichi Tetsuhara, Satoshi Matsui, Hiroshi Fukumasa, Satoshi Tsuji	12th	Asian Society for Pediatric Research,	Bangkok	2016.11.10-11
小児の重症度評価、軽度頭部外傷	救急集中治療科	上谷良行	平成27年度	兵庫県医師会小児初期救急医療研修会	神戸	2016.2.28
小児の重症度評価、軽度頭部外傷	救急集中治療科	上谷良行	平成28年度	兵庫県医師会小児初期救急医療研修会	姫路	2016.10.23
A child case of foreign body ingestion accompanied by retropharyngeal abscess; how should we have found it?	救急集中治療科	Yoshimichi Yamaguchi, Yosuke Inaguma, Mayumi Kusumoto, Hiroki Takeda, Yoshiyuki Uetani, Masahide Otsu	16th	International Conference on Emergency Medicine	Cape Town	2016.4.18-21
小児病院が救急をすること ～一地方都市における小児救急医療事情～	救急総合診療科	林卓郎 楠元真由美 松井鋭 竹田洋樹 上谷良行 有吉孝一	第44回	日本救急医学会総会学術集会	東京	2016.11.17-19
“ OMOTENASHI ” Sushi, Tofu, Natto, Kobe beef, delicious & healthy, but sometimes toxic Japanese food.	救急総合診療科	Takuro HAYASHI	6th	World Congress in Emergency Medicine	Cancun	2016.11.16-19
Souvenir from JAPAN-small TIPS & Pearls in Emergency Medicine from Japan-	救急総合診療科	Takuro HAYASHI	6th	World Congress in Emergency Medicine	Cancun	2016.11.16-19
日本小児救急医学会 加賀百万石教育セミナー 講師	救急総合診療科	林卓郎	第7回	日本小児救急医学会 加賀百万石教育セミナー	金沢	2016.12.3-4
神戸市消防救急症例研修会 講師	救急総合診療科	林卓郎	第65回	神戸市消防局	神戸	2016.11.1
低リン血症性くる病における腎石灰化のリスク因子についての検討	代謝内分泌科	日外祐理、尾崎佳代、郷司克己	第50回	日本小児内分泌学会 学術総会	東京	2016.11.16
急性腸炎(病原性大腸菌O-1)後に発症したループスアンチコアグラント陽性低プロトロンビン血症	リウマチ科	菱谷 好洋、笠井 和子、中岸 保夫	26	日本小児リウマチ学会 総会・学術集会	千葉	2016.10.22
診断・治療方針に難渋した、分類不能結合織病(UCTD)関連間質性肺炎を呈した一女児例	リウマチ科	中岸 保夫、大嶋 明、大原 亜沙実、古波藏 都秋、佐々木 恭介、戸澤 雄介、藪内 俊彦	26	日本小児リウマチ学会 総会・学術集会	千葉	2016.10.23
多関節型若年性特発性関節炎患者に対して初回導入した生物学的製剤の長期継続性予測因子に関する検討	リウマチ科	久保田 知洋、清水 正樹、安村 純子、中岸 保夫、木澤 敏毅、八代 将登、脇口 宏之、山崎 雄一、中堅小児リウマチ医の会	26	日本小児リウマチ学会 総会・学術集会	千葉	2016.10.23
全身型若年性特発性関節炎におけるトシリズマブ投与下での病勢評価と予後予測指標としての血清IL-18値の臨床的有用性	リウマチ科	水田 麻雄、清水 正樹、井上 なつみ、笠井 和子、中岸 保夫、谷内江 昭宏	26	日本小児リウマチ学会 総会・学術集会	千葉	2016.10.21

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
トシリズマブ治療中の全身型若年性特発性関節炎における急性炎症反応評価のための血清 Leucine-rich α 2-glycoprotein 値の臨床的有用性	リウマチ科	清水 正樹, 中岸 保夫, 高倉 麻衣子, 井上 なつみ, 水田 麻雄, 谷内江 昭宏	26	日本小児リウマチ学会 総会・学術集会	千葉	2016.10.21
全身型若年性特発性関節炎に合併した上腕二頭筋滑液嚢胞の臨床病理学的検討	リウマチ科	水田 麻雄, 清水 正樹, 中岸 保夫, 笠井 和子, 谷内江 昭宏	26	日本小児リウマチ学会 総会・学術集会	千葉	2016.10.21
若年性特発性関節炎における病勢評価と予後予測指標としての血清IL-33値の臨床的有用性	リウマチ科	清水 正樹, 石川 さやか, 井上 なつみ, 水田 麻雄, 笠井 和子, 中岸 保夫	60	日本リウマチ学会総会・ 学術集会	横浜	2016.4.21
小児の膠原病および若年性特発性関節炎 全身型若年性特発性関節炎におけるトシリズマブ投与下での病勢評価と予後予測指標としての血清IL-18値の臨床的有用性	リウマチ科	水田 麻雄, 清水 正樹, 井上 なつみ, 笠井 和子, 中岸 保夫	60	日本リウマチ学会総会・ 学術集会	横浜	2016.4.21
全身型若年性特発性関節炎 治療	リウマチ科	中岸 保夫	4	小児リウマチ研修会	千葉	2016.2.28
Campylobacter腸炎に罹患後、一過性の多関節炎を発症した一例	リウマチ科	菱谷好洋, 笠井和子, 中岸保夫, 山根正之	269	日本小児科学会兵庫県 地方会	姫路	2016.9.17
SERUM IL-18 LEVELS AS A MARKER FOR DISEASE ACTIVITY IN SYSTEMIC JUVENILE IDIOPATHIC ARTHRITIS DURING TOCILIZUMAB THERAPY.	リウマチ科	Mao Mizuta, Masaki Shimizu, Natsumi Inoue, Yasuo Nakagishi, Akihiro Yachie	23	PRoS Congress	Genoa, Italy	2016.9.29
EARLY PREDICTION FOR SUSTAINED LONG-TERM EFFICACY OF THE 1ST BIOLOGIC AGENT IN POLYARTICULAR JUVENILE IDIOPATHIC ARTHRITIS; A MULTI-CENTER STUDY IN JAPAN.	リウマチ科	Tomohiro Kubota, Masaki Shimizu, Junko Yasumura, Yasuo Nakagishi, Toshitaka Kizawa, Masato Yashiro, Hiroyuki Wakiguchi, Tsuyoshi Yamatou, Yuichi Yamasaki, Syuji Takei, Yoshifumi Kawano	23	PRoS Congress	Genoa, Italy	2016.9.29
BICIPITAL SYNOVIAL CYST ASSOCIATED WITH SYSTEMIC JUVENILE IDIOPATHIC ARTHRITIS: CLINICAL DESCRIPTION, SONOGRAPHIC AND PATHOLOGICAL FINDINGS.	リウマチ科	Yasuo Nakagishi, Masaki Shimizu, Mao Mizuta, Akihiro Yachie	23	PRoS Congress	Genoa, Italy	2016.9.29
創外固定器を用いた骨延長術後に発症した全身型金属アレルギーの1小児例	アレルギー科	笠井 和子, 中岸 保夫	第65回	日本アレルギー学会学 術大会	東京	2016.6.17
Barbiturate coma therapy for children with acute encephalopathy	神経内科	Yusuke Ishida, Kazumi Tomioka, Tsukasa Tanaka, Masahiro Nishiyama, Kyoko Fujita, Daisaku Toyoshima, Azusa Maruyama, Hiroaki Nagase, Hiroki Takeda, Yoshiyuki Uetani	The 18th	Annual Meeting of Infantile Seizure Society	Tokyo	2016.7.1-7.3
NCSEを伴うAESDの特徴を示した敗血症性脳症の一例	神経内科	山口宏, 田中司, 豊嶋大作, 丸山あずさ, 永瀬裕朗	第119回	日本小児科学会学術集会	札幌	2016.5.13-5.15
眼瞼下垂の経過観察中に詳細な問診により明らかになった両側性腱膜性眼瞼下垂の一例	神経内科	山口宏, 田中司, 豊嶋大作, 丸山あずさ, 一瀬晃洋, 永瀬裕朗	第268回	日本小児科学会兵庫県 地方会	神戸	2016.5.28
急性脳症治療における全身麻酔療法導入時のチアミラル投与の検討	神経内科	石田悠介, 富岡和美, 田中司, 西山将広, 藤田杏子, 豊嶋大作, 丸山あずさ, 永瀬裕朗, 竹田洋樹, 上谷良行	第58回	日本小児神経学会 学術集会	東京	2016.6.3-6.5

演題名	所属科	発表者名	第〇回	学会名	開催都市名	開催年月日
AST上昇を認めない重症熱性けいれん小児における非けいれん性発作・長期予後の検討	神経内科	丸山あずさ、石田悠介、田中司、西山将広、豊嶋大作、永瀬裕朗	第50回	日本てんかん学会 学術集会	静岡	2016.10.7-10.9
急性脳症治療における全身麻酔療法導入時のチアミール投与の検討	神経内科	石田悠介、富岡和美、田中司、西山将広、藤田杏子、豊嶋大作、丸山あずさ、永瀬裕朗、竹田洋樹、上谷良行		兵庫県てんかん研究会	神戸	2016.3.7
小児救急・集中治療領域における連続脳波モニタリング	神経内科	丸山あずさ	第4回	神戸てんかん治療 連携の会	神戸	2016.7.28
TSCにおける地域連携について	神経内科	豊嶋大作		TSCにおける地域連携 について	神戸	2016.10.12
てんかんと腎血管脂肪腫を合併した結節性硬化症へのエペロリムスの投与経験 ～他科との連携を中心に～	神経内科	豊嶋大作		和歌山結節性硬化症最新 治療セミナー	和歌山	2016.10.20
小児がんを取り巻く最近の動向—小児がん拠点病院と新病院における小児がん診療について	血液・腫瘍内科	小阪嘉之	第65回	兵庫県小児科医会小児 医学講座	神戸市	2016/3/26
血栓性血小板減少性紫斑病(TTP)/溶血性尿毒症症候群(HUS)の病態と治療	血液・腫瘍内科	小阪嘉之	第119回	日本小児科学会学術集 会教育講演	札幌市	2016.5.14
小児悪性新生物における小児慢性特定疾病情報 たちばな職員研修センター	血液・腫瘍内科	小阪嘉之		兵庫県健康福祉局主催 講演会	神戸市	2016.5.22
当院における血友病診療—定期補充療法導入について の提言	血液・腫瘍内科	小阪嘉之	第22回	北海道血友病研究会	札幌市	2016.7.23
小児がんについて	血液・腫瘍内科	小阪嘉之	第3回	NPO法人ふわり主催地 域ケア研修会	神戸市	2016.7.30
小児造血器腫瘍の診断と治療—“こどもの白血病”と “おとなの白血病”とどこが違う？	血液・腫瘍内科	小阪嘉之	第65回	日本検査医学学会	神戸市	2016.9.5
全身の水痘様発疹と疼痛を伴う皮下結節を認めた ALLの診断・臨床経過について	血液・腫瘍内科	植村優、斎藤敦郎、二野菜々子、高藤哲、横井健人、神前愛子、石田敏章、長谷川大一郎、川崎圭一郎、小阪嘉之、上原栄理子、赤坂好宣	第9回	兵庫県 tumor board	神戸市	2016.1.15
寛解導入療法中に播種性 Fusarium 感染症を合併した 急性リンパ性白血病の一例	血液・腫瘍内科	植村優、斎藤敦郎、二野菜々子、高藤哲、横井健人、神前愛子、石田敏章、長谷川大一郎、川崎圭一郎、小阪嘉之、上原栄理子、赤坂好宣		近畿若手血液クラブ	大阪市	2016.2.12
骨髄移植後の閉塞性細気管支炎に対し、両親をドナー とした生体肺移植を行った1例	血液・腫瘍内科	神前愛子1)、川崎圭一郎1)、植村優1)、高藤哲1)、二野菜々子1)、横井健人1)、齋藤敦郎1)、石田敏章1)、長谷川大一郎1)、三好健太郎2)、大藤剛宏2)、小阪嘉之1)	第38回	近畿小児血液・がん研 究会	大阪 狭山市	2016.2.13
急速な経過で死の転帰をとった perforin 欠損型家族性 血球貪食リンパ組織球症の2例	血液・腫瘍内科	横井健人、植村優、高藤哲、二野菜々子、斎藤敦郎、神前愛子、石田敏章、長谷川大一郎、川崎圭一郎、岩谷壮太、芳本誠司、中尾秀人、小阪嘉之		血液・免疫疾患セミナー	神戸市	2016.2.26

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
造血幹細胞移植前処置強度が小児患者の身長発達に与える影響 Effect of conditioning intensity on growth after hematopoietic cell transplant in children	血液・腫瘍内科	植村優、長谷川大一郎、斎藤敦郎、二野菜々子、横井健人、高藤哲、神前愛子、石田敏章、川崎圭一郎、小阪嘉之	第38回	日本造血細胞移植学会	名古屋市	2016.3.3
当院における小児がん患者に対する粒子線治療の試み	血液・腫瘍内科	横井健人1) 石田敏章1) 川崎圭一郎1) 大西美樹4) 河村淳史2) 出水祐介5) 沖本智昭5) 副島俊典3) 長嶋達也2) 小阪嘉之1) 兵庫県立こども病院 小児がん医療センター 血液腫瘍内科1) 脳神経外科2) 放射線科3) 看護部4) 兵庫県立粒子線医療センター 放射線科5)	第29回	近畿小児科学会	大阪市	2016.3.6
Effects of conditioning intensity on growth after hematopoietic stem cell transplantation in children.	血液・腫瘍内科	Suguru Uemura, Daiichiro Hasegawa, Aiko Kozaki, Nanako Nino, Takehito Yokoi, Satoshi Takafuji, Atsuro Saito, Toshiaki Ishida, Keiichiro Kawasaki, and Yoshiyuki Kosaka	42nd	Annual Meeting of the European Society for Blood and Marrow Transplantation	Valencia - Spain	2016.4.3-6
寛解導入療法中に播種性フサリウム感染症を合併したB前駆細胞性急性リンパ性白血病の一例	血液・腫瘍内科	植村優、長谷川大一郎、斎藤敦郎、二野菜々子、横井健人、田村彰広、神前愛子、岸本健治、石田敏章、川崎圭一郎、小阪嘉之	第6回	小児Febrile Neutropenia 研究会	札幌市	2016.5.14
神経芽腫患者の微小残存病変モニタリング Minimal residual disease monitoring in neuroblastoma patients.	血液・腫瘍内科	西村範行1)、Khin Kyaemon Thwin1)、山本颯之1)、森健1)、早川晶1)、長谷川大一郎2)、川崎圭一郎2)、小阪嘉之2)、西尾久英3)、飯島一誠1)	第119回	日本小児科学会	札幌市	2016.5.13-15
小児急性リンパ性白血病(ALL)に対する小児白血病研究会 ALL-02治療研究最終解析結果	血液・腫瘍内科	長谷川大一郎	第20回	JACLS 総会	大阪市	2016.5.23-24
MR-CNS感染を契機に肺出血をきたした新生児期発症のHLH一例	血液・腫瘍内科	植村優、長谷川大一郎、二野菜々子、横井健人、太原鉄平、田村彰広、斎藤敦郎、神前愛子、岸本健治、石田敏章、川崎圭一郎、小阪嘉之	第32回	兵庫県小児血液腫瘍症例検討会	神戸市	2016.6.3
2006 - 2016年に当院で経験した頭蓋内胚細胞腫瘍症例の報告	血液・腫瘍内科	岸本健治、小阪嘉之、植村優、二野菜々子、横井健人、太原鉄平、田村彰広、神前愛子、斎藤敦郎、石田敏章、長谷川大一郎、川崎圭一郎、橋口充、阿久津宣行、小山淳二、河村淳史、長嶋達也	第15回	小児脳腫瘍治療研究会	東京都	2016.7.2
骨髄移植後の閉塞性細気管支炎に対し両親をドナーとした生体肺移植を行った急性リンパ性白血病の一例	血液・腫瘍内科	太原鉄平、川崎圭一郎、植村優、二野菜々子、横井健人、田村彰広、斎藤敦郎、神前愛子、岸本健治、石田敏章、長谷川大一郎、小阪嘉之	第76回	白血病懇話会	神戸市	2016.7.16
出生時に白血球増多、著明な肝腫大とDICを呈した新生児の一例	血液・腫瘍内科	植村優、長谷川大一郎、田村彰宏、斎藤敦郎、横井健人、二野菜々子、太原鉄平、神前愛子、岸本健治、石田敏章、川崎圭一郎、小阪嘉之	第8回	近畿若手小児血液クラブ	大阪市	2016.9.9

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
小児がん患者への粒子線治療 ～当院と県立粒子線医療センターの医療連携～	血液・腫瘍内科	二野菜々子 斎藤敦郎 横井健人 川崎圭一郎 小阪嘉之(兵庫県立こども病院 小児がん医療センター 血液腫瘍内科) 河村淳史 (同脳神経外科) 大西美樹 (同看護部) 出水祐介 沖本智昭 (兵庫県立粒子線医療センター放射線科)	第14回	兵庫県立病院学会	神戸市	2016.9.10
造血幹細胞移植後に非典型溶血性尿毒症候群を合併した家族性血球貪食性リンパ組織球症3型の1例	血液・腫瘍内科	齋藤敦郎、長谷川大一郎、二野菜々子、 太原鉄平、植村優、横井健人、田村彰広、 神前愛子、岸本健治、石田敏章、川崎圭一郎、 小阪嘉之		小児血液・がん学会教育セミナーin関西	大阪市	2016.9.25
Aggressive double-hit leukemia/lymphoma with t(14;18)(q32;q21) and t(8;21)(q24;q11.2)	血液・腫瘍内科	Suguru UEMURA, Daiichiro HASEGAWA, Nanako NINO, Satoru TAKAFUJI, Takehito YOKOI, Atsuro SAITO, Aiko KOZAKI, Toshiaki ISHIDA, Keiichiro KAWASAKI, and Yoshiyuki KOSAKA	第78回	日本血液学会総会	横浜市	2016.10.13-15
Reemergence of a translocation t(11;19)(q23;p13.1) in the absence of leukemia.	血液・腫瘍内科	Atsuro Saito, Daiichiro Hasegawa, Suguru Uemura, Nanako Nino, Takafuji Satoru, Takehito Yokoi, Teppei Tahara, Akihiro Tamura, Aiko Kozaki, Kenji Kishimoto, Toshiaki Ishida, Keiichiro Kawasaki, Takeshi Mori, Noriyuki Nishimura, and Yoshiyuki Kosaka	第78回	日本血液学会総会	横浜市	2016.10.13-15
先天性赤白血病(M6b)の一例	血液・腫瘍内科	岸本健治、田村彰広、植村優、長谷川大一郎、 齋藤敦郎、二野菜々子、横井健人、神前愛子、 石田敏章、川崎圭一郎、小阪嘉之	第77回	兵庫県白血病患者懇話会	神戸市	2016.11.12
当院におけるPh-like ALLの治療経験	血液・腫瘍内科	植村優、長谷川大一郎、齋藤敦郎、二野菜々子、 横井健人、田村彰広、神前愛子、岸本健治、石 田敏章、川崎圭一郎、小阪嘉之	第77回	兵庫県白血病患者懇話会	神戸市	2016.11.12
当科におけるacute mixed lineage leukemiaの治療経験	血液・腫瘍内科	横井健人、小阪嘉之	第3回	兵庫県小児がん治療講演会	神戸市	2016.11.24
Palliative radiation therapy for neuroblastoma	血液・腫瘍内科	Toshinori Soejima, Kayoko Tsujino, Yosuke Ota, Yoko Matsumoto, Shuhei Sekii, Hikaru Kubota, Yoshinobu Akasaka, Yoshiyuki Kosaka, Keiichiro Kawasaki, Daiichiro Hasegawa, Toshiaki Ishida	第29回	日本放射線腫瘍学会	京都府	2016.11.25-27
早期の一次定期補充療法導入後に頭蓋内出血を発症した重症血友病A乳児例	血液・腫瘍内科	太原鉄平、石田敏章、植村優、二野菜々子、 横井健人、田村彰広、神前愛子、齋藤敦郎、 岸本健治、長谷川大一郎、川崎圭一郎、 小阪嘉之	第9回	Baxtra Mini Conference	神戸市	2016.12.3

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
Risk-adjusted therapy of acute lymphoblastic leukemia can improve survival: Results of Japan Association Childhood Leukemia Study Group (JACLS) Protocol ALL-02	血液・腫瘍内科	Daiichiro Hasegawa, Toshihiko Imamura, Keiko Yumura-Yagi, Yoshihiro Takahashi, Ikuya Usami, Soichi Suenobu, Shinichiro Nishimura, Nobuhiro Suzuki, Yoshiko Hashii, Takao Deguchi, Akiko Saito, Koji Kato, Yoshiyuki Kosaka, Yoshihiro Komada, Akihiro Iguchi, Hirohide Kawasaki, Hiroki Hori, Atsushi Sato, Junichi Hara, and Keizo Horibe	56th	Annual Meeting of American Society of Hematology	San Diego	2016.12.3-6
The outcome of low-risk childhood B-cell precursor ALL treated with the Japan Association of childhood Leukemia Study (JACLS) ALL-02 trial.	血液・腫瘍内科	Yoshihiro Takahashi ^{1,2} , Toshihiko Imamura ² , Fumiya Usami ² , Keiko Yumura-Yagi ² , Soichi Suenobu ² , Daiichiro Hasegawa ² , Shinichiro Nishimura ² , Nobuhiro Suzuki ² , Keiko Hashii ² , Takao Deguchi ² , Akiko Saitou ² , Yoshiyuki Kosaka ² , Koji Kato ² , Ryoji Kobayashi ² , Hirohide Kawasaki ² , Hiroki Hori ² , Atsushi Satoh ² , Junichi Hara ² , Keizo Horibe ²	56th	Annual Meeting of American Society of Hematology	San Diego	2016.12.3-6
Continuous cytarabine plus dexamethasone in consolidation phase to patients with childhood ALL: result from Japan Association of Childhood Leukemia Study -- JACLS ALL02 protocol.	血液・腫瘍内科	So-ichi Suenobu, Ikuya Usami, Toshihiko Imamura, Hirohide Kawasaki, Keiko Yumura-Yagi, Shinichiro Nishimura, Makoto Kaneda, Yoshihiro Takahashi, Daiichiro Hasegawa, Nobuhiro Suzuki, Yoshiko Hashii, Takao Deguchi, Akiko Saito, Koji Kato, Yoshiyuki Kosaka, Mikiya Endo, Akihiro Iguchi, Megumi Oda, Hiroki Hori, Atsushi Sat, Tatsutoshi Nakahata, Toru Kudo, Junichi Hara, Keizo Horibe: Japan Association of Childhood Leukemia Study Department of Pediatrics, Osaka University, Suita, Japan	56th	Annual Meeting of American Society of Hematology	San Diego	2016.12.3-6
Landscape of Driver Mutations and Their Clinical Impacts in Pediatric Acute Lymphoblastic Leukemia	血液・腫瘍内科	Hiroo Ueno, MD, Kenichi Yoshida, Yuka Yamashita, Yusuke Shiozawa, Tomomi Ishida, Hiroyuki Tsukamoto, Yuichi Shiraishi, Hiroko Tanaka, Kenichi Chiba, Takao Deguchi, Atsushi Sato, Yoshiko Hashii, Sadao Tokimasa, Junichi Hara, Yoshiyuki Kosaka, Koji Kato, Toshihiko Imamura, Satoru Miyano, Seishi Ogawa, Keizo Horibe and Masashi Sanada	56th	Annual Meeting of American Society of Hematology	San Diego	2016.12.3-6
Shift to Anti-Fibrinolysis on the Administration of L-Asparaginase (L-Asp) during Induction Therapy for Pediatric Acute Lymphoblastic Leukemia (ALL)	血液・腫瘍内科	Takashi Ishihara, Keiji Nogami, Tomoko Matsumoto, Yasufumi Takeshita, Akitaka Nomura, Satoshi Ochi, Toshiaki Ishida, Yoshiyuki Kosaka, Akihisa Sawada, Masami Inoue, Midori Shima	56th	Annual Meeting of American Society of Hematology	San Diego	2016.12.3-6
神経芽腫に対する緩和的放射線治療	血液・腫瘍内科	副島俊典, 辻野佳世子, 太田陽介, 松本葉子, 関井修平, 窪田光, 赤坂好宣, 小坂嘉之, 川崎圭一郎, 長谷川大一郎, 石田敏章	第58回	日本小児血液・がん学会	東京都	2016.12.15-17

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
Infantile pure erythroid leukemia	血液・腫瘍内科	田村彰広、長谷川大一郎、植村優1)、齋藤敦郎1)、武岡恵美子2)、大久保沙紀2)、田中俊光1)、太原鉄平1)、横井健人1)、二野菜々子1)、神前愛子1)、岸本健二1)、石田敏章1)、吉田牧子3)、森貞直哉4)、芳本誠司2)、川崎圭一郎1)、中尾秀人2)、小阪嘉之1)	第58回	日本小児血液・がん学会	東京都	2016.12.15-17
Successful combination therapy of liposomal amphotericin B and caspofungin for disseminated fusariosis.	血液・腫瘍内科	Suguru Uemura, Daiichiro Hasegawa, Akihiro Tamura, Atsuro Saito, Takehito Yokoi, Nanako Nino, Teppei Tahara, Aiko Kozaki, Kenji Kishimoto, Toshiaki Ishida, Keiichiro Kawasaki, Yoshiyuki Kosaka	第58回	日本小児血液・がん学会	東京都	2016.12.15-17
Prevention of chemotherapy-induced vomiting in children receiving multiple-day cisplatin chemotherapy	血液・腫瘍内科	Kenji Kishimoto, Keiichiro Kawasaki, Takehito Yokoi, Nanako Nino, Teppei Tahara, Aiko Kozaki, Suguru Uemura, Akihiro Tamura, Atsuro Saito, Toshiaki Ishida, Daiichiro Hasegawa, Yoshiyuki Kosaka	第58回	日本小児血液・がん学会	東京都	2016.12.15-17
JACLS ALL-02研究における prednisolone poor responderの治療成績 The outcome of childhood high-risk B-cell precursor acute lymphoblastic leukemia showing prednisone poor response in the JACLS ALL-02 study	血液・腫瘍内科	Daiichiro Hasegawa, Toshihiko Imamura, Keiko Yagi, Makoto Kaneda, Shinichiro Nishimura, Yoshihiro Takahashi, Ikuya Usami, Soichi Suenobu, Nobuhiro Suzuki, Yoshiko Hashii, Takao Deguchi, Akiko Saito, Koji Kato, Yoshiyuki Kosaka, Yoshihiro Komada, Akihiro Iguchi, Hirohide Kawasaki, Hiroki Hori, Atsushi Sato, Junichi Hara, and Keizo Horibe	第58回	日本小児血液・がん学会	東京都	2016.12.15-17
JACLS ALL-02 (HR) 治療研究の成績: 予後因子としての年齢と初期治療反応性 JACLS-ALL-02 (HR) study: Older age and poor early response predict poor outcome in high risk patients	血液・腫瘍内科	Suenobu Soichi, Keiko Yagi, Toshihiko Imamura, Shinichiro Nishimura, Makoto Kaneda, Yoshihiro Takahashi, Daiichiro Hasegawa, Ikuya Usami, Nobuhiro Suzuki, Yoshiko Hashii, Takao Deguchi, Koji Kato, Yoshiyuki Kosaka, Mikiya Endo, Akihiro Iguchi, Hirohide Kawasaki, Hiroki Hori, Atsushi Sato, Megumi Oda, Tatsutoshi Nakahata, Toru Kudo, Junichi Hara, Keizo Horibe	第58回	日本小児血液・がん学会	東京都	2016.12.15-17
本邦での骨髄浸潤を伴わない小児顆粒球肉腫の後方視的研究 Retrospective study for pediatric myeloid sarcoma without bone marrow involvement in Japan	血液・腫瘍内科	多賀崇、今村俊彦、中島健太郎、前田尚子、渡邊輝浩、宮島雄二、藤村純也、佐野仁志、長谷川大一郎、河崎裕英、足立壮一、高木正稔、康勝好、真部淳、滝智彦、石田也寸志	第58回	日本小児血液・がん学会	東京都	2016/12/15-17
JACLS ALL-02研究における standard risk群の治療成績 Outcome of children with standard-risk B-cell precursor acute lymphoblastic leukemia treated with JACLS ALL-02 protocol	血液・腫瘍内科	高橋良博、今村俊彦、宇佐美郁哉、八木啓子、末延聡一、長谷川大一郎、西村真一郎、鈴木信寛、橋井佳子、出口隆生、齋藤明子、小阪嘉之、加藤剛二、小林良二、河崎裕英、堀浩樹、佐藤篤、原純一、堀部敬三	第58回	日本小児血液・がん学会	東京都	2016.12.15-17

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
小児難治固形腫瘍に対するTMC大量化学療法 (Topotecan/melphalan/cyclophosphamide) の有効性 The efficacy of high-dose topotecan, melphalan, and cyclophosphamide for children with advanced solid tumors: A single-institution experience	血液・腫瘍内科	石田敏章、岸本健治、太原鉄平、横井健人、植村優、二野菜々子、田村彰広、齋藤敦郎、神前愛子、長谷川大一郎、川崎圭一郎、小阪嘉之	第58回	日本小児血液・がん学会	東京都	2016.12.15-17
JACLS参加施設におけるANLL91、AML99治療を受けた白血病患者の晩期合併症とQOLに関する後方視的調査研究 Retrospective study of late effects and QOL in survivors of leukemia treated with the ANLL91 or AML99 protocol from JACLS	血液・腫瘍内科	大杉夕子、山口悦子、長谷川大一郎、今村俊彦、早川晶、安井昌博、坂口大俊、堀司、嶋田明、岩本彰太郎、橋井佳子、田村真一、力石健、照井君典、金井理恵、佐藤篤、堀部敬三、小林良二、足立壮一	第58回	日本小児血液・がん学会	東京都	2016.12.15-17
小児における同種造血幹細胞移植後の眼合併症 Ocular complications after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation in children	血液・腫瘍内科	二野菜々子、齋藤敦郎、長谷川大一郎、太原鉄平、横井健人、植村優、田村彰広、神前愛子、岸本健治、石田敏章、川崎圭一郎、小阪嘉之	第58回	日本小児血液・がん学会	東京都	2016.12.15-17
小児中枢神経外胚細胞性腫瘍79症例の臨床的検討 Clinical analysis of 79 children with Extracranial germ cell tumor	血液・腫瘍内科	太原鉄平、石田敏章、岸本健治、横井健人、植村優、二野菜々子、田村彰広、齋藤敦郎、神前愛子、長谷川大一郎、川崎圭一郎、小阪嘉之	第58回	日本小児血液・がん学会	東京都	2016.12.15-17
神経芽腫群腫瘍のリスク分類と組織分類の検討 A study of International Neuroblastoma Pathology Classification and Risk Grouping in neuroblastoma	血液・腫瘍内科	吉田牧子、石田敏章、岸本健治、横井健人、植村優、二野菜々子、田村彰広、齋藤敦郎、神前愛子、長谷川大一郎、横井暁子、福沢宏明、前田貢作、赤坂好宣、川崎圭一郎、小阪嘉之	第58回	日本小児血液・がん学会	東京都	2016.12.15-17
網膜芽細胞腫に対する vincristine, etoposide, carboplatin 併用療法 (VEC療法) 治療関連毒性の検討 Treatment-related toxicities in patients with retinoblastoma receiving vincristine, etoposide and carboplatin combination therapy	血液・腫瘍内科	横井健人、岸本健治、太原鉄平、植村優、二野菜々子、田村彰広、齋藤敦郎、神前愛子、長谷川大一郎、川崎圭一郎、小阪嘉之	第58回	日本小児血液・がん学会	東京都	2016.12.15-17
兵庫県における小児がんに対する陽子線治療施行体制について A Collaboration System on Proton Beam Therapy for Pediatric Patients in Hyogo	血液・腫瘍内科	副島俊典、出水祐介、小阪嘉之、河村淳史、鈴木毅、二野菜々子、石田敏章、沖本智昭、長嶋遼也	第58回	日本小児血液・がん学会	東京都	2016.12.15-17
当院での肝芽腫標準リスクの治療の現状 The present situation of preoperative chemotherapy for standard risk hepatoblastoma	血液・腫瘍内科	三浦紫津、福沢宏明、関根沙知、矢部清晃、山本聡史、三島泰彦、久松千恵子、森田圭一、大片祐一、中尾真、横井暁子、吉田牧子、石田敏章、小阪嘉之、前田貢作	第58回	日本小児血液・がん学会	東京都	2016.12.15-17
Graham Nunn 弁の右室流出路狭窄に対しバルーン拡大術を施行した2例	循環器内科	谷口由記、田中敏克、平海良美、三木康暢、祖父江俊樹、福田旭伸、富永健太、佐藤有美、城戸佐知子	第27回	JPIC学会	広島	2016.1.28-30
大動脈弁狭窄に対する経皮的バルーン大動脈弁形成術の長期成績	循環器内科	田中敏克、谷口由記、平海良美、三木康暢、祖父江俊樹、亀井直哉、小川禎治、富永健太、藤田秀樹、城戸佐知子	第27回	JPIC学会	広島	2016.1.28-30
V-V shunt, APCAに対するAZURの有用性	循環器内科	田中敏克	第27回	JPIC学会 ランチョンセミナー	広島	2016.1.28-30

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
肺動脈分岐部狭窄に対する上下葉枝への kissing balloon angioplasty	循環器内科	三木康暢、田中敏克、谷口由記、平海良美、祖父江俊樹、亀井直哉、小川禎治、富永健太、藤田秀樹、城戸佐知子	第27回	JPIC学会	広島	2016.1.28-30
カテーテル治療後の肺静脈閉塞と気腫性病変	循環器内科	藤田秀樹、祖父江俊樹、亀井直哉、佐藤有美、田中敏克、城戸佐知子	第27回	JPIC学会	広島	2016.1.28-30
胎児心疾患により胎児死亡した症例の検討	循環器内科	佐藤有美、亀井直哉、田中敏克、城戸佐知子	第22回	日本胎児心臓病学会	東京	2016.2.19
QT延長症候群を疑う際の knock(- genotyped) QT延長症候群 26例と対照群 91例のdataから	循環器内科	小川禎治、稲熊洋祐、谷口由記、祖父江俊樹、三木康暢、平海良美、福田旭伸、亀井直哉、富永健太、藤田秀樹、田中敏克、城戸佐知子	第267回	小児科学会兵庫県地方会	尼崎	2016.2.20
径8mmの冠動脈瘤の破裂により死亡した川崎病の1乳児例	循環器内科	上村和也、亀井直哉、田中敏克、小川禎治、富永健太、藤田秀樹、城戸佐知子	第40回	近畿川崎病研究会	大阪	2016.2.27
The treatment of pregnancy and delivery in women with congenital heart disease	循環器内科	城戸佐知子	第80回	日本循環器学会	仙台	2016.3.18
胎児期に4CVの左右差にて発見された卵円孔及び動脈管早期狭小の1例	循環器内科	佐藤有美	第2回	阪神胎児心臓病研究会	尼崎	2016.5.14
失神を伴った右脚起源の心室頻拍の1例	循環器内科	谷口由記、小川禎治、平海良美、三木康暢、祖父江俊樹、田中敏克、城戸佐知子		日本小児科学会	札幌	2016.5.13-15
心房頻拍が原因と考えられる、重症心不全を呈した心筋症の1乳児例	循環器内科	上村和也、祖父江俊樹、亀井直哉、田中敏克、瓦野昌大、谷口由記、平海良美、松岡道生、小川禎治、富永健太、藤田秀樹、城戸佐知子	第268回	小児科学会兵庫県地方会	神戸	2016.5.28
フォンタン術後・自律神経調節障害疑いの失神例	循環器内科	小川禎治、田中敏克、城戸佐知子	第7回	失神研究会	横浜	2016.7.2
総肺静脈還流異常修復術後の肺静脈狭窄を伴う単心室における右心バイパス	循環器内科	亀井直哉、田中敏克、三木康暢、祖父江俊樹、谷口由記、平海良美、小川禎治、富永健太、藤田秀樹、城戸佐知子	第52回	日本小児循環器学会	東京	2016.7.6-8
患者支援を考える～医師の立場から～	循環器内科	城戸佐知子	第52回	日本小児循環器学会	東京	2016.7.6-8
移行という医療者と患者の相互教育～今からやり遂げたい50のこと～	循環器内科	城戸佐知子	第52回	日本小児循環器学会	東京	2016.7.6-8
Blocked PACと誤診したAV blockの1例	循環器内科	佐藤有美、亀井直哉、田中敏克、城戸佐知子	第52回	日本小児循環器学会	東京	2016.7.6-8
小児における、genotyped QT延長症候群症例と対照群症例の、安静時と運動後のQTcの再現性	循環器内科	小川禎治、亀井直哉、田中敏克、三木康暢、祖父江俊樹、谷口由記、平海良美、富永健太、藤田秀樹、城戸佐知子	第52回	日本小児循環器学会	東京	2016.7.6-8
乳児期に発見された肺動脈大動脈起始症の2例	循環器内科	谷口由記、亀井直哉、平海良美、三木康暢、祖父江俊樹、小川禎治、藤田秀樹、田中敏克、城戸佐知子	第52回	日本小児循環器学会	東京	2016.7.6-8
兵庫県立こども病院小児心臓センターにおいて外科的介入を行った13トリソミーの4例	循環器内科	富永健太、亀井直哉、田中敏克、三木康暢、祖父江俊樹、谷口由記、平海良美、小川禎治、藤田秀樹、城戸佐知子	第52回	日本小児循環器学会	東京	2016.7.6-8
アルブミン低下を伴わないフォンタン術後の難治性腹水	循環器内科	藤田秀樹、富永健太、亀井直哉、田中敏克、三木康暢、祖父江俊樹、谷口由記、平海良美、小川禎治、城戸佐知子	第52回	日本小児循環器学会	東京	2016.7.6-8

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
気道出血を呈した第VII因子欠乏	循環器内科	藤田秀樹、富永健太、亀井直哉、田中敏克、三木康暢、祖父江俊樹、谷口由記、平海良美、小川禎治、城戸佐知子	第52回	日本小児循環器学会	東京	2016.7.6-8
先天性大動脈弁上狭窄におけるWilliams症候群合併の有無についての検討	循環器内科	平海良美、谷口由記、三木康暢、祖父江俊樹、亀井直哉、小川禎治、富永健太、藤田秀樹、城戸佐知子、田中敏克	第52回	日本小児循環器学会	東京	2016.7.6-8
冠動静脈瘻を伴った単一冠動脈の2例	循環器内科	平海良美、谷口由記、三木康暢、祖父江俊樹、亀井直哉、小川禎治、富永健太、藤田秀樹、城戸佐知子、田中敏克	第52回	日本小児循環器学会	東京	2016.7.6-8
臨床症状より Noonan 症候群と診断されている症例の検討	循環器内科	平海良美、谷口由記、三木康暢、祖父江俊樹、亀井直哉、小川禎治、富永健太、藤田秀樹、城戸佐知子、田中敏克	第52回	日本小児循環器学会	東京	2016.7.6-8
Amplatzer Vascular Plug II を用いた動脈管開存閉鎖術	循環器内科	田中敏克、谷口由記、平海良美、三木康暢、祖父江俊樹、亀井直哉、小川禎治、富永健太、藤田秀樹、城戸佐知子	第52回	日本小児循環器学会	東京	2016.7.6-8
閉鎖した fenestration 付心房中隔 PTEF patch に対して Nykanen RF wire で穿通し、バルーン血管形成術を行った肺静脈狭窄の1例	循環器内科	三木康暢、田中敏克、谷口由記、平海良美、祖父江俊樹、亀井直哉、小川禎治、富永健太、藤田秀樹、城戸佐知子	第52回	日本小児循環器学会	東京	2016.7.6-8
Comparison of QTc by Bazett's Formula and Fridericia's Formula; the Result of Exercise Stress Testing for 26 Genotyped LQTS Patients and 91 Healthy Controls in Pediatric Population	循環器内科	小川禎治、田中敏克、城戸佐知子	第63回	日本不整脈心電学会学術集会	札幌	2016.7.14-17
フォンタン手術後に気をつけるべきこと	循環器内科	田中敏克		兵庫県難病連	朝来	2016.9.25
先天性心疾患～よくある日常の注意点～	循環器内科	佐藤有美		姫路市難病連	姫路	2016.10.1
Fontan Program for Adolescence	Department of Cardiology	Sachiko Kido	第6回	Congress of Asia-Pacific Pediatric Cardiac Society	上海	2016.10.22
Envisioning a Future～大人になっていく先天性心疾患の子どもたちのために知っておくべき大切なこと～	循環器内科	城戸佐知子	第2回	Challenging Heart Day	大阪	2016.10.29
症例から紐解く移行期・成人期先天性心疾患～循環器内科医と共に考える～	循環器内科	城戸佐知子	第9回	大阪先天性心血管懇話会	大阪	2016.10.29
総肺静脈還流異常の術後に発症した洞機能不全症候群の1例	循環器内科	平海良美、藤田秀樹、谷口由記、松岡道生、亀井直哉、小川禎治、富永健太、城戸佐知子、田中敏克	第21回	日本小児心電学会	名古屋	2016.11.18-19
大人になった先天性心疾患患者の日常生活	循環器内科	城戸佐知子		全国心臓病の子どもを守る会兵庫支部	神戸	2016.12.4
臨床的に Alagille 症候群が疑われたが遺伝子解析で NPHP3 遺伝子変異を認め Renal-hepatic-pancreatic dysplasia1 と診断した1例	腎臓内科	白鳥孝俊、中川拓、神田杏子、叶明娟、森貞直哉、飯島一誠、田中亮二郎	第52回	近畿小児腎臓病研究会	大阪	2016.3.26

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
The comprehensive genetic analysis of congenital anomalies of the kidney and urinary tract (CAKUT) in Japan	腎臓内科	Naoya Morisada, Akemi Shono, Mariko Taniguchi-Ikeda, Kandai Nozu, Koichi Kamei, Kenji Ishikura, Shuichi Ito, Ryojiro Tanaka, Hisahide Nishio, Kazumoto Iijima	第13回	国際人類遺伝学会	京都	2016.4.3-7
非ネフローゼ型FSGSはネフローゼ型FSGSと比較して寛解率が低い	腎臓内科	神田杏子、白鳥孝俊、中川拓、田中亮二郎	第59回	日本腎臓学会学術総会	横浜	2016.6.17-19
小児・青年に対するフェブキソスタットの使用経験	腎臓内科	白鳥孝俊、中川拓、神田杏子、田中亮二郎	第59回	日本腎臓学会学術総会	横浜	2016.6.17-19
半月体形成性糸球体腎炎(CGN)を呈する小児IgA腎症(IgAN)の検討	腎臓内科	島友子、中西浩一、佐藤匡、向山弘展、浜武継、野津寛大、田中亮二郎、飯島一誠、吉川徳茂	第59回	日本腎臓学会学術総会	横浜	2016.6.17-19
臨床的にAlagille症候群が疑われたが次世代シーケンサーによる解析でNPHP3遺伝子変異を認めRHPD1と診断した1例	腎臓内科	白鳥孝俊、中川拓、神田杏子、叶明娟、森真直哉、飯島一誠、田中亮二郎	第51回	日本小児腎臓病学会学術集会	名古屋	2016.7.7-9
非ネフローゼ型FSGSはネフローゼ型FSGSと比較して寛解率が低い	腎臓内科	神田杏子、白鳥孝俊、中川拓、田中亮二郎	第51回	日本小児腎臓病学会学術集会	名古屋	2016.7.7-9
小児・青年に対するフェブキソスタットの使用経験	腎臓内科	白鳥孝俊、中川拓、神田杏子、田中亮二郎	第51回	日本小児腎臓病学会学術集会	名古屋	2016.7.7-9
先天性腎尿路奇形(CAKUT)と尿中neutrophil gelatinase-associated lipocalin(NGAL)の関係	腎臓内科	中川拓、白鳥孝俊、神田杏子、田中亮二郎	第51回	日本小児腎臓病学会学術集会	名古屋	2016.7.7-9
神戸市における3歳児検尿による先天性腎尿路奇形早期発見の試みー1年間的前方視的研究ー	腎臓内科	田中亮二郎、白鳥孝俊、中川拓、神田杏子	第51回	日本小児腎臓病学会学術集会	名古屋	2016.7.7-9
発症時急性腎炎症候群を呈する小児IgA腎症(ANS-IgAN)の検討	腎臓内科	島友子、中西浩一、佐藤匡、浜武継、向山弘展、戸川寛子、貝藤裕史、野津寛大、田中亮二郎、飯島一誠、鈴木啓之、吉川徳茂	第51回	日本小児腎臓病学会学術集会	名古屋	2016.7.7-9
CAKUT及び原因不明の小児期発症慢性腎機能障害患者への包括的原因遺伝子解析	腎臓内科	森真直哉、野津寛大、庄野朱美、忍頂寺毅史、井藤奈央子、神田祥一郎、亀井宏一、石倉健司、伊藤秀一、山本勝輔、里村憲一、服部元史、田中亮二郎、西尾久英、飯島一誠	第51回	日本小児腎臓病学会学術集会	名古屋	2016.7.7-9
A case of RHPD involving a mutation in the NPHP3 gene that was diagnosed by next-generation sequencing analysis in which Alagille syndrome was initially suspected based on the patient's clinical symptoms	腎臓内科	R. Tanaka, A. Shiratori, T. Nakagawa, K. Kanda, N. Morisada, K. Iijima	第17回	Congress of International Pediatric Nephrology Association	Brazil	2016.9.20-24
Crescentic IgA Nephropathy in children	腎臓内科	Y. Shima, K. Nakanishi, M. Sato, K. Nozu, R. Tanaka, K. Iijima, H. Suzuki, N. Yoshikawa	第17回	Congress of International Pediatric Nephrology Association	Brazil	2016.9.20-24
CAKUTを伴う先天異常症候群が疑われ次世代シーケンサーによる遺伝子解析で繊毛病の診断が得られた女児の1例	腎臓内科	中川拓、白鳥孝俊、神田杏子、森真直哉、飯島一誠、田中亮二郎	第53回	近畿小児腎臓病研究会	大阪	2016.10.1
ステロイド抵抗性ネフローゼ症候群で病理所見の解離を認めた1例	腎臓内科、病理診断科	山口宏、白鳥孝俊、中川拓、神田杏子、吉田牧子、田中亮二郎	第38回	日本小児腎不全学会学術集会	岐阜	2016.10.27-28
CAKUTを伴う先天異常症候群が疑われ次世代シーケンサーによる遺伝子解析で繊毛病の診断が得られた女児の1例	腎臓内科、遺伝科	中川拓、白鳥孝俊、神田杏子、森真直哉、飯島一誠、田中亮二郎	第38回	日本小児腎不全学会学術集会	岐阜	2016.10.27-28

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
より強力なRAS阻害薬に変更することにより効果的な降圧作用が得られた腹膜透析患者の一例	腎臓内科	稲熊洋祐、白鳥孝俊、中川拓、神田杏子、田中亮二郎	第30回	日本小児PD・HD研究会	沖縄	2016.11.25-26
教育講演 微生物と抗菌薬	感染症科	笠井正志		感染管理認定看護師 キャリアディベロップ メント講座	東京	2016.1.9
Pro con セッション 小児血液培養	感染症科	笠井正志	43	日本集中治療医学会	神戸	2016.2.12
教育講演 小児領域における抗菌薬適性使用	感染症科	笠井正志	140	日本小児科学会 静岡 地方会	浜松	2016.6.5
シンポジウム 新生児・乳幼児の抗菌薬・抗真菌薬の 投与設計	感染症科	笠井正志	64	日本化学療法学会総会	神戸	2016.6.10
教育講演 小児感染症の原則	感染症科	笠井正志	2	兵庫県検査技師会微生物 研修会	神戸	2016.6.16
一般演題 VAE サーベイランスの問題と限界	感染症科	伊藤雄介	38	日本呼吸療法医学会	名古屋	2016.7.16
特別講演 小児の病歴と身体診察	感染症科	笠井正志		若葉小児科臨床研究会	神戸	2016.7.23
シンポジウム 血流感染マネジメントバンドル	感染症科	笠井正志	9	東海血流感染症セミ ナー	名古屋	2016.7.30
シンポジウム 小児領域のAMR(抗菌薬耐性)アクション プラン	感染症科	伊藤雄介、笠井正志	46	IDATEN インタラク ティブケースカンファ レンス	東京	2016.9.3
特別講演 小児の病歴と身体診察	感染症科	笠井正志	31	横浜GPフォーラム	横浜	2016.9.7
一般演題 当院感染症科の役割	感染症科	笠井正志、伊藤雄介、鳴滝由佳	14	県立病院学会	神戸	2016.9.10
教育講演 小児の抗菌薬適性使用	感染症科	笠井正志	2	外来小児科学会医学生 セミナー(SKIP)	川崎	2016.9.18
特別講演 小児における抗菌薬の使い方	感染症科	笠井正志	51	大阪小児呼吸器談話会	大阪	2016.10.15
シンポジウム 小児集中治療室における最近の肺炎 事情	感染症科	伊藤雄介	49	日本小児呼吸器学会	富山	2016.10.30
教育講演 小児感染症検査	感染症科	笠井正志	24	小児集中治療ワーク ショップ	東京	2016.11.5
特別講演 小児外来感染症診療	感染症科	笠井正志	22	兵庫県小児疾患懇話会	神戸	2016.11.12
教育講演 小児抗菌薬のPK/PD	感染症科	笠井正志	7	兵庫県検査技師会微生物 研修会	神戸	2016.11.17
教育セミナー 小児細菌性髄膜炎	感染症科	山口宏 笠井正志	48	日本小児感染症学会総会	岡山	2016.11.19
一般演題 心タンポナーデを呈した 無莖膜型インフ ルエンザ菌(NTHi)による化膿性心膜炎の1例	感染症科他	神納幸治、笠井正志、伊藤雄介、梶原伸介、 竹田洋樹、西順一郎、關牟田直子	48	日本小児感染症学会総会	岡山	2016.11.19
一般演題 Morganella Morganii による骨髄炎を呈し た基礎疾患のない1歳6か月女児の1例	感染症科	上月愛瑠、伊藤雄介、笠井正志	48	日本小児感染症学会総会	岡山	2016.11.19
一般演題 鼠径ヘルニア嵌頓と診断された腸管外ア ニサキス症の1例	感染症科他	三星アカリ、伊藤雄介、笠井正志、三浦紫津、 福澤宏明、吉田牧子、水野哲志、所正治	48	日本小児感染症学会総会	岡山	2016.11.19

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
一般演題 健常児に発症した nontyphoidal Salmonellaによる化膿性股関節炎の1例	感染症科他	大野茜子、楠本耕平、伊藤雄介、笠井正志	48	日本小児感染症学会総会	岡山	2016.11.19
一般演題 開胸術における抗菌薬使用	感染症科	伊藤雄介	1	近畿小児救急集中治療研究会	尼崎	2016.11.26
シンポジウム 小児の人工呼吸関連肺炎	感染症科	笠井正志	8	新生児感染症管理予防研究会	大阪	2016.12.2
特別講演 小児感染症の原則	感染症科	笠井正志		神戸小児臨床懇話会	神戸	2016.12.7
頻回の尿路感染症を契機に子宮膀胱瘻の診断に至ったHDR症候群の1例	臨床遺伝科	富井祐治、神田祥一郎、森貞直哉、滝澤慶一、笹田洋平、藪内智朗、金子直人、佐藤泰征、石塚喜世伸、近本裕子、秋岡祐子、三浦健一郎、飯島一誠、服部元史	46	日本腎臓学会 東部学術大会	東京	2016.10.7-8
PAX2変異のある先天性腎尿路奇形に合併した後腹膜成熟奇形腫にectopic immature renal tissueを認めた一例	臨床遺伝科	菅原典子、永野千代子、稲垣徹史、森貞直哉、野津寛大、飯島一誠	46	日本腎臓学会 東部学術大会	東京	2016.10.7-8
遺伝性腎疾患	臨床遺伝科	野津寛大、森貞直哉、飯島一誠	59	日本腎臓学会学術総会	横浜	2016.6.17-19
ネフロン発生にかかわる遺伝子とその腎外での役割と異常の検出方法	臨床遺伝科	森貞直哉、飯島一誠	59	日本腎臓学会学術総会	横浜	2016.6.17-19
左後腹膜成熟奇形腫にEctopic immature renal tissueを伴った左無形成腎・右低形成腎の一例	臨床遺伝科	菅原典子、永野千代子、安藤亮、遠藤尚文、佐藤智樹、高橋立子、手塚文明、稲垣徹史、佐藤篤、森貞直哉、野津寛大、飯島一誠	51	日本小児腎臓病学会 学術集会	名古屋	2016.7.7-9
女性先天性腎尿路奇形(Congenital Anomalies of the Kidney and Urinary Tract:CAKUT)患者の生殖器奇形合併について	臨床遺伝科	神田祥一郎、森貞直哉、滝澤慶一、富井祐治、濱浩隆、金子直人、藪内智朗、中野栄治、多田憲正、石塚喜世伸、近本裕子、秋岡祐子、三浦健一郎、飯島一誠、服部元史	51	日本小児腎臓病学会 学術集会	名古屋	2016.7.7-9
頻回の尿路感染症を契機に子宮膀胱瘻の診断に至ったHDR(hypoparathyroidism, deafness, renal dysplasia)症候群の1例	臨床遺伝科	富井祐治、神田祥一郎、森貞直哉、滝澤慶一、笹田洋平、藪内智朗、金子直人、佐藤泰征、石塚喜世伸、近本裕子、秋岡祐子、三浦健一郎、飯島一誠、服部元史	51	日本小児腎臓病学会 学術集会	名古屋	2016.7.7-9
BOR(Branchio-Oto-Renal)症候群が確定した腎移植の1例	臨床遺伝科	濱浩隆、神田祥一郎、森貞直哉、熊谷直憲、滝澤慶一、富井祐治、藪内智朗、金子直人、中野栄治、多田憲正、菅原典子、石塚喜世伸、近本裕子、秋岡祐子、飯島一誠、服部元史	51	日本小児腎臓病学会 学術集会	名古屋	2016.7.7-9
次世代シーケンサーにて診断に至ったSDCCAG8変異によるネフロン虚の女児例	臨床遺伝科	中西啓太、忍頂寺毅史、藤村順也、堀之内智子、南川将吾、山村智彦、神吉直宙、石森真吾、野津寛大、森貞直哉、飯島一誠	51	日本小児腎臓病学会 学術集会	名古屋	2016.7.7-9
偽性バーター症候群を呈し次世代シーケンサーによりPAX2遺伝子変異が同定された腎低異形成の1女児例	臨床遺伝科	波多江健、慶田裕美、檜山麻衣子、黒木理恵、黒川麻里、山中一郎、森貞直哉、野津寛大、飯島一誠	51	日本小児腎臓病学会 学術集会	名古屋	2016.7.7-9

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
平滑筋腫を合併したアルポート症候群の臨床像と遺伝学的検討	臨床遺伝科	南川 将吾, 野津 寛大, 中西 啓太, 藤村 順也, 堀之内 智子, 神吉 直宙, 忍頂寺 毅史, 長野 智那, 後藤 芳充, 平野 大志, 藤永 周一郎, 高橋 英彦, 森下 高弘, 森貞直哉, 田村 雅仁, 飯島 一誠	51	日本小児腎臓病学会 学術集会	名古屋	2016.7.7-9
臨床的にAlagille症候群が疑われたが次世代シーケンサーによる解析でNPHP3遺伝子変異を認めRHPD1と診断した1例	臨床遺伝科、腎臓内科	白鳥孝俊、中川拓、神田杏子、叶明娟、森貞直哉、飯島一誠、田中亮二郎	51	日本小児腎臓病学会 学術集会	名古屋	2016.7.7-9
X染色体連鎖型Alport症候群女性267例の遺伝学的・臨床的検討	臨床遺伝科	山村智彦、野津寛大、中西啓太、堀之内智子、藤村順也、南川将吾、神吉直宙、忍頂寺毅史、貝藤裕史、森貞直哉、中西浩一、吉川徳茂、飯島一誠	51	日本小児腎臓病学会 学術集会	名古屋	2016.7.7-9
CAKUT及び原因不明の小児期発症慢性腎機能障害患者への包括的原因遺伝子解析	臨床遺伝科	森貞直哉、野津寛大、庄野朱美、忍頂寺毅史、叶明娟、井藤奈央子、神田祥一郎、亀井宏一、石倉健司、伊藤秀一、山本勝輔、里村憲一、服部元史、田中亮二郎、西尾久英、飯島一誠	51	日本小児腎臓病学会 学術集会	名古屋	2016.7.7-9
当院における自己免疫性神経疾患に対するリツキシマブの使用経験	臨床遺伝科	富岡和美、西山将広、松本真明、運崎愛、豊嶋大作、栗野宏之、中川卓、森貞直哉、高田哲、飯島一誠	119	日本小児科学会学術集会	札幌	2016.5.13-15
次世代シーケンサーによる重症心身障害者施設での原因遺伝子解析	臨床遺伝科	森貞直哉、加藤威、加藤神奈、島亜衣、藤田花織、西村範行、西尾久英、和田博子、飯島一誠	119	日本小児科学会学術集会	札幌	2016.5.13-15
診断に難渋したtranscriptomopathyの3例	臨床遺伝科	運崎愛、池田真理子、稲垣秀人、上田雅章、森貞直哉、岡本伸彦、森岡一朗、戸田達史、倉橋浩樹、飯島一誠	119	日本小児科学会学術集会	札幌	2016.5.13-15
次世代シーケンサーによる稀少ネフロン癆関連シリオパチーの原因遺伝子解析	臨床遺伝科	森貞直哉、野津寛大、庄野朱美、忍頂寺毅史、田中亮二郎、飯島一誠	39	日本小児遺伝学会	東京	2016.12.9-10
The comprehensive genetic analysis of congenital anomalies of the kidney and urinary tract (CAKUT) in Japan	臨床遺伝科	Naoya Morisada, Akemi Shono, Mariko Taniguchi-Ikeda, Kandai Nozu, Koichi Kamei, Kenji Ishikura, Shuichi Ito, Ryojiro Tanaka, Hisahide Nishio, Kazumoto Iijima	13	International Congress of Human Genetics	Kyoto	2016.4.3-7
Rare nephronophthisis related ciliopathy identified by next generation sequencing in ten non-consanguineous families	臨床遺伝科	Naoya Morisada, Akemi Shono, Kandai Nozu, Takeshi Ninchoji, Koji Nagatani, Toshiyuki Ohta, Junya Shimizu, Takahisa Yoshikawa, Ken Saida, Shingo Ishimori, Masato Yasui, China Nagano, Koichi Kamei, Kenji Ishikura, Shuichi Ito, Ryojiro Tanaka, Kazumoto Iijima		American Society of Human Genetics	Vancouver	2016.10.18-22
CAKUTとネフロン癆の臨床遺伝学	臨床遺伝科	森貞直哉	24	中部日本小児腎臓病研究会	松本	2016.9.10
次世代シーケンサーとアレイCGHによる神経発達疾患の網羅的原因遺伝子解析	臨床遺伝科	森貞直哉		南阪神小児神経疾患研究会	西宮	2016.9.29
Ciliopathyについて	臨床遺伝科	森貞直哉	27	Dysmorphologyのタベ	大阪	2016.12.22

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
当院の解離性知覚麻痺および感覚脱出の現状 自閉症スペクトラムとの関連	精神科	玉岡文子、関口典子、長谷川弘子、松川悦之	第57回	日本児童青年精神医学会総会	岡山市	2016.10.28
過去8年間に頭蓋内出血を契機に診断された胆道閉鎖症のまとめ	小児外科	上月愛瑠、楠元真由美、竹田洋樹、上谷良行、遠藤耕介、前田貢作	第267回	日本小児科学会兵庫県地方会	西宮	2016.2
リチウム電池誤飲により、気管食道瘻、食道狭窄を来した1例	小児外科	玉城昭彦、大片祐一、尾藤祐子、武本淳吉、森田圭一、遠藤耕介、岩出珠幾、福澤宏明、横井暁子、前田貢作、永瀬裕朗、梶原伸介、竹田洋樹	第267回	日本小児科学会兵庫県地方会	西宮	2016.2
小児脾・胆管合流異常症における共通管拡張は分流手術後も残存する	小児外科	福澤宏明、三島泰彦、玉城昭彦、森田圭一、大片祐一、遠藤耕介、久松千恵子、横井暁子、前田貢作、藤本雄介、上原栄理子、赤坂好宣	第116回	日本外科学会定期学術集会	大阪	2016.4
腸間膜対側からのアプローチで回盲部を温存し得た腸管内突出型の回盲部腸管重複症の一例	小児外科	遠藤耕介、三島泰彦、玉城昭彦、森田圭一、大片祐一、久松千恵子、福澤宏明、横井暁子、吉田牧子、赤坂好宣、前田貢作	第53回	日本小児外科学会学術集会	福岡	2016.5
リチウムコイン電池誤飲により、気管食道瘻、食道狭窄を来した1例	小児外科	玉城昭彦、福澤宏明、三島泰彦、森田圭一、遠藤耕介、大片祐一、久松千恵子、横井暁子、前田貢作	第53回	日本小児外科学会学術集会	福岡	2016.5
胆道閉鎖症早期手術症例における術前腹部超音波のTC signの有用性についての検討	小児外科	遠藤耕介、三島泰彦、玉城昭彦、森田圭一、大片祐一、久松千恵子、福澤宏明、横井暁子、赤坂好宣、吉田牧子、前田貢作	第53回	日本小児外科学会学術集会	福岡	2016.5
声門下腔狭窄症の治療における経口的パルミコート吸入療法の有効性	小児外科	久松千恵子、前田貢作、森田圭一、三島泰彦、玉城昭彦、大片祐一、遠藤耕介、福澤宏明、横井暁子、西島栄治	第53回	日本小児外科学会学術集会	福岡	2016.5
肺動脈スリング解除術のみを先行して行った先天性気管狭窄症の予後に関する検討	小児外科	三島泰彦、大片祐一、玉城昭彦、森田圭一、遠藤耕介、久松千恵子、福澤宏明、横井暁子、前田貢作	第53回	日本小児外科学会学術集会	福岡	2016.5
C型食道閉鎖症に対する一期的根治術後の吻合部狭窄・縫合不全の危険因子に関する検討	小児外科	大片祐一、前田貢作、三島泰彦、玉城昭彦、森田圭一、遠藤耕介、久松千恵子、福澤宏明、横井暁子	第53回	日本小児外科学会学術集会	福岡	2016.5
気管気管支を伴った先天性気管狭窄症に対する気管形成術	小児外科	森田圭一、横井暁子、福澤宏明、大片祐一、久松千恵子、遠藤耕介、玉城昭彦、三島泰彦、大嶋義博、前田貢作	第53回	日本小児外科学会学術集会	福岡	2016.5
小児脾・胆管合流異常症における共通管拡張は分流手術後も残存する	小児外科	福澤宏明、三島泰彦、玉城昭彦、森田圭一、大片祐一、遠藤耕介、久松千恵子、横井暁子、前田貢作	第53回	日本小児外科学会学術集会	福岡	2016.5
消化器疾患を合併する無脾症候群の治療戦略	小児外科	前田貢作、森田圭一、大片祐一、福澤宏明、遠藤耕介、玉城昭彦、三島泰彦、久松千恵子、横井暁子、圓尾文子、大嶋義博	第53回	日本小児外科学会学術集会	福岡	2016.5

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
小児外科医を取り巻く労働環境の改善にむけて	小児外科	廣部誠一、中原さおり、横井暁子、浮山越史、石丸由紀、杉山彰英、世川修、平井みさ子、平川均、望月響子、日本小児外科学会ワークライフバランス検討委員会	第53回	日本小児外科学会学術集会	福岡	2016.5
小児病院の研修システム	小児外科	横井暁子、廣部誠一、中原さおり、浮山越史、石丸由紀、杉山彰英、世川修、平井みさ子、平川均、望月響子、日本小児外科学会ワークライフバランス検討委員会	第53回	日本小児外科学会学術集会	福岡	2016.5
多様なライフプラン 少人数施設の問題点、地方施設の問題点	小児外科	浮山越史、廣部誠一、中原さおり、横井暁子、石丸由紀、杉山彰英、世川修、平井みさ子、平川均、望月響子、日本小児外科学会ワークライフバランス検討委員会	第53回	日本小児外科学会学術集会	福岡	2016.5
消化管内視鏡にて整備後にラパヘルクロジャーを用いて経皮的胃前方固定を行った胃軸捻転症の1例	小児外科	森田圭一、福澤宏明、横井暁子、久松千恵子、遠藤耕介、大片祐一、玉城昭彦、三島泰彦、前田貢作	第43回	日本小児内視鏡研究会	東京	2016.7
入院経過中に胸腔内腫瘍をみとめpneumatoceleと診断したVLBWの1例	小児外科	榎本真由子、藤坂方葉、五條あい、水野洋介、高野勉、牟禮岳男、高寺明弘、西野昌光、吉井勝彦、横井暁子、前田貢作、芳本誠司、中尾秀人	第52回	日本周産期・新生児医学会学術集	富山	2016.7
広範囲型気管狭窄症を伴った先天性横隔膜ヘルニアの1例	小児外科	樋渡勝平、野村美緒子、井深奏司、奈良啓悟、曹英樹、前田貢作、白井規朗	第52回	日本周産期・新生児医学会学術集	富山	2016.7
生命倫理 早産児の成育限界について 早産児の成育限界について 外科の立場から	小児外科	前田貢作	第52回	日本周産期・新生児医学会学術集	富山	2016.7
極低出生体重児の消化管機能障害に対するプロバイオティクス投与の有効性に関するシステムティックレビュー	小児外科	田附裕子、松浦玲、岡崎容子、望月響子、白石淳、矢内俊裕、古川泰三、天江新太郎、漆原直人、早川昌弘、横井暁子、大藤さとし、伊藤美春、奥山宏臣、極低出生体重児の消化管機能障害診療ガイドライン作成委員会・システムティックレビューチーム	第52回	日本周産期・新生児医学会学術集	富山	2016.7
極低出生体重児の消化管機能障害の疾患予防に関連した浣腸、注腸の有効性に関するシステムティックレビュー	小児外科	皆川京子、三宅啓、望月響子、大橋研介、三崎真生子、白石淳、矢内俊裕、古川泰三、天江新太郎、漆原直人、早川昌弘、横井暁子、大藤さとし、田附裕子、奥山宏臣、極低出生体重児の消化管機能障害診療ガイドライン作成委員会システムティックレビューチーム	第52回	日本周産期・新生児医学会学術集	富山	2016.7
極低出生体重児の消化管機能障害予防における母乳栄養の有用性についてのシステムティックレビュー	小児外科	江角元史郎、岩中剛、永田公二、落合正行、田口智章、大野通暢、藤永英志、松沢要、早川昌弘、望月響子、白石淳、漆原直人、横井暁子、田附裕子、奥山宏臣、低出生体重児の消化管機能障害に関する周産期背景因子の疫学調査研究班	第52回	日本周産期・新生児医学会学術集	富山	2016.7

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
極低出生体重児の消化管機能障害に対する母体ステロイド投与に関するシステマティックレビュー	小児外科	松沢要、早川昌弘、横井暁子、田附裕子、奥山宏臣、極低出生体重児の消化管機能障害診療ガイドライン作成委員会システマティックレビューチーム	第52回	日本周産期・新生児医学会学術集	富山	2016.7
腫瘍出血で発見された機能性無症候性副腎皮質腫瘍の1女児例	小児外科	矢部清晃、福澤宏明、横井暁子、中尾真、久松千恵子、大片祐一、森田圭一、三浦紫津、山木聡史、三島泰彦、關根沙知、前田貢作	第52回	日本小児外科学会近畿地方会	大阪	2016.8
稀な形態を呈した腸閉塞症の1例	小児外科	三浦紫津、大片祐一、森田圭一、關根沙知、矢部清晃、三島泰彦、山木聡史、久松千恵子、福澤宏明、横井暁子、吉田牧子、前田貢作	第76回	小児外科わからん会	大阪	2016.9
原因不明の上腹部痛を繰り返す小児脾・胆管合流異常術後の1例	小児外科	福澤宏明、關根沙知、三浦紫津、矢部清晃、山木聡志、三島泰彦、森田圭一、大片祐一、久松千恵子、中尾真、横井暁子、前田貢作	第39回	日本脾・胆管合流異常研究会	東京	2016.9
Gastrojejunostomy tube が原因となった上部消化管出血の2例	小児外科	山木聡史、森田圭一、島井隆志、前田貢作	第27回	日本小児外科QOL研究会	倉敷	2016.10
当院における胆道閉鎖症の長期自己肝生存例におけるフォローアップの現状について	小児外科	山木聡史、横井暁子、中尾真、福澤宏明、大方祐一、久松千恵子、森田圭一、三浦紫津、三島泰彦、矢部清晃、關根沙知、前田貢作	第36回	日本小児内視鏡外科・手術手技研究会	大宮	2016.10
人工肛門造設や小腸切除を行った乳児に対する尿中Na測定の有効性	小児外科	久松千恵子、安福正男、大片祐一、森田圭一、關根沙知、矢部清晃、三島泰彦、三浦紫津、山木聡史、福澤宏明、中尾真、横井暁子、前田貢作	第58回	日本小児外科代謝研究会	大宮	2016.10
肝芽腫の腫瘍再発や肝内微小転移巣に対するICG蛍光法の有用性	小児外科	矢部清晃、福澤宏明、横井暁子、中尾真、久松千恵子、大片祐一、森田圭一、三浦紫津、山木聡史、三島泰彦、關根沙知、前田貢作	第36回	日本小児内視鏡外科・手術手技研究会	大宮	2016.10
Hirschsprung 病 に対する 一期的 transanal pull-through(TAPT)の長期予後	小児外科	前田貢作、久松千恵子、小野滋、馬場勝尚、尾藤祐子	第36回	日本小児内視鏡外科・手術手技研究会	大宮	2016.10
ヒルシュスプルング病に対する兵庫県立こども病院の術式—Swenson 変法	小児外科	横井暁子、中尾真、尾藤祐子、前田貢作、福澤宏明、久松千恵子、大片祐一、森田圭一、三浦志津、山木聡史、三島泰彦、矢部清晃、關根沙知	第36回	日本小児内視鏡外科・手術手技研究会	大宮	2016.10
腹腔鏡下胆道拡張症手術における肝門部胆管形成	小児外科	福澤宏明、關根沙知、三浦紫津、矢部清晃、山木聡史、三島泰彦、森田圭一、大片祐一、久松千恵子、中尾真、横井暁子、前田貢作	第36回	日本小児内視鏡外科・手術手技研究会	大宮	2016.10
十二指腸前門脈による十二指腸狭窄の2例	小児外科	森田圭一、前田貢作、關根沙知、三浦紫津、矢部清晃、山木聡史、三島泰彦、大片祐一、久松千恵子、福澤宏明、中尾真、横井暁子、	第36回	日本小児内視鏡外科・手術手技研究会	大宮	2016.10
消化管内視鏡にて整復後にラパヘルクロジャーを用いて経皮的胃前方固定を行った胃軸捻転症の1例	小児外科	三浦紫津、森田圭一、福澤宏明、矢部清晃、關根沙知、三島泰彦、山木聡司、久松千恵子、大片祐一、横井暁子、前田貢作	第36回	日本小児内視鏡外科・手術手技研究会	大宮	2016.10
当施設における先天性気管狭窄に対するスライド気管形成術の経験	小児外科	白井規朗、米山知寿、塚田遼、當山千歳、井深奏司、正島和典、奈良啓悟、曹英樹、前田貢作	第36回	日本小児内視鏡外科・手術手技研究会	大宮	2016.10

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
先天性食道狭窄の診断と治療 こども病院3施設での検討	小児外科	望月響子、矢部清晃、中島秀明、北河徳彦、新聞真人、横井暁子、前田貢作、福本弘二、漆原直人	第36回	日本小児内視鏡外科・手術手技研究会	大宮	2016.10
先天性気管狭窄症に対する気管形成術後の縫合不全への対応	小児外科	大片祐一、横井暁子、中尾真、福澤宏明、久松千恵子、森田圭一、三浦紫津、山木聡史、關根沙知、矢部清晃、荒井洋史、尾藤祐子、西島栄治、前田貢作	第36回	日本小児内視鏡外科・手術手技研究会	大宮	2016.10
ビデオ喉頭鏡下に経口的瘻管摘除を行った再発梨状窩瘻の1例	小児外科	森田圭一、前田貢作、横井暁子、中尾真、福澤宏明、久松千恵子、大片祐一、三浦志津、山木聡史、三島泰彦、矢部清晃、關根沙知	第36回	日本小児内視鏡外科・手術手技研究会	大宮	2016.10
当院で胎児期に CPAM が疑われた症例の出生後診断と病理学的診断についての検討	小児外科	關根沙知、前田貢作、矢部清晃、三島泰彦、山木聡史、三浦紫津、森田圭一、大片祐一、久松千恵子、福澤宏明、中尾真、横井暁子	第27回	日本小児呼吸器外科研究会	大宮	2016.10
後天性声門下嚢胞の3例	小児外科	三島泰彦、矢部清晃、關根沙知、山木聡史、三浦紫津、森田圭一、大片祐一、久松千恵子、福澤宏明、中尾真、横井暁子、前田貢作	第27回	日本小児呼吸器外科研究会	大宮	2016.10
総排泄腔遺残症のトランジション 総排泄腔遺残の成人例診療の課題 トランジションと患者ニーズの点で症例から明らかになる小児外科医の役割	小児外科	尾藤祐子、會田洋輔、河原仁守、中井優美子、橋木由美子、前田貢作	第32回	日本小児外科学会秋季シンポジウム	大宮	2016.10
当科で管理を行っている成人期を迎えたヒルシュスブルング病類縁疾患患者の現況	小児外科	中尾真、前田貢作、横井暁子、福澤宏明、久松千恵子、大片祐一、森田圭一、三浦紫津、山木聡史、三島泰彦、關根沙知、矢部清晃	第32回	日本小児外科学会秋季シンポジウム	大宮	2016.10
小児外科におけるトランジション症例の支援と課題	小児外科	尾花和子、八木實、深堀優、家入里志、古賀寛之、佐々木英之、曹英樹、藤代準、横井暁子、脇坂宗親、渡辺稔彦、日本小児外科学会トランジション検討委員会	第32回	日本小児外科学会秋季シンポジウム	大宮	2016.10
当院における胆道閉鎖症の長期自己肝生存例におけるフォローアップの現状について	小児外科	山木聡史、横井暁子、中尾真、福澤宏明、大方祐一、久松千恵子、森田圭一、三浦紫津、三島泰彦、矢部清晃、關根沙知、前田貢作	第43回	日本胆道閉鎖症研究会	新潟	2016.11
18トリソミーに対する外科治療介入の効果	小児外科	大片祐一、關根沙知、矢部清晃、三島泰彦、山木聡史、三浦紫津、森田圭一、久松千恵子、福澤宏明、中尾真、横井暁子、前田貢作	第78回	日本臨床外科学会総会	東京	2016.11
ビデオ喉頭鏡下に経口的瘻管摘除を行った再発梨状窩瘻の1例	小児外科	森田圭一、前田貢作、福澤宏明、久松千恵子、横井暁子、大片祐一、遠藤耕介、玉城昭彦、三島泰彦	第29回	日本内視鏡外科学会総会	横浜	2016.12
小児胃食道逆流症に対する腹腔鏡下手術 当院の腹腔鏡下噴門形成の変遷と現在の問題点	小児外科	福澤宏明、關根沙知、三浦紫津、矢部清晃、山木聡史、三島泰彦、森田圭一、大片祐一、久松千恵子、中尾真、横井暁子、前田貢作	第29回	日本内視鏡外科学会総会	横浜	2016.12
当院での肝芽腫標準リスクの治療の現状	小児外科	三浦紫津、福澤宏明、關根沙知、矢部清晃、山木聡史、三島泰彦、久松千恵子、森田圭一、大片祐一、中尾真、横井暁子、吉田牧子、石田敏章、小坂嘉之、前田貢作	第58回	日本小児血液・がん学会学術集会	東京	2016.12

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
小児中枢神経外胚細胞性腫瘍79症例の臨床的検討 (Clinical analysis of 79 children with Extracranial germ cell tumor)(英語)	小児外科	太原鉄平、石田敏章、植村優、二野菜々子、横井健人、田村彰広、神前愛子、斎藤敦郎、岸本健治、長谷川大一郎、川崎圭一郎、森田圭一、吉田牧子、赤坂好宣、前田貢作、小阪嘉之	第58回	日本小児血液・がん学会学術集会	東京	2016.12
神経芽腫群腫瘍のリスク分類と組織分類の検討	小児外科	吉田牧子、長谷川大一郎、石田敏章、岸本健治、神前愛子、斎藤敦郎、田村彰広、二野菜々子、植村優、横井健人、太原鉄平、横井暁子、福澤宏明、前田貢作、赤坂好宣、川崎圭一郎、小阪嘉之	第58回	日本小児血液・がん学会学術集会	東京	2016.12
後腹膜奇形腫との鑑別が困難であった腎外性腎芽腫の1例	小児外科	久松千恵子、前田貢作、三浦紫津、關根沙知、矢部清晃、三島泰彦、山木聡史、森田圭一、大片祐一、福澤宏明、中尾真、横井暁子、吉田牧子	第58回	日本小児血液・がん学会学術集会	東京	2016.12
小児機能性副腎皮質腫瘍の3例	小児外科	福澤宏明、吉田牧子、關根沙知、三浦紫津、矢部清晃、山木聡史、三島泰彦、森田圭一、大片祐一、久松千恵子、中尾真、横井暁子、前田貢作	第58回	日本小児血液・がん学会学術集会	東京	2016.12
Clinical features of Congenital Tracheal Stenosis; The first report of Nation-wide survey in Japan	小児外科	Kosaku Maeda, Noriko Morimoto, Eiji Nishijima, Takaharu Nito, Goro Koinuma, Noriaki Usui		太平洋小児外科学会 (PAPS)	Hawaii	2016.4
Pediatric Airway Surgery	小児外科	Kosaku Maeda	第24回	アジア小児外科学会 (AAPS)	福岡	2016.5
The prognostic factor of clinical severity of tracheomalacia/tracheobronchomalacia in infant and children: the novel bronchoscopic score	小児外科	Yuichi Okata, Kosaku Maeda, Yuko Bitoh, Tomomi Hasegawa, Yasuhiko Mishima, Akihiko Tamaki, Keiichi Morita, Kosuke Endo, Chieko Hisamatsu, Hiroaki Fukuzawa, Akiko Yokoi	第24回	アジア小児外科学会 (AAPS)	福岡	2016.5
Surgical factors associated with mortality in very low birth weight infants with intestinal disorders: A multi-institutional retrospective study	小児外科	Akiko Yokoi, Masahiro Hayakawa, Naoto Urushihara, Jun Shiraishi, Koji Nagata, Kyoko Mochizuki, Hideshi Fujinaga, Kensuke Ohashi, Shintaro Amai, Toshihiro Yanai, Taizo Furukawa, Yuko Tazuke, Kyoko Minagawa, Satoko Ohfuji, Hiroomi Okuyama	第24回	アジア小児外科学会 (AAPS)	福岡	2016.5
Laryngotracheal reconstruction for the treatment of severe acquired subglottic stenosis	小児外科	Kosaku Maeda, Shigeru Ono, Keiichi Morita, Yuichi Okata, Yuko Bitoh, Katsuhisa Baba, Yoshiko Usui, Yuki Tsuji, Insu Kawahara	第24回	アジア小児外科学会 (AAPS)	福岡	2016.5
Pediatric Airway Surgery	小児外科	Kosaku Maeda		ヴェトナム小児外科学会2016	Ninh Binh	2016.9
Pulmonary Coarctation に対する肺動脈形成の検討	心臓血管外科	圓尾文子、大嶋義博、長谷川智巳、松久弘典、岩城隆馬、松島峻介、山本真由子	46	日本心臓血管外科学会総会	名古屋	2016.2.15-2.17
大動脈弓閉塞病変合併例に対する動脈スイッチ手術の遠隔成績と近年の取組み	心臓血管外科	松久弘典、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、岩城隆馬、松島峻介、山本真由子	第46回	日本心臓血管外科学会学術総会	名古屋	2016.2.15-17

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
完全型房室中隔欠損症に対する scoop index を用いた術式選択	心臓血管外科	松島峻介、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、松久弘典、岩城隆馬、山本真由子	第46回	日本心臓血管外科学会 学術総会	名古屋	2016.2.15-17
B型大動脈弓離断に対する大動脈再建方法の検討	心臓血管外科	山本真由子、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、松久弘典、岩城隆馬、松島峻介	第46回	日本心臓血管外科学会 学術総会	名古屋	2016.2.15-17
金属アレルギーと思われる ペーシング不全の1例	心臓血管外科、循環器科	松久弘典、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、岩城隆馬、松島峻介、山本真由子 小川禎治、田中敏克、城戸佐知子	第30回	日本小児循環器学会、 近畿中四国地方会	大阪	2016.2.28
2000g以下の低体重児に対する肺動脈絞扼術の経験	心臓血管外科	岩城隆馬、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、松久弘典、松島峻介、山本真由子	第30回	日本小児循環器病学会 近畿・中四国地方会	大阪市	2016.2.28
先天性僧帽弁狭窄症の早期乳児例	心臓血管外科	松島峻介、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、松久弘典、岩城隆馬、山本真由子	第30回	日本小児循環器学会 近畿・中四国地方会	大阪	2016.2.28
大動脈弁上狭窄症に伴う冠動脈狭窄に対する冠動脈形成を要した4例	心臓血管外科	山本真由子、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、松久弘典、岩城隆馬、松島峻介	第30回	日本小児循環器学会 近畿・中四国地方会	大阪	2016.2.28
単冠動脈に冠動脈を合併した一例	心臓血管外科	松島峻介、大嶋義博、松久弘典、日隈智憲、岩城隆馬、村上優	第67回	兵庫県心臓外科懇話会	神戸	2016.6.3
症例報告 先天性心疾患1 座長	心臓血管外科	大嶋義博	第59回	関西胸部外科学会	津	2016.6. 16
大動脈弁上狭窄の中期手術成績	心臓血管外科	圓尾文子* 大嶋義博 長谷川智巳 松久弘典 岩城隆馬 松島峻介 山本真由子* * 村上優	59	胸部外科学会関西地方会	津	2016.6.16-17
大動脈の圧迫に伴う気管軟化を合併した先天性心疾患に対する外科治療	心臓血管外科	岩城隆馬、大嶋義博、松久弘典、日隈智憲、松島峻介、村上優	第59回	関西胸部外科学会 学術集会	三重県 津市	2016.6.16-17
右大動脈弓の左心低形成症候群に対する Kommerell 憩室を用いた大動脈弓再建	心臓血管外科	松島峻介、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、松久弘典、岩城隆馬、山本真由子	第59回	関西胸部外科学会 学術集会	津	2016.6.16-17
肺動脈弁位感染性心内膜炎に対してホモグラフトを使用した一例	心臓血管外科	松島峻介、大嶋義博、松久弘典、日隈智憲、岩城隆馬、村上優	第61回	神戸心臓外科研究会	神戸	2016.6.29
新生児期複雑心奇形根治術における Graham Nunn 弁による右室流出路形成の治療成績	心臓血管外科	圓尾文子、大嶋義博、長谷川智巳、松久弘典、岩城隆馬、松島峻介、山本真由子、村上優	52	日本小児循環器学会総会	東京	2016.6.7
当院におけるグレン手術症例の変遷と課題	心臓血管外科、 循環器科	松久弘典、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、岩城隆馬、松島峻介、山本真由子、田中敏克、城戸佐知子	第52回	日本小児循環器学会 学術集会	東京	2016.7.6-8
Very small LA を有する TAPVC の治療経験に基づいた当院の治療指針	心臓血管外科、循環器科	日隈智憲、芳村直樹、青木正哉、廣野恵一、小澤綾佳、伊吹圭二郎、仲間英幸、市田露子	第52回	日本小児循環器学会 学術集会	東京	2016.7.6-8
プロスタグランジン長期投与が動脈管に及ぼす組織的変化の検討	心臓血管外科	岩城隆馬、大嶋義博、松久弘典	第52回	日本小児循環器学会 学術集会	東京	2016.7.6-8
完全型房室中隔欠損症に対する scoop index を用いた術式選択	心臓血管外科	松島峻介、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、松久弘典、岩城隆馬、山本真由子	第52回	日本小児循環器学会総会・ 学術集会	東京	2016.7.6-8
先天性横隔膜ヘルニアを合併した先天性心疾患症例の合併症と術式の検討	心臓血管外科	山本真由子、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、松久弘典、岩城隆馬、松島峻介	第52回	日本小児循環器学会総会・ 学術集会	東京	2016.7.6-8
TAPVC 術後 PVO 症例の検討	心臓血管外科	松久弘典、大嶋義博、日隈智憲、岩城隆馬、松島峻介、村上優	第69回	日本胸部外科学会定期 学術集会	岡山	2016.9.28-10.1

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
Mid-term outcome for small-sized valved conduit for reconstruction of the right ventricle outflow tract	心臓血管外科	岩城隆馬、大嶋義博、松久弘典、日隈智憲、松島峻介、村上優	第69回	日本胸部外科学会	岡山県岡山市	2016.9.28-10.1
右大動脈弓の左心低形成症候群に対する Kommerell 憩室を用いた大動脈弓再建	心臓血管外科	松島峻介、大嶋義博、松久弘典、日隈智憲、岩城隆馬、村上優	第69回	日本胸部外科学会定期学術集会	岡山	2016.9.28-10.1
小児ECMO補助に対する当院の取り組み：長期補助からの離脱を目指して	心臓血管外科	松久弘典、大嶋義博、日隈智憲、岩城隆馬、松島峻介、村上優	第20回	心臓外科研究懇話会	蒲郡	2016.10.9
乳児特発性僧帽弁腱索断裂の術後10年目に判明した心外膜下左室瘤の一例	心臓血管外科	松島峻介、大嶋義博、松久弘典、日隈智憲、岩城隆馬、村上優	第68回	兵庫県心臓外科懇話会	神戸	2016.11.18
純型肺動脈閉鎖症の成人期右心不全例に対する三尖弁再置換+両方向性グレン手術	心臓血管外科	岩城隆馬、大嶋義博、松久弘典、日隈智憲、松島峻介、村上優	第62回	神戸心臓外科研究会(KCCS)	神戸	2016.11.25
診断・治療に難渋した小児水頭症シャント機能不全症例	脳神経外科	小山淳二	第28回	北六甲脳神経外科カンファレンス	神戸	2016.1.30
二分脊椎の病態と脊髄症状－脊髄髄膜瘤を中心に－	脳神経外科	長嶋達也	第14回	日本フットケア学会シンポジウム	神戸	2016.2.6
乳児に対するETVの経験	脳神経外科	阿久津宣行	第20回	関西ニューロエンドスコープ研究会	大阪	2016.2.13
小児脳腫瘍の初発症状について～自験例の検討から～	脳神経外科	山口陽二	第223回	こども病院症例検討会	神戸	2016.2.25
小児頭部外傷後の一過性硬膜下液貯留の検討	脳神経外科	阿久津宣行	第39回	日本脳神経外傷学会学術集会	仙台	2016.2.27
2012年から2015年の間に当院で経験した小児後頭蓋窩腫瘍の特徴	脳神経外科	山口陽二	第71回	日本脳神経外科学会近畿支部学術集会	大阪	2016.4.2
雷鳴頭痛後に脳血管狭窄による穿通枝梗塞を来した小児の1症例	脳神経外科	山口陽二	第71回	日本脳神経外科学会近畿支部学術集会	大阪	2016.4.2
The effect of Gamma knife radiosurgery as the salvage therapy for the recurrent pediatric ependymoma	Dept. of Neurosurgery	A. Kawamura	2016	Inter National Symposium of Pediatric Neuro-Oncology	Liverpool	June12-15,2016
粒子線治療センターと連携した当施設における小児脳脊髄腫瘍に対する陽子線治療の経験	脳神経外科	河村淳史	第44回	日本小児神経外科学会学術集会	つくば	2016.6.23-25
小児テント上脳室内腫瘍の外科治療	脳神経外科	小山淳二	第44回	日本小児神経外科学会学術集会	つくば	2016.6.23-25
術中ICG蛍光血管撮影を用いた小児pial AVFに対する直達手術	脳神経外科	阿久津宣行	第44回	日本小児神経外科学会学術集会	つくば	2016.6.23-25
急速に進行する対麻痺を呈した 脊椎ランゲルハンス細胞組織球症の1例	脳神経外科	橋口充	第45回	兵庫県脳神経外科医懇話会	神戸	2016.7.16
二分脊椎の脳・脊髄病態と瘻瘻－脊髄髄膜瘤を中心に	脳神経外科	長嶋達也	第18回	日本瘻瘻学会 シンポジウム	横浜	2016.9.1
急速に進行する対麻痺を呈した小児脊椎ランゲルハンス細胞組織球症の稀少な1例	脳神経外科	橋口充	第72回	日本脳神経外科学会近畿支部学術集会	大阪	2016.9.3

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
Functional preservation in surgery of pediatric malignant brain tumors	脳神経外科	長嶋達也	第75回	日本脳神経外科学会 学術総会: 羅針盤セッション	福岡	2016.9.29-10.1
小児脳脊髄腫瘍に対する陽子線治療の展望	脳神経外科	河村淳史	第75回	日本脳神経外科学会 学術総会	福岡	2016.9.29-10.1
小児頭蓋咽頭腫治療	脳神経外科	小山淳二	第75回	日本脳神経外科学会 学術総会	福岡	2016.9.29-10.1
小児頭部外傷の管理	脳神経外科	阿久津宣行	第75回	日本脳神経外科学会 学術総会	福岡	2016.9.29-10.1
扁平椎と脊髄硬膜外腫瘍を呈した小児多臓器型 Langerhans cell histiocytosis の1例	脳神経外科	橋口充	第74回	近畿脊髄外科研究会	大阪	2016.10.15
Treatment of Infantile Brain Tumors:challenging & rewarding	Dept. of Neurosurgery	T.Nagashima	44th	Annual Meeting of the International Society for Pediatric Neurosurgery (ISPN)	Kobe	October 23-27,2016
The long-term survivor of the recurrent pediatric ependymoma after gamma knife radiosurgery	Dept. of Neurosurgery	A. Kawamura	44th	Annual Meeting of the International Society for Pediatric Neurosurgery (ISPN)	Kobe	October 23-27,2016
Malignant embryonal brain tumors occupying the cerebellopontine angle:report of four surgical cases	Dept. of Neurosurgery	Junji Koyama	44th	Annual Meeting of the International Society for Pediatric Neurosurgery (ISPN)	Kobe	October 23-27,2016
Efficacy of indocyanine green videoangiography in direct surgery of pial arteriovenous fistula	Dept. of Neurosurgery	N.Akutsu	44th	Annual Meeting of International Society for Pediatric Neurosurgery	Kobe	October 23-27,2016
兵庫県における小児脳脊髄腫瘍に対する陽子線治療	脳神経外科	河村淳史	第34回	日本こども病院 神経外科医会	札幌	2016.11.5-6
合併する水頭症に対して第三脳室底開窓術を施行した大理石骨病の1例	脳神経外科	阿久津 宣行	第23回	日本神経内視鏡学会 学術集会	東京	2016.11.17
小児脳脊髄腫瘍に対する陽子線治療の経験	脳神経外科	河村淳史	第34回	日本脳腫瘍学会学術集会	甲府	2016.12.4-6
新施設紹介～兵庫県立こども病院～	脳神経外科	河村淳史	平成28年度	神戸大学医学部脳神経 外科同門会学術集会	神戸	2016.12.11
小児脳腫瘍の治療	脳神経外科	長嶋達也	第42回	徳島脳神経外科談話会	徳島	2016.12.12
全摘出後に再発した小児上衣腫に対するサルベージ療法としてのガンマナイフ治療	脳神経外科	河村淳史	第58回	日本小児血液・ がん学会学術集会	東京	2016.12.15-17
慢性膿皮症に対する再建法は皮弁より植皮が有効か	形成外科	杉尾勇太	第112回	関西形成外科学会 学術集会	枚方	2016.3.13
重度の薬物性歯肉増殖症をきたした一例	形成外科	池内光之介、大山知樹、進来壘	第112回	関西形成外科学会 学術集会	枚方	2016.3.13

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
尖足を呈し、傍腫瘍性神経症候群が疑われた1例	整形外科	衣笠真紀、小林大介、坂田亮介、山中理菜、山本哲也、薩摩真一	第58回	近畿小児整形外科懇話会	神戸	2016.7.23
上腕骨外側頭 SLEEVE 骨折の一例	整形外科	坂田亮介、小林大介、茨木一行、薩摩真一	第57回	近畿小児整形外科懇話会	大阪	2016.1.23
複数回の手術を要し、治療に難渋した垂直距骨の治療経験	整形外科	坂田亮介、薩摩真一、小林大介、衣笠真紀、山中理菜、山本哲也	第58回	近畿小児整形外科懇話会	神戸	2016.7.23
強い可動域制限を生じた肘関節周囲骨折の一例	整形外科	坂田亮介、小林大介、薩摩真一、衣笠真紀、山中理菜、山本哲也	第15回	近畿小児整形外科症例検討会	大阪	2016.6.4
先天性骨盤形成不全の一例	整形外科	坂田亮介、薩摩真一、小林大介、衣笠真紀、山中理菜、山本哲也	第16回	近畿小児整形外科症例検討会	大阪	2016.12.9
歩行開始後に診断されたDDH(脱臼)に対する治療 -当科における最近5年間のデータより-	整形外科	坂田亮介、薩摩真一、小林大介、衣笠真紀、山中理菜、山本哲也	第55回	日本小児股関節研究会	岡山	2016.6.25
垂直距骨の治療経験	整形外科	坂田亮介、薩摩真一、小林大介、衣笠真紀、山中理菜、山本哲也	第27回	日本小児整形外科学会	仙台	2016.12.1
脊髄腫瘍患者の歩行能力とフットケア	整形外科	薩摩真一、小林大介、坂田亮介、衣笠真紀、茨木一行、	第14回	日本フットケア学会	神戸	2016.2.6-7
小児の創外固定治療で合併症をきたした症例の検討	整形外科	薩摩真一、小林大介、坂田亮介、衣笠真紀、茨木一行、	第29回	日本創外固定・骨延長学会	金沢	2016.3.18-19
先天性内反足治療における後内方解離術の意義	整形外科	薩摩真一、小林大介、坂田亮介、衣笠真紀、茨木一行、	第89回	日本整形外科学会	横浜	2016.5.12-15
Relationship between dysplasia of tarsal bone at neonate and relapse in congenital clubfoot	整形外科	Shinichi Satsuma, Daisuke Kobayashi, Ryosuke Sakata, Maki kinugasa, Ayana Yamanaka, Tetsuya Yamamoto	第27回	日本小児整形外科学会	仙台	2016.12.1-2
白蓋形成不全の自然経過 —片側性脱臼の健側を利用した検討—	整形外科	小林大介、薩摩真一、衣笠真紀	89回	日本整形外科学会 学術集会	横浜	2016.5. 12-15
Can We Predict Contralateral Slip in SCFE Patients?	整形外科	小林大介、薩摩真一、坂田亮介、衣笠真紀、山中理奈、山本哲也	第27回	日本小児整形外科学会 学術集会	仙台	2016.12.1-12.2
ソルター骨盤骨切り術は白蓋後捻の原因になる？	整形外科	小林大介、薩摩真一、坂田亮介、衣笠真紀	第55回	日本小児股関節研究会	岡山	2016.6.24-25
小児整形外科医が考える小児から成人までのDDH (白蓋形成不全)	整形外科	小林大介、薩摩真一、坂田亮介、衣笠真紀、山中理奈、山本哲也	第43回	日本股関節学会	大阪	2016. 11. 3-4
大腿骨骨幹部疲労骨折の3例	整形外科	山中理菜、小林大介、山本哲也、衣笠真紀、坂田亮介、薩摩真一	第58回	近畿小児整形外科懇話会	神戸	2016.7.23
当院へ紹介された疲労骨折の検討	整形外科	山中理菜、小林大介、山本哲也、衣笠真紀、坂田亮介、薩摩真一	第27回	日本小児整形外科学会 学術集会	仙台	2016.12.1-12.2
偽性軟骨無形成症に伴う高度O脚変形の1例	整形外科	山本哲也、薩摩真一、小林大介、坂田亮介、衣笠真紀、山中理菜		小児整形外科症例検討会	大阪	2016.6.4
外傷性大腿骨遠位骨端線損傷後の変形短縮に対して治療を施行した2例	整形外科	山本哲也、薩摩真一、小林大介、坂田亮介、衣笠真紀、山中理菜	第28回	近畿小児整形外科学会	神戸	2016.7.23

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
足関節にインピンジメントを生じた骨腫瘍の1例	整形外科	山本哲也、薩摩眞一、小林大介、坂田亮介、衣笠真紀、山中理菜	第58回	近畿足の外科症例検討会	大阪	2016.8.20
点状軟骨異形成症に合併した両側外反尖足に対して観血的治療を施行した1例	整形外科	山本哲也、薩摩眞一、小林大介、坂田亮介、衣笠真紀、山中理菜	第28回	日本整形外科学会骨系統疾患研究会	仙台	2016.12.3
リハビリテーション科新設への取り組み～リハビリテーション実施計画書・総合実施計画書作成の効率化～	リハビリテーション科	小松岳、住友亜佐子、都倉明乃、北瀬幸子、金澤美佳、中田潔樹、細川泰徳、大津雅秀、小林大介	第14回	県立病院学会	神戸	2016.9.11
長期気管切開児に対する言語聴覚士の関わりについての一考察	リハビリテーション科	住友亜佐子、大津雅秀、小林大介、小松岳、都倉明乃、北瀬幸子、前田眞作	第14回	県立病院学会	神戸	2016.9.11.
離乳中期に頭部外傷により摂食嚥下障害を呈した乳児例	リハビリテーション科	小松岳、住友亜佐子、田中義之、阪本浩一、大津雅秀	第22回	日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会	新潟	2016.9.23-24
無舌症児の構音発達についての一考察	リハビリテーション科	住友亜佐子、田中義之、波多野博顕、阪本浩一	第61回	日本音声言語医学会総会・学術講演会	横浜	2016.11.3-4
新生児姿勢・運動発達評価および新生児呼吸理学療法	リハビリテーション科	細川泰徳		明石医師会訪問看護ステーション	明石	2016.11.17
教育セミナー:小児緑内障の診断と手術	眼科	野村耕治	第39回	日本眼科手術学会	福岡	2016.1.29
乳児内斜視にみられる運動系発達の検討(視運動性眼振の非対称性とその特徴)	眼科	福永とも子、中野由美子、柳沢翠芳、野村耕治	第72回	日本弱視斜視学会	横浜	2016.6.24
当科における心因性視力障害の臨床経過と内的要因の検討	眼科	柳沢翠芳、中野由美子、福永とも子、野村耕治	第41回	日本小児眼科学会	横浜	2016.6.24
乳児内斜視における交代性上斜位の手術治療成績	眼科	中野由美子、福永とも子、柳沢翠芳、野村耕治	第70回	日本臨床眼科学会	京都	2016.11.3
小児難聴の診断と対策:新生児から学童まで	耳鼻咽喉科	阪本浩一	平成27年度	神戸市聞こえと言葉の教室研修会	神戸	2016.1.20
鼻アレルギーと喉頭アレルギー	耳鼻咽喉科	阪本浩一	平成27年度	明石市医師会学術講演会	明石	2016.2.4
喉頭アレルギー鑑別診断の臨床:特に後鼻漏症候群の合併例について	耳鼻咽喉科	阪本浩一	第28回	日本喉頭科学会	大阪	2016.3.3-4
当科における小児滲出性中耳炎鼓膜チューブ留置症例の長期経過	耳鼻咽喉科	大津雅秀、阪本浩一	第182回	日本耳鼻咽喉科学会兵庫県地方部会	西宮	2016.03.27
GJB2遺伝子変異を有し優性遺伝の遺伝形式を示した感音性難聴の一家系に対する遺伝カウンセリングの経験	耳鼻咽喉科	阪本浩一、富永健太、松永達雄	第40回	日本遺伝カウンセリング学会	京都	2016.4.3-6
急性喉頭炎を契機に発見された口蓋ミオクローヌスの一例	耳鼻咽喉科	古閑紀雄、林拓二、阪本浩一	第117回	日本耳鼻咽喉科学会	名古屋	2016.5.18-21
一側性Auditory neuropathy spectrum disorder様症状を呈した小児例の長期経過	耳鼻咽喉科	阪本浩一、大津雅秀	第117回	日本耳鼻咽喉科学会	名古屋	2016.5.18-21
舌下腺摘出術を行った口腔底嚢胞性疾患の2例	耳鼻咽喉科	林 拓二、古閑紀雄、阪本浩一	第117回	日本耳鼻咽喉科学会	名古屋	2016.5.18-21
中等度難聴児補聴器適合—新生児聴覚スクリーニングの現況、軽中等度難聴児補聴器購入費助成制度	耳鼻咽喉科	大津雅秀	第45回	補聴器勉強会	大阪	2016.6.26
当科における小児滲出性中耳炎鼓膜チューブ留置術症例の術前聴力と長期経過	耳鼻咽喉科	大津雅秀、阪本浩一	第11回	日本小児耳鼻咽喉科学会	徳島	2016.6.30-7.1

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
耳鼻咽喉科外来における絵画語彙発達検査PVT-Rを用いたスクリーニングの現況と補聴器装用における有用性	耳鼻咽喉科	阪本浩一、大津雅秀	第11回	日本小児耳鼻咽喉科学会	徳島	2016.6.30-7.1
小児心因性難聴にADHDが合併した3例	耳鼻咽喉科	阪本浩一、大津雅秀	第5回	小児多職種研究会	横浜	2016.7.30
症候性難聴の2例	耳鼻咽喉科	阪本浩一、大津雅秀	第26回	日本耳科学会	長野	2016.10.5-8
他覚的聴力検査が自覚的聴力検査閾値と乖離した2症例の長期経過	耳鼻咽喉科	阪本浩一、勝沼紗矢香、大津雅秀	第61回	日本聴覚医学会	盛岡	2016.10.20-21
喉頭蓋嚢胞を伴う慢性咳嗽で耳鼻咽喉科を受診した症例より	耳鼻咽喉科	阪本浩一、井口広義	第18回	日本咳嗽研究会	京都	2016.10.29
就学以降に難聴を疑い聴力精査目的で初診した児童生徒の検討	耳鼻咽喉科	大津雅秀、阪本浩一	第184回	日本耳鼻咽喉科学会兵庫県地方部会	西宮	2016.11.27
Free preputial graft in posterior hypospadias	泌尿器科	杉多良文	第17回	Asia-Pacific Association of Pediatric Urologist	Kuala Lumpur	2016.1.14
Free graftを包皮肉様膜にてサンドイッチ状に挟む尿道下裂修復術	泌尿器科	杉多良文、春名晶子	第104回	日本泌尿器科学会総会	仙台	2016.4.24
先天性水腎症に対する手術 Surgical management of congenital hydronephrosis	泌尿器科	杉多良文	第53回	日本小児外科学会総会	福岡	2016.5.25
包茎	泌尿器科	杉多良文、春名晶子、賀來泰大	第71回	兵庫県泌尿器科医会	神戸市	2016.6.4
停留精巣	泌尿器科	春名晶子、賀來泰大、杉多良文	第71回	兵庫県泌尿器科医会	神戸市	2016.6.4
当院における腹腔鏡下手術の現況	泌尿器科	杉多良文	第25回	日本小児泌尿器科学会総会	京都	2016.6.28
総排泄腔遺残に対する根治術後の尿失禁に関する検討	泌尿器科	春名晶子、賀來泰大、杉多良文	第25回	日本小児泌尿器科学会総会	京都	2016.6.29
尿道下裂術後瘻孔に対する工夫	泌尿器科	賀來泰大、春名晶子、杉多良文	第25回	日本小児泌尿器科学会総会	京都	2016.6.29
Free graftを包皮肉様膜にてサンドイッチ状に挟む尿道下裂修復術	泌尿器科	杉多良文、春名晶子、賀來泰大、中川賀清	第25回	日本小児泌尿器科学会総会	京都	2016.6.30
卒後教育プログラム「下部尿路通過障害」	泌尿器科	杉多良文	第66回	日本泌尿器科学会中部総会	四日市	2016.10.27
尿道下裂術後瘻孔に対する工夫	泌尿器科	賀來泰大、春名晶子、杉多良文	第66回	日本泌尿器科学会中部総会	四日市	2016.10.29
重複腎盂尿管に合併した尿管瘤・異所開口尿管・VURの手術	泌尿器科	杉多良文、春名晶子、賀來泰大	第30回	日本泌尿器内視鏡学会総会	大阪市	2016.11.18
当院における小児がん患者の口腔機能管理に関する調査	小児歯科	岩瀬美紀、曾根由美子、石原順子	第35回	日本小児歯科学会近畿地方会大会	大阪	2016.10.16
小児における覚醒時興奮発症後の鎮静方法の検討	麻酔科	上北都男、香川哲郎、大西広泰、池島典之、三浦由紀子、高辻小枝子	63	日本麻酔科学会	博多	2016.5.26
小児の日帰り鼠径ヘルニア手術におけるアセトアミノフェン静注液と坐剤の鎮痛効果の比較	麻酔科	藤原孝志、福岡明子、黒田光朗、森悠、末田彩、鈴木毅	63	日本麻酔科学会	博多	2016.5.27

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
小児の術後鎮痛	麻酔科	香川哲郎	63	日本麻酔科学会	博多	2016.5.28
小児整形外科手術に対する術後鎮痛法と末梢神経ブロックの役割	麻酔科	香川哲郎	58	近畿小児整形外科懇話会	神戸	2016.7.23
予定帝王切開での娩出直後に肺静脈修復術を行った症例経験	麻酔科	舟井 優介, 松波 小百合, 三浦 由紀子, 池島 典之, 大西 広泰, 鈴木 毅, 香川 哲郎	21	日本心臓血管麻酔学会	横浜	2016.9.16
Norwood術後に右室肺動脈シャント吻合部仮性瘤を合併し緊急手術となった乳児の一例	麻酔科	加藤 啓洋, 舟井 優介, 三浦 由紀子, 上北 郁男, 大西 広泰, 香川 哲郎	21	日本心臓血管麻酔学会	横浜	2016.9.16
劇症型心筋炎罹患後の完全房室ブロックに対するペースメーカー留置術の麻酔導入時に心室細動となった一例	麻酔科	森悠, 大西広泰, 藤原孝志, 三浦由紀子, 池島典之, 鈴木毅, 香川哲郎	21	日本心臓血管麻酔学会	横浜	2016.9.16
病棟での処置の麻酔	麻酔科	藤原孝志	22	日本小児麻酔学会	横浜	2016.10.8
小児におけるアセトアミノフェン静注液の安全な使い方「兵庫の標語」の提案	麻酔科	香川哲郎	22	日本小児麻酔学会	横浜	2016.10.8
先天性気管狭窄症に対するスライド気管形成術後、縫合不全を繰り返した症例	麻酔科	池田真悠実, 田中康智, 森悠, 三浦由紀子, 池島典之, 大西広泰, 鈴木毅	22	日本小児麻酔学会	横浜	2016.10.8
小児専門病院の移転に際しての麻酔科の役割	麻酔科	横田有理, 高辻小枝子, 黒田光朗, 藤原孝志, 藤野友里, 京嶋太一郎, 香川哲郎	22	日本小児麻酔学会	横浜	2016.10.8
新生児の麻酔ぜよ 食道閉鎖/気管食道瘻	麻酔科	香川哲郎	36	日本臨床麻酔学会	高知	2016.11.4
日齢0に頭蓋内出血と多臓器不全を呈し、GALDが疑われた一例	新生児内科	武岡恵美子, 生田寿彦, 大久保沙紀, 玉置祥子, 秋田大輔, 坂井仁美, 芳本誠司, 中尾秀人	第119回	日本小児科学会	札幌	2016.5.13~5.15
在胎25週未満の超早産児に対する予防的グルコース・インスリン療法の検討	新生児内科	秋田大輔, 生田寿彦, 武岡恵美子, 大久保沙紀, 玉置祥子, 三村仁美, 芳本誠司, 中尾秀人	第119回	日本小児科学会	札幌	2016.5.13~5.15
総合周産期医療施設における院外出生超早産児・超低出生体重児の入院理由と転帰	新生児内科	芳本誠司, 上月愛瑠, 生田寿彦, 武岡恵美子, 大久保沙紀, 玉置祥子, 秋田大輔, 坂井仁美, 芳本誠司, 中尾秀人	第119回	日本小児科学会	札幌	2016.5.13~5.15
先天性乳び胸に対するオクトレオチド投与適応についての後方視的検討	新生児内科	玉置祥子, 生田寿彦, 武岡恵美子, 大久保沙紀, 秋田大輔, 坂井仁美, 芳本誠司, 中尾秀人	第119回	日本小児科学会	札幌	2016.5.13~5.15
両児間にHb差を認めたMD双胎例の検討	新生児内科	上月愛瑠, 生田寿彦, 武岡恵美子, 大久保沙紀, 玉置祥子, 秋田大輔, 坂井仁美, 芳本誠司, 中尾秀人	第119回	日本小児科学会	札幌	2016.5.13~5.15
当院で経験した一過性骨髄増殖症 13例の検討	新生児内科	松井紗智子, 秋田大輔, 山内貴未, 生田寿彦, 武岡恵美子, 大久保沙紀, 玉置祥子, 李進剛, 三村仁美, 芳本誠司, 中尾秀人	第268回	日本小児科学会 兵庫県地方会	神戸	2016.5.28
新生児同種免疫性血小板減少症(NAIT)の1例	新生児内科	山内貴未, 玉置祥子, 武岡恵美子, 大久保沙紀, 松井紗智子, 秋田大輔, 李進剛, 三村仁美, 芳本誠司, 中尾秀人	第268回	日本小児科学会 兵庫県地方会	神戸	2016.5.28

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
極低出生体重児正期産相当時頭部MRIにおける側脳室拡大と修正1歳6か月時歩行確立との関連性	新生児内科	生田寿彦、溝淵雅己、芳本誠司、五百蔵智明、山根正之、森沢猛、片山義規、高寺明弘、上田雅章、柴田暁男、前山花織、西村範行、森岡一朗(兵庫県未熟児新生児懇談会)	第52回	日本周産期・新生児医学会	富山	2016.7.16-7.18
新生児慢性肺疾患における胸部Computed Tomographyを用いた肺傷害の重症度評価	新生児内科	玉置祥子、生田寿彦、武岡恵美子、大久保沙紀、秋田大輔、李進剛、三村仁美、芳本誠司、中尾秀人	第52回	日本周産期・新生児医学会	富山	2016.7.16-7.18
胎内で先天性肺気道奇形が疑われた症例の出生後経過と病理学的検討	新生児内科	秋田大輔、生田寿彦、武岡恵美子、大久保沙紀、玉置祥子、三村仁美、芳本誠司、中尾秀人	第52回	日本周産期・新生児医学会	富山	2016.7.16-7.18
未熟ヒッジ胎仔脳白質損傷モデルを用いた臍帯血幹細胞治療の脳保護効果の検討	新生児内科	李進剛(Monash大学医学部胎児新生児研究所)、芳本誠司、中尾秀人	第52回	日本周産期・新生児医学会	富山	2016.7.16-7.18
超早産児の適切な早期退院への課題	新生児内科	芳本誠司、生田寿彦、武岡恵美子、大久保沙紀、玉置祥子、秋田大輔、三村仁美、中尾秀人	第52回	日本周産期・新生児医学会	富山	2016.7.16-7.18
18トリソミー児の肺血流増加型心疾患に対する手術介入時期に関する検討	新生児内科	玉置祥子、芳本誠司、山内貴未、生田寿彦、武岡恵美子、大久保沙紀、松井紗智子、秋田大輔、李進剛、三村仁美、中尾秀人	第61回	日本新生児成育医学会	大阪	2016.12.1-12.3
出生体重500g未満児の修正18か月時予後	新生児内科	武岡恵美子、芳本誠司、山内貴未、生田寿彦、大久保沙紀、玉置祥子、松井紗智子、秋田大輔、李進剛、三村仁美、中尾秀人	第61回	日本新生児成育医学会	大阪	2016.12.1-12.3
出生体重500g未満児の短期予後	新生児内科	芳本誠司、武岡恵美子、山内貴未、生田寿彦、大久保沙紀、玉置祥子、松井紗智子、秋田大輔、李進剛、三村仁美、芳本誠司、中尾秀人	第61回	日本新生児成育医学会	大阪	2016.12.1-12.3
縦隔偏位を伴う間質性肺気腫を来した超早産児の呼吸管理	新生児内科	秋田大輔、山内貴未、生田寿彦、武岡恵美子、大久保沙紀、玉置祥子、松井紗智子、李進剛、三村仁美、芳本誠司、中尾秀人	第61回	日本新生児成育医学会	大阪	2016.12.1-12.3
当院で出生した超早産児の修正36週と1歳半の体格について	新生児内科	松井紗智子、山内貴未、生田寿彦、武岡恵美子、大久保沙紀、玉置祥子、秋田大輔、李進剛、三村仁美、芳本誠司、中尾秀人	第61回	日本新生児成育医学会	大阪	2016.12.1-12.3
胎児期にHLHLを発症した赤白血病の1例	新生児内科	大久保沙紀、武岡恵美子、山内貴未、生田寿彦、玉置祥子、松井紗智子、秋田大輔、李進剛、三村仁美、芳本誠司、中尾秀人	第61回	日本新生児成育医学会	大阪	2016.12.1-12.3
超低出生体重児における晩期新生児期の動脈管開存症に対する治療介入が予後に与える影響	新生児内科	玉置祥子、芳本誠司、山内貴未、生田寿彦、武岡恵美子、大久保沙紀、松井紗智子、秋田大輔、李進剛、三村仁美、中尾秀人	第14回	新生児循環管理研究会	福島	2016.5.21-5.22
VN500の使用経験	新生児内科	秋田大輔		ネオネータードレーグルアカデミー2016 in 大阪	大阪	2016.10.22
Prenatal risk factors of SGA short stature in preterm SGA cohort: a Japanese multicenter study	産科	Kiyoshi K, Yoshida A, Umehara N, Sasahara J, Ishii K, Ozawa K, Ichizuka K, Tanaka K, Tomohiro T, Ishikawa H, Murakoshi T, Oba M, Sago H	26th	World Congress on Ultrasound in Obstetrics	Rome	2016.9.25-28

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
Fetal chest wall deformity after thoracoamniotic shunting using a double-basket	産科	Makishi A, Kiyoshi K, Funakoshi T	26th	World Congress on Ultrasound in Obstetrics	Rome	2016.9.25-28
平成26年兵庫県周産期医療システム母体紹介・搬送情報提供書集計結果について	産科	船越徹	平成27年度	近畿産科婦人科学会日産婦医会委員会母子保健部会	大阪市	2016.2.13
帝王切開術後におけるプロカルシトニン測定の有用性	産科	南谷智之、中澤浩志、河崎あさひ、森下 紀、牧志 綾、高松祐幸、喜吉賢二、佐本 崇、船越 徹	平成27年度	周産期医療事例検討会	神戸市	2016.2.21
平成26年兵庫県周産期医療システム母体紹介・搬送情報提供書集計結果について	産科	船越徹	平成26年度	兵庫県周産期母子医療センター・協力病院等連絡懇談会	神戸市	2016.2.21
平成26年兵庫県周産期医療システム母体紹介・搬送情報提供書集計結果について	産科	船越徹	平成26年度	家族計画・母体保護法指導者講習会に伴う伝達講習会	神戸市	2016.2.28
平成26年兵庫県周産期医療システム母体紹介・搬送情報提供書集計結果について	産科	船越徹	平成26年度	家族計画・母体保護法指導者講習会に伴う伝達講習会	尼崎市	2016.3.3
羊水過多症における羊水除去術についての検討	産科	河崎あさひ、金子めぐみ、中澤浩志、森下紀、南谷智之、牧志綾、高松祐幸、喜吉賢二、佐本崇、船越徹	第68回	日本産科婦人科学会学術講演会	東京都	2016.4.21-4.24
過剰発育児妊娠の臨床経過についての検討	産科	牧志綾、金子めぐみ、中澤浩志、河崎あさひ、森下紀、南谷智之、高松祐幸、喜吉賢二、佐本崇、船越徹	第68回	日本産科婦人科学会学術講演会	東京都	2016.4.21-4.24
子宮収縮抑制剤投与と早産児における脳性麻痺に関する研究	産科	船越徹	第68回	日本産科婦人科学会学術講演会	東京都	2016.4.21-4.24
周術期感染症の診断における帝王切開術後の血清プロカルシトニン測定の有用性	産科	南谷智之、金子めぐみ、中澤浩志、河崎あさひ、森下紀、牧志綾、高松祐幸、喜吉賢二、佐本崇、船越徹	第68回	日本産科婦人科学会学術講演会	東京都	2016.4.21-4.24
当科における過去10年間の羊水染色体検査の動向：前後5年間を比較した時系列研究	産科	中澤浩志、金子めぐみ、河崎あさひ、森下紀、南谷智之、牧志綾、高松祐幸、喜吉賢二、佐本崇、船越徹	第68回	日本産科婦人科学会学術講演会	東京都	2016.4.21-4.24
兵庫県における過去8年間の緊急母体搬送の検討	産科	船越徹	第134回	近畿産科婦人科学会学術集会	京都市	2016.6.4-6.5
過去8年間における「兵庫県周産期医療システム母体紹介・搬送情報提供書」の分析	産科	船越徹	第89回	兵庫県産科婦人科学会学術集会	神戸市	2016.7.3
当院における出生前診断された無脾症候群の検討	産科	森下紀、中澤浩志、河崎あさひ、南谷智之、牧志綾、高松祐幸、喜吉賢二、佐本崇、船越徹	第52回	日本周産期新生児医学会学術集会	富山市	2016.7.16-7.18
胎児徐脈より母児ともにQT延長症候群を疑った1例	産科	河崎あさひ、喜吉賢二、中澤浩志、森下紀、南谷智之、牧志綾、高松祐幸、佐本崇、船越徹	第52回	日本周産期新生児医学会学術集会	富山市	2016.7.16-7.18
当県における過去8年間の緊急母体搬送の状況	産科	船越徹	第52回	日本周産期新生児医学会学術集会	富山市	2016.7.16-7.18
出生前診断した胎児梨状窩嚢胞の一例	産科	喜吉賢二、中澤浩志、河崎あさひ、森下紀、南谷智之、牧志綾、高松祐幸、佐本崇、船越徹	第52回	日本周産期新生児医学会学術集会	富山市	2016.7.16-7.18

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
2006～2015年に当院で管理した 生殖補助医療(assisted reproductive technology: ART) による妊娠について	産科	船越徹	第31回	日本生殖免疫学会 学術集会	神戸市	2016.12.2-12.3
当院移転後の産科症例の検討 ー神戸市立医療センター中央市民病院との連携ー	産科	河崎あさひ、鷺尾佳一、森下紀、牧志綾、 高松祐幸、喜吉賢二、佐本崇、船越徹	平成28年度	兵庫県周産期医療研修会	神戸市	2016.12.17
小児科医の放射線研修	放射線診断科	赤坂好宣	9	兵庫県 tumor board	神戸	2016.1.15
single shot 時代の胎児MRI	放射線診断科	赤坂好宣	34	周産期学シンポジウム	神戸	2016.2.5
小児の画像 同一疾患:成人例と小児例の違い	放射線診断科	赤坂好宣	312	日本医学放射線学会関 西地方会	大阪	2016.2.20
小児の片側性大陰唇腫大の画像所見	放射線診断科	赤坂好宣、松永卓明、杉岡勇典、山口善道	52	日本小児放射線学会	東京	2016.6.18
胎児・小児の卵巣腫瘍	放射線診断科	赤坂好宣	17	Japanese Society for the Advancement of Women's Imaging	神戸	2016.9.3
小児泌尿生殖器の画像診断:先天奇形	放射線診断科	赤坂好宣	52	日本医学放射線学会秋 季臨床大会	東京	2016.9.16
デブリーフィングの基礎	小児集中治療科	黒澤寛史	第1回	小児救急シミュレー ション 金沢セミナー	金沢	2016.1.9-1.10
PICUの活かし方	小児集中治療科	黒澤寛史	第1回	小児救急セミナー	神戸市	2016.3.4
ALSと蘇生研究	小児集中治療科	黒澤寛史	第9回	日本蘇生科学シンポジウム	福岡	2016.5.27
新集中治療室の安全性を高めるための、事前シミュ レーショントレーニングのあり方	小児集中治療科	黒澤寛史、野澤正寛、清水淳次、椎間優子、 上谷良行	第30回	小児救急医学会	仙台	2016.7.1-7.2
心拍再開後の集中治療	小児集中治療科	黒澤寛史	第30回	小児救急医学会	仙台	2016.7.1-7.2
The Role of high flow nasal cannula in PICU	小児集中治療科	黒澤寛史	第19回	Asia Pacific Conference on Critical Care Medicine	バンコク	2016.10.12-10.15
小児のフィジカルアセスメント	小児集中治療科	黒澤寛史	第18回	日本救急看護学会	千葉市	2016.10.29-10.30
小児のフィジカルアセスメント ー呼吸編ー	小児集中治療科	黒澤寛史	第65回	神戸市救急症例研修会	神戸	2016.11.1
新設集中治療室において際重症患者受け入れ体制を 評価するためのシミュレーショントレーニング	小児集中治療科	黒澤寛史、野澤正寛、清水淳次、神納幸治、 制野勇介、青木一憲、椎間優子、長谷川智巳	第44回	日本救急医学会	東京	2016.11.17-11.19
座長	小児集中治療科	黒澤寛史	第1回	Critical Kinki Kids	尼崎	2016.11.26
座長(一般演題、循環)	小児集中治療科	黒澤寛史	第24回	小児集中治療ワーク ショップ	東京都	2016.11.5-11.6
留学経験を臨床に活かす	小児集中治療科	黒澤寛史	第1回	若手小児科医のための 臨床研究セミナー〜ど う学び、どう伝えるか〜	神戸市	2016.8.6
シミュレーションリサーチ	小児集中治療科	椎間優子	第1回	小児救急シミュレー ション 金沢セミナー	金沢	2016.1.9-1.10
論文の読み方	小児集中治療科	椎間優子	第1回	神戸セミナー	神戸市	2016.4.16

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
臨床研究をやってみよう・読んでみよう ～良い研究・良い論文～	小児集中治療科	椎間優子	第1回	若手小児科医のための 臨床研究セミナー～ど う学び、どう伝えるか～	神戸市	2016.8.6
臨床研究ハンズオン Clinical questionから research questionへ ～臨床研究よろず相談所～	小児集中治療科	椎間優子	第24回	小児集中治療ワーク ショップ	東京都	2016.11.5-11.6
こども病院における小児集中治療科の新設と病院移 転に向けた取り組み	小児集中治療科	制野勇介、青木一憲、椎間優子、長谷川智巳、 黒澤寛史	第44回	日本救急医学会	東京	2016.11.17-11.19
下行大動脈血流VTI比測定による体肺動脈短絡術後 の急性期肺血流量評価(優秀演題)	小児集中治療科、 循環器科、 心臓血管外科	長谷川智巳、田中敏克、大嶋義博、佐藤有美、 祖父江俊樹	第43回	日本集中治療医学会 学術集会	神戸	2016.2.12
術後狭窄病変回避をめざした左心低形成症候群に対 するNorwood手術	小児集中治療科、 心臓血管外科	長谷川智巳、大嶋義博、松久弘典、岩城隆馬、 松島峻介、山本真由子	第46回	日本心臓血管外科学会 学術集会	名古屋	2016.2.15
Cardiac ICUにて心肺蘇生を要した症例の検討	小児集中治療科、 心臓血管外科、 循環器科	長谷川智巳、黒澤寛史、大嶋義博、田中敏克	第52回	日本小児循環器学会 学術集会	東京	2016.7.6
当院CICUにおける新病院移転と集中治療科新設に際 しての取り組み	小児集中治療科	長谷川智巳、制野勇介、青木一憲、椎間優子、 黒澤寛史	第2回	日本小児循環器集中治 療研究会	大阪	2016.11.12
頸部リンパ節炎を初期診断とした乳児特異性僧帽弁 腱索断裂の2例	小児集中治療科、 循環器科、 心臓血管外科	祖父江俊樹、長谷川智巳、制野勇介、青木一憲、 椎間優子、黒澤寛史、田中敏克、大嶋義博	第2回	日本小児循環器集中治 療研究会	大阪	2016.11.12
一般演題3(座長)	小児集中治療科	長谷川智巳	第2回	日本小児循環器集中治 療研究会	大阪	2016.11.12
確定診断に時間を要した僧帽弁腱索断裂の1例	小児集中治療科	増井美苗、椎間優子、黒澤寛史、野澤正寛	第24回	小児集中治療 ワークショップ	東京	2016.11.5-11.6
Non-typeable Haemophilus influenzae purulent pericarditis	小児集中治療科	神納幸治、笠井正志		淀川キリスト教病院 小児科勉強会	大阪	2016.5.21
心タンポナーデを呈した 無莖膜型インフルエンザ菌 (NTHi)による化膿性心膜炎の1例	小児集中治療科	神納幸治、笠井正志、伊藤雄介、梶原伸介、 竹田洋樹、西順一郎、蘭半田直子	第48回	日本小児感染症学会 学術集会	岡山	2016.11.19-11.20
小児院内心停止症例に対するECPRの課題	小児集中治療科	染谷真紀	第30回	小児救急医学会	仙台	2016.7.1
兵庫での小児救急・集中治療体制整備の取り組み	小児集中治療科	黒澤寛史	第1回	熊本大学小児救急集中治 療ネットワーク研究会	熊本	2016.12.20
重篤な小児をもれなく救いたい	小児集中治療科	黒澤寛史		神戸市小児科医会総会	神戸	2016.7.9
重篤な小児をもれなく救いたい	小児集中治療科	黒澤寛史		西宮市小児科医会	西宮	2016.12.21
PICUに入室している子どもの家族への援助	看護部	西川菜央	第24回	小児集中治療 ワークショップ	東京	2016.11.6
低出生体重児のスキンケア	看護部	鎌田直子	平成26年度	愛育会周産期医療研修 会NICU編	大阪	2016.2.10
皮膚・排泄ケア認定看護師による小児オストメイトへ の災害対策指導の実態調査	看護部	鎌田直子	第33回	日本ストーマ・排泄リ ハビリテーション学会	甲府	2016.2.20

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
二分脊椎の排泄管理	看護部	鎌田直子	平成26年度	滋賀県立小児保健医療センター二分脊椎症勉強会・交流会	守山	2016.3.5
創傷管理の実際(褥瘡予防・治療過程・ドレッシング材)	看護部	鎌田直子	第21回	日本小児ストーマ・排泄・創傷管理セミナー	名古屋	2016.6.24
保育所におけるストーマ研修会の評価と課題	看護部	鎌田直子	第30回	日本小児ストーマ・排泄・創傷管理研究会	名古屋	2016.6.25
ストーマケア	看護部	鎌田直子		三木市立志染保育所ストーマケア研修	三木	2016.7.2
学術委員会企画～MDRPUベストプラクティスのコツ小児領域医療関連機器	看護部	鎌田直子	第18回	日本褥瘡学会	横浜	2016.9.3
ランチョンセミナー:小児領域における医療関連機器圧迫創傷(MDRPU)	看護部	鎌田直子	第18回	日本褥瘡学会	横浜	2016.9.3
小児ストーマケア	看護部	鎌田直子	第38回	関西ストーマケア講習会	神戸	2016.10.21
低出生体重児のスキンケアの皮膚ケア	看護部	鎌田直子	第7回	近畿小児WOCケア勉強会	大阪	2016.11.26
特別企画:たんばぼの会のミッション～成り立ち、現在、そして未来～たんばぼの会に参加して感じたこと伝えたいこと	看護部	鎌田直子	第27回	近畿小児ストーマ・排泄・創傷研究会	大阪	2016.11.26
院内看護師による皮膚・排泄ケア認定看護師の活動に関する評価	看護部	鎌田直子	第27回	近畿小児ストーマ・排泄・創傷研究会	大阪	2016.11.26
医療関連機器圧迫創傷(MDRPU)予防と実践方法	看護部	鎌田直子		コプロラストアドバンスドセミナー	大阪	2016.12.17
18トリソミーの児への経口摂取とその評価	看護部	熊谷麻美	第22回	日本摂食嚥下リハビリテーション学会	新潟	2016.9.23～24
側彎症手術を受ける患児の体位固定に関するシミュレーション教育	看護部	池田圭佑	第27回	日本小児整形学会学術集会	仙台	2016.12.1～2
対応困難な小児1型糖尿病患者の子どもと家族の支援～看護相談外来の効果～	看護部	泊菊子	第23回	日本小児看護学会	別府市	2017.7.23～24
院内看護師による専門看護師・認定看護師の活動に対する評価	看護部	濱田米紀	第14回	兵庫県立病院学会	神戸市	2016.09.10
学童期の頭蓋底陥入症の児が治療に向き合う過程を支える関わり	看護部	東哲也	第44回	日本小児神経外科学会	つくば市	2016.6.22～6.24
小児がん化学療法レジメン管理におけるシステム化の有用性	薬剤部	岸本早百合	第14回	兵庫県立病院学会	神戸	2016.9.10
散薬調剤ロボット導入による調剤業務の効率化	薬剤部	初井佳奈	第14回	兵庫県立病院学会	神戸	2016.9.10
散薬調剤ロボット導入による調剤業務の効率化	薬剤部	由良沙央理	第26回	日本医療薬学会	京都	2016.9.17

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
頑張ってます！小児採血！ ～検査部採血業務の取り組み～	検査部	山岸真代、千田園子、松尾美也子	第14回	兵庫県立病院学会	神戸市	2016.9.10
自動血液分析装置セラビジョンDM9600の検討	検査部	千田園子、瀧本良実、野口啓子、松尾美也子	第14回	兵庫県立病院学会	神戸市	2016.9.10
新しい尿中有形成分分析装置UF-5000の検討	検査部	細川珠枝、山本美和、平田明宏、千田園子、松尾美也子	第14回	兵庫県立病院学会	神戸市	2016.9.10
新しい聴力検査機器(Eclipse)の導入 ～眠った子を起こさない！小児に優しい聴力検査～	検査部	大島佳那子、橋本恵美、山本正子、溝根尚子、山崎美保、藤本恵子、山岸真代、松尾美也子	第14回	兵庫県立病院学会	神戸市	2016.9.10
放射性医薬品の誤投与防止について	放射線部	北坂佳之	第47回	兵庫県立病院核医学部会	尼崎	2016.1.16
こども病院における放射線治療～TBI・CSIを中心に～	放射線部	射場智美	第49回	兵庫県立病院治療部会	加古川	2016.5.21
カテーテルを留置しない小児利尿レノグラム検査について	放射線部	北坂佳之	第46回	兵庫県立病院放射線技師研修会	神戸	2016.7.30
長尺FPD導入による使用経験	放射線部	佐藤衣莉	第14回	兵庫県立病院学会	神戸	2016.9.10
小児頭部MRI検査における pediatric Head-Spine Coil の使用経験	放射線部	沼田憲作	第28回	全国自治体病院学会	富山	2016.10.19-21
CALNEO GLの使用経験と効果およびポータブル無線運用の有用性について	放射線部	田中千弘		FUJIFILM MEDICAL SEMINAR 2016in 神戸	神戸	2016.11.5
小児頭部MRI検査における pediatric Head-Spine Coil の使用検討	放射線部	沼田憲作	第56回	兵庫県放射線技師会 学術大会	淡路	2016.11.13
兵庫県立こども病院施設紹介	放射線部	射場智美	第42回	兵庫県核医学技術検討会	神戸	2016.11.19

4) 報道

テーマ	所属科	発表者名	報道媒体	報道年月日
耐性菌	感染症科	笠井正志	MBS ちちんぷいぷい	2016.5.24
抗菌薬適性使用	感染症科	笠井正志	MBS Voice	2016.5.31
子どもの心臓病 病院の実力 兵庫編 100	心臓血管外科	大嶋義博	読売新聞	2016.6.5

5) 実習生・研修生受け入れ状況

①実習生

診療部

学校名	実習名	実習生数	実習期間	実習場所
神戸総合医療専門学校	言語聴覚士学生実習	1	2.8～2.16	耳鼻咽喉科および形成外科外来
神戸総合医療専門学校	言語聴覚士学生実習	1	10.24～11.25	リハビリテーション科および耳鼻咽喉科外来・病棟・手術室見学
神戸常盤大学短期大学部口腔保健学科	歯科衛生士学生実習	1	4.31～6.24	歯科外来・他
神戸常盤大学短期大学部口腔保健学科	歯科衛生士学生実習	2	7.5～7.29	歯科外来・他
百年記念病院	初期研修医	1	1.4～1.29	小児救急医療センター
神戸大学医学部医学科・保健学科 神戸薬科大学薬学部	1年次学生合同初期体験実習	7	9.14	小児救急医療センター・家族支援地域連携部・薬剤部・検査部・看護部

看護部

学校名	実習名	実習生数	実習期間	実習場所
兵庫県立大学看護学部	生涯広域看護	16	10.3～10.14	病棟（7E,6W,5W,HCU）
	生涯広域看護	26	10.17～10.28	病棟（7W,7E,5W,HCU）産科病棟、GCU
	生涯広域看護	26	10.31～11.11	病棟（7W,7E,6W,5W）産科病棟、GCU
	生涯広域看護	24	11.14～11.25	病棟（7W,7E,6W,HCU）産科病棟、GCU
	生涯広域看護	25	11.28～12.9	病棟（7W,6W,5W,HCU産科病棟、GCU
兵庫県立総合衛生学院	小児看護学（看護学科全日制）	6	9.5～9.16	病棟（7W,7E）
	小児看護学（看護学科全日制）	6	9.20～9.30	病棟（7W,7E）
	小児看護学（看護学科定時制）	7	9.5～9.16	病棟（6E,5W）
	小児看護学（看護学科定時制）	6	9.20～9.30	病棟（6W,5W）
	小児看護学（看護学科定時制）	6	10.17～10.28	病棟（6W,6E）
	小児看護学（看護学科定時制）	6	11.14～11.25	病棟（6E,5W）
	母性看護学（看護学科定時制）	6	9.12～9.16	産科病棟
	母性看護学（看護学科定時制）	6	9.20～9.23	産科病棟
	母性看護学（看護学科定時制）	6	10.3～10.7	産科病棟
	母性看護学（看護学科定時制）	6	10.11～10.14	産科病棟
助産学科	4	10.5～10.7	GCU	

学 校 名	実 習 名	実習生数	実習期間	実習場所
兵庫県立総合衛生学院	助産学科	4	1.11~1.13	GCU
	助産学科	3	1.18~1.20	GCU
神戸常磐大学	短期大学通信制課程	6	8.15~8.19	病棟 (7W,7E,6W,6E)
近大姫路大学	統合実習	6	8.22~9.2	病棟 (7W,7E,6W,6E,5W)
	こども看護	5	10.3~10.7	病棟 (6E)
	こども看護	5	10.31~11.4	病棟 (6E)
	こども看護	5	11.7~11.11	病棟 (6E)
	こども看護	5	11.28~12.2	病棟 (6E)
	こども看護	5	12.12~12.16	病棟 (6E)
	こども看護	5	1.16~1.20	病棟 (6E)
神戸市看護大学	ウィメンズヘルス看護	24	10.3~10.27(2日間、3名ずつ)	GCU
兵庫県立大学	母性高度実践看護実習Ⅲ	1	10.5~2.24	産科病棟
神戸市看護大学	大学院小児看護特講演習	1	10.3~3.31	5E
川崎医療短大	保育学科	2	8.22~9.2	病棟 (6W,6E)
	保育学科	2	9.5~9.16	病棟 (7W,7E)
姫路獨協大学	こども保健学科	2	2.6~2.17	病棟 (6W,6E)
四国大学	看護学科 見学	24	8.17	
松江総合医療専門学校	看護学科 見学	47	8.26	
平成淡路看護専門学校	看護学科 見学	42	1.31	
阪奈中央看護学校	看護学科 見学	40	2.24	
埼玉小児医療センター	見学実習	6	9.6	PICU, 救急外来
杏林大学医学部附属病院	皮膚・排泄ケア見学研修	1	11.25、11.28	外来および病棟

薬剤部

学 校 名	実 習 名	実習生数	実習期間	実習場所
兵庫医療大学	薬学生実務実習	1	9.26~12.11	薬剤部と主な部署
大阪薬科大学	薬学生実務実習	1	9.26~12.11	薬剤部と主な部署
神戸薬科大学	薬学生実務実習	2	9.26~12.11	薬剤部と主な部署

検査・放射線部（検査）

学校名	実習名	実習生数	実習期間	実習場所
北里大学医療衛生学部医療検査学科	臨地実習	1	6.10	検査部
行岡保健衛生学園	臨地実習	1	8.18	検査部
神戸学院大学栄養学部栄養学科	臨地実習	2	8.1～8.12	検査部
神戸学院大学栄養学部栄養学科	臨地実習	4	10.6	検査部
神戸大学医学部検査技術科	臨地実習	2	11.1～11.18	検査部

栄養管理課

学校名	実習名	実習生数	実習期間	実習場所
神戸学院大学	管理栄養士臨地実習	4	9.26～10.7	栄養管理課
甲子園大学	臨床栄養学臨地実習	2	10.17～10.28	栄養管理課
甲子園大学	臨床栄養学臨地実習	2	11.7～11.18	栄養管理課

②研修生

診療部

依頼元	研修科	研修生数	研修期間	研修場所
神戸赤十字病院 卒後臨床研修委員会	産科	5	1ヶ月ずつ	産科病棟、外来、手術室など
神戸中央市民病院	放射線科	1	3ヶ月	読影室、超音波室、透視検査室など
市立豊中病院	放射線科	1	2ヶ月	読影室、超音波室、透視検査室など

看護部

依頼元	研修名	研修生数	研修期間	研修場所
杏林大学医学部附属病院	皮膚・排泄ケア見学研修	1	11.25・28	外来および病棟
県立西宮病院	NICU	3	8.4～8.15	NICU
	NICU	3	8.18～8.29	NICU
中国福利会国際和平婦児保健院	産科・NICU・GCU	2	8月～9月	産科・NICU・GCU
	産科・NICU・GCU	2	10月～11月	産科・NICU・GCU
	産科・NICU・GCU	2	12月～1月	産科・NICU・GCU

家族支援・地域医療連携部

学校名	実習名	実習生数	実習期間	実習場所
日本医療マネジメント学会	地域連携クリティカルパス実習	1	8.23	家族支援・地域医療連携部

6. 研修（2016年）

1) 公開研修会

名称	主催	開催日	時間	場所	院内参加数	院外参加数	合計	テーマ	発表者/担当	所属科名
講演会	虐待防止委員会	10月29日	13:00～16:00	2階講堂	24	51	75	虐待連鎖を断ち切る～予防への取り組み～	澤田敬	カンガルーの会 理事長
第221回こども病院 症例検討会	研修教育委員会	1月14日	17:45～18:30	研修室 AB	21	1	22	【形成外科診療～こどものためにできること～ 早期治療を目指して】	池村光之介	形成外科
第222回こども病院 症例検討会	研修教育委員会	1月28日	17:45～18:30	研修室 AB	20	2	22	【急性陰囊症 Update】	春名晶子	泌尿器科
第223回こども病院 症例検討会	研修教育委員会	2月25日	17:45～18:30	研修室 AB	15	0	15	【小児脳腫瘍の初発症状について～自験例の検討から ～】	山口陽二	脳神経外科
第224回こども病院 症例検討会	研修教育委員会	3月10日	17:45～18:30	研修室 AB	25	1	26	【糖尿病 update】	日外祐理	代謝内分泌科
第225回こども病院 症例検討会	研修教育委員会	10月13日	17:45～18:30	2階講堂	33	2	35	【小児血液・がん患者における血流感染症の臨床的特 徴】	石田敏章	血液腫瘍内科
第226回こども病院 症例検討会	研修教育委員会	10月10日	17:45～18:30	2階講堂	24	4	28	【救急の時間】	林卓郎	救急総合診療科
第227回こども病院 症例検討会	研修教育委員会	11月24日	17:45～18:30	2階講堂	31	5	36	【日齢49の発熱、痙攣 ～重症感染症の To do or Not to do～】	伊藤雄介	感染症科
第228回こども病院 症例検討会	研修教育委員会	12月8日	17:45～18:30	2階講堂	13	2	15	【小児医療における臨床遺伝科の役割】	森貞直哉	臨床遺伝科
第229回こども病院 症例検討会	研修教育委員会	12月22日	17:45～18:30	2階講堂	17	1	18	【小児の肝胆道疾患：緊急を要する疾患の対処につい て】	山木聡史 福澤宏明	小児外科
平成28年度 小児がん看護研修①	看護部 がん相談支援室 緩和ケアチーム	8月27日	9:30～17:00	2階講堂	12	53	65	小児がんの特徴と最新の動向 小児がんの代表的疾患と治療概論 小児がんの化学療法 小児がんの化学療法看護 晩期合併症と長期フォローアップ 小児がんの放射線療法	小阪嘉之 石田敏章 川崎圭一郎 後藤恵美 齋藤敦郎 副島俊典	看護部 血液腫瘍・内科 県立がんセンタ ー放射線治療科
平成29年度 小児がん看護研修②	看護部 がん相談支援室 緩和ケアチーム	9月10日	9:30～17:00	2階講堂	19	53	72	小児がん看護概論 小児がんをもつ子どもの症状マネジメント 小児がんの子どもと社会資源 小児の緩和ケア概論 小児がんをもつ子どもと家族の心のケア	中谷扶美 塚田友紀 松尾さおり 矢内友子 関口典子	看護部 医療福祉相談員 武田薬品工業株 式会社 精神神経科
平成30年度 小児がん看護研修③	看護部 がん相談支援室 緩和ケアチーム	10月15日	9:30～16:45	2階講堂	15	41	56	小児がんをもつ子どもの補完代替療法 終末期にある小児がんをもつ子どもと家族の看護	三宅一代 松岡真里	社会福祉法人 芳友 にこにこ ハウス医療福祉 センター 高知大学准教授

平成28年度兵庫県 周産期医療研修会	産科・新生児科	12月17日	14:00~17:30	兵庫県 医師会館	30	80	110	1) 新生児蘇生法 -看護実践での活用について - 2) 当院移転後の産科症例の検討 - 神戸市立医療セ ンター中央市民病院との連携 - 3) 特別講演「新生 児科医から見た双胎間輸血症候群の今と昔」	1) 井谷洋美 2) 河崎あさひ 3) 与田仁志	1) NICU 2) 産科 3) 東邦大学医 学部新生児科教 授
JSPICC AHA PALS 大阪コース	日本小児集中 治療研究会	10月2日	8:00-16:00	大阪市立総合 医療センター		20	20	小児二次救命処置講習会 講師	林卓郎	救急総合診療科
JSPICC AHA PALS 東京都コース	小児集中治療 研究会	10月16日	8:00-16:00	聖路加国際大 学 シミュレ ーションセンタ ー		20	20	小児二次救命処置講習会 講師	林卓郎	救急総合診療科
PPMEC 講習	日本臨床救急 医学会	5月13日	9:00-12:00	ビッグパレッ ト福島		20	20	小児病院前救護処置講習会 講師	林卓郎	救急総合診療科
大阪市立住之江中 学校 BLS 講習会	大阪市立住之 江中学校	11月29日	13:30-15:30	大阪市立 住之江中学校		120	120	一次救命処置講習会 講師	林卓郎	救急総合診療科
第2回 #8000相談員 スキルアップ研修 小児救急医学情報 最新治療の学び	兵庫県看護協会	10月29日	14:00-16:00	兵庫県 看護協会		40	40	小児電話相談窓口相談員を対象とした小児救急につ いての講演	林卓郎	救急総合診療科
小児感染症学会 ベシクセミナー	小児感染症学 会	11月19日	8:00~	岡山コンベンシ ョンセンター	6人程度	100人 程度	106	細菌性髄膜炎	山口宏 梶原伸介	救急総合診療科
在宅医療関係者病 院見学会・交流会	看護部地域連 携委員会	10月22日	13:30~16:00	2階講堂	12	38	50	病院見学とグループワーク	知己連携委員会	看護部

2) 院内全体研修

名称	主催	開催日	時間	場所	参加数	テーマ	講師/発表者	所属
平成 27 年度放射線安全研修会	放射線安全委員会	6月17日	15:30～17:00	講堂	126	①放射線の人体への影響 ②MRI検査の安全性について ③核医学検査について ④放射線被ばくについて ⑤放射線治療について	吉野 朗 沼田憲作 射場智美 原 誠 原 誠	放射線部
心カテ勉強会	循環器医師・放射線技師	8月5日	17:30～18:30	講堂	60	アンギオ室での放射線被ばく管理	原 誠	放射線部
医療安全研修会	医療安全対策室	3月8日	17:30～18:30	研修室	151	各部門の安全への取り組み“医療事故が起きたら”	各部門リスク マネジャー、 田中亮二郎	医療安全部長
医療安全研修会	医療安全対策室	9月16日	18:40～19:00	講堂	26	NEO最強の医療安全フォーラム「日常診療に必要なリスク管理-明日は我が身に医療事故」	山本貴章	東京海上日動 メディカル
医療安全研修会	医療安全対策室	10月21日	18:30～19:35	講堂	260	レジリエンス/観点からの医療安全・医療コミュニケーション	長谷川剛	上尾総合中央病院 情報管理部部長
MMカンファレンス	医療安全対策室	12月1日	17:30～18:30	講堂	86	どうなる・どうする重症外傷	林卓郎	救急科
第2回全職員対象感染対策研修会	感染対策委員会	3月3日	17:30～18:30	研修室AB	207	シンプルイズベスト!感染対策	笠井正志	感染対策チーム
新規採用医師 感染対策オリエンテーション	感染対策委員会	4月1日	9:30～9:45	研修室AB	30	小児専門病院の感染対策	小阪嘉之 鳴滝由佳	感染対策チーム
第1回全職員対象感染対策研修会	感染対策委員会	7月5日	18:00～19:00	講堂	287	楽しく学べる感染対策の重要ポイント ～耐性菌も含めて～	矢野邦夫	浜松医療センター
Microbiology Round	感染症科	5月18日	17:30～19:00	細菌検査室	30	ブドウ球菌	笠井正志	感染症科
Microbiology Round	感染症科	6月15日	17:30～19:00	細菌検査室	25	モラクセラカタラーリス	伊藤雄介	感染症科
Microbiology Round	感染症科	8月17日	17:30～19:00	細菌検査室	35	キャンピロバクター	伊藤雄介	感染症科
Microbiology Round	感染症科	9月21日	17:30～19:00	細菌検査室	25	肺炎球菌	伊藤雄介	感染症科
Microbiology Round	感染症科	10月12日	17:30～19:00	細菌検査室	30	レンサ球菌	伊藤雄介	感染症科
ハートセンター勉強会1	心臓センター	10月14日	17:45～18:30	2階講堂	80	解剖・循環生理	松久弘典	心臓血管外科
ハートセンター勉強会2	心臓センター	10月28日	17:45～18:30	北館2階教育 研究室	80	小児の補助循環	日隈智恵	心臓血管外科
ハートセンター勉強会3	心臓センター	11月11日	17:45～18:30	2階講堂	70	小児循環器病に特徴的な病態・術後合併症	松島峻介	心臓血管外科
ハートセンター勉強会4	心臓センター	12月16日	17:45～18:30	2階講堂	75	心電図読影法、小児不整脈	小川禎治	循環器科
院内講演会	小児救急センター	10月24日	17:30:	講堂	50	病棟間のギャップを埋めるーアウトリーチ	中澤貴良佳	メルボルン 小児病院
病棟間のギャップを埋める ～PICU without boarders～	小児救急医療センター	10月24日	17:45～18:45	2階講堂	46	アウトリーチと呼ばれる院内患者安全のための システムの紹介	中澤貴良佳	メルボルン こども病院
ボランティアオリエンテーション	看護部	8月24日	14:00～14:30	ボランティア室	4	感染対策の基本	鳴滝由佳	感染対策チーム
窓口業務職員対象感染対策研修会		9月23日	17:30～18:00	看護部会議室	27	窓口業務における感染対策	鳴滝由佳	感染対策チーム

第2回全職員対象感染対策研修会	感染対策委員会	10月18日	17:30～18:30	講堂	225	あなたの水回りの耐性菌 ～今 こども病院に必要なこと～	伊藤健太	あいち小児保健医療総合センター
VAP勉強会	看護部	11月9日	18:00～18:30	スキルラボ		看護師が主役の人工呼吸器関連肺炎予防	伊藤雄介	感染対策チーム
輸血療法委員会研修会	輸血療法委員会	12月12日	17:45～18:45	講堂	82	看護師の立場からみた輸血医療の安全対策 血小板抗体による新生児血小板減少症(NAIT)他	松本真弓 荒木延夫	神鋼記念病院 兵庫県赤十字血液センター
神戸ハウススタッフ向けオリエンテーション	総務部	11月18日	14:00～15:00	神戸ハウス	6	感染対策の基本、吐物の処理	鳴滝由佳 穂満茜	感染対策チーム
第2回全職員対象感染対策研修視聴会	感染対策委員会	11月29日	14:00～15:00	講堂	45	あなたの水回りの耐性菌 ～今 こども病院に必要なこと～	伊藤健太	あいち小児保健医療総合センター
第4回 検査部研修会	検査部	12月2日	17:30～18:30	講堂	37	細菌感染における炎症性バイオマーカーの意義	大井雅宏	シーメンス
第2回全職員対象感染対策研修視聴会	感染対策委員会	12月5日	17:30～18:30	講堂	100	あなたの水回りの耐性菌 ～今 こども病院に必要なこと～	伊藤健太	あいち小児保健医療総合センター
第2回全職員対象感染対策研修視聴会	感染対策委員会	12月6日	14:00～15:00	講堂	65	あなたの水回りの耐性菌 ～今 こども病院に必要なこと～	伊藤健太	あいち小児保健医療総合センター

3) 複数科合同カンファレンス

名称	対象科	開催日	時間	場所	参加数	テーマ	発表者/担当
第一回外傷症例検討会	全科	8月26日	18:00	講堂	50 (院外10含む)	救命できなかった重症多発外傷症例を振り返る	林卓郎
第二回外傷症例検討会	救急総合診療科・集中治療科	2月5日	17:30	中央市民病院	20 (院外10含む)	中央市民病院へ転送し血管内治療を受けた重症外傷症例を検討	林卓郎
2016年度第1回届け出疾患連絡会 (保健所、環境衛生研究所)	感染症科・神経内科	5月30日	16:00～17:00	総務会議室	15	脳症、侵襲性肺炎球菌など	笠井正志他
2016年度第2回届け出疾患連絡会 (保健所、環境衛生研究所)	感染症科・神経内科	11月9日	16:00～17:00	総務会議室	20	脳症、侵襲性肺炎球菌など	笠井正志他
麻酔科・心臓外科・循環器科・集中治療科合同カンファレンス	麻酔科、心臓外科、循環器内科、集中治療科、看護師、臨床工学技士	通年、毎日	7:55～8:10	CICU	15	当日の心臓外科症例についてのカンファレンス	手術・麻酔担当医
モーニングカンファレンス	産科、看護師、薬剤部	毎日	8:30～8:50	産科病棟 詰所	12	当直報告と産科入院症例の状態報告、連絡事項	
周産期カンファレンス	産科、新生児科、小児外科、病理診断科、看護師、検査技師、薬剤部	毎月 (月が休日の場合は火)	16:30～16:55	新生児科カンファレンス室1	18～21	未分娩妊婦の症例提示と新生児の経過報告	
ウィークエンドカンファレンス	産科、看護師、薬剤部	毎金 (金が休日の場合は木)	16:00～16:20	産科病棟 詰所	8～10	産科入院症例の状態報告	

病院移転に向けてのICU患者打ち合わせ	小児集中治療科、 心臓血管外科、循環器科	4月19日	16:00～17:00	旧病院4階 会議室	30	患者申し送り、移転に伴う患者搬送時の注意点	黒澤
ドクターヘリシミュレーション	小児集中治療科・ 心臓血管外科・ 循環器科・救急科・ 臨床工学部・看護部	4月21日	8:55～12:20	ヘリポー ト・CICU	35	ドクターヘリによる滋賀県・兵庫県間の緊急患 者搬送訓練	黒澤・青木
ECMOシミュレーション	小児集中治療科・ 心臓血管外科・看護部	11月14日	17:30～18:30	CICU	30	緊急ECMO導入Simulation	黒澤・青木
二分脊椎外来カンファレンス	脳神経外科、整形外科 泌尿器科、作業療法士 皮膚・排泄ケア認定看護師	7月22日	15:30～16:25	整形外科ギ ブス室	9	二分脊椎外来を受診した新規患者および要観察 患者の情報共有対象患者9名	
多職種カンファレンス	血液・腫瘍内科	8月22日	14:00～15:00	7東	16	ターミナル期患者の今後について	緩和ケアNs
医療者カンファレンス	血液・腫瘍内科	8月26日	14:00～15:00	7東	9	ターミナル期患者の今後について	緩和ケアNs
多職種カンファレンス	血液・腫瘍内科	8月31日	14:00～15:00	7東	11	ターミナル期患者の今後について	緩和ケアNs
多職種カンファレンス	血液・腫瘍内科	10月13日	17:30～18:30	7東	23	デスカンファレンス	緩和ケアNs
多職種カンファレンス	血液・腫瘍内科	10月20日	17:30～18:30	7東	18	デスカンファレンス	緩和ケアNs
発達行動勉強会	総合診療科、脳神経内科、 精神科	9月1日	16:30～18:00	精神科外来	10	症例提示	藤田杏子
発達行動勉強会	総合診療科、脳神経内科、 精神科	10月6日	16:30～18:00	精神科外来	10	摂食障害の一例	関口典子
発達行動勉強会	総合診療科、脳神経内科、 精神科	11月16日	16:30～18:00	精神科外来	12	AD/HDの診断基準改定（WEB講演会）	関口典子
発達行動勉強会	総合診療科、脳神経内科、 精神科	12月7日	16:30～18:00	精神科外来	12	AD/HD児を取り巻く様々な職種からみたAD/HD 治療（WEB講演会）	関口典子

4) 部署別勉強会・カンファレンス

名 称	主 催	開催日	時 間	場 所	参加数	テーマ	発表者 / 担当
救急外来 重症対応シミュレーション	救急総合診療科	6月7日	7:30～8:00	救急外来	9	オリエンテーション	松井
救急外来 重症対応シミュレーション	救急総合診療科	6月16日	7:30～8:00	救急外来	10	呼吸障害	松井
救急外来 重症対応シミュレーション	救急総合診療科	6月22日	7:30～8:00	救急外来	10	呼吸障害	松井
救急外来 重症対応シミュレーション	救急総合診療科	6月29日	7:30～8:00	救急外来	10	呼吸障害	松井
救急外来 重症対応シミュレーション	救急総合診療科	7月7日	7:30～8:00	救急外来	9	呼吸障害	松井
救急外来 重症対応シミュレーション	救急総合診療科	7月13日	7:30～8:00	救急外来	8	気道管理	松井
救急外来 重症対応シミュレーション	救急総合診療科	7月20日	7:30～8:00	救急外来	9	循環障害	松井
救急外来 重症対応シミュレーション	救急総合診療科	7月28日	7:30～8:00	救急外来	7	循環障害	松井
救急外来 重症対応シミュレーション	救急総合診療科	8月5日	7:30～8:00	救急外来	9	循環障害	松井
救急外来 重症対応シミュレーション	救急総合診療科	8月10日	7:30～8:00	救急外来	9	閉塞性ショックレクチャー	松井
救急外来 重症対応シミュレーション	救急総合診療科	8月16日	7:30～8:00	救急外来	8	循環障害	松井
救急外来 重症対応シミュレーション	救急総合診療科	8月23日	7:30～8:00	救急外来	8	不整脈アルゴリズム	松井
救急外来 重症対応シミュレーション	救急総合診療科	8月31日	7:30～8:00	救急外来	7	除細動器の使い方	松井
救急外来 重症対応シミュレーション	救急総合診療科	9月7日	7:30～8:00	救急外来	4	不整脈①	松井
救急外来 重症対応シミュレーション	救急総合診療科	9月14日	7:30～8:00	救急外来	3	不整脈②	松井
救急外来 重症対応シミュレーション	救急総合診療科	9月21日	7:30～8:00	救急外来	3	不整脈③	松井
救急外来 重症対応シミュレーション	救急総合診療科	9月28日	7:30～8:00	救急外来	5	不整脈④	松井
救急外来 重症対応シミュレーション	救急総合診療科	10月7日	7:30～8:00	救急外来	8	骨髄針	松井
救急外来 重症対応シミュレーション	救急総合診療科	10月14日	7:30～8:00	救急外来	8	けいれん	松井

救急外来 重症対応シミュレーション	救急総合診療科	10月21日	7:30~8:00	救急外来	6	骨折固定	松井
救急外来 重症対応シミュレーション	救急総合診療科	11月2日	7:30~8:00	救急外来	5	外傷診療レクチャー①	松井
救急外来 重症対応シミュレーション	救急総合診療科	11月18日	7:30-8:00	救急外来	3	外傷診療レクチャー②	松井
救急外来 重症対応シミュレーション	救急総合診療科	11月25日	7:30~8:00	救急外来	3	外傷診療デモ	松井
救急外来 重症対応シミュレーション	救急総合診療科	12月9日	7:30~8:00	救急外来	4	外傷診療	松井
救急外来 重症対応シミュレーション	救急総合診療科	12月16日	7:30~8:00	救急外来	4	外傷診療	松井
救急外来 重症対応シミュレーション	救急総合診療科	12月21日	7:30~8:00	救急外来	6	縫合	松井
症候学勉強会	救急総合診療科	8月24日	18:00~19:00	カンファレンス室3	5	[Coma]	上村
症候学勉強会	救急総合診療科	9月7日	18:00~19:00	カンファレンス室3	4	[Pain: Scrotal]	田中
症候学勉強会	救急総合診療科	10月5日	18:00~19:00	カンファレンス室3	4	[Ataxia]	上村
症候学勉強会	救急総合診療科	10月26日	18:00~19:00	カンファレンス室3	5	[Edema]	谷澤
症候学勉強会	救急総合診療科	11月2日	18:00~19:00	カンファレンス室3	4	[Foreign-body ingestion]	野浪
症候学勉強会	救急総合診療科	12月7日	18:00~19:00	カンファレンス室3	6	[Cough]	大野
症候学勉強会	救急総合診療科	1月25日	18:00~19:00	救急外来	4	[Hypertension]	加藤
症候学勉強会	救急総合診療科	2月1日	18:00~19:00	カンファレンス室3	5	[Seizures]	山口
症候学勉強会	救急総合診療科	2月22日	18:00~19:00	会議室	5	[Abdominal distension]	岡藤
症候学勉強会	救急総合診療科	3月1日	18:00~19:00	カンファレンス室3	6	[Hematuria]	稲熊
救急スタッフ勉強会	救急総合診療科	8月19日	7:30~8:00	救急外来		骨折マニュアル確認	松井
救急スタッフ勉強会	救急総合診療科	8月26日	7:30~8:00	救急外来		低血糖マニュアル確認	楠元
救急スタッフ勉強会	救急総合診療科	9月2日	7:30~8:00	救急外来		敗血症マニュアル確認	梶原
救急スタッフ勉強会	救急総合診療科	9月6日	7:30~8:00	救急外来		プレゼンテーションマニュアル確認	林
救急スタッフ勉強会	救急総合診療科	9月13日	7:30~8:00	救急外来		腸重積マニュアル確認	山口
救急スタッフ勉強会	救急総合診療科	9月20日	7:30~8:00	救急外来		縫合マニュアル確認	松井
救急スタッフ勉強会	救急総合診療科	9月27日	7:30~8:00	救急外来		虐待マニュアル確認	竹田
救急スタッフ勉強会	救急総合診療科	10月4日	7:30~8:00	救急外来		喘息マニュアル確認	楠元
救急スタッフ勉強会	救急総合診療科	10月11日	7:30~8:00	救急外来		インフルエンザ診療指針確認	梶原
救急スタッフ勉強会	救急総合診療科	10月18日	7:30~8:00	救急外来		Vision/Missionについて	林
救急スタッフ勉強会	救急総合診療科	10月25日	7:30~8:00	救急外来		肝脾損傷マニュアル確認	山口
救急スタッフ勉強会	救急総合診療科	11月1日	7:30~8:00	救急外来		虐待マニュアル確認	竹田
救急スタッフ勉強会	救急総合診療科	11月8日	7:30~8:00	救急外来		熱傷マニュアル確認	松井

救急スタッフ勉強会	救急総合診療科	11月15日	7:30~8:00	救急外来		喘息・低血糖マニュアル確認	楠元
救急スタッフ勉強会	救急総合診療科	11月22日	7:30~8:00	救急外来		呼吸器ガイドライン2017紹介	梶原
救急スタッフ勉強会	救急総合診療科	11月29日	7:30~8:00	救急外来		メキシコ学会報告	林
救急スタッフ勉強会	救急総合診療科	12月6日	7:30~8:00	救急外来		フェロー教育目標確認	松井
救急スタッフ勉強会	救急総合診療科	12月13日	7:30~8:00	救急外来		死亡診断書について	竹田
救急スタッフ勉強会	救急総合診療科	12月20日	7:30~8:00	救急外来		外傷に特徴的な画像所見	山口
救急スタッフ勉強会	救急総合診療科	1月10日	7:30~8:00	救急外来		Greifと臓器提供	竹田
救急スタッフ勉強会	救急総合診療科	1月17日	7:30~8:00	救急外来		動物咬傷マニュアル確認	梶原
救急スタッフ勉強会	救急総合診療科	1月24日	7:30~8:00	救急外来		皮膚接着剤について	林
救急スタッフ勉強会	救急総合診療科	1月31日	7:30~8:00	救急外来		Rh(-)輸血に関して	山口
救急スタッフ勉強会	救急総合診療科	2月10日	7:30~8:00	救急外来		腸重積studyについて	竹田
救急スタッフ勉強会	救急総合診療科	2月17日	7:30~8:00	救急外来		頭部打撲マニュアル確認	楠元
救急スタッフ勉強会	救急総合診療科	2月24日	7:30~8:00	救急外来		伝達講習	松井
救急スタッフ勉強会	救急総合診療科	3月3日	7:30~8:00	救急外来		髄膜炎菌感染症について	梶原
救急スタッフ勉強会	救急総合診療科	3月10日	7:30~8:00	救急外来		縫合処置後の説明用紙について	楠元
小児感染症科抄読会	感染症科	11月1日	18:00~	PICUカンファレンスルーム	10人程度	インフルエンザについて	梶原伸介
精神科勉強会	精神科	9月30日	12:30~13:00	精神科外来	6	解離性知覚麻痺および感覚脱出	玉岡文子
精神科勉強会	精神科	10月14日	12:30~13:00	精神科外来	6	精神科医療倫理	野呂朝子
精神科勉強会	精神科	10月21日	12:30~13:00	精神科外来	6	児童自立支援施設	玉岡文子
精神科勉強会	精神科	11月4日	12:30~13:00	精神科外来	6	当事者との対話	関口典子
精神科勉強会	精神科	11月18日	12:30~13:00	精神科外来	6	小児の緩和ケア	藤井美有
精神科勉強会	精神科	11月25日	12:30~13:00	精神科外来	6	身体疾患をもつこどものこころのケア	関口典子
精神科勉強会	精神科	12月2日	12:30~13:00	精神科外来	6	ADOS	淀裕美子
精神科勉強会	精神科	12月9日	12:30~13:00	精神科外来	6	こどもの司法面接	野呂朝子
精神科勉強会	精神科	12月16日	12:30~13:00	精神科外来	6	児童相談所・一時保護所	野呂朝子
精神科カンファレンス	精神科	毎週月曜日	12:30~13:00	精神科外来	7	入院患者および重症患者の情報共有	
麻酔科カンファレンス	麻酔科	毎日	8:30-9:00	麻酔科医局	16	毎日の麻酔症例についての検討	麻酔科統括
新生児クリニカルカンファレンス	新生児内科	1月5日	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	9	在胎23週MD双胎	角健司
新生児クリニカルカンファレンス	新生児内科	1月12日	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	9	ルーチン	芳本誠司
新生児クリニカルカンファレンス	新生児内科	1月14日	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	9	トリソミー-18	武岡恵美子
新生児クリニカルカンファレンス	新生児内科	1月19日	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	9	CPAM症例の検討	秋田大輔
新生児クリニカルカンファレンス	新生児内科	1月21日	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	9	難治性乳び胸	大久保沙紀

新生児クリニカル カンファレンス	新生児内科	1月26日	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	9	ルーチン（HIE,乳び胸）	玉置祥子
新生児クリニカル カンファレンス	新生児内科	1月28日	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	9	ルーチン（低血糖）	生田寿彦
新生児クリニカル カンファレンス	新生児内科	2月2日	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	9	トリソミー18	武岡恵美子
新生児クリニカル カンファレンス	新生児内科	2月4日	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	9	副腎不全研究	玉置祥子
新生児クリニカル カンファレンス	新生児内科	2月9日	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	9	超早産児の退院時期について	芳本誠司
新生児クリニカル カンファレンス	新生児内科	2月11日	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	9	緊張性間質性肺気腫	大久保沙紀
新生児クリニカル カンファレンス	新生児内科	2月16日	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	9	乳び胸合併した染色体異常の一例	生田寿彦
新生児クリニカル カンファレンス	新生児内科	3月4日	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	9	BWSの一例	角健司
新生児クリニカル カンファレンス	新生児内科	3月9日	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	9	VLBW児のMRI側脳室拡大と予後の関連	生田寿彦
新生児クリニカル カンファレンス	新生児内科	3月18日	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	9	晚期循環不全	武岡恵美子
新生児クリニカル カンファレンス	新生児内科	3月23日	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	9	鎖肛	角健司
新生児クリニカル カンファレンス	新生児内科	3月25日	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	10	胆汁うっ滞例の検討	大久保沙紀
新生児クリニカル カンファレンス	新生児内科	4月8日	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	10	PDAの管理	玉置祥子
新生児クリニカル カンファレンス	新生児内科	4月19日	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	10	複雑心奇形を合併した18トリソミー	生田寿彦
新生児クリニカル カンファレンス	新生児内科	4月21日	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	10	GALDを疑う一例	武岡恵美子
新生児クリニカル カンファレンス	新生児内科	4月22日	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	10	血液型不適合妊娠	角健司
新生児クリニカル カンファレンス	新生児内科	5月17日	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	9	TTNの一例	村田剛志
新生児クリニカル カンファレンス	新生児内科	6月9日	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	9	PPHNの一例	村田剛志
新生児クリニカル カンファレンス	新生児内科	6月14日	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	9	TOF	山内真未
新生児クリニカル カンファレンス	新生児内科	6月16日	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	9	ELGANの凝固機能	松井紗智子
新生児クリニカル カンファレンス	新生児内科	7月1日	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	9	外来フォローアッププロトコル	松井紗智子

新生児クリニカル カンファレンス	新生児内科	7月9日	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	9	EUGR	松井紗智子
新生児クリニカル カンファレンス	新生児内科	7月13日	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	9	超早産児の退院時期についての検討	芳本誠司
新生児クリニカル カンファレンス	新生児内科	7月14日	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	9	新生児トキソプラズマ症	山内貴未
新生児クリニカル カンファレンス	新生児内科	7月21日	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	9	PWSの一例	村田剛志
新生児クリニカル カンファレンス	新生児内科	7月28日	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	9	新生児ループス	山内貴未
新生児クリニカル カンファレンス	新生児内科	8月4日	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	9	出生体重500G未満の児の予後	芳本誠司
新生児クリニカル カンファレンス	新生児内科	8月10日	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	10	肺低形成の死亡例	松井紗智子
新生児クリニカル カンファレンス	新生児内科	8月16日	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	10	重症FMHの初期管理	生田寿彦
新生児クリニカル カンファレンス	新生児内科	8月25日	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	10	先天性甲状腺機能低下症	田坂佳資
新生児クリニカル カンファレンス	新生児内科	8月26日	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	10	外来フォローアップ研究	松井紗智子
新生児クリニカル カンファレンス	新生児内科	8月28日	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	10	壊死性腸炎の一例	永尾宏之
新生児クリニカル カンファレンス	新生児内科	9月2日	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	10	人工肛門造設後便注入	玉置祥子
新生児クリニカル カンファレンス	新生児内科	9月13日	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	10	胎児水腫	山内貴未
新生児クリニカル カンファレンス	新生児内科	9月23日	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	10	ECMO	生田寿彦
新生児クリニカル カンファレンス	新生児内科	10月7日	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	10	研究	山内貴未
新生児クリニカル カンファレンス	新生児内科	10月11日	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	10	乳児重症型ネマリンミオパチーの一例	生田寿彦
新生児クリニカル カンファレンス	新生児内科	10月14日	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	10	GA30週のPDAの一例	大久保沙紀
新生児クリニカル カンファレンス	新生児内科	10月20日	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	10	心臓腫瘍のまとめ	花房宏昭
新生児クリニカル カンファレンス	新生児内科	10月28日	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	10	PA sling	山内貴未
新生児クリニカル カンファレンス	新生児内科	11月8日	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	10	GER	花房宏昭
新生児クリニカル カンファレンス	新生児内科	11月24日	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	10	500G未満児の予後	芳本誠司
新生児クリニカル カンファレンス	新生児内科	12月22日	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	10	DCH	花房宏昭

産科抄読会	産科	毎金	8:20~8:40	産科カンファレンス室	8	英文医学雑誌から産科関連論文の紹介	
産科勉強会	産科	年に数回	17:30~18:30	産科カンファレンス室	15~20	医師による看護師に対する講義	
看護師向け講習会	小児集中治療科	3月24日	14:00-15:00	旧病院ICU	10	ジャクソンリースによる人工呼吸	黒澤
看護師向け講習会	小児集中治療科	3月25日	14:00-15:00	旧病院ICU	8	ジャクソンリースによる人工呼吸	黒澤
看護師向け講習会	小児集中治療科	3月31日	14:00-15:00	旧病院ICU	8	ジャクソンリースによる人工呼吸	黒澤
集中治療講義	小児集中治療科	4月5日	9:00-10:00	循環器カンファレンス室	12	集中治療のゴールデンルール	黒澤
集中治療講義	小児集中治療科	4月6日	9:00-10:00	循環器カンファレンス室	12	メンターシップ	椎間
集中治療講義	小児集中治療科	4月7日	9:00-10:00	循環器カンファレンス室	12	呼吸整理の基礎	黒澤
集中治療講義	小児集中治療科	4月8日	9:00-10:00	循環器カンファレンス室	12	モニタリング	日本光電
集中治療講義	小児集中治療科	4月8日	10:00-11:00	循環器カンファレンス室	12	モニタリング	フィリップス
集中治療講義	小児集中治療科	4月8日	11:00-12:00	循環器カンファレンス室	12	人工呼吸器	コヴィディエン
集中治療講義	小児集中治療科	4月8日	13:00-14:00	循環器カンファレンス室	12	鎮痛、鎮静、筋弛緩	黒澤
集中治療講義	小児集中治療科	4月8日	14:00-15:00	循環器カンファレンス室	12	ETCO2	椎間
集中治療講義	小児集中治療科	4月11日	9:00-10:00	循環器カンファレンス室	12	気道抵抗とコンプライアンス	制野
集中治療講義	小児集中治療科	4月11日	10:00-11:00	循環器カンファレンス室	12	ショック	青木
集中治療講義	小児集中治療科	4月12日	9:00-10:00	循環器カンファレンス室	12	先天性心疾患の考え方1	祖父江
集中治療講義	小児集中治療科	4月12日	10:00-11:00	循環器カンファレンス室	12	リサーチイントロダクション	椎間
集中治療講義	小児集中治療科	4月12日	15:00-16:00	循環器カンファレンス室	10	CHDFトラブルシューティング	秋元 (ME)
集中治療講義	小児集中治療科	4月13日	9:00-10:00	循環器カンファレンス室	12	脳平穏療法	丸山
集中治療講義	小児集中治療科	4月13日	10:00-11:00	循環器カンファレンス室	12	集中治療医の条件	黒澤
集中治療講義	小児集中治療科	3月13日	11:00-12:00	循環器カンファレンス室	12	小児開心術と体外循環管理	長谷川
集中治療講義	小児集中治療科	4月3日	13:00-14:00	循環器カンファレンス室	12	マスク換気・経口挿管・経鼻挿管 実習	青木、制野、椎間
集中治療講義	小児集中治療科	4月14日	9:00-10:00	循環器カンファレンス室	12	侵襲的陽圧換気・非侵襲的陽圧換気	青木
集中治療講義	小児集中治療科	4月14日	10:00-11:00	循環器カンファレンス室	12	心臓術後の循環整理と治療	長谷川
集中治療講義	小児集中治療科	4月14日	11:00-12:00	循環器カンファレンス室	12	エコーガイド下穿刺 実習	青木、制野、椎間
集中治療講義	小児集中治療科	4月15日	9:00-10:00	循環器カンファレンス室	12	呼吸器離脱と気管切開	制野
集中治療講義	小児集中治療科	4月18日	9:00-10:00	循環器カンファレンス室	12	患者搬送	椎間
集中治療講義	小児集中治療科	4月18日	10:00-11:00	循環器カンファレンス室	12	先天性心疾患の考え方2	祖父江
集中治療講義	小児集中治療科	4月19日	11:00-12:00	循環器カンファレンス室	12	搬送を受ける時の注意点	黒澤
集中治療講義	小児集中治療科	4月19日	13:00-14:00	循環器カンファレンス室	12	VAPサーベイランスについて	伊藤
集中治療講義	小児集中治療科	4月19日	14:00-15:00	循環器カンファレンス室	12	姑息術とその術後管理	長谷川
集中治療講義	小児集中治療科	4月26日	13:00-14:00	救急外来	8	JATEC	林 (救急)

看護師向け講習会	小児集中治療科	6月20日	14:15-15:00	PICU	15	ジャクソンリリースによる人工呼吸	黒澤
看護師向け講習会	小児集中治療科	6月28日	17:30-18:30	PICU	15	ジャクソンリリースによる人工呼吸	黒澤
臨床疫学講義	小児集中治療科	11月17日	8:45-9:15	CICUカンファレンス室	10	研究デザイン「介入研究」	椎間
臨床疫学講義	小児集中治療科	11月29日	8:45-9:15	CICUカンファレンス室	10	研究デザイン「コホート研究」	椎間
臨床疫学講義	小児集中治療科	12月1日	8:45-9:15	CICUカンファレンス室	10	研究デザイン「ケースコントロール研究」	椎間
リサーチカンファレンス	小児集中治療科	12月3日	10:00-11:00	救急集中治療医室	6	小児救急搬送「アンダートリアージ・オーバートリアージ」	染谷
臨床疫学講義	小児集中治療科	12月8日	8:45-9:15	CICUカンファレンス室	10	研究デザイン「横断研究」	椎間
看護師向け講習会	小児集中治療科	10月27日	17:30-18:30	HCUカンファレンス室	20	呼吸管理中の急変対応[DOPE]	青木
リサーチカンファレンス	小児集中治療科	12月20日	10:00-11:00	救急集中治療医室	6	小児救急搬送「重症患者のリスク因子」	高寺
リサーチカンファレンス	小児集中治療科	12月23日	10:00-11:00	救急集中治療医室	6	小児救急搬送「バイタルサインの妥当性」	増井
リサーチカンファレンス	小児集中治療科	12月23日	10:00-11:00	救急集中治療医室	7	呼吸機能検査	青木、染谷
薬剤部勉強会	薬剤部	4月7日	17:30~18:30	薬剤部		製品勉強会「ネスプ」	
薬剤部勉強会	薬剤部	6月22日	17:30~18:30	薬剤部		製品勉強会「ボトックス」	
薬剤部勉強会	薬剤部	6月23日	17:30~18:30	薬剤部		製品勉強会「ディアコミット」	
薬剤部勉強会	薬剤部	7月6日	17:30~18:30	薬剤部		症例検討会7西	
薬剤部勉強会	薬剤部	7月13日	17:30~18:30	薬剤部		症例検討会7東	
薬剤部勉強会	薬剤部	7月20日	17:30~18:30	薬剤部		症例検討会6西	
薬剤部勉強会	薬剤部	7月26日	17:30~18:30	薬剤部		管理が必要な医薬品について	
薬剤部勉強会	薬剤部	7月27日	17:30~18:30	薬剤部		症例検討会5西	
薬剤部勉強会	薬剤部	8月9日	17:30~18:30	薬剤部		製品勉強会「ソマトロピンシュアパル」	
薬剤部勉強会	薬剤部	8月17日	17:30~18:30	薬剤部		症例検討会5東	
薬剤部勉強会	薬剤部	8月18日	17:30~18:30	薬剤部		製品勉強会「ガドピスト」	
薬剤部勉強会	薬剤部	8月23日	17:30~18:30	薬剤部		製品勉強会「ソリリス」	
薬剤部勉強会	薬剤部	8月24日	17:30~18:30	薬剤部		症例検討会ICU	
薬剤部勉強会	薬剤部	8月31日	17:30~18:30	薬剤部		症例検討会産科	
薬剤部勉強会	薬剤部	9月7日	17:30~18:30	薬剤部		症例検討会NICU	
薬剤部勉強会	薬剤部	9月14日	17:30~18:30	薬剤部		症例検討会7東	
薬剤部勉強会	薬剤部	9月21日	17:30~18:30	薬剤部		症例検討会7西	
薬剤部勉強会	薬剤部	9月28日	17:30~18:30	薬剤部		症例検討会6東	
薬剤部勉強会	薬剤部	10月5日	17:30~18:30	薬剤部		症例検討会ICU	
薬剤部勉強会	薬剤部	10月12日	17:30~18:30	薬剤部		症例検討会5東	
薬剤部勉強会	薬剤部	10月19日	17:30~18:30	薬剤部		症例検討会5西	
薬剤部勉強会	薬剤部	10月26日	17:30~18:30	薬剤部		症例検討会HCU	
薬剤部勉強会	薬剤部	11月2日	17:30~18:30	薬剤部		症例検討会6西	

薬剤部勉強会	薬剤部	11月9日	17:30~18:30	薬剤部		症例検討会産科	
薬剤部勉強会	薬剤部	11月16日	17:30~18:30	薬剤部		症例検討会7西	
薬剤部勉強会	薬剤部	11月30日	17:30~18:30	薬剤部		症例検討会ICU	
薬剤部勉強会	薬剤部	12月1日	17:30~18:30	薬剤部		製品勉強会「オブスミット」	
薬剤部勉強会	薬剤部	12月13日	17:30~18:30	薬剤部		症例検討会7東	
薬剤部勉強会	薬剤部	12月14日	17:30~18:30	薬剤部		症例検討会6西	
薬剤部勉強会	薬剤部	12月21日	17:30~18:30	薬剤部		症例検討会6東	
検査部内研修会	検査部	2月8日	16:30~17:15	検査部控室	7	UF5000（尿沈渣測定装置）について	シスメックス
検査部内研修会	検査部	2月26日	16:30~17:15	検査部控室	9	小児専門病院における感染症医の役割	笠井正志 （診療部）
検査部内研修会	検査部	4月28日	16:30~17:15	検査部控室	19	PHモニターについて	アサヒバイオ メッド
マイクロ バイオロジーラウンド	診療部・検査部	6月15日	16:30~17:15	細菌検査室	20	モラクセラについて	亀山和明
検査部内研修会	検査部	7月29日	16:30~17:00	検査スタッフ室	16	遺伝子欠失を調べる	郷司克己
検査部内研修会	検査部	9月8日・9日	16:30~17:30	検査スタッフ室	10	県立病院学会予演会	山岸・千田・ 細川・大島
マイクロ バイオロジーラウンド	診療部・検査部	9月21日	16:30~17:30	細菌検査室	20	肺炎球菌について	亀山和明
マイクロ バイオロジーラウンド	診療部・検査部	10月12日	16:30~17:30	細菌検査室	20	連鎖球菌について	亀山和明
検査部内研修会	検査部	10月14日	16:30~17:10	検査スタッフ室	11	睡眠時無呼吸症候群について	大津雅秀 （診療部）
検査部内研修会	検査部	10月26日	16:00~17:00	検査スタッフ室	14	ポタ採血について	神田杏子 （診療部）
検査部内研修会	検査部	11月22日	16:30~17:00	検査スタッフ室	14	TDMについて（ゲンタマイシンについて）	シーメンス
検査部内研修会	検査部	12月20日	16:30~17:30	検査スタッフ室	12	輸血療法マニュアル改訂点について	千田園子
MR室研修会	放射線部	4月3日	16:30~17:30	MRI室	36	MR輸液ポンプ操作研修	沼田憲作
MR室研修会	放射線部	4月4日	16:30~17:30	MRI室	24	MR輸液ポンプ操作研修	沼田憲作
MR室清掃担当者研修会	放射線部	5月20日	16:30~17:30	MRI室	5	MR検査室内の清掃に関する注意点	沼田憲作
放射線部勉強会	放射線部	6月23日	16:30~17:30	放射線部	9	バーチャルグリッドの有用性	フジフィルム
放射線部勉強会	放射線部	10月13日	16:30~17:30	放射線部	13	画像診断のトレーニング&スキルアップに役立つシステムについて	メディカル指南車

看護部部署内勉強会（2016年度）

名称	主催	開催日	時間	場所	参加数	テーマ	発表者/担当
看護補助者オリエンテーション	看護部	5月16日	10:30～11:30	感染対策室	1	感染対策の基本	鳴滝由佳
看護補助者オリエンテーション	看護部	6月16日	10:00～10:30	感染対策室	1	感染対策の基本	鳴滝由佳
看護補助者研修② 感染防止	看護部	11月7日	15:15～15:40	スキルラボ		看護補助の皆様これだけではおさえてほしい！ 感染対策の10か条	鳴滝由佳
トライやるウィーク 講習	看護部	11月8日	9:30～10:30	総務部前 会議室	8	感染予防講習	鳴滝由佳
看護補助者研修② 感染防止	看護部	11月21日	15:15～15:40	スキルラボ		看護補助の皆様これだけではおさえてほしい！ 感染対策の11か条	鳴滝由佳
呼吸器ケア勉強会	感染症科	11月9日	17:30～18:30	別棟2階		人工呼吸器関連肺炎予防	伊藤雄介
小児救急看護研修	看護部	7月27日	13:30～17:00	PICU	6	小児救急	黒澤
救急対応シミュレーション	7階西病棟	9月5日	17:00～18:00	7西病棟	15	病棟急変時の初期対応	青木、増井、 黒澤
新人勉強会	6階西病棟	5月11日	8:45～17:15	カンファ レンスル ーム	8	呼吸管理①	植山
救急蘇生勉強会	6階西病棟	7月21日	17:30～18:30	6W器材庫	11	小児のBLS：胸骨圧迫・マスク換気・蘇生薬作成手技確認	前田
救急蘇生勉強会	6階西病棟	9月30日	17:35～18:45	カンファ レンスル ーム	6	急変リスクのある患者の病態とケア （肺体血流バランス・スベル）	中橋
救急蘇生勉強会	6階西病棟	10月26日	17:40～19:00	カンファ レンスル ーム	5	急変リスクのある患者の病態とケア （呼吸管理患者・急変体験）	藤井・林
救急蘇生勉強会	6階西病棟	11月24日	17:30～18:30	6W器材庫	9	IV確保・挿管介助・ジャクソンリリース取り扱い手技確認	前田・河島

救急蘇生勉強会	6階西病棟	12月6日	17:45～18:50	6W観察室	15	救急蘇生シミュレーション（協力医師4名）	前田・森本
救急蘇生勉強会	6階西病棟	1月19日	17:45～18:45	6W観察室	17	救急蘇生シミュレーション（協力医師3名）	前田・森本
救急蘇生勉強会	6階西病棟	2月17日	17:40～18:40	カンファレンスルーム	6	シミュレーション振り返り・骨髄針留置介助手技確認	森本
事例検討会	6階西病棟	8月24日	17:30～18:45	カンファレンスルーム	看護師：22 医師：14	急変時対応について 看護師、医師合同検討会	西川
事例検討会	6階西病棟	11月22日	17:30～18:40	609号	8	倫理事例検討会「身体拘束について」	田中
事例検討会	6階西病棟	12月21日	18:40～19:40	看護部会議室	6	倫理事例検討会「点滴確保困難な児」	安井
勉強会	5階西病棟	4月13日	10:00～11:00	4A側会議室	10	チューブ管理	辰巳
勉強会	5階西病棟	4月15日	10:00～11:00	4A側会議室	10	胸腔ドレーン管理	辰巳
勉強会	5階西病棟	4月21日	10:00～11:00	4A側会議室	10	カテーテル管理(泌尿器、外科)	能見
勉強会	5階西病棟	4月27日	10:00～11:00	4A側会議室	10	IV管理	能見
勉強会	5階西病棟	6月17日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	10	気管切開	石川
勉強会	5階西病棟	7月6日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	10	救急蘇生	村上
勉強会	5階西病棟	7月21日	18:00～18:30	カンファレンスルーム	23	膀胱拡大	春名医師/阪本 竹村
勉強会	5階西病棟	9月8日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	20	尿道下裂	春名医師/阪本 竹村
勉強会	5階西病棟	9月15日	18:00～18:30	カンファレンスルーム	20	循環器疾患	富永医師/阪本 竹村

勉強会	5階西病棟	11月4日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	15	気管系疾患	前田医師/ 阪本 竹村
勉強会	5階西病棟	11月28日 12月7日	17:30～18:30	カンファレンスルーム	5名/4名	人工呼吸器管理	石川、辰巳、 能見
GCU1年目勉強会	GCU	5月31日	17:30～18:30	病棟 授乳室-1	18	直母指導について	竹田、 大西ゆ、吉田
GCU1年目勉強会	GCU	6月17日	17:30～18:30	病棟 沐浴室-1	18	沐浴お話し会、沐浴指導について	中谷、柏原、 吉本
GCU1年目勉強会	GCU	7月14日	17:30～18:30	病棟 沐浴室-1	22	お話し会について	森脇、古澤、 小谷
GCU1年目救急蘇生勉強会	GCU	7月26日	17:30～18:30	スキルラボ	23	救急蘇生	森脇、竹田
GCU1年目救急蘇生勉強会	GCU	11月17日	17:30～18:30	スキルラボ	17	救急蘇生	中谷、古澤、 佐竹
GCU救急蘇生勉強会	GCU	2月9日	17:30～18:30	スキルラボ	27	GCU病棟での救急蘇生について	要、森脇、 吉田
GCUベビーマッサージ勉強会	GCU	2月20日	17:30～18:30	病棟 沐浴室-1	12	ベビーマッサージについての知識の確認	杉森、柏原、 吉本
NICU・GCU合同勉強会	NICU・GCU	6月23日	17:30～18:30	講堂	24	Let's enjoy Neonatal	Dr芳本
NICU・GCU合同勉強会	NICU・GCU	7月28日	17:30～18:30	講堂	19	母乳育児支援を始めよう	母乳支援G
NICU・GCU合同勉強会	NICU・GCU	9月27日	17:30～18:30	講堂	35	呼吸器について	Dr秋田
NICU・GCU合同勉強会	NICU・GCU	10月20日	17:30～18:30	講堂	32	SATOゲームについて	NICU ワーキングG
NICU・GCU合同勉強会	NICU・GCU	1月20日	17:30～18:30	講堂	28	黄疸について	Dr大久保
NICU1年目勉強会	NICU プリセプター会	5月19日	17:30～19:00	病棟カン ファレン スルーム	16	胎外生活・TTN・RDS・CLD	石井、田村

NICU0年目勉強会	NICU プリセプター会	6月17日	17:30~19:00	病棟カン ファレン スルーム	16	呼吸管理中の児のケア	樋爪、京谷
NICU1年目勉強会	NICU プリセプター会	7月14日	17:30~19:00	病棟カン ファレン スルーム	16	NICUにおける救急蘇生	和久・樋爪・ 石井
NICU1年目勉強会	NICU プリセプター会	8月29日	17:30~19:00	病棟カン ファレン スルーム	16	外科疾患（鎖肛・下部消化管閉鎖）	和久
NICU1年目勉強会	NICU プリセプター会	9月16日	17:30~19:00	病棟カン ファレン スルーム	16	入院受け	石井、田村
NICU1年目勉強会	NICU プリセプター会	10月20日	17:30~19:00	病棟カン ファレン スルーム	16	安全管理（KYT）	田村
NICU1年目勉強会	NICU プリセプター会	11月29日	17:30~19:00	病棟カン ファレン スルーム	16	アセスメント	樋爪、京谷
NICU1年目勉強会	NICU プリセプター会	2月28日	17:30~19:00	病棟カン ファレン スルーム	16	経験の少ない日常生活援助技術の習得	田村、京谷
NICU2年目勉強会	NICU	7月27日	17:30~18:30	病棟カン ファレン スルーム	9	2年目処置勉強会（CLD）	2年目
NICU2年目勉強会	NICU	9月23日	17:30~18:30	病棟カン ファレン スルーム	15	2年目処置勉強会（処置）	2年目
NICU2年目勉強会	NICU	10月19日	17:30~18:30	病棟カン ファレン スルーム	9	2年目処置勉強会（MAS TTTS）	2年目
NICU2年目勉強会	NICU	1月24日	17:30~18:30	病棟カン ファレン スルーム	10	2年目処置勉強会（IAA TGA COA）	2年目
NICU2年目勉強会	NICU	2月22日	17:30~18:30	病棟カン ファレン スルーム	9	2年目処置勉強会（TOF DORV）	2年目
NICU2年目勉強会	NICU	3月21日	17:30~18:30	病棟カン ファレン スルーム	名	2年目処置勉強会（看護観）	2年目
NICU3年目勉強会	NICU	9月26日	17:30~18:30	病棟カン ファレン スルーム	5	3年目処置勉強会（アセスメント）	3年目

NICU4年目勉強会	NICU	1月24日	17:30～18:30	病棟カンファレンスルーム	6	3年目処置勉強会（アセスメント）	3年目
ラダー勉強会	NICU	11月18日	17:30～19:00	病棟カンファレンスルーム	9	4～5年目事例検討	4・5年目
ラダー勉強会	NICU	1月24日	17:30～19:00	病棟カンファレンスルーム	6	4～5年目事例検討	4・5年目
異動者勉強会	NICU	10月27日	17:30～19:01	病棟カンファレンスルーム	9	家族看護	異動者
異動者勉強会	NICU	3月9日	17:30～19:02	病棟カンファレンスルーム	名	家族看護	異動者
伝達講習会	手術室	5月26日	10:00～10:30	手術室SS	20	新生児看護研修伝達講習会	神代
手術室新人オリエンテーション	手術室	5月27日	9:30～13:30	手術室⑦	11	帝王切開術器械出しについて	プリセプター
手術室新人オリエンテーション	手術室	5月27日	14:30～17:00	手術室④	11	外回り看護師業務について	プリセプター
勉強会	手術室	7月6日	17:00～17:30	手術室SS	20	半導体レーザーについて	新井
勉強会	手術室	7月5日	10:00～11:00	手術室SS	新人：10	安全な手術室環境の提供～正しい環境整備の実践～	穂満
勉強会	手術室	8月3日	17:30～18:30	日帰り手術室	18	標準予防策～個人防護具を正しく選択し着脱しよう～	穂満
勉強会	手術室	10月3日	17:30～18:00		11	ラテックスアレルギー患者への対応について	高山、宮下
勉強会	手術室	10月24日	17:30～18:00	カンファレンスルーム①	20人	プリマドを正しく使おう！	藤原和、穂満
	手術室	12月27日		手術室RR		リカバリー室にて呼吸窮迫状態に陥った患者への対応	宮下、高山
勉強会	手術室					術中体位について	宮永

勉強会	手術室					カニュレーションについて	宮永
勉強会	手術室	2月20日	17:30~18:30	看護部 会議室	26	新生児手術室での横隔膜ヘルニア手術について	田原
勉強会	手術室	2月24日	17:30~18:31	カンファ レンス③	22	同上	田原
勉強会	手術室	2月22日	17:40~18:45	カンファ レンス③	20	事例を基に手術室の看護を振り返る	橋口
勉強会	手術室	3月22日	17:15~18:15	カンファ レンス③		手術室における家族看護について	橋口
勉強会	救急HCU	12月9日	17:30~18:30	看護部 会議室	10	グレン・フォンタン術後の看護	河南・芦田
勉強会	救急HCU	7月21日	17:30~18:00	看護部 会議室	33	酸素療法勉強会	山田
勉強会	救急HCU	2月10日	17:30~18:30	カンファ レンスル ーム	17	家族看護勉強会	山田
勉強会	救急HCU	8月5日	17:30~18:30	看護部 会議室	22	CPA、痙攣、外傷勉強会 異動者対象	金子、野間、 山田
勉強会	救急HCU	8月12日	17:30~18:30	看護部 会議室	18	CPA、痙攣、外傷勉強会 異動者対象	金子、野間、 山田
初療シミュレーション	救急HCU	9月13日	17:30~18:30	初療室	19	CPA	金子、他シミ ュレーション G
初療シミュレーション	救急HCU	9月26日	17:30~18:30	初療室	18	CPA	金子、他シミ ュレーション G
初療シミュレーション	救急HCU	10月11日	17:30~18:30	初療室	17	痙攣	金子、他シミ ュレーション G
初療シミュレーション	救急HCU	10月25日	17:30~18:30	初療室	20	痙攣	金子、他シミ ュレーション G
初療シミュレーション	救急HCU	11月8日	17:30~18:30	初療室	14	外傷	金子、他シミ ュレーション G

初療シミュレーション	救急HCU	11月25日	17:30~18:30	初療室	15	外傷	金子、他シミュレーションG
初療シミュレーション	救急HCU	1月24日	17:30~18:30	初療室	20	外傷	金子、他シミュレーションG
初療シミュレーション	救急HCU	2月24日	17:30~18:30	初療室	20	外傷	金子、他シミュレーションG
外傷スキルトレーニング	救急HCU	12月13日	17:30~18:30	スキルラボ	10	外傷に特化したスキルトレーニング	金子、野間、山田
外傷スキルトレーニング	救急HCU	12月22日	17:30~18:30	スキルラボ	17	外傷に特化したスキルトレーニング	金子、野間、山田
勉強会	救急HCU	1月20日	17:30~18:30	カンファレンスルーム	16	痙攣・熱傷の看護	大田、野間
外来勉強会	外来	6月29日	16:15~16:45	採血室	15	リユープリンについて	泊菊子
外来勉強会	外来	7月6日	16:15~16:45	計測室	17	看護研究①看護研究概論	中谷扶美
外来勉強会	外来	7月19日	16:15~16:45	計測室	12	糖尿病看護外来	泊菊子
外来勉強会	外来	7月26日	16:15~16:45	計測室	14	ハイゼントラ投与を受ける子どもと家族の看護	小澤一美
外来勉強会	外来	8月3日	16:15~16:45		15	看護研究②研究方法	中谷扶美
外来勉強会	外来	8月24日	16:15~16:45	計測室	13	硝酸銀の取り扱い	若林有美
外来勉強会	外来	8月25日	16:08~16:35	採血室	18	シナジスについて	新宅佳子
外来勉強会	外来	8月31日	16:15~16:45	計測室	18	リウマチ看護外来	辻田利香
外来勉強会	外来	9月7日	16:15~16:45	計測室	17	看護研究③事例研究	中谷扶美 辻田利香 小澤一美 泊菊子

外来勉強会	外来	9月14日	16:15～16:45	計測室	19	在宅物品譲渡時の看護	川口 陽子
外来勉強会	外来	9月28日	16:15～16:45	計測室	20	看護研究④実態調査研究・支援委員会への提出方法	中谷 扶美
外来勉強会	外来	10月19日	16:15～16:45	計測室	20	血友病の関節症	業者
外来勉強会	外来	11月17日	16:15～16:45	計測室	18	PD ゆめの操作方法	業者
外来勉強会	外来	11月30日	16:15～16:45	計測室	13	血友病 家庭輸注を目指して	山本加奈子
外来勉強会	外来	12月14日	16:15～16:45	計測室	19	食物アレルギーの外来看護	中川真菜
外来勉強会	外来	1月16日	16:30～17:15	計測室	20	ゾレア導入にむけて	業者
外来勉強会	外来	2月1日	16:15～16:45	計測室	16	在宅看護外来－災害時の対応について－	松下久子
6東病棟勉強会	6階東病棟	6月29日	17:30～18:30	6Fカンファレンス室	8	整形外科 創外固定について	坂田医師/ 教育チーム
6東病棟勉強会	6階東病棟	7月26日	14:40～15:00	病棟	10	扁桃・アデノイドの看護	横山
6東病棟勉強会	6階東病棟	8月31日	14:40～15:00	病棟	15	腎生検の看護	2年目看護師
6東病棟勉強会	6階東病棟	9月28日	14:40～15:00	病棟	10	事例検討会（腎不全）	小林
6東病棟勉強会	6階東病棟	9月29日	17:30～18:30	教育研修室	21	人工呼吸器（トリロジー）について	フィリップス
6東病棟勉強会	6階東病棟	10月25日	14:40～15:00	病棟	8	事例検討会（腎不全）	小林
6東病棟勉強会	6階東病棟	12月22日	17:30～18:30	5Fカンファレンス室	14	プリパレーション	2年目看護師・ 栗林

6東病棟勉強会	6階東病棟	12月30日	14:40~15:00	病棟	6	事例検討会(糖尿病)	奥井
6東病棟勉強会	6階東病棟	1月30日	17:30~18:00	6Fカンファレンス室	16	糖尿病	日下医師/教育チーム
産科1年目勉強会	産科	4月8日	10:45~11:45	病棟カンファレンスルーム		CTG	牛江
産科1年目勉強会	産科		13:30~15:00	産科エコー室		エコー	森下Dr
産科1年目勉強会	産科	4月11日	15:15~16:15	病棟カンファレンスルーム		切迫早産勉強会	牛江
産科1年目勉強会	産科	4月15日	9:00~10:30	病棟カンファレンスルーム		新生児勉強会	谷口
産科1年目勉強会	産科	4月15日	16:00~17:00	病棟カンファレンスルーム		FGR勉強会	西裕
産科1年目勉強会	産科	4月22日	9:15~10:15	病棟カンファレンスルーム		PROM勉強会	蔡
産科1年目勉強会	産科	4月22日	9:15~10:15	病棟カンファレンスルーム		双胎勉強会	佐々木
産科1年目勉強会	産科	4月26日	17:30~18:30	病棟カンファレンスルーム		産後勉強会	欧
産科1年目勉強会	産科	5月18日	17:40~18:40	病棟カンファレンスルーム		NCPR	
産科1年目勉強会	産科	6月17日	17:40~18:40	病棟カンファレンスルーム		帝王切開術後の看護	
産科1年目勉強会	産科	7月15日	17:30~18:30	病棟カンファレンスルーム		羊水過多・過少	
産科1年目勉強会	産科	8月19日	17:40~18:40	病棟カンファレンスルーム		前置胎盤	

産科1年目勉強会	産科	9月16日	17:40～18:50	病棟カンファレンスルーム		弛緩出血	
産科1年目勉強会	産科	10月25日	17:35～18:35	病棟カンファレンスルーム		PIH①	
産科1年目勉強会	産科	11月25日	17:35～18:35	病棟カンファレンスルーム		PIH②治療	
産科1年目勉強会	産科	12月26日	17:35～18:35	病棟カンファレンスルーム		PIH③看護	
産科1年目勉強会	産科	1月20日	17:30～18:30	分娩室1	20名	分娩進行中の産婦が羊水塞栓を起こし心肺停止事例	大北 前田 瀬尾
産科1年目勉強会	産科	4月28日	10:00～12:00	手術室	20名	超緊急帝王切開シミュレーション	田原 大納
産科1年目勉強会	産科	7月21日	18:30～19:30	病棟カンファレンスルーム	9名	事例検討：CHD	網干 井本
産科1年目勉強会	産科	11月17日	18:30～19:30	病棟カンファレンスルーム	11名	事例検討：悲嘆	中村 前田
産科1年目勉強会	産科	11月24日	13:30～14:30	手術室	33名	超緊急帝王切開シミュレーション②	新井 増田
勉強会（7西東合同）	血液主体病棟	9月14日	17:30～18:30	7F	24名	痛みの緩和について	塚田Ns
勉強会（7西東合同）	血液主体病棟	9月29日	17:30～18:30	7F	18名	痛みの緩和について	塚田Ns
新人勉強会	CICU	4月8日	13:30～17:15	カンファレンスルーム	10	輸液・薬剤管理	岸本・馬場
新人勉強会	CICU	4月13日	14:00～15:00	器材室	10	モニターについて	日本光電
新人勉強会	CICU	4月18日	9:00～12:00	カンファレンスルーム	10	循環管理・呼吸管理	大塚・坂本
新人勉強会	CICU	4月18日	13:00～17:00	カンファレンスルーム	10	バイタルサイン測定・輸液作成	大塚・坂本

勉強会	CICU	5月	17:30~18:30	CICU	37	HFNCについて	河野・石塚・中井
勉強会	CICU	7月26日	17:30~18:30	カンファレンスルーム	33	BLS・挿管介助	宮本
勉強会	CICU	7月3日	17:30~18:30	カンファレンスルーム	30	感染勉強会 手指衛生	村川・伊藤医師
勉強会	CICU	9月29日	17:30~18:30	カンファレンスルーム	32	ECMO	ME横山
勉強会	CICU	10月12日	17:30~18:30	カンファレンスルーム	32	ECMO装着中の看護	岸本・林
勉強会	CICU	10月17日	17:30~18:30	カンファレンスルーム	32	重症度、医療・看護必要度研修会	大元・中井
勉強会	CICU	11月14日	17:30~18:30	病室	30	ECMO導入シュミレーション	岸本・林
勉強会	CICU	12月2日	17:30~18:30	CICU	32	災害シュミレーション	野田・岡田・保田
勉強会	CICU	1月26日	17:30~17:45	カンファレンスルーム	30	感染勉強会（デヴァイスサーベランス報告）	村川
勉強会	CICU	2月	14:00~14:30	CICU	18	ニロ（脳組織酸素飽和度測定器）勉強会	業者
勉強会	CICU	1月26日	17:45~18:45	カンファレンスルーム	30	急変時の対応（BLS）	岸本
勉強会	CICU	1月 カンファレンス	30分間	CICU	38	DCの取り扱い・12誘導	中村・文野
勉強会	CICU	2月 カンファレンス	30分間	CICU	38	退院支援について・	宮本
勉強会	CICU	1月	17:30~18:00	カンファレンスルーム	9	RCA分析	馬場
勉強会	CICU	1月25日	17:30~18:00	カンファレンスルーム	9	RCA分析	笠木・岡田

勉強会	CICU	2月1日～7日	20分間	カンファレンスルーム	37	摂食ケア	野田・保田・明石
勉強会	CICU	3月	30分間	カンファレンスルーム	38	口腔ケア	野田・保田・明石
勉強会	7階西病棟	4月22日	17:45～18:45	7Fカンファレンスルーム	17	成長発達	川畑・倉田・辻
勉強会	7階西病棟	4月23日	17:45～18:45	7Fカンファレンスルーム	17	化学療法概論	後藤CN
勉強会	7階西病棟	5月19日	17:45～18:45	7Fカンファレンスルーム	16	白血病	倉田・武石
勉強会	7階西病棟	5月31日	17:45～18:45	7Fカンファレンスルーム	16	NBL	辻
勉強会	7階西病棟	8月4日	17:45～18:45	7Fカンファレンスルーム	17	抗がん剤暴露について	鈴木
勉強会	7階西病棟	6月27日	17:45～18:45	7Fカンファレンスルーム	14	脳腫瘍・悪性リンパ腫	川畑・住田
勉強会	7階西病棟	7月27日	17:45～18:45	7Fカンファレンスルーム	16	発熱時の看護	住田
勉強会	7階西病棟	8月29日	17:45～18:45	7Fカンファレンスルーム	15	全身麻酔看護	川畑
勉強会	7階西病棟	9月23日	17:30～18:30	7Fカンファレンスルーム	30	多職種との連携 がんリハビリテーション	金澤 宗和
勉強会	7階西病棟	10月15日	17:00～18:00	7Fカンファレンスルーム	15	摂食障害の看護	近藤
勉強会	7階西病棟	11月10日	17:30～18:30	7Fカンファレンスルーム	14	疼痛緩和	刈谷CN
勉強会	7階西病棟	11月28日	17:30～18:30	7Fカンファレンスルーム	13	呼吸器管理	油野
勉強会	7階西病棟	12月20日	17:45～18:45	7Fカンファレンスルーム	16	血液細胞移植について	辻

勉強会	7階西病棟	1月20日	17:30~18:15	7Fカンファレンスルーム	15	移植看護	木下・松野
勉強会	7階西病棟	2月24日	17:45~18:45	7Fカンファレンスルーム	14	尿崩症看護	武石
勉強会（7西東合同）	血液主体病棟	9月14日	17:30~18:30	7F	24	痛みの緩和について	塚田Ns
勉強会（7西東合同）	血液主体病棟	9月29日	17:30~18:30	7F	18	痛みの緩和について	塚田Ns
勉強会	5階東病棟	8月31日	14:30~15:30	5Fカンファレンスルーム	9	創外固定の管理	山中医師
勉強会	5階東病棟	9月29日	17:30~18:30	スキルラボ	15	トリロジーについて	業者
勉強会	5階東病棟	10月31日	17:30~18:30	5Fカンファレンスルーム	11	在宅支援に必要な制度	原田
勉強会	5階東病棟	11月8日	17:30~18:30	5Fカンファレンスルーム	4	在宅支援に必要な制度	原田
勉強会（デモンストレーション）	5階東病棟	8月10日	15:05~15:20	5Fカンファレンスルーム	6	気管内吸引	石橋・藪・林
勉強会（デモンストレーション）	5階東病棟	8月24日	14:30~15:00	病棟内	5	気切ケア	石橋・吉永・神保
勉強会（デモンストレーション）	5階東病棟	9月27日	14:30~15:00	病棟内	6	車椅子移乗	PT中田
勉強会（デモンストレーション）	5階東病棟	10月11日	15:45~16:05	病棟内	6	呼吸器回路交換	林・藪・石橋
勉強会（デモンストレーション）	5階東病棟	10月24日	14:30b~14:50	病棟内	5	酸素ボンベの計算	中屋・三宅・神保
勉強会（デモンストレーション）	5階東病棟	12月13日	14:30~15:00	病棟内	4	カニューレ交換	全員
勉強会（デモンストレーション）	5階東病棟	12月28日	14:30~14:50	病棟内	4	IV介助	全員

V ボランティア

ボランティア受け入れ状況（2016年）

ボランティアの状況

ボランティア名	内容	活動人数	活動日	活動場所
神戸市生活指導研究会 こども病院ボランティアグループ	看護用品、医療材料、保育材料の作成	6名	2回/月	ボランティア室で数名が交代で活動
こども病院ボランティアグループ	子どもの遊び相手、本の読み聞かせ、 外来での患者・家族の受診介助(案内・移動の介助)	10名	毎週月～金	病棟・外来

イベントボランティアの状況

アロマセラピー	妊産褥婦のリラックスアロマセラピーマッサージ (代表：田中 美早)	2名	3回	産科外来
クリニックラウン	笑いやユーモアを届けるコミュニケーション (NPO 法人日本クリニックラウン協会)	12名	11回/年	病棟・外来
個人	オペラコンサート	6名	6月7日	講堂
公益財団法人 神戸市市民文化振興財団 人形劇団のはな	人形劇	2名	10月26日	講堂
ドナルドマクドナルドハウス	クリスマス会	7名	12月22日	講堂・病棟
ヴィッセル神戸	モーヴィー病棟訪問	6名	12月15日	病棟
公益財団法人 神戸市市民文化振興財団	コンサート	4名	1月16日	講堂